神奈川県山北町文化財調査報告 1

河村城跡

神奈川県指定史跡河村城跡史跡整備に伴う発掘調査

2007.3

神奈川県足柄上郡
山北町教育委員会

神奈川県山北町文化財調査報告 1

河村城跡

かわ むら じょう あと

神奈川県指定史跡河村城跡史跡整備に伴う発掘調査

2007.3

神奈川県足柄上郡
山北町教育委員会

河村城の位置する城山と浅間山・丸山（1990.1.11）空撮 : 南西から

新田義興居城河村古城跡絵図（18 世紀前半）

序　文

神奈川県の西北部に位置する山北町は、丹沢山地の主峰蛭ケ岳をはじめ、神奈川県の屋根の南側から西側の全域を取り込んでいます。町域の９割は森林で、県内３位の面積を考えれば、大自然に育まれた風光明媚な土地柄と言えます。

四季折々の自然に多くの観光客が訪れ、その雄大さに感銘を覚え、山塊に潜む未発見の自然に驚きと感動を受けるのです。山北町が立地する山また山の地形は、多くの河川によって浸食され、やがて酒匂川の大河に至ります。自然地形の侵食路は同時に多くのヒトの交通路でもあり、やがて、山あいに川あいにと集落ができ、交通の要衝が形成されてきました。ここ山北町こそが、現在の静岡県や山梨県に接し、古来より足柄平野へ至る交通の要衝となりつづけたのです。当町に残る数多くの年中行事はそうした人々の交流の証でもあり、「山北のお峯入り」や「世附の百万遍念仏」などは、群雄割拠の戦国時代へ向かう前夜からの歴史的事件を発端としているようです。「室生神社の流鏑馬」の起源もまた、もののふの時代にある点も歴史的事実です。伊勢宗瑞早雲を祖とする北条五代が小田原城を拠点に関東領国一帯を広く支配し、領国外へ睨みをきかした戦国時代、河村城が小田原北条の拠点的支城として機能したことは想像に難くありません。

河村城跡は 1996(平成 8) 年に中世城郭としては初めて神奈川県指定史跡となりました。城郭は JR 御殿場線山北駅から南に仰ぎ、東から丸山・浅間山に続く、城山の全体を占め、2001(平成 13) 年度に史跡指定範囲の公有地化が終了しました。2003(平成 15) 年度から３年間にわたる発掘調査では、現況地形や古絵図で想定した郭や堀切のほかにも、数多くの城郭施設の配置を確認するなど、中世城郭河村城の全貌を解明する手がかりとなっています。

今回報告する調査成果は、山北町の歴史を知る上でたいへん貴重な内容といえます。これらの成果を研究者のみならず、広く町民、県民の方々にも活用いただき、郷土山北町の歴史、県土神奈川を創り上げてきた多くの先人の足跡について、理解と関心を深める一助となることができれば幸いです。

最後に、発掘調査・出土品整理及び報告書作成にあたり、多大なご指導とご協力を賜りました関係各位並びに関係諸機関に厚くお礼申し上げます。

2007（平成 19）年３月 31 日

神奈川県足柄上郡山北町教育委員会

教　育　長　　山　﨑　　司

例　言

1．本書は、神奈川県足柄上郡山北町教育委員会が実施した県指定史跡河村城跡の整備に伴う発掘調査の報告書であり、次の遺跡について収録する。

神奈川県足柄上郡山北町山北・岸所在 河村城跡（山北町 No13 遺跡）

2．発掘調査は、山北町教育委員会が河村城跡史跡整備検討委員会の指導助言を受け、河村城跡発掘調査等（事業名）を、国宝重要文化財等保存整備費補助金（国）、指定文化財保存修理等補助金（県）により実施した。

3．発掘調査から報告書作成までの期間及び出土品整理場所は次のとおりである。

発掘調査期間	2003（平成15）年7月30日～ 2003（平成15）年12月18日
	2004（平成16）年4月21日～ 2004（平成16）年11月 4 日
	2005（平成17）年7月20日～ 2005（平成17）年10月11日
出土品整理期間	2006（平成18）年4月 1 日～ 2007（平成19）年 3 月31日
報告書作成期間	2006（平成18）年4月 1 日～ 2007（平成19）年 3 月31日
出土品整理場所	山北町教育委員会、山北町立中央公民館（山北町山北）

4．発掘調査は、山北町教育委員会生涯学習課が実施し、調査担当は生涯学習班武井宏仁が担当した。なお、各調査年度の調査主任、発掘調査参加者は次のとおりである。

2003（平成15）年度	安藤文一（調査主任）、岩本博・及川一茂・川崎明・斎藤猛・白井昇・杉浦仁久・瀬戸明夫・諸星敏政・山崎仁・山田孝・和田幸久（発掘調査参加者）
2004（平成16）年度	安藤文一（調査主任）、岩本博・及川一茂・大野英世・苅谷俊彦・白井昇・杉浦仁久・鈴木良範・瀬戸明夫・山崎仁・和田忠利・和田幸久（発掘調査参加者）
2005（平成17）年度	後藤喜八郎（調査主任）、今津直樹・上野剛・尾澤由紀恵・紙谷あずさ・川本将士・木村聡・佐藤昌彦・田中久美子・米山あかね（東海大学学生）、秋元貞夫・石川大・亀井進・杉浦仁久・築地文博・中間靖幸・服部陽一・松本慎也・吉田スエ子・和田忠利・和田幸久（発掘調査参加者）

5．出土品等整理及び報告書の作成・編集は生涯学習班砂田佳弘が担当した。編集に先立ち、出土品整理作業の基礎作業から着手した。安藤・後藤両調査主任と教育委員会保管の記録図面類・写真類を集約し、出土遺物の水洗・分類・註記、自然遺物の選定を実施し、整理箱に保管収納した。出土遺物は遺物台帳を作成し、写真類は台帳の整備と作成を行った。必要に応じて調査担当に確認し、両調査主任と連絡調整を行った。出土遺物の実測・浄書、記録図面類のデジタルデータ化は一部を除いて業務委託とした。最終的には両調査主任の発掘調査時の判断基準と所見、ならびに概報の事実記載を尊重した。なお、対象とした主な遺物と記録類は次のとおりである。

出土遺物 土器169点、石器17点、鉄器7点、獣骨1点、土壁6点、炭化材23点、採取土壌 土嚢袋100袋

実測土層平面・断面図　147 枚（A2 版 1/20）

白黒ネガフィルム1152 カット、カラーポジフィルム1152 カット、カラーネガフィルム288 カット、以上 35mm

＊デジタルカメラで撮影したデータは日付が設定されていないため、今回の整理対象には含まない。

6．発掘調査・出土品等整理・報告書の作成・編集にあたって、次の機関に委託した。

〔分析・編集作業〕	〔委託先〕
AMS による C14 年代測定	（株）加速器分析研究所
土壌分析（種実同定）	（株）古環境研究所
材質分析・樹種同定・獣骨同定	（株）パレオ・ラボ
鉄器保存処理（株）	京都科学東京支店
出土遺物整理作業	（株）パスコ
編集・データベース作成作業	（有）アルケーリサーチ

7．出土品整理作業に際して、平成 13 年度河村城址歴史公園整備測量設計業務委託の株式会社カナコン作成の 1/500 地形測量図の大庭郭所在三級三角点を利用し、世界測地系によるグリッドを（株）パスコが設定した。

8．2005（平成 17）年度発掘調査の測量と遺物取上げは、アイサンテクノロジー（株）の CVL-MANAGER m@te ver3.3 の施工管理・測量計算・キャドを使用した。

9．発掘調査及び出土品等整理にあたっては、次の諸氏・諸機関から御指導・御協力を賜った（敬称略、機関内五十音順）。所属は出土品整理作業実施年度とする。

石丸熙（東海大学）、上杉陽（都留文化大学名誉教授）、岡本孝之（慶応義塾大学）、小野正敏（国立歴史民俗博物館）、小山真人（静岡大学）、杉山晃一（東北大学名誉教授）、能登健（群馬県立自然史博物館）、齋藤慎一（（財）江戸東京博物館）、石井克己（渋川市教育委員会）、関俊明（群馬県吾妻郡長野原町立東中学校）、栗木崇（熱海市教育委員会）、川村祐子（岩手町教育委員会）、井澤純・伊丹徹・上田薫・恩田勇・谷口肇・中田英・長岡文紀・桝渕規彰・丸山一郎・御堂島正（神奈川県教育委員会）、榎修（神奈川県足柄上地域県政総合センター）、佐々木健策・諏訪間順・宮代範幸・山口剛司（小田原市教育委員会）、大倉潤・大澤豊・霜出俊浩（秦野市教育委員会）、諏訪間伸（伊勢原市教育委員会）、橋口豊（南足柄市教育委員会）、飯塚美保・井関文明・大上周三・大塚健一・木村吉行・鈴木次郎・田代郁夫・依田亮一（（財）かながわ考古学財団）、坂本彰（横浜ふるさと歴史財団）、藤井良晃（山北町文化財保護委員長）、和田茂・小塚俊明・瀬戸茂（河村城址保存会）、青柳美雪、石井信敏、植田真、禹智瑛、小川裕久、鎌田聖子、杉浦博、中村真理、野口やよい、平井淳、藤波啓容、村井実、（株）オオバ、（株）カナコー、山北町文化財保護委員会、山北町議会文教民生常任委員会、山北町議会議員

10．本書は安藤・後藤・砂田・武井が執筆し、全体の編集は砂田が担当した。編集に際し、トレンチ調査の断面図が東面と南面であり、頁割りと東西トレンチの設定状況から西から東への順序とし、調査年度順とは一部異なる。

武井宏仁　第１章、第２章第１節、第３章、第５章第１節
砂田佳弘　第４章、第５章第２節３、第７章
安藤文一　第２章第２節、第５章第２節２
後藤喜八郎　第５章第２節１

11．遺構・現場の写真撮影を安藤・後藤が、遺物は（株）パスコ・（有）アルケーリサーチ・（株）京都科学が撮影した。

12．本報告書のほかに平成 15 年度 ~17 年度『河村城跡発掘調査概報』が存在するが、本報告書の記載内容を正式調査報告とする。遺構名は絵図等を参考とした調査時の名称を使用し、層位名・遺物番号・帰属時期等調査時・概報記載時から変更した内容がある。

13．本調査に係る出土品の註記は、遺跡名を KMJ と略記し、西暦年度下２桁を付し、土器 P、石器 S、鉄器 I、獣骨 T、炭化物 C とした。次年度以降の調査もこれに順ずる。ex.2008 年度調査出土土器 18:KMJ08P18

14．本調査に係る出土品及び図面・写真等の記録類は、神奈川県足柄上郡山北町教育委員会で保管している。

15．本報告書の遺構・遺物挿図の指示は次のとおりである。

・遺構実測図の標高は海抜高度を示す。
・遺構・遺物等の挿図縮尺は、原則として各挿図スケール中に示した。
・特に凡例を示していない土層断面図の挿図中のパターンによる指示は以下のとおりである。

：宝永火山灰純層　：天地返層　：撹乱　▲：スベリ面　‖：土層註記不同

遺構挿図

：炉・焼土範囲　：硬化面範囲　：炭化物範囲

目　次

序 文
例 言
第１章　調査経緯 …… 1
第２章　遺跡概観 …… 3
　第１節　遺跡の地形と地理的環境 …… 3
　第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 3
第３章　調査経過 …… 6
　第１節　調査区の設定と調査の方法 …… 6
　第２節　調査経過 …… 6
第４章　基本層序 …… 11
第５章　発見された遺構と遺物 …… 15
　第１節　トレンチ調査の概要 …… 15
　第２節　トレンチの調査成果 …… 15
　　１．2005（平成 17）年度の調査 …… 15
　　２．2003（平成 15）・2004（平成 16）年度の調査 …… 19
　　３．出土遺物 …… 31
第６章　自然科学分析と保存処理 …… 96
　第１節　山北町河村城跡出土炭化物の AMS による炭素 14 年代測定について …… 96
　第２節　山北町河村城跡蔵郭出土粘土・土壁・レンガの材質分析 …… 100
　第３節　山北町河村城跡蔵郭採取種実の同定について …… 108
　第４節　山北町河村城跡蔵郭出土樹種の同定について …… 113
　第５節　山北町河村城跡近藤郭出土獣骨の同定について …… 116
　第６節　山北町河村城跡蔵郭出土鉄器の保存処理について …… 117
第７章　まとめ …… 118

挿図目次

第１図　河村城跡の位置と県史跡指定範囲図 …… 2
第２図　河村城跡と周辺の遺跡分布図 …… 5
第３図　グリッド設定・トレンチ配置図 …… 12
第４図　郭配置図 …… 20
第５図　本城郭　TR38 …… 33
第６図　堀切３　第１面 …… 35
第７図　堀切３　第２面 …… 36
第８図　堀切３　第１面（想定）…… 37
第９図　堀切３内遺構図 …… 38
第10図　蔵郭　TR05 …… 40
第11図　蔵郭　TR29 …… 42
第12図　蔵郭　TR30 …… 42
第13図　蔵郭　TR27 …… 42
第14図　蔵郭　TR28 …… 43
第15図　蔵郭　TR25 …… 43
第16図　蔵郭　TR26 …… 43
第17図　蔵郭　TR23 …… 44
第18図　蔵郭　TR24 …… 44
第19図　配石土坑群　TR05・21 ～ 24 …… 45
第20図　蔵郭　TR21 …… 46
第21図　蔵郭　TR22 …… 46
第22図　蔵郭～堀切２　TR04 …… 46
第23図　堀切２　TR36 …… 47
第24図　堀切２　TR37 …… 47
第25図　近藤郭～大庭郭　TR03 …… 48
第26図　大庭郭～空堀２　TR03 …… 50
第27図　空堀２～大庭郭張出　TR03 …… 52
第28図　近藤郭　TR20 …… 54
第29図　近藤郭　TR18 …… 55
第30図　近藤郭　TR17 …… 56
第31図　大庭郭　TR35 …… 58
第32図　大庭郭～多地屋敷　TR34 …… 58
第33図　大庭郭～多地屋敷　TR34 …… 60
第34図　大庭郭　TR15 …… 62
第35図　大庭郭　TR15　第１面　天地返状遺構 …… 66
第36図　大庭郭　TR15　第２面　廃棄礫 …… 66
第37図　大庭郭　TR15　第３面　空堀３ …… 66
第38図　大庭郭　TR16 …… 67
第39図　大庭郭　TR14 …… 68
第40図　大庭郭～多地屋敷　堀切２　TR12 …… 68
第41図　大庭郭　堀切３　TR13 …… 69
第42図　大庭郭　空堀２・天地返状遺構　TR10 …… 70
第43図　大庭郭　TR11 …… 72
第44図　大庭郭張出　空堀１　TR09 …… 73
第45図　大庭郭張出　TR08 …… 74
第46図　大庭郭張出　TR06 …… 74
第47図　大庭郭張出　TR07 …… 76
第48図　大庭郭張出　TR02 …… 76
第49図　大庭郭張出　段切腰郭　TR01 …… 77
第50図　馬違戸　TR32 …… 78
第51図　馬違戸　TR33 …… 78
第52図　堀切３出土土器 …… 81
第53図　蔵郭・近藤郭出土土器（１）…… 82
第54図　近藤郭出土土器（２）…… 83
第55図　多地屋敷・大庭郭出土土器（１）…… 84
第56図　大庭郭出土土器（２）…… 85
第57図　大庭郭出土土器（３）…… 86
第58図　大庭郭出土土器（４）…… 87
第59図　大庭郭張出・馬違戸・表採出土土器 …… 88
第60図　出土石器（１）…… 89
第61図　出土石器（２）・出土鉄器 …… 90
第62図　縄張り別出土土器 …… 118

挿表目次

第１表　縄張り別出土遺物一覧（１）…… 91
第２表　縄張り別出土遺物一覧（２）…… 92
第３表　縄張り別出土遺物一覧（３）…… 93
第４表　縄張り別出土遺物一覧（４）…… 94
第５表　縄張り別出土遺物一覧（５）…… 95
第６表　縄張り別出土土器 …… 118
第７表　年代測定値と遺構 …… 120
第８表　縄張りと遺構 …… 121

写真目次

巻頭図版　河村城の位置する城山と浅間山・丸山 (1990.1.11)
空撮 : 南西から
新田義興居城河村古城跡絵図（18 世紀前半）

図版１　河村城（2003.11.7）空撮 : 南西から
河村城（2003.11.7）空撮 : 南西から
TR38（G-22）: 南から
堀切３（G ～ I-19）調査状況 : 東から
堀切３（H・I-19・20）: 北から
堀切３（H・I-19）: 西から
堀切３北側土層断面（H・I-19）: 南から
堀切３南側土層断面（G ～ I-18）: 北から

図版２　橋脚１（I-19）: 南から
橋脚２（I-19）: 東から
橋脚３（H-19）: 東から
橋脚４（H-20）: 東から
調査前:近藤郭から西へ堀切３・蔵郭・本城郭を望む
TR27（KL-19）: 南から
TR30（J-18）: 北から
TR05（M-18）: 北から

図版３　TR26（L-17）: 北西から
TR25（M-19）: 西から
TR05（N-18）配石土坑群 : 南から
TR23（M-18）竪穴状遺構 : 南から
TR05（M-18）鉄器出土状態 : 東から
TR05（M-18）・TR22（N-17）竪穴状遺構:西北から
TR21（N-18）版築状整地面 : 北西から
TR22（N-17）配石 : 西から

図版４　竪堀１（U-15・16）土層断面 : 北東から
空堀６・７（V-16・17）確認状況 : 北から
空堀７（V-16）土層断面 : 北から
空堀６・７（X-16）畝堀 : 東から
空堀６（X-16）石垣 : 南から
段切腰郭４（Y-19）堀底 : 西から
段切腰郭４（Y-19・20）: 西から
道路状遺構（X-17）: 西から

図版５　空堀３（2C-18）: 南から
空堀３（2C・2D-18）土層断面 : 北西から
空堀４（2A-16）堀底 : 西から
空堀５（2B・2C-13）上部礫混出土状態 : 北から
空堀５（2B・2C-13）大形礫出土状態 : 南から
空堀５（2B-13）土層断面 : 西から
凹地郭（2I-11・12）地山掘削 : 南西から
凹地郭（2I-9 ～ 11）天地返し : 南から

図版６　凹地郭（2H-8）盛土整地層 : 南西から
空堀２（2L-11）天地返し断面 : 南から
空堀２（2L-11）天地返し拡大断面 : 南から
空堀２（2L-11）堀底 : 北から
空堀２（2L-11）断面 : 南から
空堀１（2N-10）堀底 : 西から
空堀１（2L-12）堀底 : 西から
空堀１（2N-10）土層断面 : 南から

図版７　出土石器・出土鉄器

第１章　調査経緯

河村城跡の調査については、1932（昭和７）年当時から繰り広げられた河村城の所在をめぐる河村城論争に始まり、1940（昭和 15）年に旧山北町の国史跡指定願の作成に至るが、太平洋戦争の戦火が広がり結論が出るまでに至らなかった。その後特に表立った動きはなかったが、1987（昭和 62）年頃からの農道や散策道の新設など遺跡周辺の開発計画策定と遺跡保護との調整の必要から、神奈川県教育委員会文化財保護課と２ヵ年にわたり協議した。

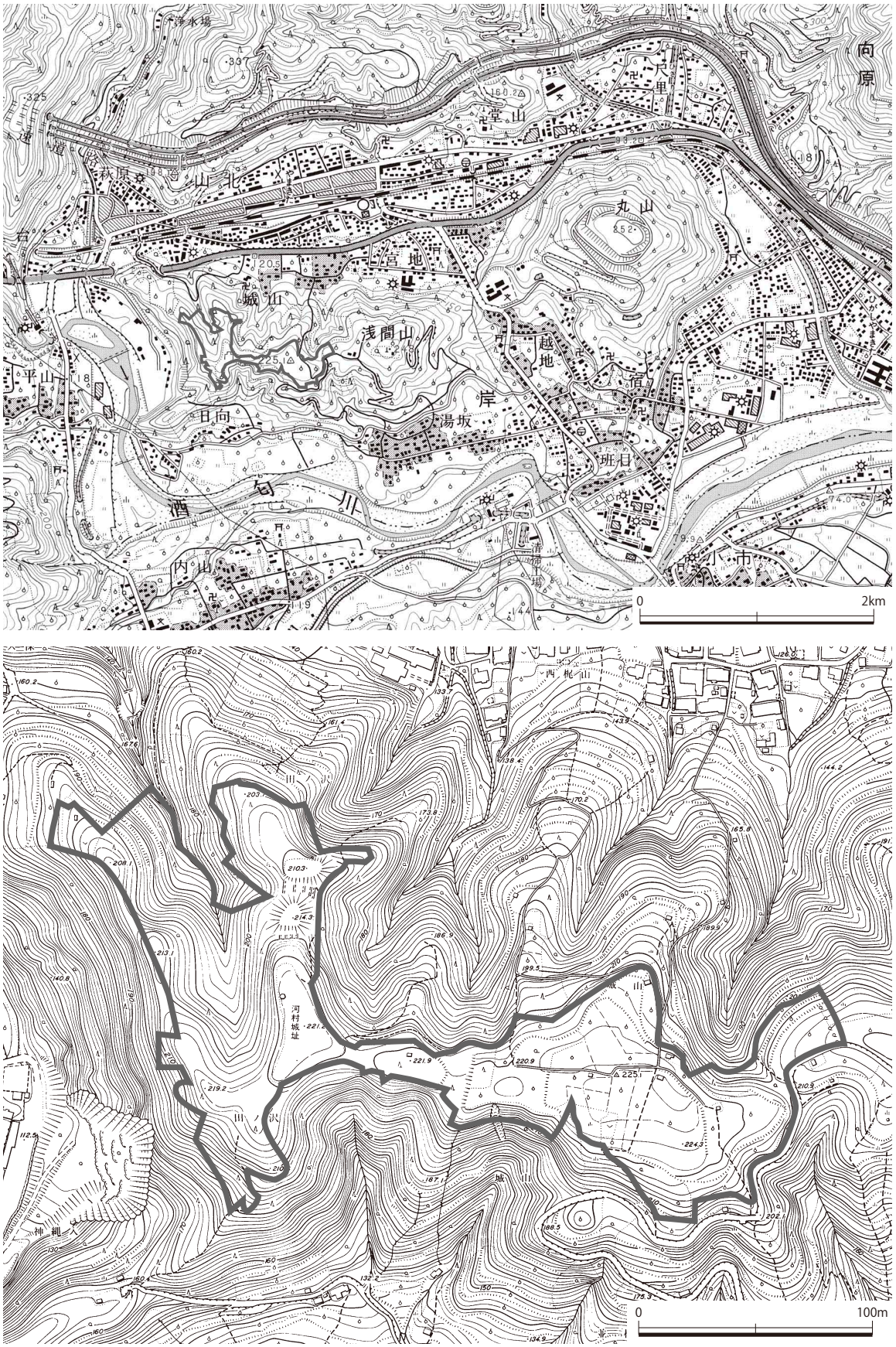
その結果、山北町河村城遺跡調査会（杉本顕次会長、相原源治副会長）を関係各機関、地元学識経験者、河村城発掘調査団（石丸熙団長、安藤文一副団長）で組織し、国・県補助対象事業で 1989（平成元）年度から３ヵ年継続事業で河村城跡の範囲確認調査を実施した。内容は、第１期 :1989（平成元）年度として現地調査及び航空写真測量、第２期 :1990（平成２）年度として航空写真測量による現況測量図作成及びトレンチ発掘調査、遺物整理、伝承・文献調査、第３期 : として報告書作成事業（山北町教育委員会 1992）を実施した。発掘調査は、1990（平成２）年に行った現況航空写真測量図をもとに、計６ヶ所の地点に試掘トレンチを設定し調査した。

1992（平成４）年度からは､河村城の根古屋とされる隣接地等の範囲確認調査として４ヵ年継続事業の国･県補助対象事業で、第１期 :1992（平成 4）年度として丸山山頂や河村城跡の西端にあたる大久保平等のトレンチ発掘調査、第２期 :1993・1994（平成５・６）年度として河村城の根古屋の伝承地土佐屋敷、河村城の尾根続きで隣接する浅間山周辺のトレンチ発掘調査、第３期 :1995（平成７）年度として報告書作成事業（山北町教育委員会　1996a）を実施した。

また、別事業として平成元年度にふるさと創生事業を河村城跡の整備に充てることが決定し、河村城址歴史公園整備のため、1992（平成４）年に山北町河村城茶臼郭周辺発掘調査団（安藤文一団長）による茶臼郭及び小郭、堀切２ヶ所の全面発掘が行われ、小田原北条氏の築城方法である畝堀等を検出した（山北町教育委員会 1996b)。このため、ふるさと創生事業において調査区域の保存管理を行い、本城郭の整備とあわせ 1994（平成６）年に歴史公園として一部開園した。

こうした経過をたどり、地権者 34 名１法人 75 筆の協力を得たなかで、1996（平成８）年２月には県内の山城では初めて約 73,000m^2 が県指定史跡に指定された。その後、県の補助金による先行取得によって公有地化を図るとともに、2001（平成 13）年度に山北町の地域総合整備事業債により県指定範囲のすべて 81,334.51m^2 の公有地化を達成した。また、公有地化と並行して同年 12 月には、山北都市計画公園「河村城址歴史公園」（特殊公園）としての都市計画決定を行った。

公有地化を受けて、町では 2002（平成 14）年６月に河村城跡史跡整備検討委員会（小野正敏・石丸熙・齋藤慎一・藤井良晃・安藤文一・小塚俊明・瀬戸茂・榎修・清水正己・山﨑司）を発足し、史跡整備に向けての第一歩を踏み始めた。その結果、河村城跡の典型的な中世城郭の現況を保護・保存すること、「山北町第４次総合計画」等に位置付けた「自然・歴史とふれあえる学習と交流の場」とすることを前提とした。河村城跡を適正に保存管理し、集客・交流に重点を置く公開活用を広く展開していくため、発掘調査の成果を踏まえ総合的な整備を推進していくことを目的に「河村城跡史跡整備マスタープラン（基本構想)」を同年度に策定した。そして、このマスタープランの前期調査計画では、史跡整備等を有効に推進するにあたり、遺跡の範囲及び遺構、その性格を把握するための範囲確認調査を行うこと。2003（平成 15）年度に蔵郭から東側の郭、2004（平成 16）年度に堀切と郭の追加調査、2005（平成 17）年度に堀切と蔵郭の調査と、保存整備に効果的な地点の全面発掘調査を実施することが各々計画された。これらの経緯から、整備に向けた基礎資料を得ることを目的に山北町教育委員会が主体となり発掘調査を実施した。



第１図　河村城跡の位置と県史跡指定範囲図［上段：1/25,000　下段：1/5,000］

第２章　遺跡概観

第１節　遺跡の地形と地理的環境

河村城跡は、山北町の南端部、足柄平野と接する地域に所在し、酒匂川中流域左岸の通称・城山と呼ばれる標高 225.1m、酒匂川河川敷との比高差 150m を測る丘陵上に立地している。この丘陵は城山から東へ浅間山・大祭神峠・丸山と連なり、西から南側を酒匂川が、北から東へは旧皆瀬川が流れて深い谷を開析している。これらの谷は自然の要害になり、河村城の外郭線を構成する外堀として機能している。なお、1707（宝永４）年の富士宝永火山の噴火による火山灰が誘発する河川の氾濫対策として、大久保平西側裾部を掘り割って旧皆瀬川を酒匂川に合流させる瀬替を 1709（宝永６）年におこなっている。

河村城跡は、岩盤上の砂礫層である足柄層が基盤であり、その上に部分的にローム層が存在している。また、一部には河川敷層や粘土層が入り、その上に全体的に腐植土を含む表土が覆っている。足柄層群は足柄山地を構成し、主に礫からなるが、海棲の貝化石等を含み、海底堆積が 5,000 m～ 6,000 mにも達する地層である。つまり、この地層が形成されていたころ（約 100 万年～ 200 万年前頃、後期鮮新世～前期更新世）、この付近の地形は現在とは全く異なり、伊豆半島が遥か南海上にあって、丹沢山地の南に今の相模湾や駿河湾と同様な深い海があった。足柄層群の下部は、平山付近の酒匂川の河原に露出している泥岩層（深海に堆積した日向層）である。また、河村城跡が所在する城山は、現河床から 150 mもの高さの頂部に本流性の礫層（あまり風化していない石英閃緑岩・トーナル岩の礫を含み、その上位テフラは侵食されている）が認められる。これは、城山の頂部平坦面が段丘面起源であり、大きく隆起したことを物語っている（町田 2002）。なお、表土下には富士宝永噴火によるテフラの堆積が見られるが、天地返し等人為による土地改変が行われ、地点によって表土の厚さが異なる。山北町では宝永火山灰が厚さ 25cm ～ 100cm 堆積し、南西部ほど厚く、粒子の大きさは最大２cm と粗くなる。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境

河村城跡が所在する足柄平野北西部を取り巻く丹沢山地及び箱根山地には、数多くの城砦が築かれるが、河村城跡は甲斐・駿河から足柄平野に至るルートの要に位置している。甲斐から城ヶ尾峠を越えると湯ノ沢城、中川城、大仏城山を経て、鮎沢川と河内川の合流点を見下ろす峰地区には新城があり、さらに酒匂川に沿って鐘ヶ塚砦から河村城に至る。また、駿河から箱根・足柄峠の尾根筋を下ると、足柄城・阿弥陀尾砦・浜居場城から平山・内山地区に達し、酒匂川を渡ると河村城である。このように、西丹沢・箱根山地から足柄平野に入る交通の要衝とされるところに河村城は位置しており、その重要性は計り知れない。河村城とは酒匂川を隔てた対岸に春日山砦、足柄平野北縁には松田城が築かれ、河村城の南東に位置する湯坂地区には、河村土佐屋敷・河村秀清屋敷などの伝承地が存在している。

これらのうち、春日山砦は室町時代後期に足柄平野進出を狙った大森氏が河村城攻略のために構築したとされるが、現在は東京電力内山発電所になっており往時をしのぶことはできない。

浜居場城は、1989（平成元）年に測量調査が、翌年にトレンチによる発掘調査が行われ、空堀の一部などが確認されているが（南足柄市教育委員会 1992）、詳細については不明である。大森氏の築城とされるが、

足柄城・阿弥陀尾砦とともに小田原北条氏時代に規模が拡大している。

鐘ヶ塚砦は『新編相模国風土記稿』（以下『風土記稿』）に「古塚　村の中央にあり、高六十間許、土俗傳へて鐘ヶ塚と唱へ、戰國の間相圖の鐘を撞し處と云」（蘆田 206 頁）は、河村城と新城のほぼ中間にあり、連絡等の中継地的な役目を負ったのであろう。

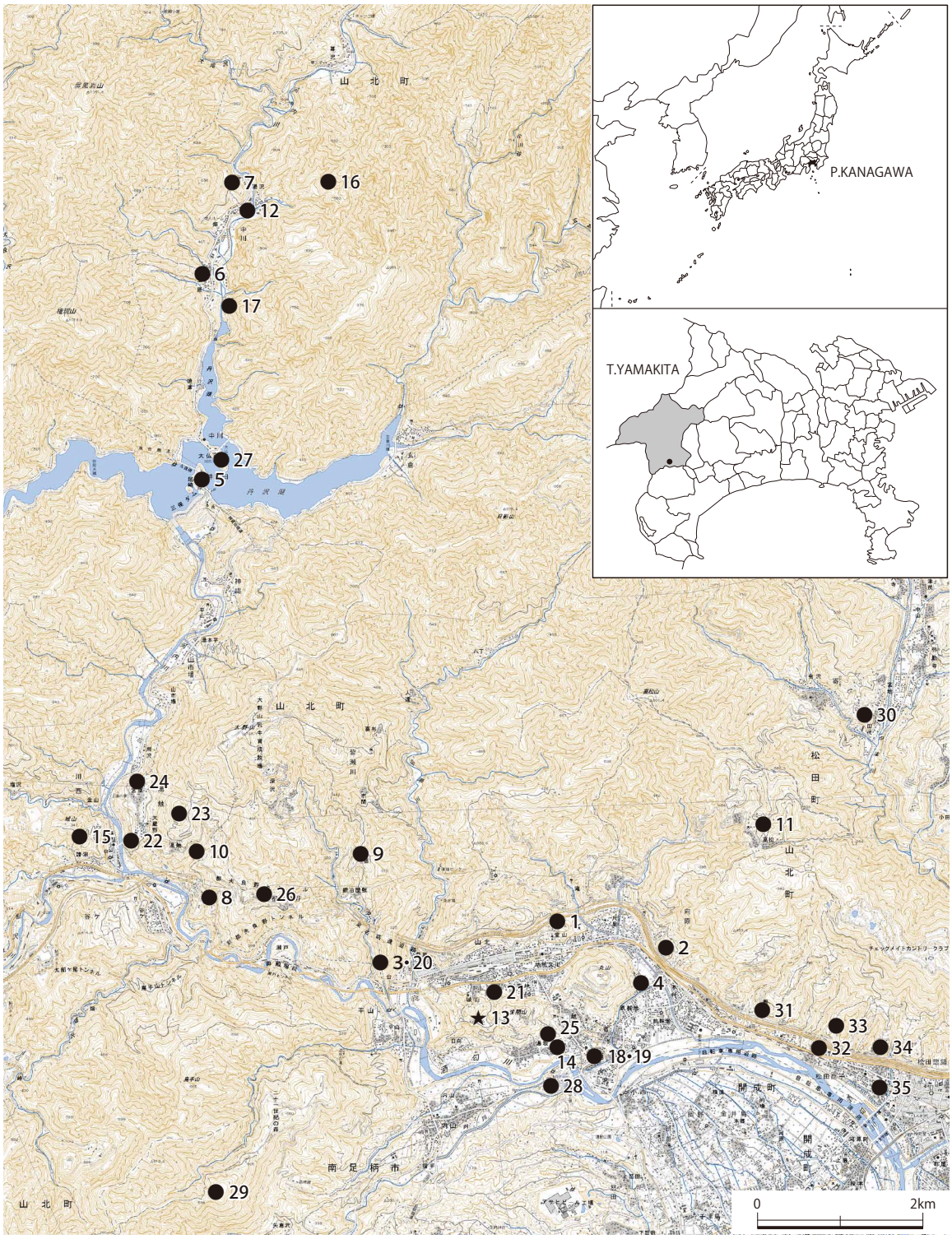
新城は地理的にみても重要な地点にあり、武田信玄・勝頼及び徳川家康などによってたびたび攻撃され、落城した記録が残っている。現在は茶畑となっているが、農道などでかなり破壊されているようである。

大仏城山は、「又南方小字大佛下にも城山と唱ふるあり、是も舊き出城の蹤跡にて（中略）永禄十二年、信玄の為に落去せし、其の一なるべし」（同 216 頁）とあり、小田原北条氏の出城の一つと考えられる。

歴史的には河村城は、平安時代末期から河村氏の居城と言われている。河村氏は、平安時代末期、秀郷流藤原氏の一族、波多野遠義の子秀高が現在の山北の地を領し、河村を名乗ったことに始まる。秀高の子義秀は、源頼朝の石橋山挙兵の際、平氏側に味方したため領地を没収されるが、鶴岡八幡宮例祭における流鏑馬の妙技により、本領河村郷に復帰できたとある（『吾妻鏡』）。また、義秀の弟秀清は、頼朝の奥州征伐に従い、戦功により現在の岩手県に領地を得ている（奥州河村氏の祖）。元弘の変（1331 年）における新田義貞の鎌倉攻めと、その後の南北朝分立の初期には、河村氏は松田氏とともに、南朝側の新田氏に味方して活躍する。しかし、その後形勢が変わり、畠山国清を主将とする北朝側の足利尊氏軍と戦火を交え、1352（正平７）年～ 1353（正平 8）年には、河村秀国・秀経が新田義興らとともに籠城したとされる（『太平記』・『梅風記』）。その後、畠山国清、上杉憲実、大森氏を経て、小田原北条氏の持城となり、新城・中川城・湯ノ沢城とともに武田方に対する重要な城であった。その後、北条方から深沢城を奪取した武田方に対して、1571（元亀 2）年北条家は武田方に対する前線基地として河村城と足柄城の普請を命じている（石丸 2000 761 頁）。そして、1590（天正 18）年豊臣秀吉の小田原攻めの後、河村城は廃城になったと考えられる。

天保年間に幕府によって編纂された『新編相模国風土記稿』には、川村山北の項に河村城古図及び河村城跡図を掲載し、河村氏の出自から『太平記』等による合戦の記録のほか、「今猶本城跡廻凡百三十間餘、及び本城曲輪廻凡六十間餘、西曲輪、廻凡四十間許、北曲輪、廻凡六十間餘、茶臼曲輪、廻凡三十間餘、馬出曲輪、廻凡七十間餘、蔵曲輪、廻凡六十間許、近藤曲輪廻凡八十間餘、水曲輪廻凡四百間許、大庭曲輪廻凡百六十間餘、同出張、廻凡百間餘、多地屋鋪敷廻凡四十間餘、馬洗場廻同上、跡等の遺構を存せり、其他堀切跡と呼べる地、所々にあり、皆開墾して山畑川村岸と入會なり、となせり」（同 203 頁）と、掲載絵図と一致しない曲輪も存在するが、各郭の名称、位置が事細かに記載されている。また、畑として利用されており、発掘調査で宝永火山灰の天地返しが至る所で確認されたことが裏付けている。河村城は別名戸張城とも言われ、城山または猫山と呼ばれていたとの記載があり、猫山は根小屋の転訛とも考えられよう。また。川村岸の項には河村四郎秀清屋敷跡の記載があり、「村民所蔵の古圖に載する所なり、図中構内の間数を記せり、東西七十九間、南北五十三間、堀深一丈三尺、幅二間半、東西四十間、南北五十三間、今其遺跡を存せざれど、村南字堀内と唱ふる地是なりと云」（同 201 頁）と詳細な規模が記されている。

なお、河村城に纏わる氏、系図、古文書、地名、伝承、縄張り、城郭研究等の詳細な報告がある（山北町教育委員会 1992・1996a）。



1　堂山遺跡（弥生・縄文）
2　カラス山遺跡（弥生・縄文）
3　梵天山遺跡（梵天塚）（中世）
4　水上古墳（群）（円墳）
5　尾崎遺跡（縄文）
6　大室神社下遺跡（縄文）
7　頼政神社南方遺跡（縄文）
8　真楽寺遺跡（縄文）
9　共和小学校遺跡（縄文･古代･中世）
10　梨沢遺跡（縄文）
11　No.11 遺跡（縄文）
12　中川遺跡（縄文）
13　河村城跡（中世・縄文・弥生）
14　河村館跡（中世）
15　河村新城跡（中世）
16　湯ノ沢城跡（中世）
17　中川城跡（中世）
18　南原遺跡（縄文）
19　南原古墳群（円墳）
20　No.20 遺跡（中世）
21　山北駅南遺跡（弥生･中世･近世）
22　須賀社遺跡（中世）
23　鉢ノ山遺跡（中世）
24　No.24 遺跡（中世）
25　河村土佐屋敷（中世）
26　鐘ケ塚砦（中世）
27　大仏城山（中世）
28　春日山砦（中世）
29　浜居場城（中世）
30　田代天王山遺跡（縄文）
31　根石遺跡（縄文）
32　城山遺跡（縄文）
33　松田城（中世）
34　から沢古窯址・横穴群（古代・古墳）
35　松田庶子古墳群（古墳）

第２図　河村城跡と周辺の遺跡分布図（山北町 :No.1 ～ 24 遺跡、以下連番）［1/75,000］

第３章　調査経過

第１節　調査区の設定と調査の方法

トレンチ調査の設定は、2003（平成 15）年度当初、「河村城跡史跡整備マスタープラン（基本構想）」の前期調査計画に位置付けた本城郭以東、堀切３から大庭郭張出、馬違戸について、狭長な尾根に配置された郭を直線で結ぶトレンチを設定できるよう検討した。その結果、2001（平成 13）年度に山北町産業観光課が遊歩道整備計画策定のため地形測量を行った測点を共用することとした。基本としたＡライン上の大庭郭張出東端の浅間山農道を０基点（第３図 2S-9：ABP）として、西へ１ｍごとに設定し、調査区西端の本城郭東端をＡライン 390、つまりＡトレンチ 390 ｍ地点（AT390）とした。トレンチは基本的に幅２ｍとし、Ａラインの南側に設定した。これに対し郭及び地形に合わせ、０基点から西へ 50・100・170・250・350 ｍ地点においては、Ａラインに直交する幅２ｍのトレンチを設定し、Ａライン南側を ST、北側を NT としてそれぞれＡラインを０基点とした。また、Ａラインが通らない指定地東端の小字馬違戸は、地形に合わせて直交する十字のＢトレンチを、大庭郭北側の多地屋敷にも同じく地形に合わせ直行するＣトレンチをそれぞれ幅２ｍの範囲で設定した。なお、蔵郭と近藤郭間の堀切には、幅１ｍの試掘トレンチ２ヶ所を設定した。

第２節　調査経過

2003（平成 15）年度調査

７月 30 日に着手し、12 月 18 日に終了した。調査開始当初から古絵図に表現されていない空堀を確認したほか、掘立柱建物跡や溝状遺構、配石列や空堀内に投棄された礫群、石垣から竪堀等、複雑な遺構群の存在が明らかになった。また、空堀覆土上や大庭郭では、宝永火山灰の天地返し遺構が顕著に認められ、その崩壊により調査の進行に支障をきたした時期もあった。トレンチ調査という面的に制約された調査にもかかわらず、多様な遺構・遺物を検出したため、９月 13 日に現地見学会を開催し、約 100 名の参加を得た。調査面積は約 1,500m^2 である。以下、発掘調査の記録に基づく。

７月 29 日（火）　発掘器材の運搬、トレンチ設定作業を行う。

７月 30 日（水）　調査開始にあたり安全祈願を行い、Ａライン東側大庭郭肩部から大庭郭張出部の重機による表土掘削及び遺構確認を開始する。宝永火山灰の天地返し遺構のほか、古絵図にない空堀を確認した。

７月 31 日（木）～８月 13 日（水）　大庭郭張出部から大庭郭西側のＡラインと大庭郭東側・西側の南北トレンチの表土掘削、遺構確認を行う。大庭郭東側南北トレンチでは、肩部に土塁状の地山の掘り残し部分及びＡライン南側では宝永火山灰の天地返し遺構を検出した。Ａラインでは、ピット列や溝状遺構、礫群を検出した。宝永火山灰の天地返し遺構は、中世の遺構確認面を掘り込んでいるため、宝永火山灰を除去し遺構確認を行い、必要に得応じてサブトレンチを設定した。瀬戸系鉢片、青磁片、縄文土器片等が出土した。

８月 19 日（火）～８月 29 日（金）　大庭郭張出部と大庭郭の調査を行いつつ、近藤郭とＣトレンチの調査を開始する。

９月１日（月）～９月 16 日（火）　大庭郭、近藤郭、Ｃトレンチの調査を進めるとともに、礫群を検出した近藤郭と近藤郭蔵郭間の堀切にサブトレンチを設定し、遺構確認を進めた。

９月 13 日（土）　現地見学会を開催する。

９月 17 日（水）～９月 30 日（火）　近藤郭とＣトレンチの調査を進めるとともに、蔵郭の調査を開始した。また、公衆便所建設に伴う遺構確認のため、トレンチを設定し調査を開始した。

10 月１日（水）～ 10 月 17 日（金）　Ｃトレンチ、蔵郭、本城郭の調査を進めるとともに、大庭郭の肩部と帯郭の範囲を確認するため、Ａライン東端と南北トレンチを延長した。

10 月 20 日（月）～ 10 月 29 日（水）　大庭郭張出部で確認した２基の空堀について、遺構の新旧関係とその性格を把握するため、トレンチを拡幅しサブトレンチにより堀底の検出作業を開始する。

10 月 30 日（木）～ 11 月６日（木）　大庭郭延長トレンチと近藤郭蔵郭間の堀切にサブトレンチを設定し、蔵郭の調査を進めた。Ｂトレンチでは、遺構を確認しなかったため、土層確認のための深掘り調査を行った。

11 月７日（金）～ 11 月 19 日（水）　Ｂトレンチの調査を進めるとともに、宝永火山灰の崩落を撤去しながら、各トレンチの実測、写真撮影を行う。

11 月７日（金）　調査範囲の空中写真撮影を実施した。

11 月 20 日（木）～ 12 月 15 日（月）　各トレンチの実測と写真撮影を行う。

12 月 16 日（火）～ 12 月 18 日（木）　発掘作業を終了し、器材を撤収、埋め戻し作業を行う。

2004（平成 16）年度調査

４月 21 日に着手し、11 月４日に終了した。調査は、前年度調査で設定したＡトレンチ群を基本に、また平行するトレンチ群のほか、Ａトレンチに直交するＥトレンチ、Ｃトレンチに直交するＤトレンチを設定した。蔵郭本城郭間の堀切は面的調査を行った。また、前年度の追加調査として、空堀１～４の走向・性格を明らかにするため、東側から AN8T － 53 ～ 75、A57NT － 0 ～ 8 、A143NT － 18 ～ 37、A155NT － 18 ～ 37、A155NT － 18 ～ 23、AN18T － 155 ～ 160、A170NT － 18 ～ 40、Ｄトレンチを設定、同じく空堀６・７に A240NT － 0 ～ 10、AN7T － 230 ～ 240、Ｅトレンチで発掘調査を実施した。

この間、７月５日の河村城跡史跡整備検討委員会において、蔵郭の面的調査を堀切２・堀切３・近藤郭の面的調査に変更することとなった。その結果、堀切３では薬研堀と橋脚遺構を、近藤郭では空堀４・７の連続や空堀６の畝堀を検出するなどの成果を納めた。調査期間中にすべての面的調査が困難なため、堀切３の全面調査を重点的に行った。

調査では前年度調査同様、空堀覆土上や大庭郭では宝永火山灰の天地返し遺構が顕著に認めらた。しかし、宝永火山灰の崩落のため調査が進捗しない状況にもあったが、堀切３の橋脚遺構等を検出したため、９月２日と４日に現地見学会を開催し、約 110 名の参加を得た。調査面積は約 800m^2 である。以下、発掘調査の記録に基づく。

４月 20 日（火）　発掘器材の運搬とトレンチ設定作業を行う。

４月 21 日（水）～４月 30 日（金）　調査開始にあたって安全祈願を行い、A170 － N・A143 － N・A５～８－ NT10・Ｄトレンチから重機による表土掘削と遺構確認を行う。A170 － N・A143 － N トレンチは、サブトレンチで堀底の検出を行う。

５月６日（木）～５月 19 日（水）　A170 － N・A143 － N・Ｄトレンチの調査を行う。A170 － N・Ｄトレンチは宝永火山灰の天地返し層までの実測を行い、堀底確認のため段掘りのトレンチを拡張した。AT － 166（空堀５）と AT159（掘立柱建物遺構）、AT210（配石列・整地層）の追加調査を開始する。

５月 21 日（金）～５月 28 日（金）台風２・３号により崩壊した土砂の除去作業を行うとともに、A170－N の実測と写真撮影、AT－166（空堀５）・空堀６・７の遺構検出作業を行う。空堀７の追加調査を開始する。

６月２日（水）～６月 18 日（金）　AT － 166（空堀５）・空堀６・７の遺構検出を行うとともに、Ｅトレンチの調査を開始する。A143 － N の実測と写真撮影、A143 － N・Ｅトレンチの拡張、遺構検出を開始する。

６月 22 日（火）～７月５日（月）　A5 ～ 8 － NT10・A143 － N・AT － 166（空堀５）Ｄトレンチの実測を行う。

７月５日（月）　史跡整備検討委員会の現地調査と委員会が開催され、蔵郭の面的調査を堀切３と堀切２と近藤郭の面的調査に変更した。

７月６日（火）～７月 28 日（水）　堀切３の面的調査を開始し、表土掘削・遺構検出を行う。堀底付近から人頭大の石の集中、炭化材を伴う橋脚台遺構を確認する。

７月 29 日（木）～８月６日（金）　堀切３の遺構検出を行うとともに、堀切２の調査を開始する。

８月９日（月）～８月 17 日（火）　堀切３の精査を行うとともに、近藤郭の調査を開始する。

８月 18 日（水）～９月 10 日（金）　堀切３の遺構検出・実測と、北側にトレンチを拡幅し硬化面の精査を行う。

９月 14 日（火）～９月 22 日（水）　堀切３・堀切２・近藤郭の写真撮影、Ｅトレンチの実測を行う。実測を残し発掘作業を終了するため、器材を撤収する。

９月 24 日（金）～ 10 月７日（木）　Ｅトレンチ・堀切３の実測を行う。

10 月 14 日（木）～ 10 月 18 日（月）　台風の影響により崩落した土砂の除去を行う。

10 月 22 日（金）～ 11 月４日（木）　堀切２と近藤郭、Ｅトレンチの実測を行う。

11 月５日（金）～ 11 月 11 日（木）　堀切３をそのまま残し、トレンチの埋め戻しを行う。

2005（平成 17）年度調査

７月 20 日に着手し、10 月 11 日に終了した。発掘調査は、前期基本計画に位置付けた整備箇所、蔵郭内の遺構分布と肩部の確認と堀切３の追加調査を行った。調査地区の基準軸は、前年度調査と同じくＡラインを基本ラインとした。標高は、本城郭の北側に位置する稲荷社東の KBM（220.482 m）から蔵郭にレベルを移動し、BM（221.500 m）とした。堀切３の全体図と蔵郭の No.33 ～ 36 の南トレンチと No.37 の北トレンチの全体図は、トータルステイションを利用した。蔵郭のトレンチは、2003（平成 15）年度の調査を参考にして、ピットと配石土坑（一部は竪穴状遺構となる）の分布範囲と遺構の性格を把握するため、Ａラインに沿って 10 m間隔に直交する５ヶ所を設定した。トレンチは、No.32 ～ 37 の杭（320 m～ 370 mライン）に設定した。トレンチはＡラインの起点から西へ 320 mの杭を No.32 として、No.32 と直交する 320 mのラインに沿って西側に設定した。幅は２mとした。トレンチの長さは、地形に合わせて６m～ 13.7 mの範囲内で設定した。蔵郭では、No.31 ～ 37（Ａライン上の 310 m～ 370 m）の杭を設定した。No.32 の杭（起点から西へ 320 m）に設定したトレンチは、No.32 北トレンチ、No.32 南トレンチと呼称した。堀切３は、前年度調査地区の南側を史跡整備に伴う排水溝設備の確保を目的に調査した。調査範囲は、幅が最大で６m、長さが約 25 mを測る。調査深度は、宝永火山灰層直下とした。調査面積は約 800m^2 である。以下、発掘調査の記録に基づく。

７月 13 日（水）～７月 14 日（木）　Ａライン基準杭の復元作業を行う。

７月 20 日（水）　発掘器材の運搬と調査開始にあたり安全祈願を行い、トレンチ設定作業、A350 トレン

チから重機による表土掘削を開始する。

７月 21 日（水）～８月４日（木）　新規トレンチ（南北トレンチ）を設定し表土掘削・遺構確認を開始するとともに、旧トレンチの復元・精査を行う。

８月５日（金）～８月 16 日（火）　精査と遺構の写真撮影・実測を開始し、一部サブトレンチで地山の確認を行う。

８月８日（月）から堀切３の追加調査の準備、南壁セクションの実測を開始する。

８月 17 日（水）～８月 30 日（火）　各トレンチの調査を行うとともに、サブトレンチによる地山確認を行う。堀切３は南壁の実測・写真撮影を行い、南側拡張トレンチの宝永火山灰層直下までの掘削を開始する。

８月 31 日（水）～９月５日（月）　各トレンチの調査を行うとともに、竪穴状遺構のサブトレンチの掘削を開始する。堀切３の南側拡張トレンチの宝永火山灰層直下までの掘削を行う。堀切３の南側拡張トレンチでは、宝永火山灰層直下で拳大の礫の集中を認めたが、サブトレンチの調査で地山であることを確認した。

９月６日（火）～９月 12 日（月）　各トレンチでの実測と新規トレンチの掘削、遺構確認を行うとともに、堀切３南側の記録作業を行う。

９月 13 日（火）～９月 27 日（火）　蔵郭竪穴状遺構の遺構検出を行い、各トレンチの記録作業を行う。竪穴状遺構から青磁片、炭化米が出土した。

９月 28 日（水）～ 10 月５日（水）　堀切３南側と蔵郭南トレンチの実測、排水溝設備確保のための事前の調査と記録作業を行う。土層説明の確認と図面の照合を行う。

10 月６日（木）～ 10 月 11 日（火）　蔵郭埋め戻しと堀切３のシートによる養生を行い、器材を撤収する。

10 月 12 日（水）～ 10 月 17 日（月）出土遺物と図面の確認を行う。

なお、発掘調査に伴う行政文書は次のとおりである。

現状変更許可申請

2002（平成 14）年度

11月25日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書

11月26日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道路の設置工事）許可申請について（副申）（教生第 17 号）

12月 9 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置）の許可について（生文第 690 号）

2003（平成15）年

２月20日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置）工事完了届

２月21日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置）工事完了届の提出について（進達）（教生第 17-2 号）

2003（平成 15）年度

６月26日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書

６月26日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）許可申請について（副申）

７月 1 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）の許可について（生文 15 第 11 －３号）

11月11日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書

同　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置）許可申請について（副申）（教生第 28 号）

11月13日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道路設置）の許可について（生文第 11-10 号）

2004（平成 16）年

２月 4 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）一部終了届

神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について

２月 5 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）一部終了届の提出について（進達）（教生第 16-1 号）

神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について（進達）（教生第 16-2 号）

２月27日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置）の許可について（生文 15 第 11-10 号）

2004（平成 16）年度
4 月 5 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道路設置）終了届
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道路設置）終了届の提出について（進達）
4 月 8 日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書
4 月 9 日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）許可申請について（副申）（教生第 4 号）
4 月16日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）の許可について（生文 16 第 9-1 号）
2005（平成 17）年
3 月31日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）一部終了届
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）一部終了届の提出について（進達）
同　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について
同　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について（進達）

2005（平成 17）年度
4 月12日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）の許可について（生文 17 第 4-1 号）
6 月20日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書
6 月21日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）許可申請について（副申）（教生第 7 号）
7 月 1 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）の許可について（生文 17 第 4-2 号）
8 月15日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について
8 月16日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について（進達）
8 月19日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）の許可について（生文 17 第 4-6 号）
12月12日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）終了届
12月15日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）終了届の提出について（進達）
2005（平成 18）年
3 月15日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書
3 月16日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置等）許可申請について（副申）（教生第 17 号）
3 月17日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置等）の許可について（生文 1 第 4-10 号）

2006（平成 18）年度
7 月 5 日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更許可申請書
7 月 5 日付け　県指定史跡「河村城跡」の現状変更（史跡整備等）許可申請について（副申）（教生第 16 号）
7 月10日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（史跡整備等）の許可について（生文 18 第 4-3 号）
2007（平成 19）年
3 月 8 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置等）終了届
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（史跡整備等）終了届
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（発掘調査等）一部終了届
3 月 9 日付け　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置等）終了届の提出について（進達）
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（仮設道設置等）一部終了届の提出について（進達）
同　神奈川県指定史跡「河村城跡」の現状変更（史跡整備等）終了届の提出について（進達）
3 月26日付け　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について
3 月27日　神奈川県指定史跡名勝天然記念物現状変更（発掘調査等）許可内容の変更について（進達）

出土品の手続き

2003（平成 15）年度調査
12 月 25 日　埋蔵物発見届
同　出土文化財保管証
2004（平成 16）年 1 月 21 日　生文 15 第 5 － 1056 号埋蔵物の文化財認定と帰属について
2005（平成 17）年 2 月 8 日　生文第７１５号出土文化財の譲与について

2004（平成 16）年度調査
12 月 17 日　埋蔵物発見届
同　出土文化財保管証
2005（平成 17）年 1 月 12 日　生文 16 第 5 － 1041 号埋蔵物の文化財認定と帰属について
2006（平成 18）年 3 月 6 日　生文第 899 号出土文化財の譲与について

2005（平成 16）年度調査
10 月 17 日　埋蔵物発見届
同　出土文化財保管証
11 月 9 日　生文 17 第 5 － 2039 号埋蔵物の文化財認定と帰属について
2006（平成 18）年 3 月 26 日 生文第 1080 号出土文化財の譲与について

第４章　基本層序

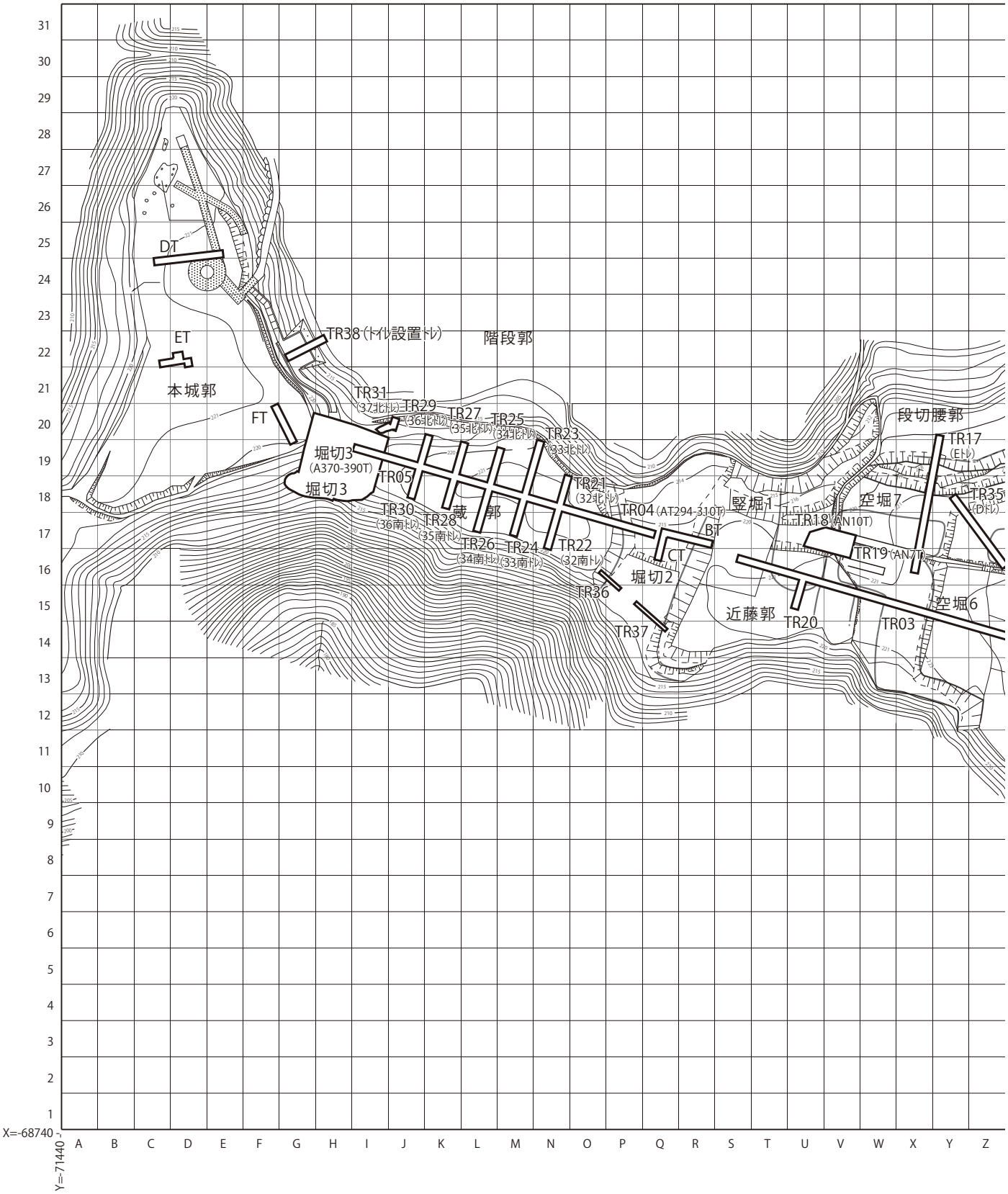
県内の相模野台地を中心とする基本層序はⅠ層表土、Ⅱ層古代まで、Ⅲ層古墳時代、Ⅳ層弥生時代、Ⅴ層縄文時代中期まで、Ⅵ層早期まで、Ⅶ層草創期、Ⅷ層ソフトローム層以下関東ローム層立川面の堆積である。Ⅰ層中には盛土・耕作土・攪乱、Ⅱ層では宝永スコリア降灰以前～古代相当層に区分される。とりわけ土層堆積が厚い場合は上層中層下層と細分し、あるいは主たる土層間に漸移層を設定する。

調査対象である河村城が立地する城山全体が郭と堀切という遺構によって構成され、その大半が遺構覆土である。さらに、宝永スコリア降灰後の可耕地の復旧と拡張のため城郭内の平坦部の多くで天地返しを行い、自然地形の大半が改変されている。また、県指定史跡という性格上一次堆積土を徹底して掘り下げるという記録保存的発掘調査を実施していない。そのため、城郭内の土層堆積や立地地形は専ら城山の丘陵周囲の崖地の土層堆積の観察や、酒匂川南岸の南足柄分との比較によっている。

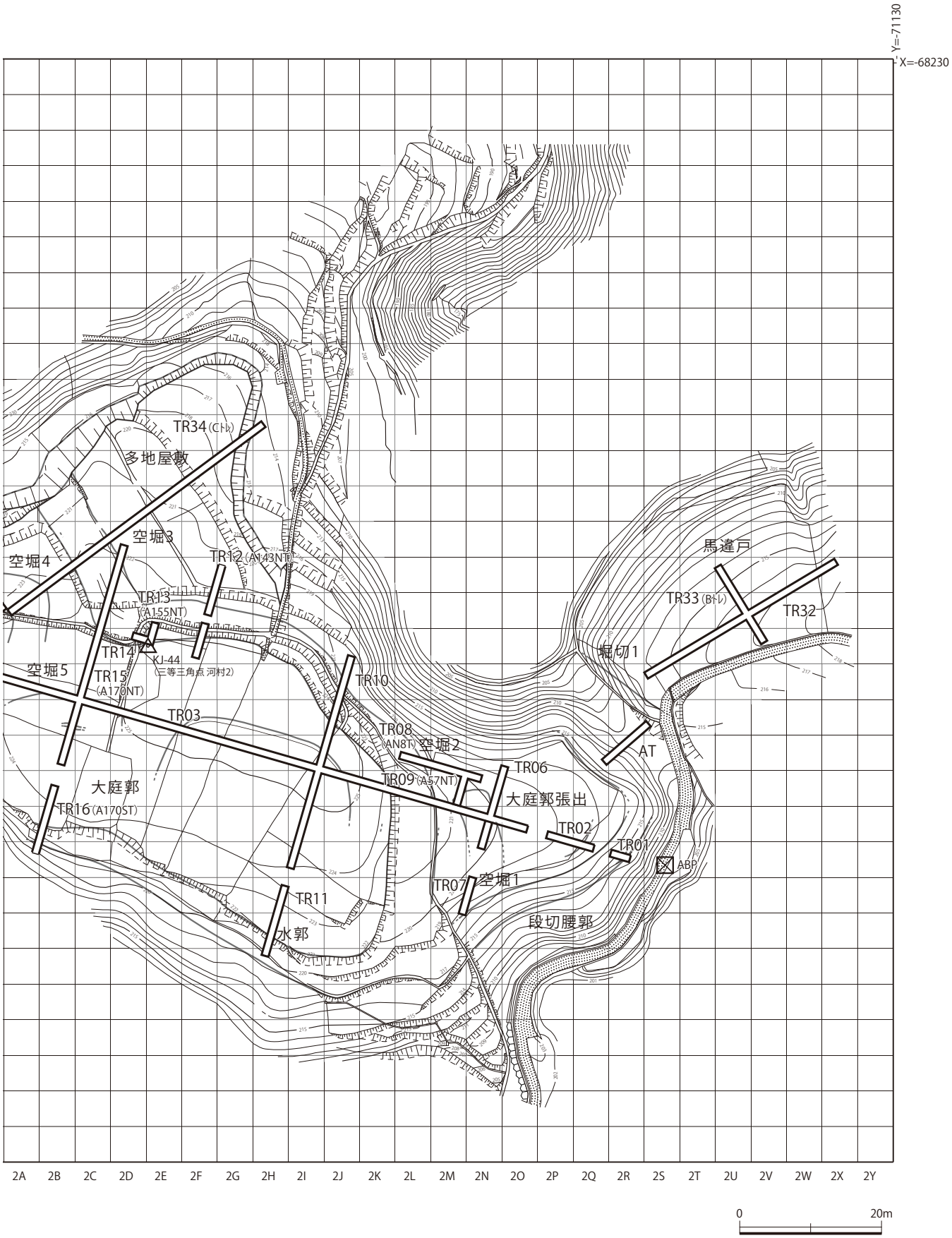
ここでは、「河村城遺跡一帯の自然土層と遺物包含層」（上杉 2004）を考古土層として読み替え、また一部要約し、参考とする。観察地点は空堀１から空堀２に至るトレンチ掘削範囲の 2M・2N-10 グリッド北側ラインであり、Ⅰa 層からⅥ層にいたる層厚は発掘調査における土層断面図を参照した。また、「河村城跡標準土層柱状図」（山北町教育委員会 2003-2005）を参考とする。

Ⅰa 層：表土、宝永スコリア混じりで上下に分層。層厚 18cm。
Ⅰb 層：宝永スコリア純層。層厚 35cm。
Ⅱa 層：黄灰褐色土層、（S-24-10B 期の可能性がある）。直径 5mm 前後の（同色）スコリアを含む。層厚 14cm。
Ⅱb 層：Ⅱa 層に径１～ 5mm の赤褐色の岩片を含む。層厚 16cm。
Ⅲ　層：黄灰橙褐色スコリア質層、Ⅱb 層に最大 20mm のスコリアが加わる。層厚 10cm。
Ⅳ　層：黒褐色スコリアから構成される全体として赤みが強いスコリア層がある（S-15 ～ S-22）。層厚 20cm。
Ⅴa 層：暗色粘質土層。層厚 5cm。
Ⅴb 層：砂沢スコリア、湯船第１スコリアを含む（天城火山カワゴ平軽石 KgP は不明）。層厚 5cm。
Ⅵ　層：暗褐色腐植土層で、径５～ 10mm の黒色スコリアを含む（S-9 ～ S-0）。層厚 6cm。
Ⅶ　層：関東ローム層漸移層。
Ⅷ　層：ソフトローム（L1S）層
Ⅸ　層：第０黒色帯（BBO）層
Ⅹ　層：ハードローム（L1H）層

概報には、Ⅰ：耕作土層、Ⅱ：表土層、Ⅲ：茶褐色スコリア質土層（宝永火山灰降灰以降の堆積土・近世）、Ⅳ：暗茶褐色スコリア質土層（宝永火山灰降灰以降の堆積土・近世）、Ⅴ：宝永火山灰層（1707 年）、Ⅵ：暗茶褐色スコリア質土層（宝永火山灰降灰以前の堆積土・近世）、Ⅶ：暗褐色スコリア質土層（中世から古代の堆積土）、Ⅷ：黄茶褐色スコリア質土層（古代以前の堆積土）、Ⅸ：黒褐色スコリア質土層（古墳時代～弥生時代の堆積土）、Ⅹ：暗茶褐色スコリア質土層（縄文時代後期～晩期の堆積土）、XⅠ：暗褐色スコリア質土層（縄文時代前期～中期の堆積土）、XⅡ：暗赤褐色粘質土層（富士黒層上層・FB）（縄文時代早期～前期の堆積土）、XⅢ：暗褐色粘質土層（富士黒下層・FB）（縄文時代早期の堆積土）、XⅣ：ローム漸移層（縄文時代草創期の堆積土）、XⅤ：ローム層（旧石器時代の堆積土）、XⅥ：灰白色粘土砂礫層、XⅦ：青灰色砂礫層、XⅧ：黄白色粗粒スコリア層、XⅨ：暗褐色ローム層、XX：砂礫層（足柄層）の 20 層に区分している。



第３図　グリッド設定・トレンチ配置図［1/1,500］


Y=-71130
X=-68230
TR34（Cトレ）
多地屋敷
空堀3
空堀4
TR12（A143NT）
TR13
（A155NT）
TR14
KJ-44
（三等三角点 河村2）
空堀5
TR15
（A170NT）
TR03
TR10
TR08
（AN8T）
空堀2
TR09（A57NT）
TR06
大庭郭張出
大庭郭
TR16（A170ST）
TR02
TR01
ABP
TR07
空堀1
TR11
水郭
段切腰郭
馬違戸
TR33（Bトレ）
TR32
堀切1
AT
2A
2B
2C
2D
2E
2F
2G
2H
2I
2J
2K
2L
2M
2N
2O
2P
2Q
2R
2S
2T
2U
2V
2W
2X
2Y
0
20m

なお、空堀１の壁面には 7.7 万年前頃の小原台軽石とその軽石流（Y-63 ～ 59）が観察され、下位の層序には不整合があり城山全体の隆起と侵食によりテフラ層の多くが欠落している。Ⅱb 層とⅢ層の間に、小原台軽石流の残土が挟在し、締まった泥層（層厚 7cm）を含む地点もある。また、直径 5mm ほどの円磨礫を含む川砂（層厚 4cm）が挟在する。さらに、城内の地割れや凹地の発生要因として 1782 年の天明小田原地震が想定されている（上杉 前掲書）。地割れの痕跡は、蔵郭の調査でも指摘されており、河村城全体が宝永火山灰降灰以降も天変地異による自然地形の改変を受けていることとなる。これらの地形改変は、遺構の切り合い関係の判定や落込みの認定、あるいは凹地地形の発生や郭の崩落などといった自然営力による改変が考えられ、河村城の遺構配置にも大きく関与することとなる。

近年、本城郭東側露頭における吉岡ラピリ（F-YP）の「発見」によって、浅間山（城山）の隆起年代が改めて議論されている（萬年・小林・山下・古澤 2005）。また、城山の礫層の観察では、Ｅトレンチの礫層上面の標高が 218 m、「近藤郭北西の礫層上面が 205 m、差が 13 m、Ｅトレンチ礫層は北に 30-40 度傾斜し、堀切２あるいは近藤郭北西斜面で、２つの礫層が合体して樋状に水溜めになる可能性がある。当該礫は半腐れ礫でトレンチ北側斜面は、これを覆う古期ローム層のブロックが敷石代わり（道路状遺構）に使用されていた。古期ローム層は 30 ～ 40 万年前の多分多摩下部ローム層下部で、Ｄトレンチで一部露出していた可能性がある。また、本城郭トイレ脇礫層上面は南に傾斜する標高 218m 程度、堀切３南側で礫層上面が北に傾斜する標高 210.8m で同一礫層。つまり、水は樋状に堀切部分に溜められるはずであり、堀切部分から井戸を掘削すれば水源の確保ができ、籠城に耐えうる可能性がある。堀切は、水取場だったのではないか」（上杉　2006）との観察記録と城郭堀切の機能についても論じられている。本城郭の吉岡ラピリと同定した火山ガラス等の比較対象資料が僅か２例であり、河村城の立地する城山周囲の詳細なテフラ分析も今後必要となろう。

Ｅトレンチ土層断面（上杉陽提供 :2006.11.21）

第５章　発見された遺構と遺物

第１節　トレンチ調査の概要

2003（平成 15）年度調査にあたっては、大庭郭張出東端の浅間山農道の０基点から、Ａトレンチ 390 m地点（AT390）の設定、さらに、AT － 50・100・170・250・350 では、Ａトレンチに直交して幅２ｍのトレンチを設定した。その場合、数字を一桁省略してＡトレンチの南側は ST、北側を NT とした。Ａラインが通らない指定地東端の小字馬違戸は、地形に合わせて直交する十字のＢトレンチ、大庭郭北側の多地屋敷にも同じく地形に合わせ直行するＣトレンチを幅２ｍで設定した。なお、蔵郭と近藤郭間にある堀切では、幅１ｍの試掘トレンチ２ヶ所を設定した（第３図）。

2004（平成 16）年度調査においても、前年度に設定したトレンチを基本としながら、Ｃトレンチに直交するＤトレンチ、Ａトレンチに直交するＥトレンチを新たに設定するほか、堀切３の面的調査を実施した。

2005（平成 17）年度の調査は、蔵郭にＡラインを基本ラインとし、直交するトレンチ５ヶ所と、堀切３の南側を史跡整備に伴う排水溝設備の確保を目的に、任意に調査区を設定し、宝永火山灰層直下までを調査深度とした。また、堀切３の全体図と蔵郭の一部トレンチの全体図は、トータルステイションを利用した。

海抜標高は、大庭郭北側にある三級三角点（225.100 m）を基準に、必要に応じて利用した。

第２節　トレンチの調査成果

１．2005（平成 17）年度の調査

TR21（No.32 北トレンチ）（第 20 図・図版３）出土遺物なし。

トレンチの規模は、幅２ｍ、長さ８ｍである。トレンチの南側は、既に表土（１層）が削平されており、郭の旧地表（３･20 層）が露出していた。トレンチ底面には、東西に走る地割れの痕跡を５箇所以上確認し、南側には、整地による盛土か自然土層か判断できなかったが白色粘土層が確認した。

ピットは１個（P1）は平面確認調査で、東側平面形は隅丸方形を呈し、幅は 30cm である。

TR22（No.32 南トレンチ）（第 21 図・図版３）

トレンチの規模は、幅２ｍ、長さ 11 ｍである。トレンチ底面には、東西に走る地割れの痕跡を５箇所以上確認し、トレンチ中央と礫群中央部には、整地による盛土か自然土層か判断できなかったが白色粘土層が確認した。トレンチの南側 11.5m では、郭の南側上端の傾斜変換線を確認した。

ピットは、３個（P1 ～ 3）は平面確認調査で、P3 は調査の結果、底面に礫を検出し、平面形は、底面の下端から判断して隅丸方形と推測した。礫の大きさは、幅 13cm、長さ 14cm である。

炉址（焼土範囲）は、トレンチ南側東壁際に火床のみ確認し、上部が削平のため、屋外炉か他の付帯施設化は不明。礫は、トレンチ北側で溝状に検出し、その中央部で東西方向の新しい地割れの落ち込み部と重複していた。これらの礫は、AT320 ～ 330 トレンチの配石土坑群に連続し、竪穴状遺構等の他の遺構との関連が指摘できる。

出土遺物　龍泉系青磁稜花皿の口縁部片（第 53 図 25）、被熱した龍泉系青磁碗の高台部片（第 53 図 26）、黒褐釉（貿易陶磁器）の甕胴部片（第 53 図 27）が出土した。時期は、15 世紀と推定している。

炭化米は、３箇所に集中出土し、炭素 14 年代測定法（AMS 法）による年代は、1600（± 30）年（IAAA-60684）である。

TR23（No.33 北トレンチ）（第 17・19 図・図版 3）

幅２m、長さ 15 mのトレンチで、底面には、東西方向の地割れの痕跡を４箇所以上確認し、トレンチの北側 10.5m では、郭の北側上端の傾斜変換線を確認した。

ピットは、４個（P1 ～ 4）を検出し、P1 は竪穴状遺構と重複関係にあり、ピットが新しいため、竪穴状遺構の調査によって消滅した。覆土の状況から近世以降の所産である。P2 は、平面確認調査で、東側平面形は隅丸方形を呈し、一辺 20cm である。ピットの形状と覆土の状況から中世の所産である。P3（北ピット）は、幅約 1.2 m・深さ 0.9 mである。P4（南ピット）は、幅約 60cm・深さ 40cm である。P3・4 とも不正楕円形、ピットの形状と覆土の状況から近世以降の所産と考える。

竪穴状遺構（第 17 図・図版３）　TR23（No.33 北トレンチ）から検出した。南壁の上端は、2003（平成 15）年度調査で確認していたが、調査範囲が狭小なため遺構の性格は不明であった。遺構上部は耕作による攪乱を受け、確認面上層では宝永火山灰を確認した。覆土は、ほぼ全面に多数の拳～頭部大の転礫が投棄された状態であり、藁状の繊維を含む焼けた粘土ブロック、漆喰と思われる板状の白色粘土を確認した。また、覆土の水洗によって炭化米を僅かであるが検出した。遺構の規模は、東壁で 3.9 ～ 4.2 m、深さは約 0.45cm を測る。平面形態はほぼ方形で、北壁は上端が乱れ、テラス状の付帯施設、あるいは出入り口の施設の可能性がある。他にも、竪穴状遺構との関連遺構を TR22（No.32 南トレンチ）から検出した。2003（平成 15）年度の調査で確認した配石土坑（AT320 ～ 330）を再精査した結果、覆土から新たに炭化米を確認した。竪穴状遺構の北壁延長線が一致することから同一遺構、あるいは類似遺構と考える。覆土内からは、TR23（No.33 北トレンチ）の竪穴状遺構と同様、礫と炭化米、陶磁器等の破片（第 53 図 21）が出土した。

出土遺物　No.33 北トレンチの竪穴状遺構からは、鉄釘（第 61 図 1 ～ 7）が 7 点、炭化米、板状の白色粘土、胎土中に藁状の繊維を含む土壁の部材と思われる粘土塊が焼けた状態で出土した（本文 100 頁）。

竪穴状遺構内のサブトレンチ調査では、瀬戸・美濃系の灯明皿（鉄釉）の口縁部片 1 点（第 53 図 22）を確認したが、後の詳細調査で後世のピットによる攪乱内から出土したことが判明した。時期は、18 ～ 19 世紀の所産と考える。混入遺物では、弥生時代堂山期の胴部破片 1 点（第 53 図 30）を検出した。炭化米は、覆土内から出土し、炭素 14 年代測定法（AMS 法）による年代は、1580（± 30）年（IAAA-60683）である。

TR24（No.33 南トレンチ）（第 18 図）

トレンチは、幅２m、長さ 12 mで、トレンチ底面に東西方向の地割れの痕跡を３箇所以上確認したが、トレンチ南側７m 以南で、とりわけ顕著である。地割れの凹みには宝永火山灰が堆積しているため、1707（宝永 4）年以降の所産であろう。トレンチの南側 11m には、郭の南側上端の傾斜変換線を確認した。

土坑は、トレンチ北側に東西に延びるようにトレンチ幅全体に検出した。幅 1.1 ～ 1.5 m、深さ 0.95 m である。時期は覆土内宝永火山灰の混入から判断して近世～近代と考える。遺構の性格は、その形状から貯蔵坑とした。

ピットは、P1 ～ 3 の３個を検出した。このうち P1 と P2、P2 と土坑が重複関係にあり、新旧関係は土坑が最も新しく、P1 と P2 は平面確認調査で、P1 が新しく、P2 は南側半分を土坑によって削平され、P1 は、覆土上面に礫を確認した。平面形態は不正の隅丸方形で、一辺 20 ～ 30cm である。P3 は隅丸方形で、

幅約 80cm・深さ 60cm である。P1 ～３の時期は、ピットの形状と覆土の状況から中世の所産と考える。

出土遺物　「かわらけ」皿の半完形品（第 53 図 18）であり、確認面から出土した。

TR25（No.34 北トレンチ）（第 15 図）、出土遺物なし。

幅２m、長さ 10 mのトレンチで、2003（平成 15）年度に北側８mまでを既に調査していた。今回は、北側２mの延長とトレンチの掘削深度を深くした。トレンチ底面には、東西方向の地割れの痕跡を８箇所以上確認した。トレンチの北側３m と７mでは、郭の北側上端の傾斜変換線を確認した。郭の旧地表面は断面図の３層下面としたが、31 層がローム地山であるため、３層下面から 31 層上面間の覆土は郭の整地盛土と考えた。また、本トレンチ部は、地割れや地滑り等の自然地形の改変によって形成された地山が、盛土状に堆積した状態も否定できない。

ピットは平面確認調査で、南側で P1 と P2 が検出され、2003（平成 15）年度には既に確認されていた。平面形態は隅丸方形で、一辺 20 ～ 28cm である。P1・２の時期は、ピットの形状と覆土の状況から判断して中世の所産と考える。

TR26（No.34 南トレンチ）（第 16 図・図版 3）、出土遺物なし。

トレンチの規模は、幅２m、長さ 11.7 mである。本トレンチは、2003（平成 15）年度に南側５mまで調査していた。今回は南側をさらに 6.7 m延長した。本トレンチ部分は、断面下層の全域にわたって宝永火山灰が堆積し、火山灰の天地返しの範囲と考えられる。本トレンチでは、郭の南側上端の傾斜変換線を確認していない。トレンチの底面には、東西走向の地割れを５箇所以上、トレンチの南側５m 以南では顕著な地割れを確認した。宝永火山灰の混入から 1707 年以降と判断した。

TR27（No.35 北トレンチ）（第 13 図・図版 2）、出土遺物なし。

トレンチは、幅２m、長さ９mで、底面には、東西に走る地割れの痕跡を１箇所以上確認し、トレンチの北側 3.3m では、郭の北側上端の傾斜変換線を確認した。ピットは平面確認調査によって南側で P1 ～５を検出しし、平面形態は隅丸方形を呈し、一辺 22 ～ 28cm である。P1 ～５の時期は、ピットの形状と覆土の状況から判断して中世の所産と考える。

TR28（No.35 南トレンチ）（第 14 図）、出土遺物なし。

トレンチは、幅２m、長さ８mで、本トレンチ南側上端の傾斜変換線と地割れの痕跡は確認していない。トレンチ南端は、抜根による顕著な攪乱がある。ピットは、平面確認調査により P1 ～６の６個を検出した。平面形態は隅丸方形（P2・P4・P6）や不正楕円形（P1・P3・P5）で、規模は一辺 20 ～ 30cm、径 30 ～ 40cm である。P1 ～６の時期は、ピットの形状と覆土の状況から判断して隅丸方形の P2・P4・P6 を中世、不正楕円形の P1・P3・P5 を近世の所産と考える。

TR29（No.36 北トレンチ）（第 11 図）

トレンチは、幅２m、長さ８mであり、A トレンチと本トレンチ底面で整地状の盛土の痕跡を確認した。整地状の盛土の確認は、本トレンチでは地割れの痕跡を確認していないことから、郭が整地状の盛土によって構築あるいは修復された可能性を示している。トレンチの北側３m では、郭の北側上端の傾斜変換線を確認した。

ピットは、平面確認調査によって P1 ～６の６個を検出し、平面形態は隅丸方形を呈し、一辺 15 ～ 40cm である。P1 と P2 は重複し、P2 が新しい。このうち P4・P5 は、サブトレンチ内の整地状の盛土中

から確認され、盛土ブロックの可能性がある。P1 ～ 6 の時期は、ピットの形状と覆土の状況から判断して中世の所産と考える。

出土遺物　「かわらけ」の坏の口縁破片（第 53 図 17）であり、確認面から出土した。時期は、不明である。

TR30（No.36 南トレンチ）（第 12 図・図版 2）、出土遺物なし。

トレンチは、幅２m、長さ８mである。本トレンチでは、郭の南側上端の傾斜変換線と地割れの痕跡は確認できなかった。トレンチの北側と南側では、抜根等による顕著な攪乱を確認した。ピットの P1 ～ 3 は平面確認調査で、平面形態は隅丸方形（P1・P2）や不正楕円形（P3）を呈し、一辺 20 ～ 28cm、径 40cm である。P1 ～ 3 の時期は、ピットの形状と覆土の状況から判断して、隅丸方形の P1・P2 を中世、不正楕円形の P3 を近世の所産と考える。

TR31（No.37 北トレンチ）（第 6 図）、出土遺物なし。

トレンチは、幅２m、長さ 3.3 mで、堀切３の「段切面１」に伴う蔵郭北西側の端部の様相を確認するための調査で、宝永火山灰の降下面までを掘削した。また、本トレンチは蔵郭北西コーナー部の様相を解明するため、南東の「堀切３」まで下端に沿って拡幅調査した。本トレンチでは、蔵郭北西コーナー部の下端と「段切面１」に伴う蔵郭北西側の「堀切３」の上端と考えた傾斜変換線を確認した。トレンチ断面では、宝永火山灰の一次堆積と二次堆積を確認した。

「遺構に伴わない遺物」　瓦質火鉢（第 53 図 19）の破片で、No.37 の杭付近から表面採集した。時期は、14 ～ 15 世紀を考える。

蔵郭の調査は、2003（平成 15）年度の調査に続き２回目である。ピットは、TR31 を除くほとんどのトレンチから確認した。これらのピットは、掘立柱や柵列等の配列を確認できなかったが、蔵郭中央部のＡラインの東西付近にやや集中していた。確認調査が主たる目的であるため、ピットの性格をはじめとする蔵郭全体の性格は今後の詳細調査に委ねることとなる。地割れは、多くのトレンチ（TR28 ～ TR31 を除く）で確認した。特に、南側トレンチの TR24・TR26 では著しい痕跡を確認し、凹みには宝永火山灰の混入を認めた。対して、北側トレンチの地割れでは、宝永火山灰が全く検出できないことから、南北の地割れは異なる時期に発生したか、あるいは、基盤層の違いを反映しているのかもしれない。さらに、宝永火山灰やその天地返しは、Ａラインを境に南側トレンチに多く確認した。このことは、蔵郭が廃城の後に畑地として使用されたことの証である。TR29（No.36 北トレンチ）では、郭が整地状の盛土によって構築あるいは修復された可能性を確認した。竪穴状遺構の検出は、一部であるが遺構の性格（蔵）を捉えることができ、今後の面的な再発掘調査の必要かつ良好かつ重要資料となった。

竪穴状遺構は、TR23（No.33 北トレンチ）、TR22（No.32 南トレンチ）と AT320 ～ 330 の発掘調査の成果を総合的に判断すると、大小の差はあるものの平面形態が方形を呈し、深さ 40 ～ 60cm 前後を計る。遺構内からは、炭化米、鉄製品、転礫、焼けた土壁の部材等が出土している。郭名称に「蔵」が付与されている点から「土蔵作りの穀物を貯蔵した蔵」である可能性が極めて大きい。さらに、TR23（No.33 北トレンチ）の竪穴状遺構は、焼けた粘土の他に被熱した礫を多く確認したことから、焼失遺構と確認した。年代的には、TR22（No.32 南トレンチ）の青磁片から 15 ～ 16 世紀の年代が与えられよう。また、炭素 14 年代測定法（AMS 法）による炭化米年代は、TR23（No.33 北トレンチ）の竪穴状遺構が 1580（± 30）年（IAAA － 60683）、TR22（No.32 南トレンチ）の竪穴状遺構が 1600（± 30）年であった（IAAA － 60684）。

これら点から、廃城年代の 1590（天正 18）年とほぼ一致し、廃城による戦火で消失した「蔵」である可能性を導きだす成果となっている。

堀切３の調査（第６・７図・図版 1)、出土遺物なし。

南壁土層断面図の観察と作成の結果、３～４回の時期差をもって埋没した状況を確認した。2004（平成 16）年度の調査で確認した「段切面２」は、人為的な埋め戻しによる堆積を観察した。堀切３の南側では、排水溝の設置と「段切面２」に伴う蔵郭南西側の端部の様相を確認するため、宝永火山灰降下面までの調査を実施した。同じく堀切３の北側では、TR31（No.37 北トレンチ）において「段切面１」に伴う蔵郭北西側の端部の様相を確認するため、宝永火山灰降下面までの調査を実施した。蔵郭南西側の端部は、標高 214 m前後の等高線が傾斜変換線の下端として捉え、蔵郭北西側の端部では、標高 215 m前後の等高線が傾斜変換線の下端として捉えることができた。蔵郭南西側隅部では、大小様々な転礫を確認したため、石積み、もしくは、覆土に二次堆積として混入したのかを判断するためにサブトレンチを設定して調査した。その結果、蔵郭南西側のコーナー部は、礫層を掘削して形成したと判断した。同様に調査区外の蔵郭南側急斜面では、踏査とボーリング棒による調査の結果、礫（礫層）の存在を確認した。

本城郭側では、東南部で標高 214 ～ 215 m前後の等高線を傾斜変換線の下端として捉えることができたため、「段切面１・２」と伴う可能性のあるテラス状の遺構が存在することを確認した。さらに本城郭の土層断面において、宝永火山灰がほぼ水平に約 120cm の厚さに堆積していることからも、テラスの存在を確証する資料と判断した。

堀切３の今回の調査では、蔵郭の西側の端部と南北両隅を確認した。地形の観察から、廃城当時とさほど変わらない地形を残している可能性を確認した。段切面１・２に伴うテラスが、蔵郭に存在することが判明し、本城郭（南側）についても、同様の可能性のあることが想定されよう。

今回の蔵郭の調査は、廃城当時の地形維持について再確認した調査でもあったたが、堀切３の調査において、宝永火山灰降下面まで掘削後の地形測量（等高線測量）にまで手が及ばなかったことが惜しまれる。

２．2003（平成 15）・2004（平成 16）年度の調査

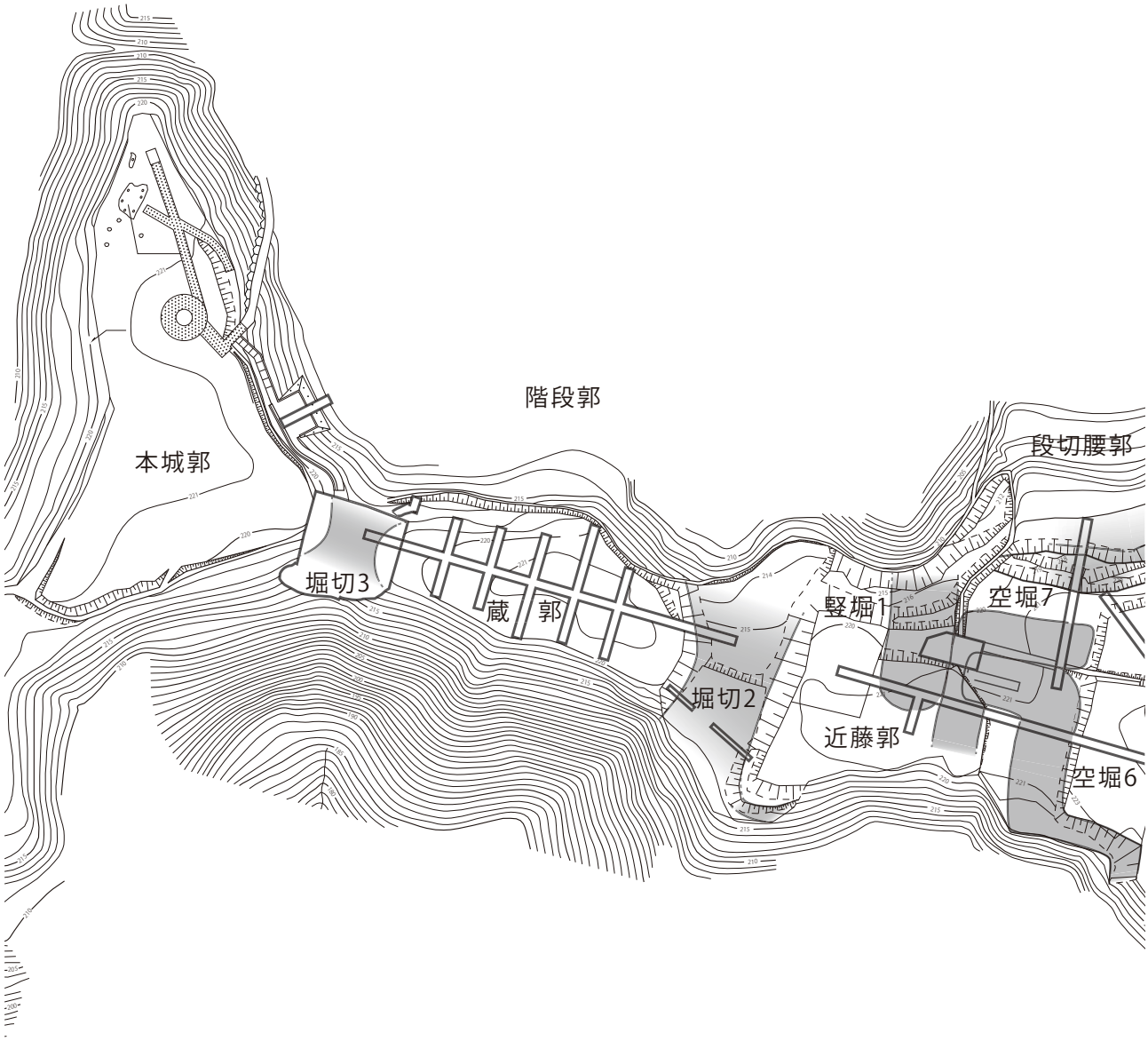
TR01（A トレンチ群）（第 49 図）

段切腰郭１　大庭郭張出の 2R － 9 区にあり、段切腰郭１が確認されている。トレンチ東端から約２～３ｍで急崖になっているが、この地点については浅間山農道を敷設した際一部切削されている可能性があり、最下部の腰部平坦面の幅は約３～４ｍほどであったと推定される。トレンチ内の地山層は、暗褐色ローム層がブロック状に分離堆積し、切岸面はあまりなめらかではないが非常に固い土層となる。

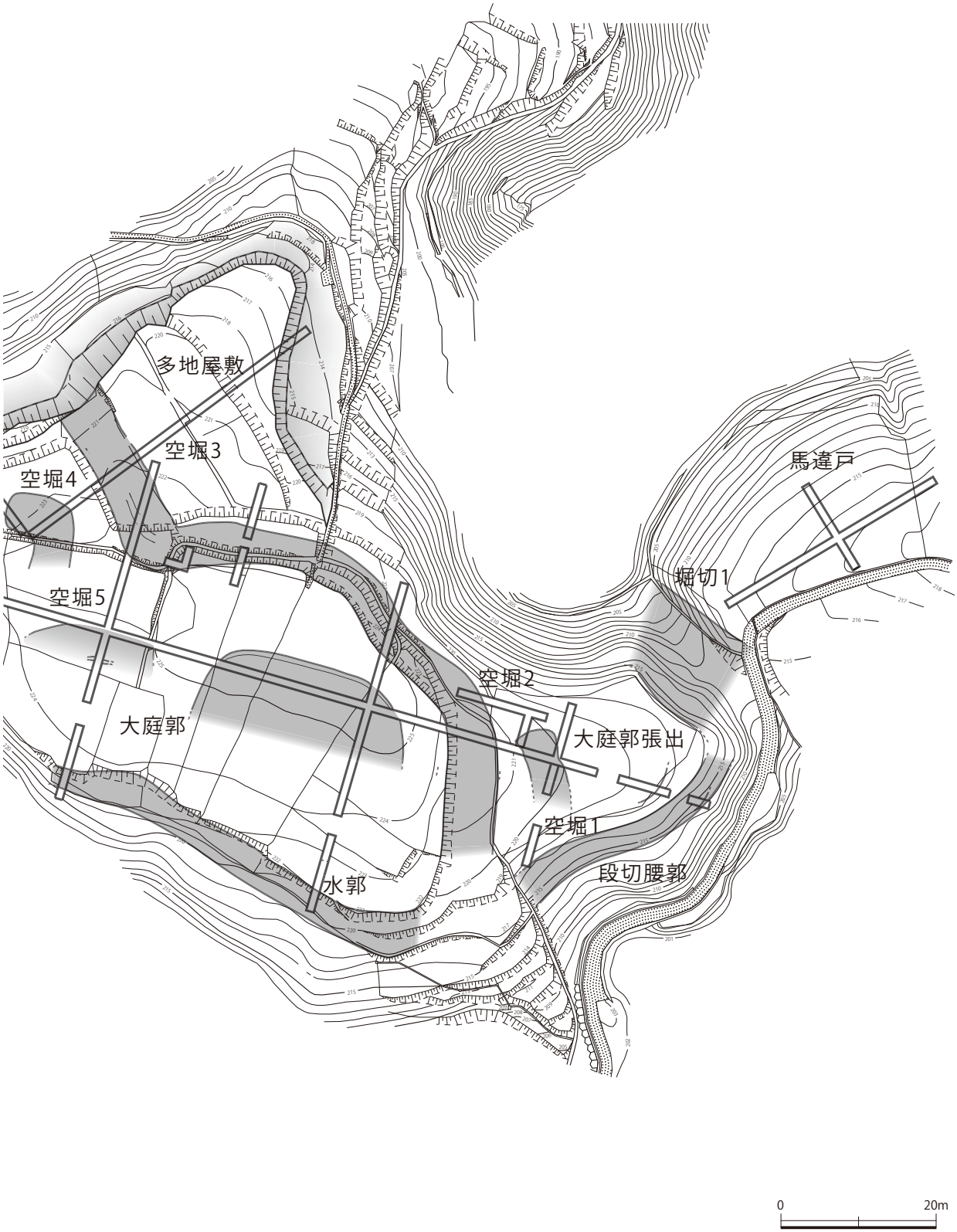
土層断面の観察から、当初の構築面を含めて基本的に４回の整地面を確認することができそうである。つまり、第 28 ～ 31 層下部が最初の段切腰郭面で、第 28 層が次の整地層、第３回が第 17 ～ 19 層上面で、最終の第４面が第 10 層上面となる。ただし、第 12 ～ 14 層は地山風化層として把握できるため、第 10 層最終面は現地表と同様な傾斜を有することもあり、段切腰郭として把握できないかもしれない。いずれにしても、段切部平坦面の幅を改修ごとに広げ、他地点の段切部と同様な在り方を示している。伴出遺物はなし。

TR02（A トレンチ群）（第 48 図）

TR01 に続く 2P・2Q － 9・10 区に設定・調査し、TR01 ～ 05 は直線上に連なっている。大庭郭張出の



第４図　郭配置図


多地屋敷
空堀3
空堀4
空堀5
大庭郭
水郭
空堀2
大庭郭張出
空堀1
段切腰郭
堀切1
馬違戸
0
20m

平坦面にあたり、特筆すべき検出遺構・遺物はない。第４層の宝永火山灰自然堆積層下部が確認されており、TR03 の空堀１上面までには畝状のわずかな凹凸が一部に見られ、面的な調査によっては宝永期の畑地遺構を確認することも可能であろう。

TR03（A トレンチ群）（第 25 ～ 27 図・図版 4）

竪堀１　Ｔ～Ｖ－ 15・16 区で確認した。竪堀の谷頭部直下を横断するようにトレンチを延伸して調査し、堀幅は約 14 m、地山は空堀７との複合部で明茶褐色ローム漸移層から泥岩礫を多く含む灰白色粘土層で、その下部は明褐色ローム層である。堀底は北側に向かって急傾斜をなし、層厚約 100cm の宝永火山灰自然堆積層（第６層）が堀内堆積土の中層に認められる。平均降灰量の厚さが約 60 ～ 70cm の山北地域にあってはやや厚いが、凹地地形を保持した竪堀に吹き溜まったためであろう。

堀内堆積土上層から 16 世紀後半期の所産と思われる常滑系甕破片（第 54 図 41・42）が出土している。

なお、竪堀１の西側の堀切２に続く平坦面（近藤郭）では抜根による撹乱が多く、中世の遺構・遺物は認めていない。隣接する TR18 でも竪堀１の延長を検出し、空堀７との新旧関係は竪堀１が新しい。

空堀７　Ｖ・Ｗ－ 15・16 区にあり、上部堆積土層群はほぼ水平に堆積した宝永火山灰の天地返しによってかなり撹乱されているが、竪堀１との複合部では宝永火山灰自然堆積層に連なっている。土層断面では新旧関係を把握できないが、TR18 の調査で竪堀１が新しいと判明している。確認面での堀幅は約８m、堀上部の法面角度は東側に比して西側が急角度をなしている。堀内堆積土層は第 24 層までが人為的な埋没土層群で、第 20・22 層から拳大から人頭大の礫群が大量に投棄されている。対して、第 25 層以下は自然流入堆積土層群である。また、東側の堀肩部の第６・７層は宝永火山灰降下後に削平・整地されている。

空堀７は、TR18・19 等でも確認し、空堀６や竪堀１によって堀内堆積土が切削され、時期的には古い構築である。TR03 の北側約 20 mで東側にほぼ直角に折り回っている。

空堀６　Ｘ・Ｙ－ 15 区で検出され、湧水に伴う土砂崩落によって実測は不可能であったが、深度は約６mで、TR19 の一部となる W － 16 区内の調査により畝堀であることが判明している。Ｘ・Ｙ－ 15 区の調査では、堀確認面最上層が第 28 層の宝永火山灰自然堆積層であり、西側法面には野面積みの石垣遺構が確認された。これらは、TR17 の南端で検出した空堀６の北側法面の石垣積み遺構と同じ在り方を示している。すなわち、石垣裏面の堀内堆積土の存在から空堀６の廃棄後の埋没過程で石垣を構築しているのである。相対的には、空堀６が半分以上埋没した段階で畑地に利用され、周囲に高さ約１mほどの石垣を積んだ時期に宝永火山灰が降灰した。その後、畑地として復旧するため堀外の火山灰を除去した後、東側堀法面を削って堀内の宝永火山灰上部に盛土整地している。堀内の宝永火山灰自然堆積層は約 100cm、堀幅は確認面で約 10 mである。

空堀６は空堀７と複合しつつ TR03 北側約 15 mで西側に屈曲し、竪堀１と組み合って近藤郭と大庭郭を分断するように、折り回されていると考えられる。

配石列・整地層　Ｚ－ 14 区周辺の TR03 で確認された。配石列は長径 10 ～ 40cm ほどの河原石がやや不規則に列状配置され、第４層の灰白色粘土とローム粒子を多く含む暗褐色スコリア質土となる整地層の直上に接地している。配石列西側には整地層が伸び、東側には約８m離れて一定範囲に硬化面が認められている。

整地層内には焼土・炭化物に炭化米が多量に混入していた。また、配石列の礫はその大半が火を受けて、熱によって破砕した礫もある。炭化物の年代測定（Beta － 188287）では 15 世紀中葉の値が算出され、伴

出遺物には同時期に近似した二次焼成を受けた褐釉四耳壷片（第 55 図 66）や、かわらけ片等がある。

空堀５　TR03 と TR15 の交点やや南側の、2B・2D － 13・14 区で確認され、走向・性格を含めて明確でない。地山確認面の堀肩で幅約７m、堀底幅約１m、深度約４mの規模であるが、堀内堆積土の上部には火を受けた大形河原石群とともに大量の炭化物を含む層が認められ、人為的に埋められた土層のようである。埋没過程で大形礫群を堀内に投棄している点、上部の宝永火山灰がほぼ水平堆積をした後に天地返し作業を行なっている点など空堀７と類似している。出土遺物は、上部炭化物層より精製されたかわらけ片（第 55 図 64）、中層下部のロームブロック層より瀬戸美濃系壷片（第 57 図 90）、堀底直上より常滑系甕片（第 58 図 97）各１点等である。時期的には 15 世紀中葉から後半と考えられる。

凹地郭　2E から 2K － 7 ～ 15 区の大庭郭東半分の標高約 225 mの河村城跡最高地点周辺にある重要遺構である。TR03 と TR10 の交点東側約 20 m付近を中心に、東西約 50 m、南北約 40 ～ 50 mの範囲を約 60 ～ 70cm ほど掘りくぼめた内側低地部には掘立柱建物遺構、溝状遺構、土坑、ピット群等を検出している。空堀２・３と南側段切腰郭に三方を囲まれる周縁部は、地山を削り残して土塁状の高まりとしている。この地山削り出し土塁の上には、より高い盛土土塁が本来存在したと考えられるが、現状ではほぼ削平されたようである。

なお、TR03 と TR10 の調査によって東西と北側で凹地となる段差を確認しているものの、TR11 では検出されていない。三方だけを高くして南側が開く形態が考えられる。また、TR03 の空堀２との間の削り出し土塁上では、数個のピットが存在したものの柵列となるような規則性認められない。

掘立柱建物遺構を構成するピット内から瀬戸美濃系三足盤片（第 57 図 93）、凹地郭床面直上の溝状遺構隣接地点から同じく瀬戸美濃系小皿（第 57 図 91）各１点が出土している。また、溝状遺構やピット内で検出した炭化米の年代測定（Beta － 189198）は 15 世紀中葉の年代が算出され、伴出遺物とほぼ一致している。

空堀２　大庭郭と大庭郭張出を分断し、2L・2M － 10・11 区で確認している。大庭郭側削り出し土塁の肩部から大庭郭張出側の肩部までの堀幅約 17 m、堀底幅約 2.4 m、大庭郭側削り出し土塁の肩部からの深度は約８mの規模で、堀底は踏み固められ非常に固い。堀内堆積土層の最下層となる第 129 ～ 132 層は滞水や沈殿に原因しよう砂質粘土層で直上層（第 128 層）は暗赤褐色の酸化硬化層である。これらは、堀内通路の堀道を示すと思われ、上部にある第 106 層、第 92 層、第 53 層等の硬化面も同様な性格を有しよう。さらに上層の第 43・54 層や第 36 層等は上下を分層する特徴ある土層だが、硬化率が低く明確な判定はし難い。ただし、４枚以上の硬化面を確認しており、TR15 の空堀３でも３～４段の段掘りが存在することをも考え合わせると、大庭郭を東側から北側に廻って多地屋敷郭まで空堀２・３が連続していることが首肯される。

中世期の遺物はないが、本遺構上には展開する典型的な天地返し遺構が存在しており、100cm 以上も降り積もった宝永火山灰から畑地を復活させる１８世初頭の並々成らぬ労苦を実感できる貴重な遺構である。

空堀１　2N・2O － 10 区になるが、空堀２とは近接しているものの明瞭な複合関係は存在していない。ただし、上部には宝永火山灰の自然堆積層がほぼ水平に確認されており、堀内の凹地に宝永火山灰が降り積もった空堀２とは同時期に併存したとは考えられず、空堀１がより古い時期に相当しよう。堀肩幅約 10 m、堀底の幅約 1.7 m、深度約３mで、空堀２と同様に西側の大庭郭側の堀法面が東側法面 に比して急角度に立ち上がる。堀内堆積土は、自然埋没に近い堆積状態で、目立った硬化面は認められていない。走向は、TR06・07・09 等の調査結果から半月状に巡り、TR09 で北側は途切れている。堀内からの出土遺物はない。

TR04（AT294 － 310）（第 22 図）

堀切２　P・Q － 17 区で、河村城跡最大の堀切とされる西側法面の調査を実施し、東側法面は 1990（平成２）年の範囲確認のためのトレンチ調査が行なっている。両側法面は宝永火山灰の降灰後に削り落とし、その土砂を堀切中心部に厚く堆積した宝永火山灰の自然堆積層上部に被せて畑地を復旧している。両法面は平均２～３m幅で切削され、本トレンチで観察では西側法面をより多く削っているようである。層序では、第 13 層が宝永火山灰の自然堆積層であり、層厚は約１m前後、上層の表土層を含む第８～ 10 層が被覆して畑地に復旧した土層群である。堀切確認面下部の法面掘削角度は約 50 度で、堀幅約 25 m、深さは約 12 mと推定できるが、堀の形態が畝堀となるか否かは確認されていない。堀内からの遺物はない。

TR05（AT370 － 390）（第 10 図・図版１・2）

堀切３　蔵郭西端のＩ― 19 区で、堀切３の東側肩部を検出している。堀切肩部は約 70 度の急角度でおよそ 2.5 m掘り込まれた段切面は非常に固くしまった地山ローム層で、段切面の幅約 1.8 mで橋脚遺構１の掘り方となる。段切遺構内堆積土は、第 18 ～ 22 層を境として上部層群の茶褐色スコリア質土層と下部層の灰白色粘土を多く含む土層群に大きく二分されるが、上部層となる第 10 ～ 12 層内には大量の河原石が投棄されていた。第 50 層は橋脚遺構１の掘り方内堆積土層の最上層にあたり、上面は全体にやや硬化している。第３層は宝永火山灰の自然堆積土層であり、なだらかな凹地にレンズ状に堆積し、天地返しは行なっていない。

なお、出土遺物は確認していない。また、堀切３東側肩部より東へ約 15 mの地点に、約 60cm の深さを有する段差を認めたが、その性格は明らかではない。

ピット群　K ～M－ 18 ～ 19 －区で、一辺約 20 ～ 30cm の方形ピットが 30 ～ 40 基検出されている。各ピットは、等間隔に並び掘立柱建物遺構になりそうな一群や根固め状の礫を備えた大形ピットもあるが、面的調査でないため正確は不明である。信楽系壷（第 53 図 20）、常滑系摺鉢（第 53 図 29）、かわらけ（第 53 図 15）等の破片が少量出土しているが、信楽系壷の年代観は 15 世紀中葉と考えられる。

配石土坑群　N － 18 区で、長方形に掘り込まれた土坑上面に配石が存在し、調査時点では 10 数機の配石土坑が相互に複合している状態と思われた。常滑系甕の破片（第 53 図 24）が出土している。

なお､2005（平成 17）度の再調査によって一部は竪穴状遺構を構成することが判明している（第 19 図）。

TR06（トレンチ 06）（第 46 図・図版 6）

空堀１　TR03 に直交する本トレンチは、2N・2O － 9 ～ 12 区で大庭郭張出のほぼ中央に設定し、空堀１の東側上面と西側法面の一部を確認した。トレンチ北側は緩やかな傾斜をもって谷斜面へと続くが、宝永火山灰の天地返し遺構を北端で確認したのみで、中世の遺構・遺物はない。

TR07（トレンチ 07）（第 47 図・図版 6）

空堀１　2N －７・８区にあり、第３～６層は灰白色粘土を多く含む客土整地層で、上層に僅かに宝永火山灰自然堆積層が確認できる。第７～ 22 層は本来の地山スコリア質土層群で、第８層最下部には延暦・貞観期と思われる火山灰がかすかに認められている。このため、空堀１は本トレンチと TR06 の間で途切れるか、走向を大きく変える可能性がある。上部客土・整地層は空堀１あるいは空堀２の掘削土と考えられる。

TR08（AN8T）（第 45 図・図版 6）

空堀２　2L ～ 2N － 11･12 に設定し､空堀２の東側肩部を検出した。上部層は宝永火山灰の天地返し層で、空堀東側法面の第６～８層や第 13 ～ 16 層の堆積部分で宝永期以前の段掘り遺構を確認した。段掘り下部法面は約 65 度の急角度で掘り込む。なお、トレンチ東端で性格不明の大形土坑を確認した。

TR09（A57NT）（第 44 図・図版 6）

空堀１　2N － 11 区で走向確認のため北側肩部と西側法面の一部を調査した。上部は厚さ約 40cm の水平堆積を示す宝永火山灰層があり、明確な堀底ではないが空堀確認面から深さ約 1.8 mまで、北西側隅法面に幅約 20cm の溝状遺構が堀肩から堀底に向かって垂下していた。堀内堆積土層は、自然埋没に近い堆積状態で、際立った硬化面は認められていない。遺物は検出されず、空堀自体は途切れている。

TR10（トレンチ 10）（第 42 図・図版 6）

空堀２　2I ～ 2K － 9 ～ 15 区に設定し､2J･2K － 13 ～ 15 区で堀を確認した。南側の堀肩部は未発掘だが、北側堀肩部までの推定最大堀幅は約 18 m、両側堀肩部の高低差は約６ mである。堀内堆積土上部は顕著な宝永火山灰の天地返し遺構が認められ、南側法面や堀外北側には宝永火山灰の自然堆積層が残る。

南側法面の上部は約 40 度、肩部から深度約５ mで角度を変えて約 60 度の急傾斜で掘り込まれているのに対し、北側法面は約 30 度と非常に緩やかである。これらは、TR03・TR08 から連続してきた堀で、さらに TR12・TR15 へと大庭郭を取り巻くように廻っている。

凹地郭　2J － 12 区で北側段掘り部を確認した。段差は約 70cm、平均約 30 度の傾斜角で掘り込む。凹地郭内は入念な宝永火山灰の天地返しが行なわれ、遺構を相当破壊していると思われる。凹地郭と空堀２の間にある地山削り出し土塁上には宝永火山灰の自然堆積層や天地返し層が認められず、削平地業が宝永期前後にかなり行われたようである。盛土土塁を含めた上部構造は何ら知ることはできない。なお、本トレンチ南端部の 2I － 9 区では一部整地層が認められ、南側に傾斜して徐々に低くなる地形を平坦にしているようである。ただし、TR11 の調査結果と合わせ見ても、凹地郭の南側に段掘りは確認できず、北・東・西側を段掘りし、南側はそのまま開いていたと考えられる。出土遺物は、南側整地層内から常滑系甕片（第 58 図 96）や瀬戸美濃系壷片（第 57 図 92）等があり、後者は 15 世紀前半から中葉と考えられる。

TR11（トレンチ 11）（第 43 図）

段切腰郭２　2H・2I － 6 ～ 8 区のトレンチ南半部で検出されている。地山の黒褐色スコリア質土をややなだらかに段切り、第 17・18・45 ～ 52 層が下部堆積土層で、上部層も含めてロームブロックを含む盛土層である。また、第 94 層以下には大きな段差を持つが、全体が盛土・整地されていることを考えると、凹地郭南側前面の平坦地造成地業の一端を示すようで、本来の段切腰郭はより南側に存在する可能性もある。

盛土層内からは、弥生時代堂山期条痕文系土器片、縄文時代後期土器片などの遺物が少量出土している。

TR12（A143NT）（第 40 図・図版 6）

空堀２　2F・2G － 15 ～ 17 区のトレンチで空堀２の南北両肩部を検出している。空堀確認面の堀幅約 13 m、南側肩部と北側肩部の高低差は約４ mである。堀内堆積土上部には最大厚約 1.3 mの宝永火山灰天地返し層が認められるが、北側堀外では宝永火山灰はすべて除去もしくは削平され、第 10 ～ 20 層は整地・盛土層、第 23 ～ 38 層は地山スコリア質土層に大別できる。空堀北側法面は、第８・９層の上端部は別にしても第 32 層の堆積下面に僅かな段掘りの痕跡を残し、上部は約 45 度、下部はやや傾斜を強めて約 50

度の角度で掘り込み、南側法面上部は約 50 度を計る。なお、大庭郭北側縁辺にあたる空堀南側堀外は表土直下が地山層であり、上部がかなり削平されている。

TR13（A155NT）（第 41 図・図版 6）

空堀２　2E － 15・16 区、空堀２の南側肩部を検出している。南側法面の掘り込みは約 35 ～ 40 度の角度で、堀内堆積土上部には第７層とした宝永火山灰自然堆積層が薄層として残っている。

TR14（AN17T）（第 39 図・図版 6）

空堀２　2E － 15 区で TR13 に接して直角方向に設定した幅２m、長さ５mのトレンチで、空堀２の南側肩部とその法面を確認している。この地点は TR15 や TR34 等で検出した空堀３との接合部にあたり、現況では土橋等を確認していない。大庭郭の東側から北側を廻る空堀２はここで北西方向に大きく屈曲して、多地屋敷郭を横断する空堀３に連なると考えられる。出土遺物はない。

TR15（A170NT）（第 34 ～ 37 図・図版 5）

空堀３　2D － 15 ～ 17 区で確認された。堀幅約 17 m、南側堀肩部からの最大深度約５m、堀底幅約３mの規模で、堀内堆積土上部全体には顕著な宝永火山灰天地返し遺構が広がる。堀内法面には３～４回の掘り直しの痕跡があり、第 130・135 層等では明確な硬化面を形成する。これらは TR03 の空堀２でも確認しており、各々対応していよう。また、南側法面で大きいオーバーハングがあり、法面崩壊あるいは人為的掘削に因ると思われるが、第 48 ～ 50 層の堆積法面から第 123 層堆積法面につながるのであろう。この点から、南側法面の掘り込み角度は 50 ～ 60 度、空堀２の大庭郭側法面の掘り込み角度にほぼ一致してくる。ただし、北側法面はトレンチが空堀に対して斜行して設定されたため、掘り込み角度は正確ではないが、少なくとも南側法面よりかなりなだらかである。層序全体の傾向は、第 40 層前後を境に下部層群は人為的な埋没土壌であり、南側から土砂を多量に流入させている。地山はその多くを黄茶褐色ローム層としているが、堀底の一部には灰白色粘土層の地山も露頭している。中世期の所産を裏付けるような遺物は出土していない。

空堀５　TR03 との直交地点の南側で空堀２を検出しているが、詳細は TR03 のとおりである。

道路状遺構　TR15 南端の幅４～５mほどの範囲に顕著な整地・硬化層が確認されている。表土下約 70 ～ 80cm の浅い地点であり、宝永火山灰の天地返しにより撹乱されるが、焼土・炭化物・灰白色粘土を多く含み、少量の炭化米を検出した。遺構名は単に硬化層の確認のみで、性格は明らかではない。伴出遺物はない。

TR16（A170ST）（第 38 図）

段切腰郭３　2B － 9 ～ 11 区のトレンチで、大庭郭南端の平坦部には宝永火山灰天地返し遺構が続き、天地返し下部には大形河原石を投棄してあるところもあった。第７～24 層は地すべり逆転層が複雑に連なっているが、基本的には地山層であり、段切腰郭内堆積土層は第 25 層以下になろう。上部には宝永火山灰自然堆積層が約 10 ～ 30cm の厚さで残り、掘り込み面からの深度は約４m、幅は約６m、底面幅約３mまで検出しているが、南側の状況は確認していない。現況からは、南側が堀状に立ち上がることはないと思われる。

本来の底面とともに、第 74 層上面に明らかな段掘りがある。また、第 62 ～ 66 層上面でも段切り状の平坦面が層序的に認められ、２～３回の掘り替え・整地地業が実施されている。腰郭北側法面の堀込み角度は、上部へ緩やかになりつつあるが、下部の平均値は約 60 度とかなり急である。

TR17（E トレンチ）（第 30 図・図版 4）

段切腰郭４　Ｙ－ 18 ～ 20 区に位置し、段切肩部から腰郭底面確認地点までの幅約 14 m、底面幅約６m、肩部からの深度は約８mである。底面から約２mの高さとなる法面に明瞭な稜が認められ、下部の掘り込み角度は約 65 度、上部は約 40 度である。腰郭内の堆積土層は、第 123 ～ 145 層が地山ロームブロックを多量に含む人為的埋没土で、特に第 123・124 層は硬化層と準硬化層である。この硬化層と人為的埋没土の接点にあたる法面裾部の第126層には大形河原石が溜っている。この段切腰郭は当初の段切が廃棄された後、第 147・148 層まで埋没した時点で一部を人為的に埋め戻して再構築していることがわかる。この際、腰郭底面幅は縮小され、確認した範囲では約３m、肩部からの深度は約５mである。なお、第 107 層は宝永火山灰の自然堆積層である。この段切腰郭４は、西側は竪堀１に続き、東側は多地屋敷郭の北側を廻り、その途中で空堀３に合流しているような状況が現地形から推測できる。

段切腰郭法面の人為的埋没土内より常滑系甕の破片（第 54 図 44）が出土している。

道路状遺構　段切腰郭４から空堀７の北側肩部間の第 80 ～ 100 層の大部分は整地層であり、上部には宝永火山灰の天地返し遺構がある。道路状遺構は、空堀７がわずかに凹む程度まで埋没した後に、空堀７の北側肩部に幅約２mで構築される。路面は非常に固く硬化し、上部の整地層からはかわらけの小片が 10 数点出土している。なお、道路面は地山が残る空堀７の南側肩部確認面より約 60cm 低く、北側整地層もこれより高くなっているため凹地の可能性がある。

空堀７　北側肩部は道路状遺構と複合しているため未発掘で、推定堀幅約６m、深さ約４m、堀底の幅約１mで薬研掘りに近い形状である。堀内堆積土には、第 29 ～ 40 層が灰白色粘土を混入した客土・整地層、下部は自然流入堆積に近いスコリア質土層、第 69 層を上下の分離層として二大別することができる。また、法面の小さな段差等から２～３回の掘り替え地業も考えられ、空堀の時期、埋没後の道路状遺構の時期、道路状遺構と客土・整地した平坦な郭の時期の大きく３回の変遷をたどることができる。また、東側法面の掘り込み角度は、下半部が約 60 度、上半部は約 50 度で、空堀６との重複関係は空堀７が古い。

なお、TR35 の空堀４との関係が注目されるが、空堀４は TR35 で途切れ、同時に存在したとすれば、空堀７との間に土橋が架けられていたことになろう。堀底から瀬戸美濃系四耳壷片（第 54 図 46）が出土しており、TR03 の整地層に伴う配石列や TR35 の空堀４からも同一個体片（第 55 図 66）が認められ、これらの遺構の相関関係が注目される。

空堀６　Ｘ・Ｙ－ 16 区に検出し、堀内堆積土層の切り合い関係から空堀７よりも空堀６が新しい。堀内には層厚約１mの宝永自然堆積層が認められ、空堀がある程度埋没した後に野面積みで石垣を組んだ点は、TR03 の空堀６と同様である。空堀北側法面は約 50 度で掘り込まれ、空堀６は竪堀１と組み合って大庭郭と近藤郭間を折り廻され、尾根を南北に分断している。TR17 の空堀６は、ちょうどクランク部に相当する。

TR18（AN10T）（第 29 図・図版 4）、出土遺物なし。

竪堀１　Ｕ～Ｗ－ 16 ～ 17 区に設定しトレンチの西半部から検出した。空堀７との新旧関係は竪堀１が新しく、竪堀東側肩から上端部法面は約 20 度と非常に緩やかであるが、確認面から深さ約１mに明確な稜をもって下部は約 50 度の角度で掘り込まれている。竪堀内ではやや不規則だが、大規模な宝永火山灰の天地返しを行ない、10 m南側の TR03 の竪堀１では宝永火山灰自然堆積層が確認できていることと好対照である。

空堀７　堀内堆積土層の東上半部を空堀６と複合して切削されている。堀幅や深度は推定できないが、堀底幅約１ｍで、東側法面の立ち上がり角度は約 40 度、同じく西側法面は約 50 度である。自然堆積に近い土層群で、出土遺物は検出されていない。空堀７は、TR03 から本トレンチに連続し、ここから直角に東へ屈曲し TR17 へ延伸すると思われる。

空堀６　堀内堆積土層最上部に宝永火山灰天地返し層、直下層に同自然堆積層が認められるのは、大きな凹地に宝永火山灰降灰後に、凹地として残っていた低地部に周辺の宝永火山灰を埋め込んだ結果と考えられる。竪堀１と空堀６・７が隣接するが、空堀７が最初に構築され、埋没後に空堀６や竪堀１に掘削されている。空堀６と竪堀１は直接的な複合関係はないが、宝永火山灰の堆積状況から同時存在と思われる。

TR19（AN7T）

空堀６　TR03 と TR18 の間で空堀６と空堀７の複合部の調査を実施したが、発掘調査中に土砂崩壊したため充分な記録を取ることができなかった。しかし、空堀６の堀底まで現地表面から約６ｍあること、堀形態としては畝堀となり、確認できた畝の高さは約２ｍある。

TR20（第 28 図・図版 4）、出土遺物なし。

竪堀１　Ｕ－ 15 区に位置し、TR03 から直角に南へ長さ 10 ｍのトレンチで、竪堀１の谷頭肩部を確認した。肩部確認面から深さ約 1.5 ｍの稜部まで約 30 度で掘り込み、稜部下は約 50 度と急な傾斜である。堀内上部の第５層が宝永火山灰自然堆積層で、法面地山は上部から黒褐色粘質土層、灰白色粘土層、さらに暗褐色ロームブロック層へと変化する。堀外南側約３ｍの平坦地点に長径 80cm ほどの円形土坑を確認している。

TR25（第 15 図・図版 3）

ピット群・土坑　Ｍ－ 18・19 区にあり、TR26 との延長線上で、TR05 と直交する。2003（平成 15）年度の調査では幅２ｍ、長さ８ｍの範囲を調査した。ピット群は、TR05 との交点側に集中して５個あり、方形を基調として一辺 20cm から 45cm まで様々であったが、掘立柱建物遺構としては把握できない。土坑はトレンチ西壁側にあり、河原石３～４個を伴う。トレンチ北側は徐々に傾斜して下がるが、特筆すべき段差は認められない。遺構確認面は地表下約 20cm と非常に浅く、耕作あるいは抜根による撹乱があった。

TR26（第 16 図・図版 3）

ピット群・土坑　TR25 の延長上、TR05 の南側に幅２ｍ、長さ５ｍを調査した。遺構確認面までは 15 ～ 20cm と浅く、宝永火山灰天地返し遺構や耕作・抜根等の撹乱が多く、東西方向の地割れが何条もある。TR05 との交点側に５～６個の方形ピットを検出し、小礫群を坑内堆積土に含む長径２ｍあまりの大形土坑も存在したが、数条の地割れに宝永火山灰が流れ込んでいるため通常の遺構として把握することは困難である。

TR32（B トレンチ群）（第 50 図）

馬違戸と呼称される浅間山の西側山裾にある郭状平坦地に設定した。西端は河村城跡の東端を区切る堀切１の東側肩部にかかる。２Ｓ～２Ｘ－ 14 ～ 17 区にあり、中世期の地山面と考えられる黄褐色スコリア質土から黒褐色スコリア質土まで調査したが、宝永火山灰天地返し遺構や耕作による撹乱が所々にあるのみで、河村城跡関連の遺構・遺物は検出されていない。表土層から凝灰岩製の大形剥片と剥片各１点を採取した。

また、本トレンチ東端の幅２ｍ、長さ４ｍのグリッドでローム層までの試掘調査を行なったが、地割れや地層のすべりが多く安定した土層とは異なる。地表面からローム層まで深度は約 1.5 ｍを計る。

TR33（B トレンチ群）（第 51 図）

TR32 に直交し、2U ～ 2V － 15 ～ 17 区に位置している。現地形に沿い、北に向かって緩傾斜して下る地山層を確認したにとどまる。

TR34（C トレンチ）（第 32・33 図・図版 5）

空堀４　2A・2B － 16・17 区で検出されている。堀幅は確認可能な掘り込み両肩部から約 11 m、南側肩部からの深さが約 3.5 m、堀底幅約 1.5 mとなり、堀底は東西方向から南へほぼ直角に折れ曲がるようである。堀の法面は、上部は非常になだらかな緩い傾斜で、下部法面は約 60 度に近い急角度である。堀内堆積土層は、上部に宝永火山灰天地返し遺構が整然かつほぼ水平に並び、下層の第 48 層までは人為的な埋没土層群である。中でも第 39・40 層は南側からの埋没作業の過程で焼土を多く含む炭化物層である。第 49 層以下は自然堆積層と思われるが、第 73 層を境界に掘り直している。掘り直し後の堀底は約３mと倍に幅を拡げている。この掘り直しは、TR35 の空堀 4 と同様な在り方を示している。出土遺物は、青磁碗（第 55 図 58）や常滑系大甕の破片（第 55 図 56・57）等がある。

ピット群　空堀 4 の北側で、空堀３との間に、黄褐色スコリア質土層を掘り込んで構築され、遺構内には黒褐色スコリア質土が堆積している。ピット群確認面上層は空堀 4 の上部層までつながる客土・整地層であり、基本的には空堀 4 と同時期または相前後した時期と考える。

空堀３　空堀内には、埋没過程で凹地に堆積した宝永火山灰天地返し遺構が確認されており、その状況はこれに連続する空堀２の在り方とよく類似する。堀幅は、両肩部とも撹乱や宝永火山灰天地返し遺構によって破壊されているが、推定で約 11 m前後と思われ、両法面とも約 40 度あまりの角度で掘り込み、未調査の下部法面はより急傾斜となろう。出土遺物は､堆積土層上層出土かわらけ（第 55 図 55）１点のみである。

土坑　空堀３の北側で、灰白色粘土を覆土とする土坑状遺構を１基確認した。性格は不明である。本トレンチ北半部では、現地形に対応した段差がそのまま認められ、城郭遺構とは判断できない。北端で段切腰郭遺構等の存在を想定したが、空堀３を境に主要な城域からはずれることも考えられる。表土層から、染付陶磁器（第 53 図 23）等の小片が数点出土している。

TR35（D トレンチ）（第 31 図・図版 5）

空堀４　Z ～ 2A － 16 ～ 17 区にあり、空堀 4 は本トレンチ内で途切れることが判明している。堀幅等の具体的数値は、トレンチが堀に対して斜行しているため正確ではない。一応、堀幅約８m、堀底深度約３m、堀底幅は南西隅のごく一部を確認できただけで計測はできなかった。堀内堆積土は、上部にほぼ水平方向の宝永火山灰天地返し遺構が連続し、第 10 層は灰茶褐色ローム客土層であるが、トレンチ北西半にある第 40 層以下の整地層と同類になる。つまり、空堀 4 の上部も含め、大規模な整地が行なわれているのは TR34 と全く同じで、第 11 ～ 39 層は空堀 4 の実質的な堆積土となる。

また、TR34 の空堀 4 に同じく、当初の堀内堆積土は第 37 ～ 39 層で、第 11 ～ 36 層は掘り直し後に自然流入を基本として堆積した土層群である。法面角度は、断面図作成ラインの関係で全体に緩やかなように見えるが、概ね約 50 度前後とされよう。なかでも特徴的なことは、南西隅法面には幅約 20cm ほどの溝状遺構が堀底に向かって垂下していたことで、この類例は空堀 1 の記述と一致する。構築技術の共通性からすれば、空堀 1 と空堀 4 はかなりの関連性を有している。

出土遺物は、堀外の整地層内と堀底やや上部より瀬戸美濃系四耳壷片が、同じく堀底やや上部にほぼ完形

のかわらけ、堀内中層より常滑系甕片や泥釉壷片等、他に整地層内からかわらけ 10 数点を認めた。

土坑　トレンチ北西隅に、小礫群を伴う割合大形の土坑状落ち込みを確認している。第 40 ～ 56 層とした堀外の整地層上部になり、第 46 層が遺構内堆積土層である。一部火を受けた小礫もあるが、調査範囲が限定されており、その性格は明確にできない。TR17 の段切腰郭の肩部に隣接する位置であり、なんらかの関連施設の可能性もある。伴出遺物は認められなかった。

TR36（トレンチ 36）（第 23 図）

堀切２　15 ～ 16 －Ｐ区にあり、蔵郭東側斜面に橋脚遺構状のテラスがわずかに確認できたため、対岸の近藤郭西側斜面の TR37 とともに同一ライン上で調査を実施した。その結果的、橋脚遺構の痕跡すら認められなかった。これは、現状の堀肩幅で約 30 mの河村城跡最大の堀切とされているが、実際は宝永期に畑地としていた低地部に降りそそいだ宝永火山灰を完全に埋め込んで畑地に復旧しようと、両側法面を切削して拡げたためで、法面そのものは旧状をほとんどとどめていないものであった。

法面は両側とも平均２～３ｍあまり削られており、実質の堀幅は上端部推定約 25 m、現状堀底地表面での堀幅は約 20 mである。堀内には、層厚１m以上になる宝永火山灰自然堆積層が確認されている。また、堀切法面は平均 40 ～ 50 度で掘り込まれており、平成２年の範囲確認調査では現状堀底地表面より深度約６ｍで堀底になることが知られている。

TR37（トレンチ 37）（第 24 図）

堀切２　TR36 の直線上、近藤郭西側法面にあったテラス状遺構に設定したトレンチで、宝永火山灰を埋め込むために法面が切削されていた。現状法面がかなり削られ、当初の形態をとどめていない。しかし、宝永火山灰の自然堆積層下部はプライマリーな遺存状態にあり、調査した法面は約 50 度で掘り込まれ、蔵郭側の約 40 度に比べてやや急角度で落ち込んでいる。

なお、現状法面中段にあったテラス状遺構は中世期のものではなかったが、蔵郭南側斜面には腰郭様の平場がこのテラス状遺構とほぼ同レベルで廻らされており、今後橋脚遺構等の確認には重要な要素となろう。

TR38（トイレ設定トレンチ）（第５図・図版 1）

河村城跡の整備に関連して、本城郭東側斜面下にトイレの設置が計画されたため、建設地点に試掘トレンチを設定・調査したものである。TR38 は、22 －Ｇ～Ｈ区にあたり、幅２m、長さ 12 mとなるが、平均斜度が約 30 ～ 40 度という急斜面のため、中世期の城郭遺構や遺物は検出されていない。地山となる足柄礫層の上部に宝永火山灰自然堆積層が確認されている。しかし、トレンチ東側下端部はやや傾斜を弱めて腰郭状の在り方も示しており、ここに宝永火山灰が厚く自然堆積していることからも、さらに斜面下部の開発にあたっては注意も必要であろう。

堀切３（HK3）（第８・９図・図版 1・2）

平成 16 年度に堀切３の面的調査を実施している。18 ～ 20 －Ｈ～Ｊ区になり、南・北辺約 21.5 m、東辺約 14 m、西辺約 17 mの不整四辺形の範囲である。

堀切は大局で見れば、堀幅約 20 m、深度約８m、堀底幅約 30cm といわゆる薬研掘りの形態をなすものであるが、堀底は別とした堀内堆積土層には都合４枚の硬化面が認められている。しかし、堀底と下部にある３枚の硬化面は、徐々に埋没して堀底が浅くなりつつも、堀そのものの形状を大きく変えることはなかったようであるが、最上層の硬化面では蔵郭側の２段切面や橋脚遺構を含めて極端な様変わりを示すこととな

る。最初の薬研掘りでは、堀底に約 50cm の高低差をもって北側に低くなる段差があり、南側へは堀底幅を広げている特徴がある。この広がりは南端では幅 4.5 mまでなり、あまりにも大きな相違になっている。しかし、堀底自体は本城郭の法面裾部を廻って、本城郭南側の腰郭につながっていくようであり、薬研掘りの時期とは異なって、硬化面で示されるように堀道として利用されていた時代の名残かもしれない。

第２～４硬化面の利用時期は、それぞれ薬研底部が徐々に埋没して浅くなりつつも、堀内通路が考えられる。但、第２・３硬化面の段階で大形河原石が投棄され、周辺で何らかの城郭破壊行為があったようである。

堀切３における各遺構群を記述するにあたって、第１硬化面と橋脚遺構が最も大きな成果であり、時代的にも 16 世紀後半の小田原北条氏に密接に係わったものとして注目すべきである。第１硬化面は、蔵郭側の段切面１・２と同レベルにあり、橋脚遺構の掘り方プランもすべて同一面で確認されている。このことは、堀切３が、半分以上の堀底から約４ｍまで埋没している段階で、蔵郭側の段切面も加えた堀幅約 13.2 m、硬化面幅約 10 m、深度約３ｍの堀切通路の上に橋脚も架けたことになる。なお、薬研掘りの段階での堀切法面の掘り込み角度は、最下部で両側とも約 60 度を示すが、中段部では本城郭側が約 50 度、蔵郭側は約 40 度と後者がやや緩やかになっているのに対して、第１硬化面における推定法面角度は本城郭側が約 40 度、蔵郭側は段切を行なったこともあって約 70 度という急な傾斜を示している。

橋脚遺構は、橋脚１・２が蔵郭側の段切面１・２にそれぞれ掘削され、段切１・２間は段切せずに掘り残している。橋脚３・４は本城郭側になるが、段切のような施設は構築されず、堀切法面地山や第１硬化面下部堆積層に直接穿たれている。橋脚遺構の掘り方は基本的に方形プランを基調としていたようで、一辺約 1.3 ～ 1.8 m、深度約２ｍほどまで掘り込んでから橋脚を立て、版築状にかなり固めてはいるが、根固め用の河原石等は使用していない。なお、橋脚１・２・４では橋脚柱痕の粉末状炭化物が、橋脚３では直径約 20cm の柱痕断面を深さ約 1.5 mまで検出している。また、各橋脚間の計測値は、多少の差異はあるが概ね柱間約８ｍ、幅約４ｍである。

この他、本城郭肩部周辺に P1 ～ P5 や河原石数点を認めたが、橋脚遺構の一部として把握できるまでには至っていない。また、第１硬化面や段切面１にあった焼土・炭化物を覆土とする P9 ～ P13 をはじめ、大庭郭法面の P6 ～ P8、段切面２の P14･P15、蔵郭肩部にあった P16 等についてもそれぞれに規則性がなく、それらの性格について具体的に述べることはできない。

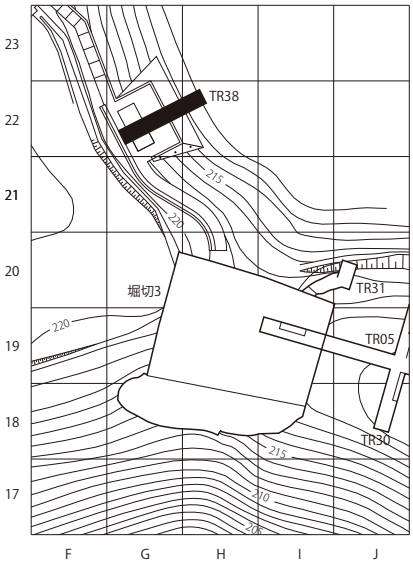
３．出土遺物

本報告の出土遺物は総数 223 点、土器 169 点、石器 17 点、鉄器７点、獣骨１点、土壁６点、炭化材 23 点、採取土壌 100 袋である。年度別では、2003（平成 15）年度が土器 88 点、石器 11 点、炭化物 11 点、2004（平成 16）年度が土器 72 点、石器６点、獣骨１点、炭化物９点、2005（平成 17）年度が土器９点、鉄器７点、炭化物３点、土壁状土塊６点である。土器類の時代別構成は、中世陶磁器･かわらけが 2/3（111 点）を占め、二次堆積土中から弥生時代堂山式土器が 27％（45 点）、縄文土器（８点）や近世（３点）･近代陶磁器類（２点）がわずかに検出されている。

一覧表作成に際し、註記末尾の 01・・0n は同番号の複数個体、遺構・旧トレンチ、層位は遺物取り上げラベルの記載に基づく。本報告で設定したグリッドは旧トレンチの位置から割り振り、この過程で縄張りの位置とした。遺物の時期・型式等は河村城整備検討委員会委員をはじめとする各研究者の助言・観察に基づき判断し、各個体の法量（cm・g）、色調・胎土・付着物・被熱等を記載した。

相州河村秀高古城跡絵図（18 世紀初頭前後）

新編相模国風土記稿城郭と周辺図



TR38

1	表土耕作土	
2	暗青色砂質土	地山足柄礫層の漸移層、砂粒・小礫多く含む
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ロームブロック多い、軟らかい、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰自然堆積層	
5	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、暗青色砂粒を混入、全体にザラついている
6	明褐色粘質土	スコリア粒子細かく、粘性非常に強い、ローム漸移層に近い
7	暗青色砂層	小砂粒層に暗茶褐色土が若干混入、粘性なし
8	明茶褐色粘質土	スコリア粒子細かく、粘性あり、黄白色粘土混入
9	茶褐色粘質土	スコリア粒子細かく、粘性強い
10	暗茶褐色粘質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ある、ややザラついている

TR38（トイレ設置トレ）

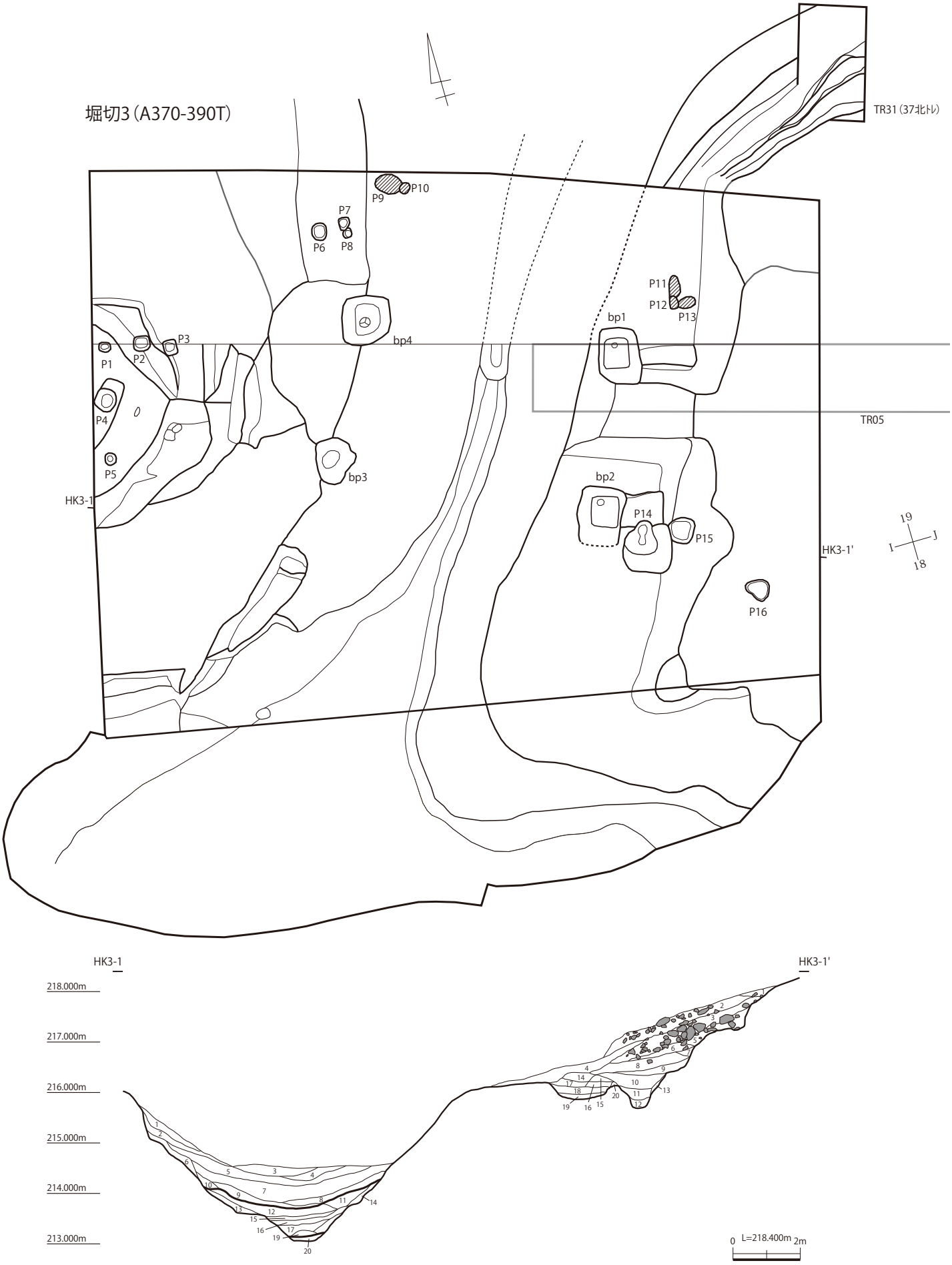
第５図　本城郭　TR38［1/100］

堀切３

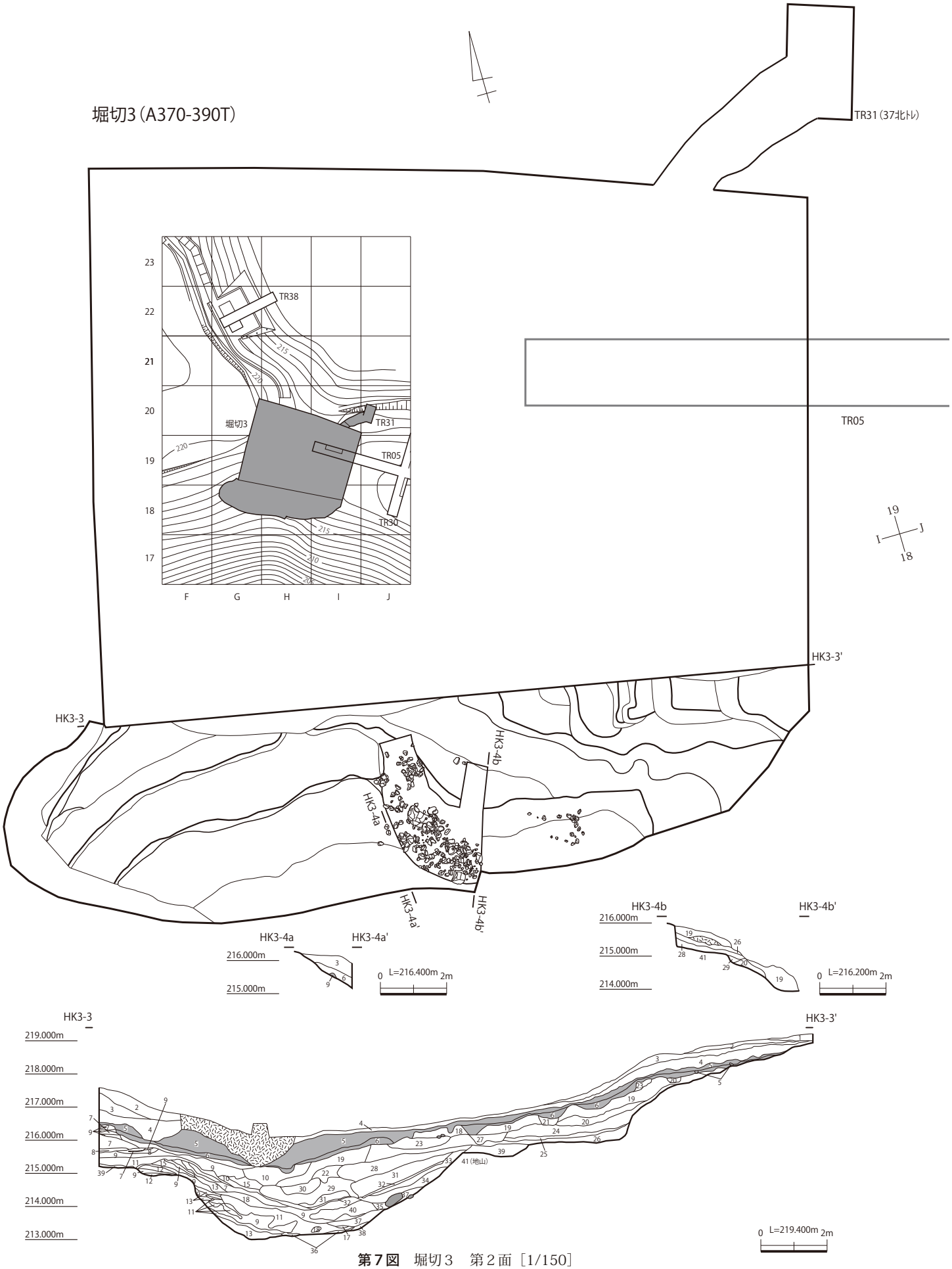
1	盛土		
2	表土		
3	暗褐色土	(7.5YR1/3)	二次堆積土。径３～７ミリ大の黒色火山灰粒子を含む。表土の根の攪乱により締まり弱く、粘性は少ない。ボロボロした土。
4	暗褐色土	(7.5YR3/3)	二次堆積土。径５～ 10 ミリ大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリ大の橙色火山灰粒子を極僅かに含む。締まり粘性は３層より弱く、３層よりボロボロした土。
5	宝永の火山灰		５径１～２ミリの赤色粒子が” ６層” より多い。
6			径５～ 20 ミリの黒色火山灰粒子を非常に多く含む。径３～５ミリの赤色火山灰粒子を僅かに含む。
7	暗褐色土	(7.5YR4/4)	径５～ 10 ミリ大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子を多く含む。径２～３ミリ大の礫を極僅かに含む。締まりは強いが、粘性は弱い。
8	明褐色土	(7.5YR5/6)	７層より橙色火山灰粒子を非常に多く含む。白色粒子を極僅かに含む。締まり粘性は７層と同程度。
9	明褐灰土	(7.5YR5/6)	７層より橙色火山灰粒子を非常に多く含む。白色粒子を極僅かに含む。締まり粘性は７層と同程度。
10	明褐灰色	(7.5YR7/2)	９層より径３～５ミリの小礫を多く含む。締まりは強く、粘性は弱い。粘土粒が少なくなる。他は９層に準ずる。
11	褐色土	(7.5YR4/6)	径５～ 15 ミリ大の黒色火山灰粒子を多く含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子をやや多く含む。締まりは強いが、粘性はやや弱い。
12	褐色土	(7.5YR4/6)	11 層を主体とするが、e 層より径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子が少なくなる。締まりは強いが、粘性はやや弱い。
13	褐色土	(7.5YR4/6)	11 層を主体とする。その他は準ずるが、径 10 ～ 30 ミリ大の９層のブロックをやや多く含む。締まり、粘性は弱く、ボロボロした層である。
14	にぶい褐色土	(7.5YR3/4)	径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリ大の橙色火山灰粒子を多く含む。締まりはやや強いが、粘性は弱い。
15	褐色土	(7.5YR4/3)	径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子を多く含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子をやや多く含む。山砂微粒子を極僅かに含む。締まりはやや強いが、粘性は弱い。
16	明褐色土	(7.5YR5/6)	径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子を多く含む。径 10 ～ 20 ミリ大の礫を僅かに含む。締まり粘性は弱い。
17	褐色土	(7.5YR4/6)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子やや多く含む。径３～５ミリの橙色火山灰粒子を多く含む。径 10 ～ 30 ミリの礫を僅かに含む。径５～ 10 ミリのロームブロックを僅かに含む。径３～５ミリの赤色火山灰粒子を極僅かに含む。粘土微粒子を僅かに含む。締まり、粘性がない。（ボロボロした層）
18	黒褐色土	(7.5YR3/2)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を多く含む。径１～３ミリの橙色粒子を僅かに含む。粘土微粒子を僅かに含む。締まり強いが、粘性がない。
19	褐色土	(7.5YR4/4)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子を僅かに含む。径５～ 10 ミリの礫を僅かに含む。径２～３ミリの大の炭化物を極僅かに含む。締まり、粘性はやや強い。７層に非常に類似している。
20	褐色土	(7.5YR4/4)	７層を主体として、径５～ 10 ミリの大の褐色砂岩質地山ブロックを僅かに含む。締まりは k と同程度あり、粘性は 19 層より弱い。
21	褐色土	(7.5YR4/4)	宝永以前の根切溝。19 層を主体として、19 層より締まり、粘性は劣る。
22	褐色土	(7.5YR4/4)	19 層を主体としているが、径 10 ～ 30 ミリの白色パミスをやや多く含む。締まりは強いが、粘性は弱い。
23	褐色土	(7.5YR4/3)	径１～３ミリの大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径３～ 10 ミリの礫を極僅かに含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子を極僅かに含む。締まり、粘性はやや弱い。
24	暗褐色土	(7.5YR3/4)	径３～ 10 ミリの大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子を僅かに含む。径１～２ミリの大の炭化物粒子をやや多く含む。径 30 ～ 50 ミリの大の褐色砂岩質ブロックをやや多く含む。締まり、粘性は弱い。
25	暗褐色土	(7.5YR3/4)	24 層を主体にするが、砂岩質ブロックを含まない。締まりは、粘性は 24 層より劣る。（パサパサした層）
26	暗褐色土	(7.5YR3/4)	24 層より砂岩質ブロックを非常に多く含む。締まりは 24 層より強く、粘性は弱い。
27	暗褐色土	(7.5YR3/4)	24 層を主体とするが、締まり、粘性が弱い。根の攪乱か？
28	灰褐色土	(7.5YR6/2)	地山２を主体にした層であり、26 層をブロック状にやや多く含む。
29	灰褐色土	(7.5YR6/2)	28 層を主体とするが” 26 層の含有が 28 層より多くなる。締まり強いが、粘性はない。
30	にぶい褐色土	(7.5YR5/3)	28 層を主体として 26 層の含有が 29 層よりさらに多くなった層。締まり強いが、粘性は弱い。
31	褐色土	(7.5YR4/4)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径 10 ～ 20 ミリの礫をやや多く含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子を僅かに含む。径 10 ～ 30 ミリ大の褐色砂岩質ブロックを僅かに含む。締まり強く、粘性はやや強い。
32	褐色土	(7.5YR4/6)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を多く含む。褐灰色の粘土粒子を多く含む。黒色火山灰粒子に鉄分の付着が見られる為、一時期堀り底を形成していたと思われる。締まり、粘性は強い。
33	にぶい褐色土	(7.5YR5/3)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～２ミリの橙色粒子を極僅かに含む。径５～ 10 ミリの礫を極僅かに含む。山砂粒子をやや多く含む。締まり、粘性は弱い。
34	にぶい褐色土	(7.5YR5/3)	35 層を主体としている。径 30 ～ 50 ミリの礫をやや多く含む。径 10 ～ 30 ミリの白色パミスを極僅かに含む。締まり強く、粘性は弱い。
35	褐色土	(7.5YR4/3)	径５～ 10 ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径５～ 30 ミリの白色パミスをやや多く含む。締まり強く、粘性は弱い。
36	灰褐色土	(7.5YR6/2)	砂と褐色土（4/4）がマーブル状に（互層）堆積している。締まり強いが、粘性は弱い。水の流れた痕跡を示す層。径 10 センチ大の礫が１個体見られる。径 10 ミリ大の白色パミスが極僅かに含まれる。
37	灰褐色土	(7.5YR6/2)	36 層の褐色土はなく、マーブル状を呈していない。
38	明褐色土	(7.5YR5/6)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～２ミリの橙色火山灰粒子を極僅かに含む。締まり弱く、粘性はやや強い。
39	明褐灰土	(7.5YR7/2)	地山１。径５～ 30 ミリの白色パミスを主体とする層。ガリガリとして締まり強く、粘性はない。
40	39 層の二次堆積		
41	にぶい褐色土	(7.5YR5/4)	褐色砂岩質ブロックの層は締まり強いが、粘性はない。

TR21 ～ 31

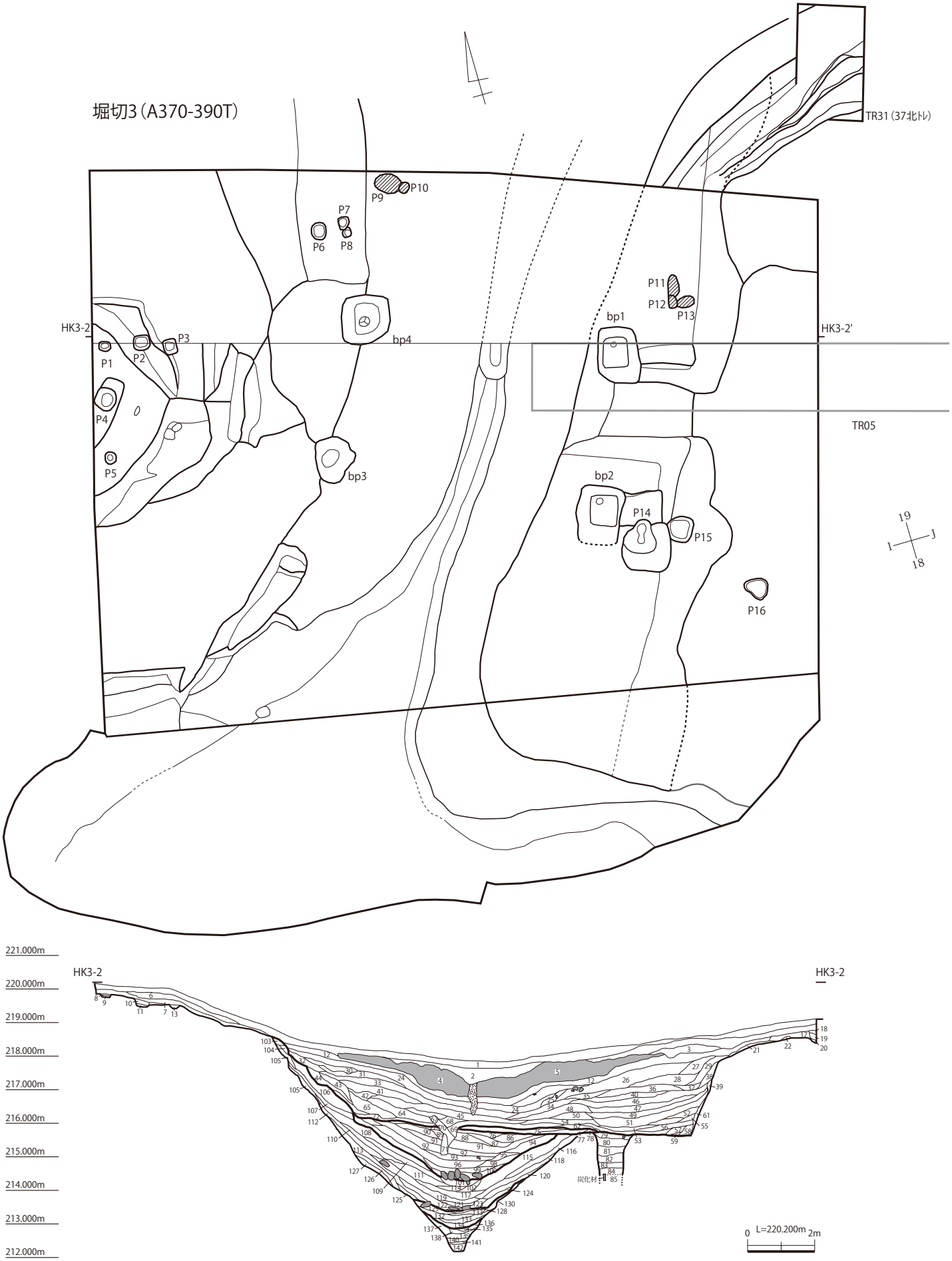
1	盛土		
2	表土		
3	褐色土	(7.5YR4/4)	ロームより全体的に暗い。径５～ 10 ミリの黒色火山灰粒子を多く含む。径１～２ミリ大の黄色火山灰粒子を極僅かに含む。締まりはやや弱く、粘性はない。（ボロボロと崩れる）耕作土（下層）であり、宝永火山灰天地返しの上層にある土。〈平成 15 年度調査の第３層と同じ〉
4	褐色土	(7.5YR4/4)	３層主体とするがローム粒子が増えてくる。締まりは３層より強い。その他は３層に準ずる。
5	褐色土	(7.5YR4/4)	径５～ 10 ミリの黒色火山灰粒子を多く含む。３層より径１～２ミリの橙色火山灰粒子を多く含む。締まりは弱く、粘性はない。（ボロボロと崩れる）
6	暗褐色土	(7.5YR3/3)	耕作土（根切りによる溝の跡か？）。３層より全体的に暗くなる。径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子をやや多く含む。径３～５ミリ大の黄色火山灰粒子を僅かに含む。締まりは３層より弱くボソボソして粘性はない。
7	宝永火山灰層		
8	宝永火山灰あ		
9	宝永火山灰い		
10	宝永火山灰う		
10’	宝永の火山灰う’		径３～５ミリの宝永の火山灰を主体とし、１号竪穴状遺構上層覆土②と混在。径 10 ～ 20 ミリの焼けた粘土粒子をやや多く含む。締まり、粘性は弱い。（天地返し等で撹乱され住居覆土と混じり合った層か？）
11	褐色土	(7.5YR4/6)	径１～２ミリのローム粒子を非常に多く含む。径３～５ミリの黒色火山灰粒子を多く含む。締まりと粘性は弱く、パサパサした層。
12	暗褐色土	(7.5YR3/4)	径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子を多く含む。径１～２ミリの橙色火山灰粒子を微量に含む。径１～２ミリ大の白色パミスを少量含む。締まりと粘性は弱く、ザラザラしている。〈地山か？〉
13	暗褐色土	(7.5YR3/4)	12 層を主体として、径１～２ミリの橙色火山灰粒子を多く含む。径１～２ミリの白色パミスをやや多く含む。締まり、粘性は 12 層と同じ。
14	褐色土	(7.5YR4/3)	径１～３ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径３～５ミリの赤色火山灰粒子を多く含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子を僅かに含む。締まり強く、粘性はやや強い。〈地山か？〉
15	褐色土	(7.5YR4/4)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子をやや多く含む。径３～５ミリの赤色火山灰粒子を多く含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。締まり強く、粘性はやや弱い。（地山か？）
16	暗褐色土	(7.5YR3/4)	径１～３ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～２ミリの赤色火山灰粒子を僅かに含む。径１～２ミリの白色パミスを僅かに含む。締まり強く、粘性はやや弱い。
17	暗褐色土	(7.5YR3/4)	径１～３ミリの黒色火山灰粒子をやや多く含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子を非常に多く含む。径１～２ミリの赤色火山灰粒子を極僅かに含む。締まり強く、粘性はやや強い。
18	暗褐色土	(7.5YR3/4)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリの赤色火山灰粒子をやや多く含む。締まり、粘性は強い。
20	にぶい褐色土	(7.5YR5/4)	径１～３ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径３～５ミリの橙色火山灰粒子を非常に多く含む。径１～２ミリの赤色火山灰粒子をごく微量含む。締まりは非常に強く、粘性はやや強い。〈ロームに近い層か？〉
21	にぶい褐色土	(7.5YR5/3)	20 層を主体とし、20 層より暗褐色土が僅かに含まれる為、全体的に色調が黒くなる。〈根撹乱か？〉
22	明褐色土	(7.5YR5/6)	径３～５ミリの黒色火山灰粒子を非常に多く含む。赤褐色微粒子を非常に多く含む。当遺跡でもっとも色調の赤い層。締まり、粘性はなく、ボロボロした層。
23	明褐色土	(7.5YR5/6)	22 層を主体としている。径３～ 10 ミリの黒色火山灰粒子が 22 層よりも多くなる。全体的に色調が 22 層よりも黒くなる。
24	暗褐色土	(7.5YR3/3)	16 層を主体とし、22 層がブロック状に 20％程度混在している。締まり、粘性はやや強い。〈整地層〉
25	明褐色土	(7.5YR5/6)	３センチ～１５センチ程のロームブロックを主体として、粘土 30％・23 層 20％程が混在した土。締まり強く、粘性はやや強い。〈整地層〉
26	にぶい褐色土	(7.5YR6/3)	白色粘土層。径１～３ミリの黒色火山灰粒子を極僅かに含む。径１～３ミリの赤色火山灰粒子を極僅かに含む。径１ミリ前後の白色パミスを微量含む。締まり、粘性は強い。
27	粘土		
28	焼土		
29	ロームブロック		
30	地山ブロック		
31	ローム地山		



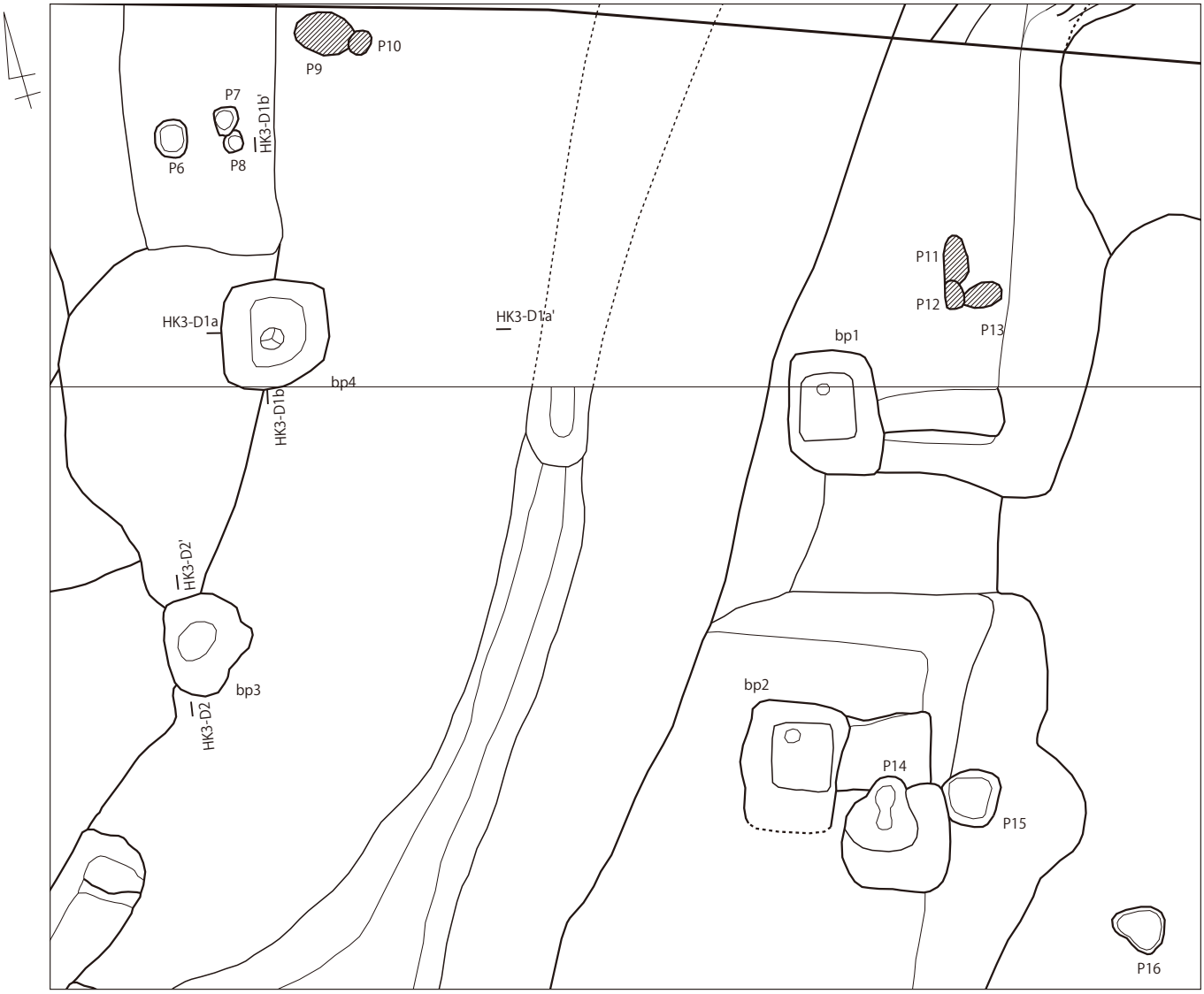
第６図　堀切３　第１面［1/150］

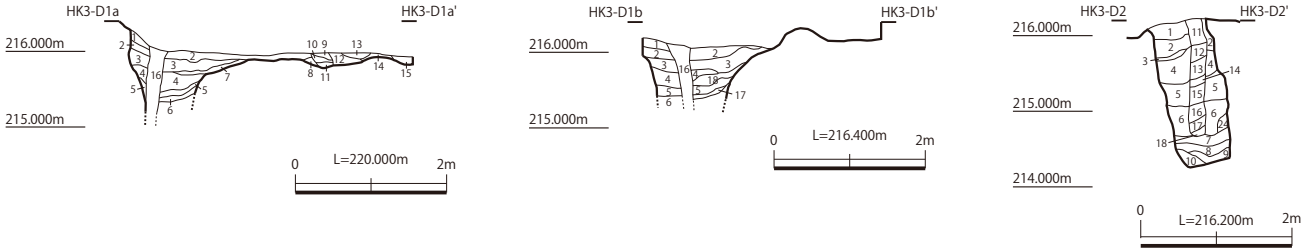


第７図　堀切３　第２面［1/150］



第８図　堀切３　第１面（想定）［1/150］





HK3 － D1

1	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は多少粗い、粘性ある、しまりある
2	茶褐色スコリア質土	黄白色粘土・暗青灰色砂礫層を若干含む、準硬化層
3	暗茶褐色スコリア質土	黄白色粘土・暗青灰色砂礫層を若干含む、粘性あり
4	明茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック少量含み、全体にしまっている
5	淡茶褐色スコリア質土	ロームブロック・青灰色砂礫を多く混入、粘性ある
6	茶褐色スコリア質土	ロームブロック・青灰色砂礫を多く混入、粘性ある
7	淡青灰色砂礫層	若干の茶褐色土を混入するが、砂礫層の純層に近い
8	茶褐色スコリア質土	黄白色・青灰色粘土を多く含み、よくしまっている
9	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、全体にザラザラしている
10	黒褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、ザラついて軟らかい
11	黄茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、ザラザラしていて、軟らかい
12	茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、粘性あるが、軟らかい
13	淡茶褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、粒子粗い、ザラザラする
14	淡茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く、粘性強い、準硬化層
15	茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く、固くしまった純硬化層
16	炭化柱痕断面	炭化物と茶褐色土の混合層
17	茶褐色スコリア質土	ロームブロック混入、粘性ある、全体にしまっている
18	明茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック少量含み、よくしまっている
19	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、灰白色粘土・ロームブロック・青灰色砂粒多い

HK3 － D2

1	淡明褐色スコリア質土	ロームブロック・粒子多い、割合固い
2	茶灰青色砂礫層	地山青灰色砂礫層に若干の茶褐色土混入、固くしまる
3	明褐色スコリア質土	青灰色砂礫・ロームブロックわずかに含む
4	茶青灰色砂礫層	茶褐色土の混入少なく、地山青灰色砂礫層の純層に近い
5	暗茶褐色スコリア質土	砂礫を多く混入、黄白色軽石や白色軽石を多く含む
6	暗褐色スコリア質土	茶青灰色砂礫との混合層、割合よくしまっている
7	淡茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロックを多く含み、多少軟らかい
8	茶青灰白色砂礫層	茶褐色土を若干混入し、粘性なく、全体に軟らかい
9	明茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロックを多量に含む、ボコボコする
10	暗茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロックをわずかに含む、全体に軟らかい
11	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、サラサラして軟らかい
12	茶褐色スコリア質土	ローム粒子やや多く、白色軽石混入、割合しまっている
13	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、ローム粒子多く含む
14	青灰色砂礫層	茶褐色土若干混入、ザラザラと軟らかい、粘性少ない
15	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、ローム粒子混入
16	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、全体にザラザラして軟らかい
17	暗青灰色スコリア質土	青灰色砂礫層と茶褐色土の混合層、軟らかい
18	茶褐色スコリア質土	青灰色砂礫層を若干含み、非常に軟らかい
19	茶褐色スコリア質土	ロームブロック多く含み、粘性少ない

第９図　堀切３内遺構図［1/60］

HK3 － 2（堀切３）

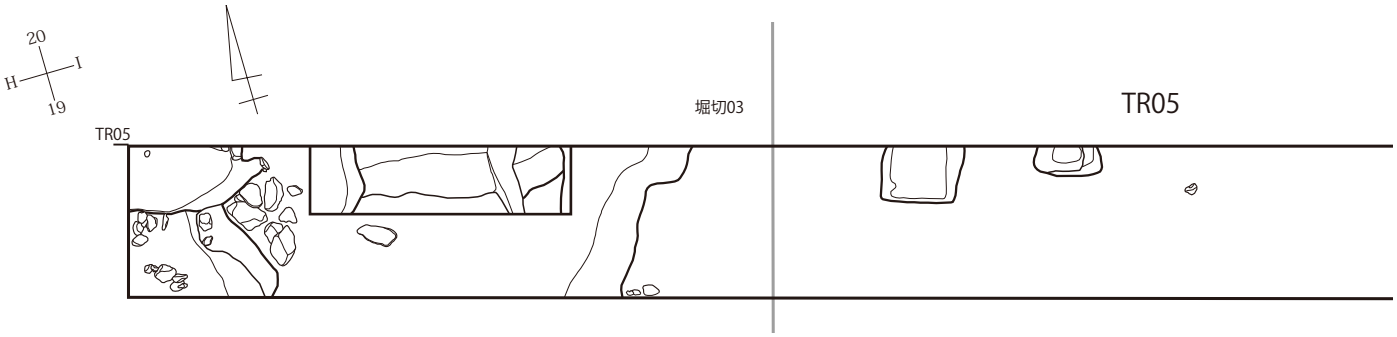
1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰自然堆積層	
5	宝永火山灰自然堆積層	
6	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、灰白色粘土・白色軽石を多く含む
7	茶褐色砂質土	灰白色粘土・白色軽石を多く含む
8	淡茶褐色砂質土	スコリア少なく、灰白色粘土多く含む、粘性強い
9	灰白色砂質粘土	地山灰白色砂質の漸移層を多量に混入
10	淡茶褐色砂質土	灰白色粘土・白色軽石・小礫を混入、粘性若干ある
11	灰白色砂質粘土	茶褐色土が混入、粘性少ない
12	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗いが、粘性ややあり、割合しまっている
13	淡茶褐色砂質土	灰白色粘土を多量に混入、小礫・軽石はほとんど含まない
14	明茶褐色スコリア質土	スコリアは割合粗いが、粘性わずかにある
15	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、粘性少ない、ややザラついている
16	暗褐色スコリア質土	スコリアは割合粗く、粘性少ない、ザラザラしている
17	茶褐色スコリア質土	青灰色砂質層と混合、灰白色粘土・軽石少量含む
18	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗いが、粘性あり、割合固い
19	暗褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、全体に軟らかい
20	暗赤褐色スコリア質土	スコリア粗く、粘性少ない、軟らかい
21	黄赤褐色スコリア質土	地山黄赤褐色スコリア質土層の漸移層、やや軟らかい
22	黄赤褐色スコリア質土	地山黄赤褐色スコリア質土層の漸移層
23	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合粗く、全体にややザラついている
24	暗褐色スコリア質土	スコリア割合粗く、粘性はややある、しまっている
25	暗黄茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合粗く、粘性あるも、ザラついている
26	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性弱い、廃棄礫群含む
27	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性若干あり、しまっている
28	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かいが、ややザラつく、割合固い
29	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性あり、割合固い
30	茶褐色スコリア質土	暗青灰色砂礫層・灰白色粘土を若干混入、しまりある
31	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、青灰色砂礫・灰白色粘土混入
32	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗褐色ロームブロック少量混入
33	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫・暗褐色ロームブロック混入
34	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラつくが、しまっている
35	暗茶褐色スコリア質土	砂礫混入、粒子やや細かいが、ザラついて軟らかい
36	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついて軟らかい
37	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性少ない、軟らかい
38	茶褐色スコリア質土	スコリア少なく、粘性ある、割合固い
39	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子少なく、暗褐色ロームブロック多い
40	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性あり、しまっている
41	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫・暗褐色ロームブロック混入
42	淡茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、粘性少ない、しまっている
43	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫・暗褐色ロームブロック混入
44	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫多く含む、割合固い
45	暗赤茶褐色スコリア質土	青灰色砂礫を多く含む、全体によくしまっている
46	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、灰白色粘土多く含む
47	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、灰白色粘土多く含む
48	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、灰白色粘土若干含む
49	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、灰白色粘土若干含む
50	暗褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、灰白色粘土若干含む
51	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、灰白色粘土・軽石混入
52	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土多く、ややザラついて、軟らかい
53	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土多く、ややザラついて、軟らかい
54	暗黒褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多量に含み、粘質性強い
55	淡茶褐色スコリア質土	灰白色粘土多く、ややザラついて、軟らかい
56	明茶褐色スコリア質土	灰白色粘土多く、ややザラついて、軟らかい
57	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗褐色ロームブロック少量混入
58	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、灰白色粘土わずかに含む
59	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子少なく、暗褐色ロームブロック多い
60	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、粘性ある、灰白色粘土若干混入
61	淡茶褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含む、粘性ある、しまっている
62	暗褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多く含み、粘性あり、割合固い
63	暗赤茶褐色スコリア質土	暗青灰色砂礫をわずかに含む、しまっている
64	暗赤褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、青灰色砂礫を多く含む
65	暗褐色スコリア質土	青灰色砂礫・黄白色軽石を多く含み、粘性あり
66	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性あり、しまっている
67	暗赤茶褐色スコリア質土	暗青灰色砂礫若干含む、準硬化ブロック層
68	暗赤茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性もある、割合固い
69	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、よくしまっている
70	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ロームブロック混入
71	淡茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫・暗褐色ロームブロック混入
72	黄青灰色砂礫土	黄白色軽石を含んだ準硬化層、全体に固くしまっている
73	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、版築状に数枚の硬化層が重なる
74	黒褐色スコリア質土	地山黒褐色スコリア質土のブロック層
75	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、数枚の硬化層が重なる
76	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗い、数枚の硬化層、砂礫含む
77	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、灰白色粘土含む硬化層
78	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、割合固くしまっている
79	明褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多量混入、固くしまっている
80	茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多量混入、固くしまっている
81	暗茶褐色スコリア質土	やや大形の暗褐色ロームブロック多く混入、固い
82	茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多量混入、固くしまっている
83	暗茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック多く含み、固くしまっている
84	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗褐色ロームブロック混入、粒子は細かい
85	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗褐色ロームブロック混入、割合しまっている
86	暗茶褐色スコリア質土	スコリア割合粗く、ザラつく、粘性若干ある
87	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫を含み、全体に固い
88	淡茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗青灰色砂礫を含み、よくしまっている
89	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗青灰色砂礫を含み、よくしまっている
90	淡褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗青灰色砂礫含み、粘性若干ある
91	明褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含み、全体によくしまっている
92	明茶褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含み、よくしまっている
93	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含み、全体に固くしまっている
94	暗茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロック・灰白色粘土少量混入
95	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含み、全体に固くしまっている
96	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土わずかに含み、粘性ある、しまっている
97	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・粒子多く含み、固くしまっている
98	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土・粒子わずかに含み、固くしまっている
99	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロックを多く含み、よくしまっている
100	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック多く、大形礫群投棄土層
101	茶褐色スコリア質土	上部が第２硬化面、互層状に数枚の硬化層ある
102	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土・青灰色砂礫若干含む、ローム粒子混入
103	暗青灰色砂礫層	黄白色軽石・小礫含む、粘性少ないが、よくしまっている
104	暗青灰色砂質層	茶褐色土混入、粒子割合粗く、粘性少ない、しまっている
105	暗青灰色砂質層	スコリア粒子やや粗く、暗褐色ロームブロック若干混入
106	暗青灰色砂礫層	わずかに茶褐色土を混入、地山砂礫層にほぼ類似
107	暗青茶灰色砂礫層	茶褐色土をやや多く混入、粒子は細かく、しまっている
108	淡暗青茶灰色砂礫層	茶褐色土混入、黄白色軽石も若干含む、粘性少ない
109	暗茶灰色砂礫層	茶褐色土がやや多く、青灰色砂礫層と互層状に堆積
110	暗茶灰色砂礫層	茶褐色土混入、細粒青灰色砂礫を多く含み、しまっている
111	暗茶褐色スコリア質土	砂質土壌に近い、粘性あり、よくしまっている
112	暗茶灰色砂礫層	小砂礫多く含み、粘性少ない、よくしまっている
113	暗茶褐色砂質スコリア土	暗青灰色砂質土を基調に、茶褐色土が混入
114	淡黄茶褐色砂質土	淡黄白色砂質土と青灰色砂質土が互層状に堆積
115	暗赤褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性あるが、しまっている
116	暗赤茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密、粘性あり、しまっている
117	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土・暗青灰色砂礫混入、ロームブロック含む
118	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗く、ザラつくが、割合固い
119	灰白色砂質粘土層	茶褐色土混入、砂礫若干混入、よくしまっている
120	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗く、ザラつくが、しまっている
121	灰茶褐色砂質スコリア土	スコリア粒子粗く、砂礫も混入、割合に固い
122	灰茶褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗く、砂礫を多く含む
123	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、砂礫も混入、割合に固い
124	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗いが、割合よくしまっている
125	明暗青灰色砂質層	砂礫少なく、粒子は細かい、しまっている
126	暗茶青灰色砂質層	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック少量混入
127	淡暗青灰色砂質層	暗褐色ロームブロックを多く含み、割合固い
128	暗茶褐色スコリア質土	粘性強く、一部酸化している、硬化層
129	暗青灰色砂質粘土層	茶褐色土混入、粒子細かく、一部硬化、準硬化層
130	明茶褐色スコリア質土	粒子細かく、砂質層に近い、よくしまって固い
131	暗茶褐色スコリア質土	暗褐色ロームブロックを多く含む、砂礫も若干混入
132	淡茶褐色スコリア質土	固くしまっている、粘性あり、ロームブロック含む
133	茶褐色スコリア質土	青灰色砂質層が互層状に堆積、粒子細かく、しまっている
134	暗黒褐色スコリア質土	砂礫を若干含み、割合固くよくしまっている
135	暗褐色硬化ブロック層	スコリア粒子細かく、粘性ある、道路状硬化面
136	暗赤茶褐色スコリア質土	粒子細かく、灰白色粘土を多く含み、固い
137	灰白色粘土ブロック層	ローム粒子や茶褐色土を多く混入、粘性強い
138	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗いが、灰白色粘土を含み、固い
139	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、青灰色砂質層が全体に混入
140	茶褐色スコリア質土	ロームブロック混入、粘性あり、青灰色砂質土含む
141	青灰色砂質層	茶褐色土が互層状に堆積、割合固くしまっている、粘性ある
142	淡茶褐色スコリア質土	青灰色砂質層が互層状に堆積、ロームブロック混入

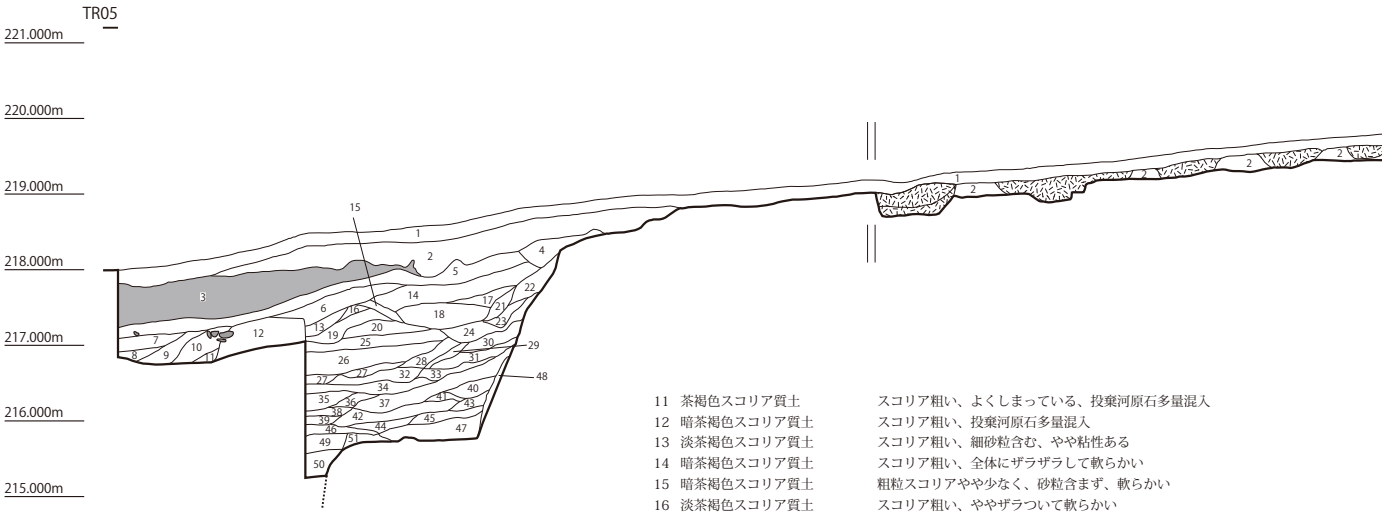
HK － 1 － 1（堀切３東側法面）

1	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、砂質土、割合しまっている
2	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ロームブロック混入、粘性強い、よくしまっている
3	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ロームブロック混入、粘性強い、固くしまっている
4	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック混入、粘性強い、固くしまっている
5	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック・砂粒混入、固くしまっている
6	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック・茶褐色土混入、しまっている
7	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ロームブロック・粒子多量混入、粘性強い
8	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ロームブロック・粒子多量混入、粘性強い
9	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ロームブロック・粒子多量混入、粘性強い、硬化層
10	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、砂粒混入、固くしまっている、粘性弱い
11	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、砂粒混入、全体にザラついている
12	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、砂粒混入、やや硬化している
13	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、砂粒混入、やや硬化している
14	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、砂粒混入、やや硬化している
15	明褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、硬質化層、固くしまっている
16	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック多い、しまっている
17	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック多い、固くしまっている
18	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・ロームブロック多い、固くしまっている
20	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、砂質土、非常に固くしまっている

HK － 1 － 2（堀切３堀底）

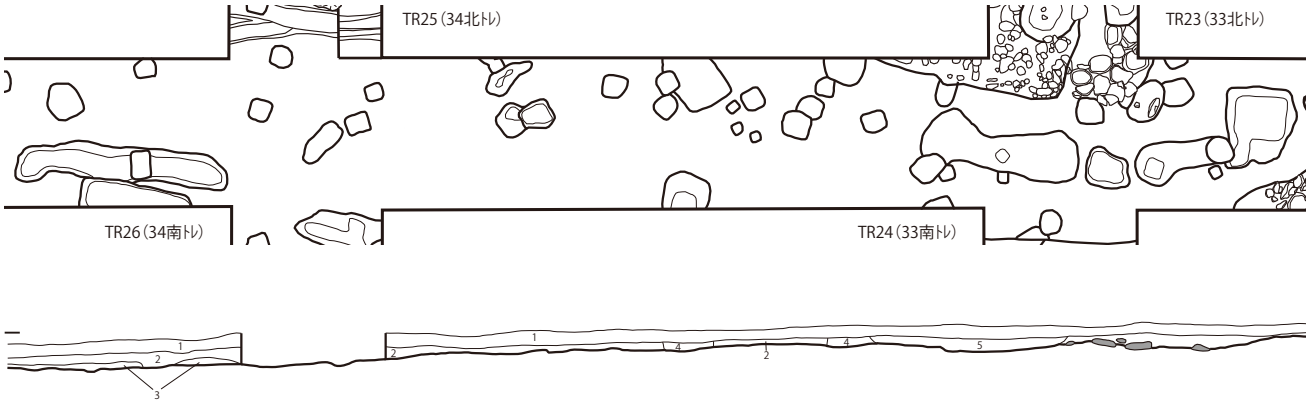
1	青灰色砂礫層	茶褐色土が一部混入、粘性ない、ザラザラしている
2	茶青灰色砂礫層	黄白色スコリア含む、茶褐色土多く混入、ザラザラしている
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、灰白色粘土・ロームブロック若干混入、割合しまっている
4	茶褐色スコリア質土・灰白色粘土混合層	
5	暗茶褐色スコリア質土	暗青灰色砂層を互層状に多く含む、ロームブロック若干混入、しまって固い
6	淡暗青灰色砂礫層	黄白色軽石・ロームブロック多く含む、粒子粗いが割合しまっている
7	暗青灰色砂層	暗茶褐色土が互層状に堆積、全体に固くしまっている
8	暗青灰色砂層	暗茶褐色土が互層状に堆積、粒子粗い、固くしまっている
9	灰白色粘土層	茶褐色土混入、黄白色軽石多く含む
10	茶灰青白色砂質層	割合粒子細かく、よくしまっている
11	暗茶灰青白色砂礫層	
12	茶褐色スコリア質土	青灰色砂層が互層状に堆積
13	暗青灰色砂質層	若干の砂礫を混入
14	暗青灰白色砂質層	若干の砂礫を混入
15	暗青灰白色砂質層	青灰色・茶白色砂質土が互層状に堆積
16	暗茶褐色砂質土	粒子細かい茶褐色土が互層状に混入
17	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、青灰白色砂粒が多量混入、全体にザラついている
18	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ある、砂質土混入
19	暗褐色スコリア質土	道路状硬化層、非常に固い、青灰色砂層混入
20	暗青灰色砂層	茶褐色土・灰白色粘土混入、暗褐色ロームブロック若干含む





TR05 － 1 － 1

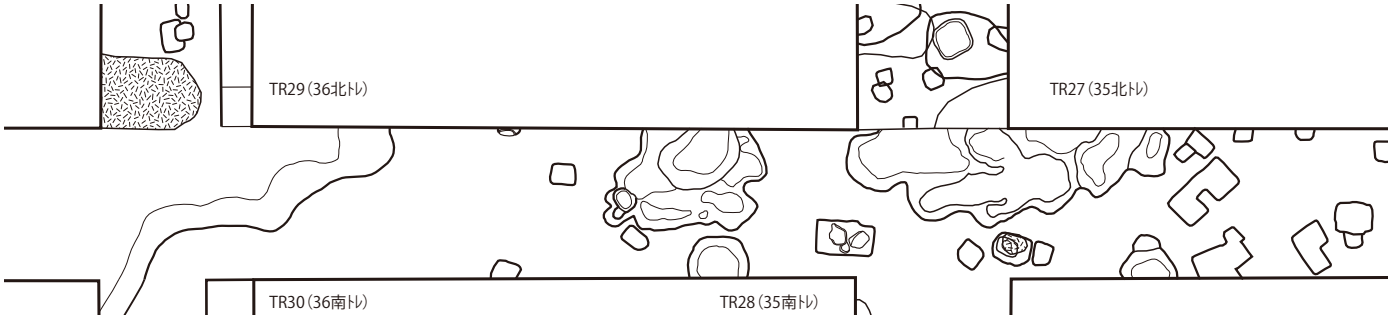
1　表土耕作土
2　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰自然堆積層
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、粘性ややあり、割合しまっている
5　茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、ザラザラして軟らかい
6　暗褐色スコリア質土　スコリア粗い、ややザラつくが割合しまっている
7　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、割合しまっている
8　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、よくしまっている
9　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粗い、よくしまっている
10　暗褐色スコリア質土　スコリア粗い、よくしまっている、投棄河原石多量混入
11　茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、よくしまっている、投棄河原石多量混入
12　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、投棄河原石多量混入
13　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、細砂粒含む、やや粘性ある
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、全体にザラザラして軟らかい
15　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや少なく、砂粒含まず、軟らかい
16　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、ややザラついて軟らかい
17　暗褐色スコリア質土　スコリア粗い、粘性少ない
18　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、砂粒・ローム粒子多い、ザラザラしている
19　茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、全体にザラザラしている
20　暗灰褐色スコリア質土　スコリア粗い、灰白色粘土・砂粒・酸化赤褐色土混入、やや軟らかい
21　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや少なく、灰白色粘土をほとんど含まない
22　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや少なく、灰白色粘土を多く含む
23　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや少なく、灰白色粘土をわずかに含む
24　暗茶褐色スコリア質土　暗黒褐色スコリア質土との混合層、灰白色粘土若干含む
25　暗灰黒褐色スコリア質土　スコリア粗い、灰白色粘土・砂粒・酸化赤褐色土混入、固くしまっている
26　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック・ローム粒子多量に含む、砂粒多いが固くしまっている
27　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック・ローム粒子多量に含む、砂粒多いが固くしまっている
28　淡茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック・ローム粒子多量に含む、砂粒も多い
29　黒褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック含む、砂粒も若干混入
30　淡茶黒褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック含む、砂粒も若干混入

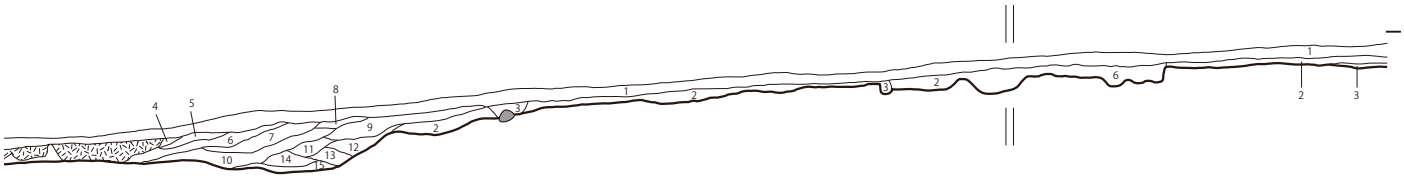


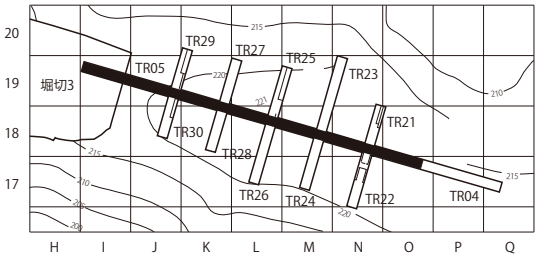
TR05 － 2 － 2

1　表土耕作土
2　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている
3　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、ロームブロック多い
4　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、ピット内堆積土層
5　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、遺構内堆積土層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、粘性あり、よくしまっている
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、黒褐色土混入、ザラザラして軟らかい
8　茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、細砂粒混入、ザラザラして軟らかい
9　暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性弱い、ザラザラして軟らかい

第 10 図　蔵郭　TR05［1/100］



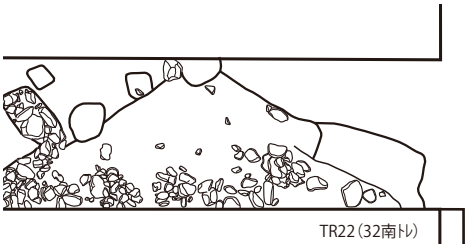


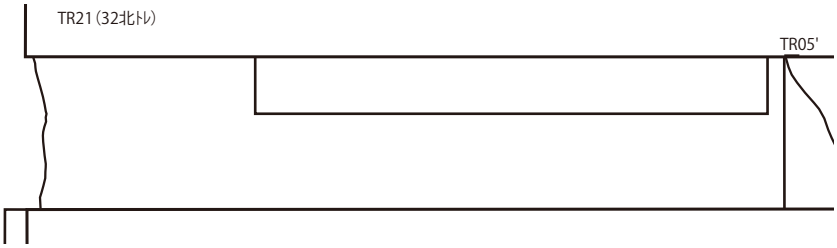


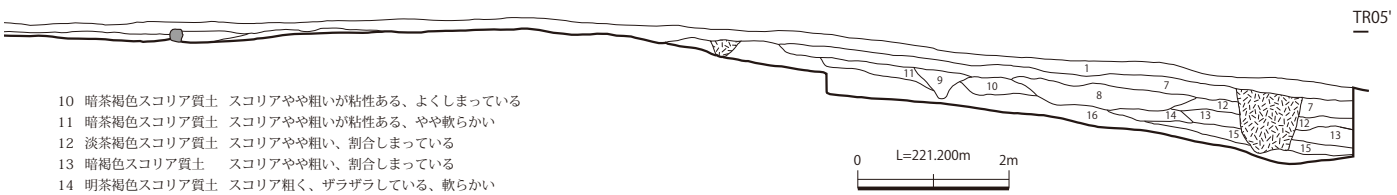
31　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック含む、砂粒も若干混入
32　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック・ローム粒子多量に含む、砂粒多いが固くしまっている
33　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック含む、砂粒も若干混入
34　暗灰褐色粘質土　酸化赤褐色土混入、粗粒スコリア、灰白色粘土若干含む
35　灰褐色粘質土　酸化赤褐色土と青灰白色土が互層堆積、粗粒スコリア、灰白色粘土若干含む
36　暗灰茶褐色スコリア質土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている
37　淡茶褐色シルト質スコリア土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている、ローム粒子多い
38　灰茶褐色スコリア質土　粘質土に近く、酸化赤褐色土が互層状に堆積
39　灰茶褐色粘質土　灰白色粘土若干含み、シルト質、よくしまっている
40　明茶褐色シルト質スコリア土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている
41　灰褐色粘質土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている、粘性ややあり
42　淡暗茶褐色シルト質スコリア土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている
43　茶褐色粘質土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている、粘性あり
44　暗褐色粘質土　灰白色粘土ブロックとの混合層
45　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土多量に含み、ザラザラしている、粘性強い
46　暗褐色粘質土　スコリア少なく、シルト質でしっかりしまる、粘性強い
47　茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、灰白色粘土・ロームブロック含む、粘性強い
48　暗茶褐色粘質土　スコリア細かく、灰白色粘土を含み、固くしまっている
49　茶褐色スコリア質土　スコリアやや少なく、ロームブロック多量に含む、固くしまっている
50　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや多く、ザラつくがやや粘性あり
51　明茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、ロームブロック多量に含む、粘性あり、白色パミス含む

TR05－1－2（TR05－2－1）

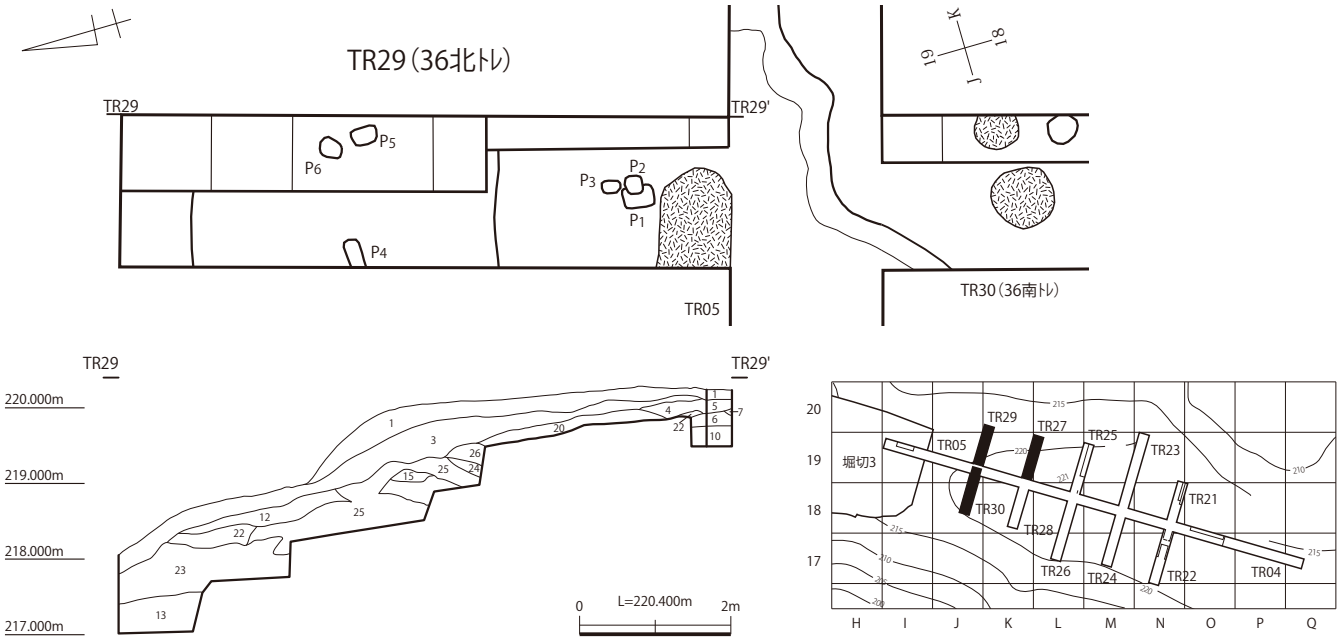
1　表土耕作土
2　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、粘性あり、よくしまっている
3　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、ビット内堆積土層
4　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、ブロック層
5　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、酸化赤褐色土混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、やや軟らかい
7　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている
9　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている
10　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かい、割合よくしまっている、粘性あり
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性ややあり
12　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、しまっている、粘性ややあり
13　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、しまっている、粘性ややあり
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性少ないが、しまっている
15　暗褐色粘質土　スコリア少なく、ローム粒子多い、地山漸移風化層



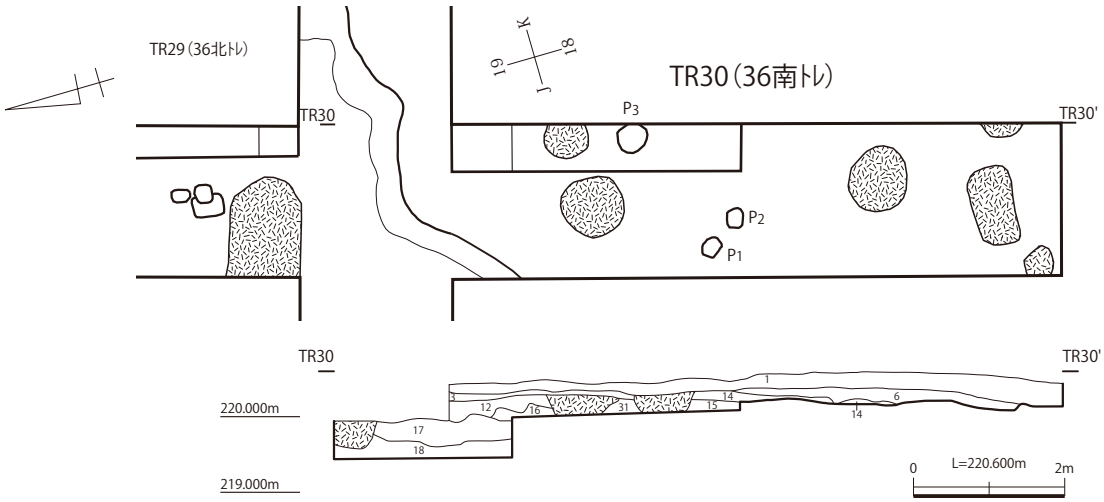




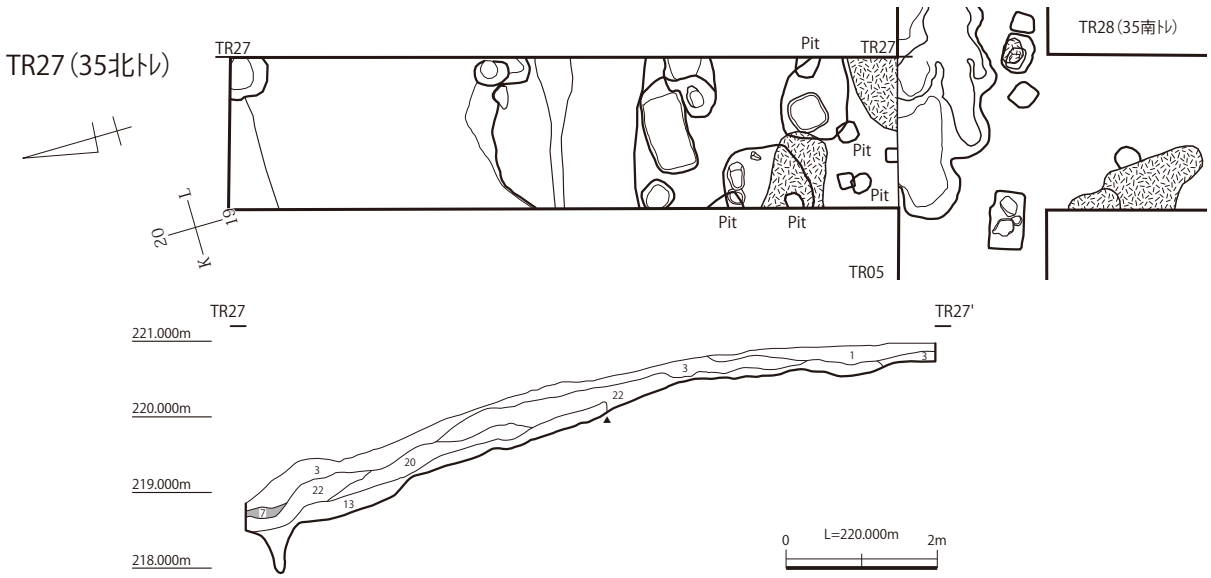
10　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが粘性ある、よくしまっている
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが粘性ある、やや軟らかい
12　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、割合しまっている
13　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、割合しまっている
14　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、軟らかい
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、粘性ある、よくしまっている
16　明茶褐色粘質土　褐色スコリア多い、粘性ある、地山漸移層



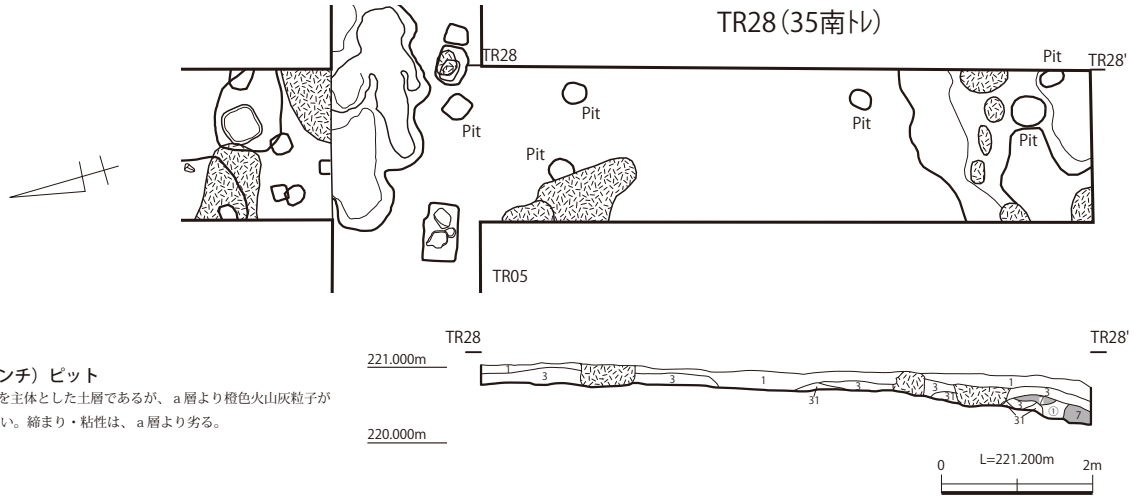
第 11 図　蔵郭　TR29［1/100］



第 12 図　蔵郭　TR30［1/100］

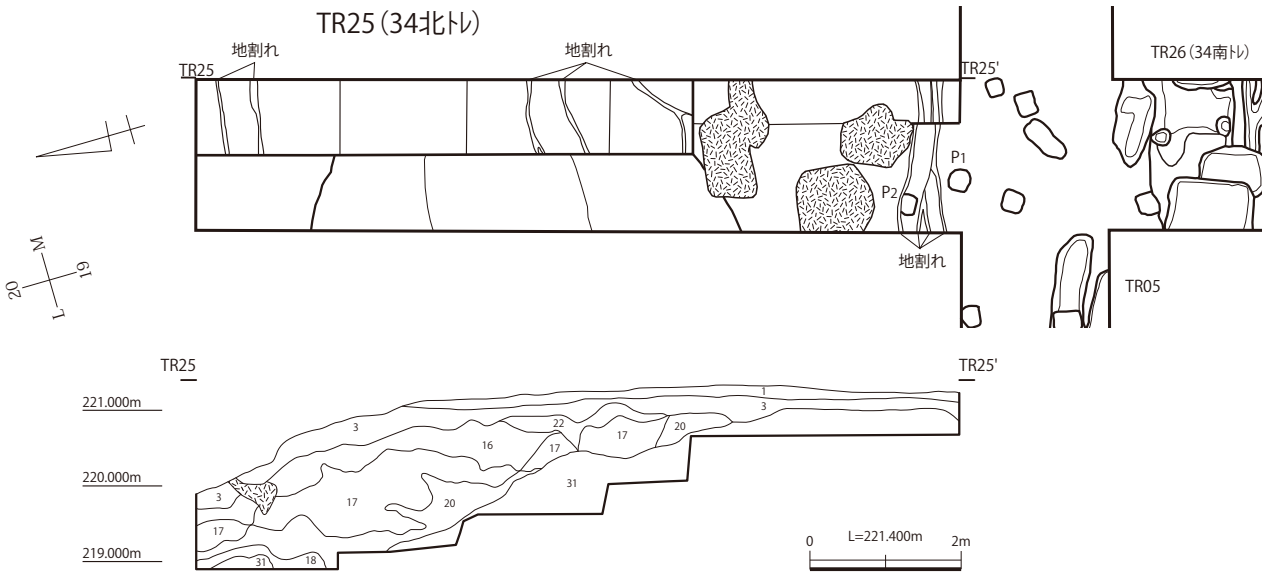


第 13 図　蔵郭　TR27［1/100］

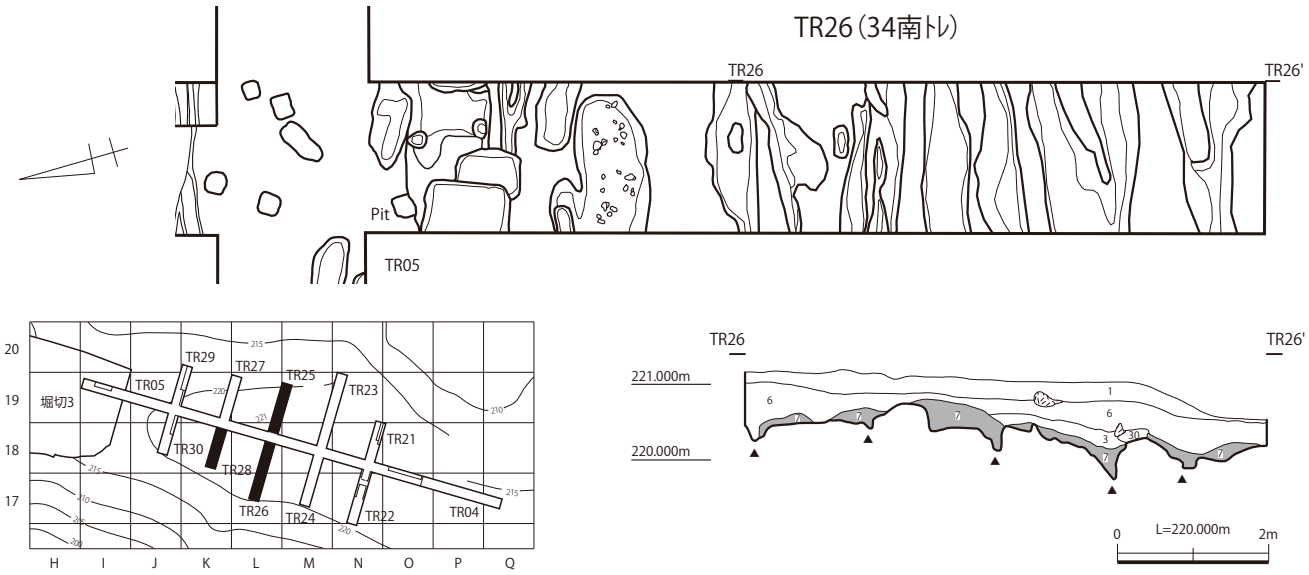


TR28（No.35 南トレンチ）ピット
褐色土 （7.5YR4/3）a 層を主体とした土層であるが、 a 層より橙色火山灰粒子が少ない。締まり・粘性は、 a 層より劣る。

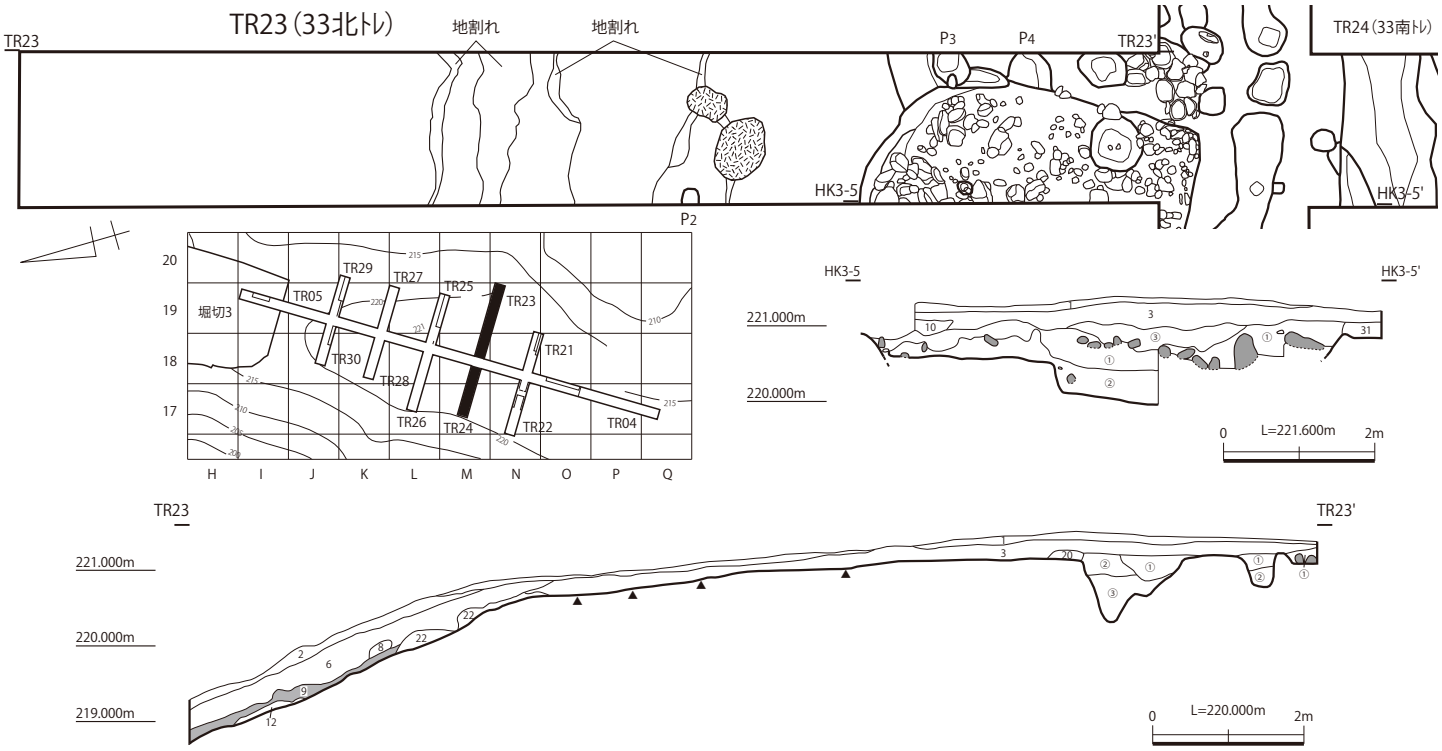
第 14 図　蔵郭　TR28［1/100］



第 15 図　蔵郭　TR25［1/100］



第 16 図　蔵郭　TR26［1/100］



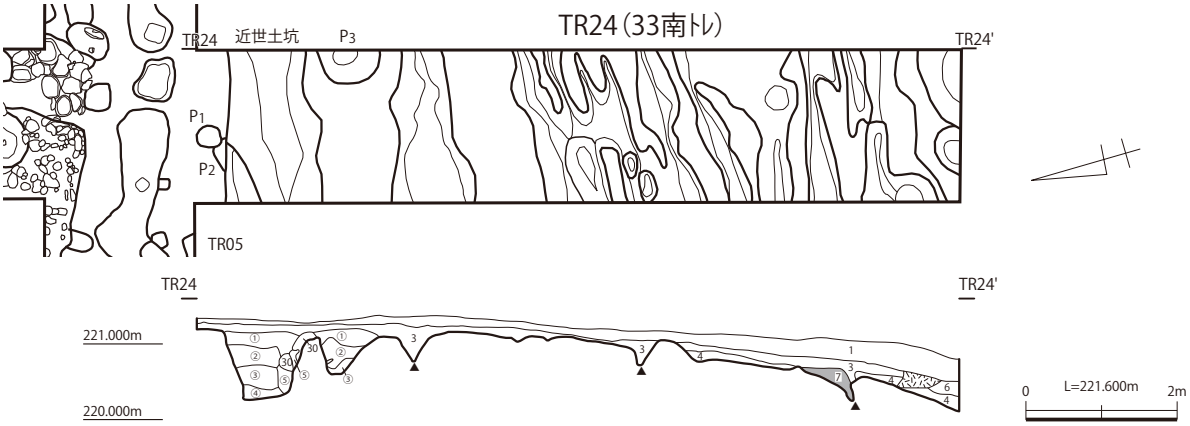
TR23（No.33 北トレンチ）北ピット

1　暗褐色土　（7.5YR3/4）径１～３ミリの黒色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～２ミリの赤色火山灰粒子を僅かに含む。締まり、粘性はやや強い。
2　褐色土　（7.5YR4/4）径１～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子を非常に多く含む。径１～３ミリの赤色火山灰粒子をやや多く含む。径２～３ミリの炭化物を極僅かに含む。締まり強く、粘性はやや強い。
3　褐色土　（7.5YR4/3）径３～５ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリの赤色火山灰粒子を僅かに含む。径２～３ミリ大の炭化物を僅かに含むが、２層よりは弱い。締まり・粘性は弱く、ボソボソした土。

TR23（No.33 北トレンチ）南ピット

1　暗褐色土　（7.5YR3/4）径１～３ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリの焼けた粘土粒子を僅かに含む。締まり、粘性は弱い。
2　褐色土　（7.5YR4/3）径１～３ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリの橙色火山灰粒子を多く含む。径１～３ミリの焼けた粘土粒子を僅かに含む。締まり、粘性は弱い。

第 17 図　蔵郭　TR23［1/100］



TR24（No.33 南トレンチ）中世ピット

1　暗褐色土　（7.5YR3/4）径１～２ミリの黒色火山灰粒子を僅かに含む。径１～５ミリ大の焼土粒子を多く含む。径５～ 10 ミリ大の炭化物をやや多く含む。粘土粒子を極僅かに含む。締まり、粘性はやや強い。
2　暗褐色土　（7.5YR3/3）径１～２ミリの焼土粒子をやや多く含む。径１～５ミリの炭化物粒子をやや多く含む。径 10 ミリ前後の焼けた粘土ブロックを僅かに含む。締まり、粘性は少なくパサついている。
3　にぶい褐色土（7.5YR5/4）径１～３ミリ大のローム粒子を多く含む。径５～ 40 ミリ大の炭化物を僅かに含む。径３～５ミリ大の焼土粒子を僅かに含む。締まりはやや強いが、粘性は弱い。

TR24（No.33 南トレンチ）近世土坑土層説明

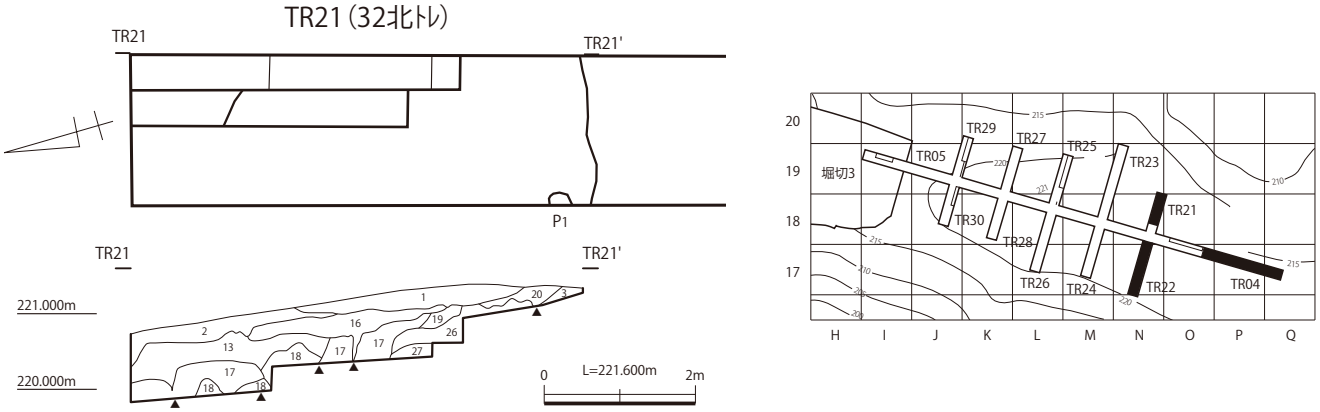
1　褐色土　（7.5YR4/4）a 層を主体とし、径１～３ミリの橙色火山灰粒子をやや多く含む。締まりはやや強いが、粘性は弱い。
2　褐色土　（7.5YR4/4）１層より径１～３ミリの橙色火山灰粒子を多く含む。締まり、粘性は１層と同程度。
3　褐色土　（7.5YR4/6）１層を主体とする。径１～２ミリの赤色粒子をやや多く含む。径２～３ミリの炭化物を僅かに含む。径１～３ミリの橙色火山灰粒子は２層と同程度。締まりは２層より劣るが、粘性は２層より強い。
4　にぶい褐色土（7.5YR5/3）３層を主体とし、径１～２ミリの赤色火山灰粒子を３層より多く含む。径２～５ミリの炭化物を僅かに含む。締まりは３層と同程度であり、粘性は３層より強い。
5　褐色土　（7.5YR4/4）２層を主体とするが、２層より橙色火山灰粒子が非常に少なくなる。径１～２ミリの赤色火山灰粒子が極僅かに含む。締まり、粘性は２層と同程度。

TR24（No.33 南トレンチ）１号竪状遺構

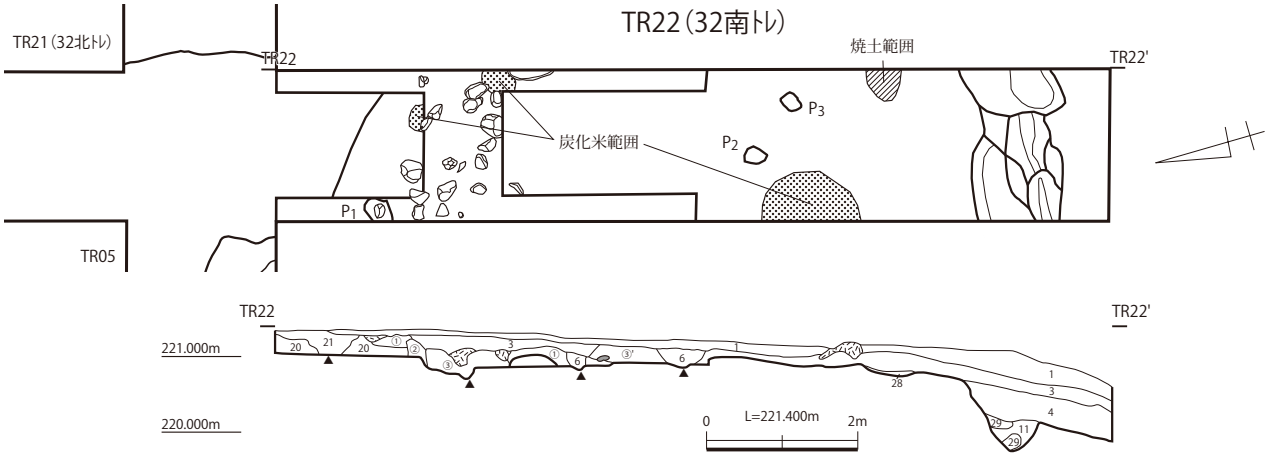
①　明褐色土　（7.5YR5/6）径３～５ミリ大の黒色火山灰粒子を僅かに含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子をやや多く含む。径１～３ミリ大の赤色火山灰粒子を極僅かに含む。ローム微粒子も僅かに含む。径３～ 10 ミリ大の焼けた粘土ブロックをやや多く含む。締まり、粘性はやや強い。
②　橙色土　（7.5YR6/6）径５～ 10 ミリ大の焼けた粘土ブロックを主体とする層。部分的に１層を 30％位混入している。①層に比べ締まりは強くなるが、粘性は弱い。
③　褐色土　（7.5YR4/3）径１～３ミリ大の黒色火山灰粒子を僅かに含む。径３～５ミリ大の橙色火山灰粒子を僅かに含む。径３～ 10 ミリ大の焼けた粘土ブロックを僅かに含む。径１～３ミリ大の白色パミスを僅かに含む。径２～３ミリ大の炭化物を僅かに含む。締まり、粘はやや強い。
宝永の火山灰”う”　径３～５ミリ大の宝永の火山灰を主体とし、１号竪穴状遺構上層覆土②と混在。径 10 ～ 20 ミリ大の焼けた粘土粒子をやや多く含む。締まり、粘性は弱い。（天地返し等で撹乱され、住居覆土と混じり合った層か？）

第 18 図　蔵郭　TR24［1/100］

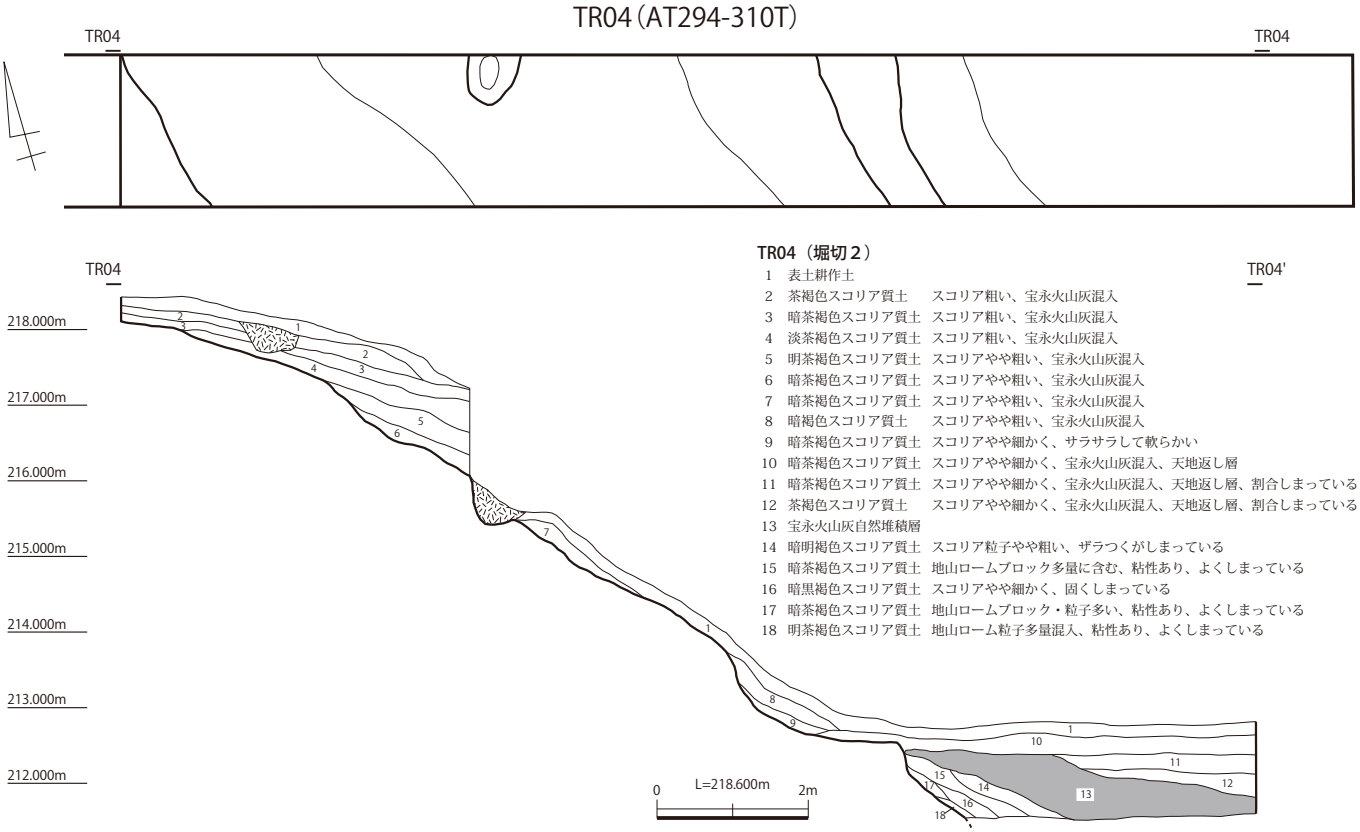
第19図　配石土坑群　TR05・21～24［1/60］



第 20 図　蔵郭　TR21［1/100］



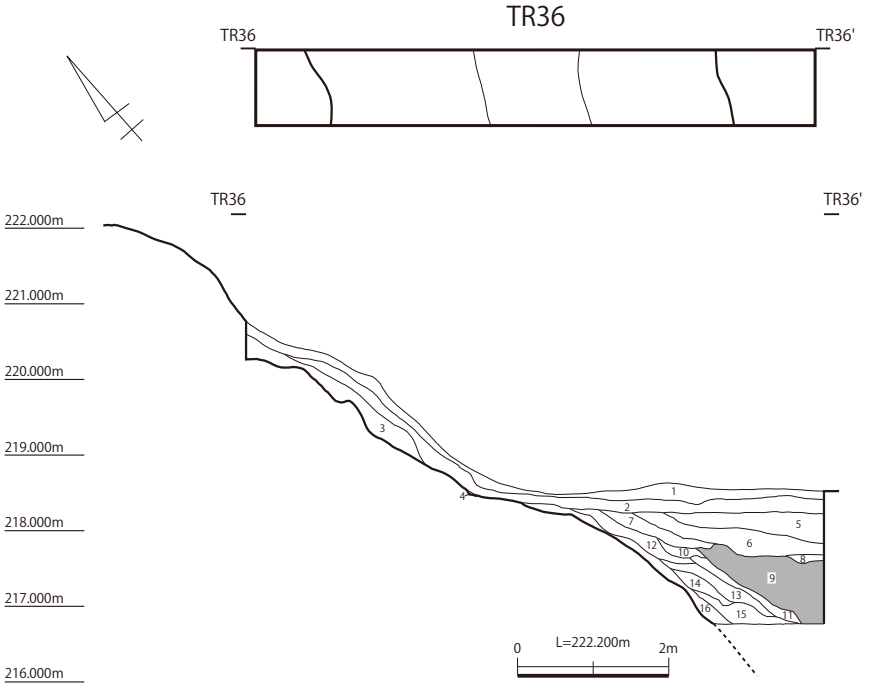
第 21 図　蔵郭　TR22［1/100］



TR04（堀切２）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、宝永火山灰混入
4　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、宝永火山灰混入
5　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、宝永火山灰混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、宝永火山灰混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、宝永火山灰混入
8　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗い、宝永火山灰混入
9　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、サラサラして軟らかい
10　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、宝永火山灰混入、天地返し層
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、宝永火山灰混入、天地返し層、割合しまっている
12　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、宝永火山灰混入、天地返し層、割合しまっている
13　宝永火山灰自然堆積層
14　暗明褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗い、ザラつくがしまっている
15　暗茶褐色スコリア質土　地山ロームブロック多量に含む、粘性あり、よくしまっている
16　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、固くしまっている
17　暗茶褐色スコリア質土　地山ロームブロック・粒子多い、粘性あり、よくしまっている
18　明茶褐色スコリア質土　地山ローム粒子多量混入、粘性あり、よくしまっている

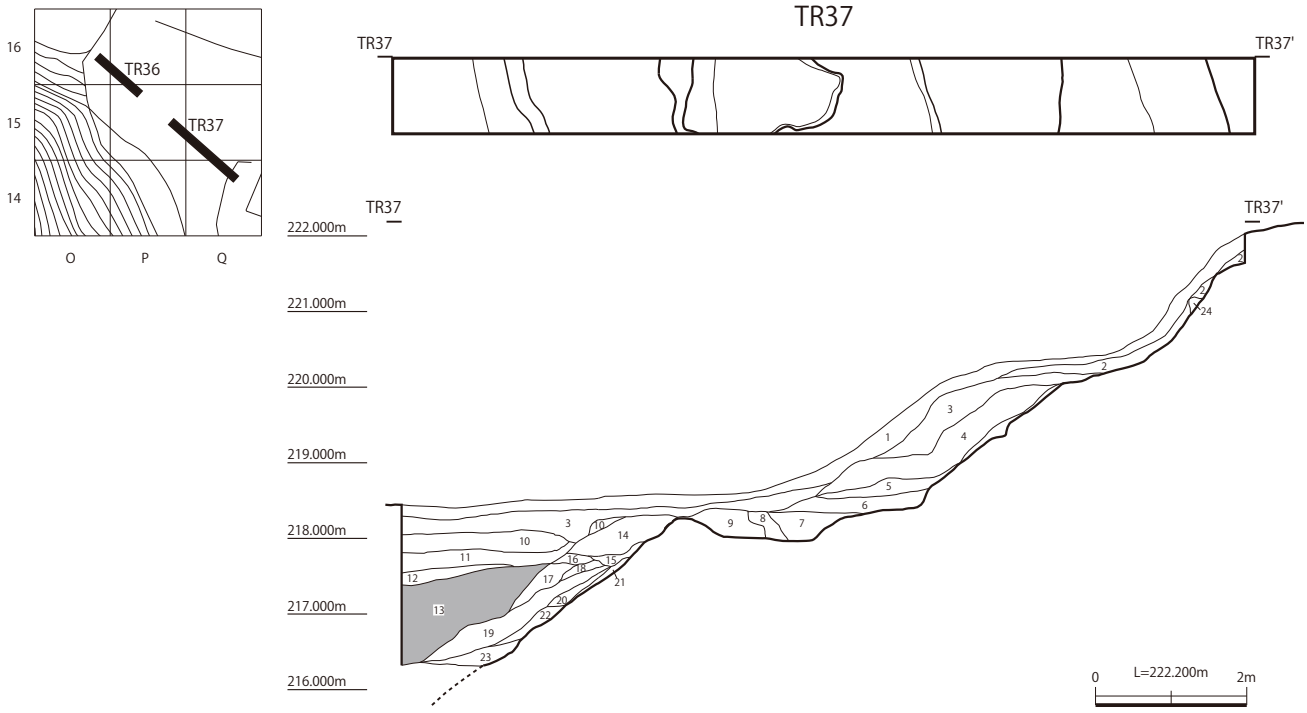
第 22 図　蔵郭～堀切２　TR04［1/100］



TR36（堀切２）

1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色粘質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック多い、粘性強い
4	暗茶褐色粘質土	スコリア粒子やや粗く、粘性強い
5	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
7	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
8	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
9	宝永火山灰自然堆積層	
10	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
11	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
12	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
13	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、割合しまっている
14	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、割合しまっている
15	暗茶褐色粘質土	スコリア少なく、固くしまる、ローム粒子ふくみ、粘性強い
16	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子非常に多い、砂質土に近い

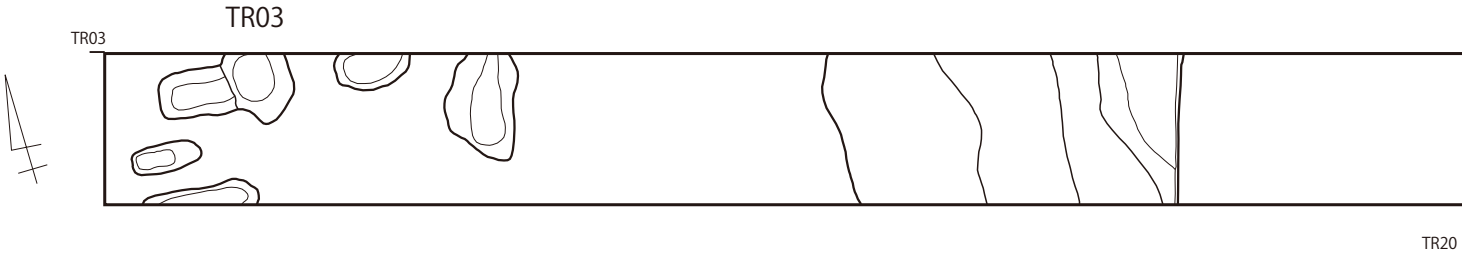
第 23 図　堀切２　TR36［1/100］



TR37（堀切２）

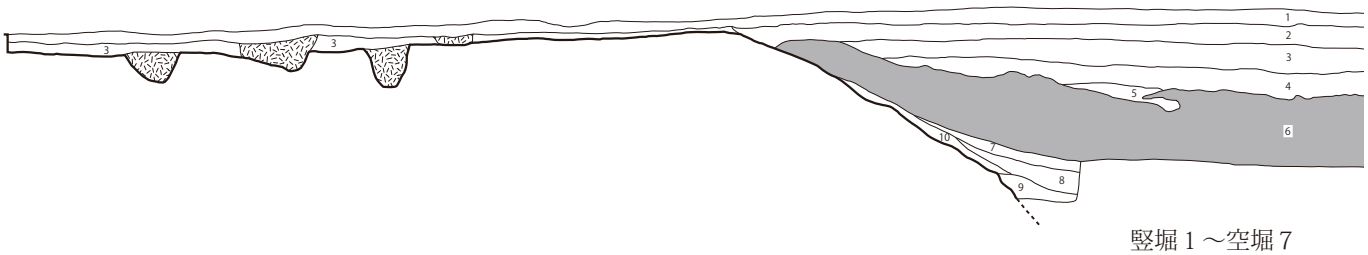
1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ロームブロック多い、軟らかい、宝永火山灰混入
4	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
7	明褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、地山層
8	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、地山層
9	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、地山層
10	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
11	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
12	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
13	宝永火山灰自然堆積層	
14	暗赤茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、割合しまっている
15	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子多く含む、ややザラついている
16	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子含み、粘性ありしまっている
17	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ある、固くしまっている
18	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性ある、よくしまっている
19	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ある、ややザラついている
20	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ある、よくしまっている
21	明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性ある、ローム漸移層
22	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性ある
23	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性ある、ローム粒子多量混入

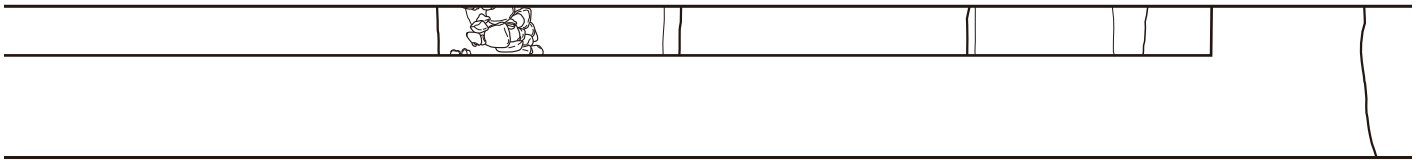
第 24 図　堀切２　TR37［1/100］



TR03 － 1 － 1（竪堀１）

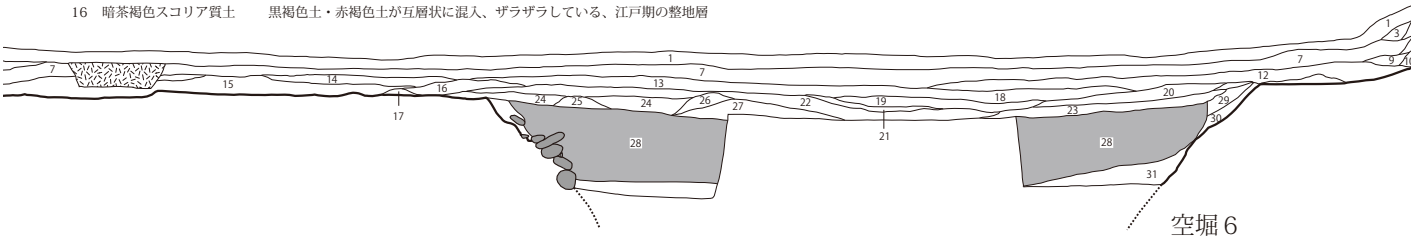
1	表土耕作土	
2	暗茶褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
3	茶褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
4	暗茶褐色スコリア質土	粒子細かく宝永火山灰混入
5	暗褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
6	宝永火山灰自然堆積層	
7	暗灰褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子多い、粘性あり、固くしまっている
8	灰茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子多い、粘性あり、固くしまっている
9	淡灰白褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子多い、粘性あり、粘質土に近い
10	明灰茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子多い、粘性あり、固くしまっている
11	宝永火山灰天地返し層	
12	暗黒褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子若干含み、粒子粗い
13	暗黒褐色スコリア質土	粒子割合細かく、灰白色粘土粒子多い、粘性あり
14	暗灰茶褐色スコリア質土	粒子割合細かく、灰白色粘土粒子多い、粘性あり
15	灰白色粘土ブロック層	
16	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、粒子若干含み、粒子粗い
17	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土多く含み、粘性あってしまっている
18	淡暗褐色スコリア質土	灰白色粘土多く含み、粘性あってしまっている
19	明茶褐色粘質土	地山風化層



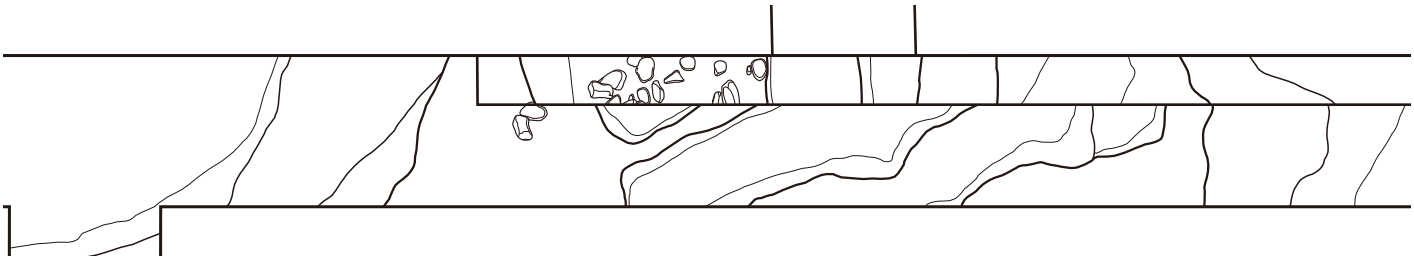


TR03 － 2 － 1（空堀６）

1	表土耕作土	
2	暗茶褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
3	暗黒褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
4	暗茶褐色スコリア質土	宝永火山灰混入
5	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子多い地山漸移層、サラサラしているが粘性強い
6	暗褐色スコリア質土	褐色スコリア少ない、ザラザラしている、江戸期の整地層
7	暗褐色スコリア質土	褐色スコリア多く、ザラザラしているが固い、江戸期の整地層
8	暗黒褐色スコリア質土	ロームブロック混合、宝永火山灰混入、ザラザラしている
9	暗茶褐色スコリア質土	宝永火山灰混入、ザラザラしている
10	暗茶褐色スコリア質土	ロームブロック混合、宝永火山灰混入、ザラザラしている
11	ロームブロック層	
12	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック含む、江戸期の整地層
13	暗赤茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、ロームブロック多く含む、江戸期の整地層
14	淡暗茶褐色スコリア質土	黒褐色土・赤褐色土が互層状に混入、ザラザラしている、江戸期の整地層
15	茶褐色スコリア質土	黒褐色土・赤褐色土が互層状に混入、ザラザラしている、江戸期の整地層
16	暗茶褐色スコリア質土	黒褐色土・赤褐色土が互層状に混入、ザラザラしている、江戸期の整地層
17	茶褐色粘質土ブロック層	
18	暗赤茶褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、ロームブロック多く含む、江戸期の整地層
19	暗黒褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、ローム粒子多く、ザラザラしている
20	暗赤褐色スコリア質土	灰白色粘土粒子、ローム粒子多い
21	茶褐色スコリア質土	灰白色粘土がブロック状に堆積
22	暗赤褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック多く含む客土層
23	暗灰褐色スコリア質土	灰白色粘土粒子、ローム粒子多量に含む
24	暗赤褐色スコリア質土	灰白色粘土若干、ロームブロック・粒子多量に含む
25	暗黄赤茶褐色スコリア質土	ブロック層
26	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、ローム粒子多く、ザラザラしている
27	暗黒褐色スコリア質土	灰白色粘土ブロック、暗赤褐色ロームブロック多量に含む
28	宝永火山灰自然堆積層	
29	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土粒子多く含むが、割合よくしまっている
30	淡暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土粒子若干含み、粘性あり、割合よくしまっている
31	暗茶褐色スコリア質土	灰白色粘土粒子若干含み、粘性あり、割合よくしまっている

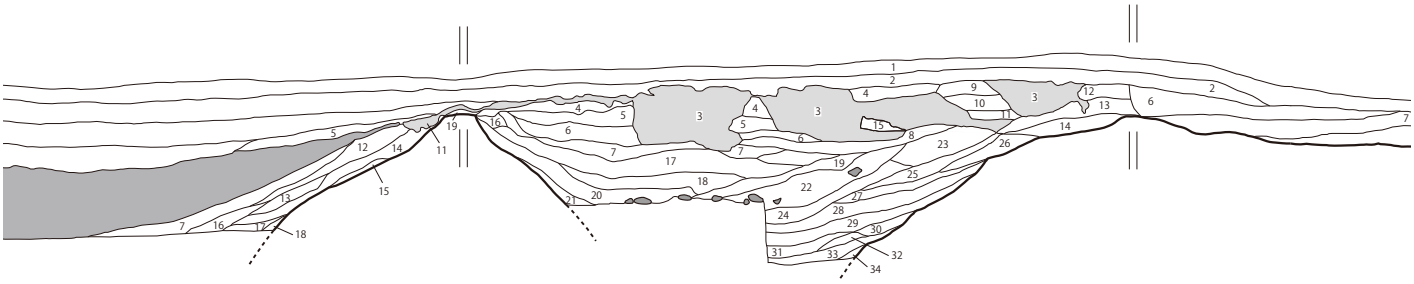


第 25 図　近藤郭～大庭郭　TR03［1/100］

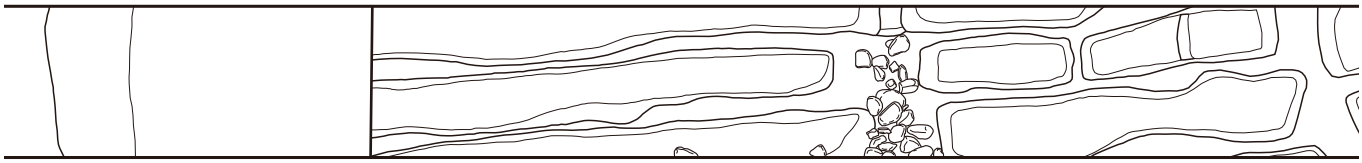


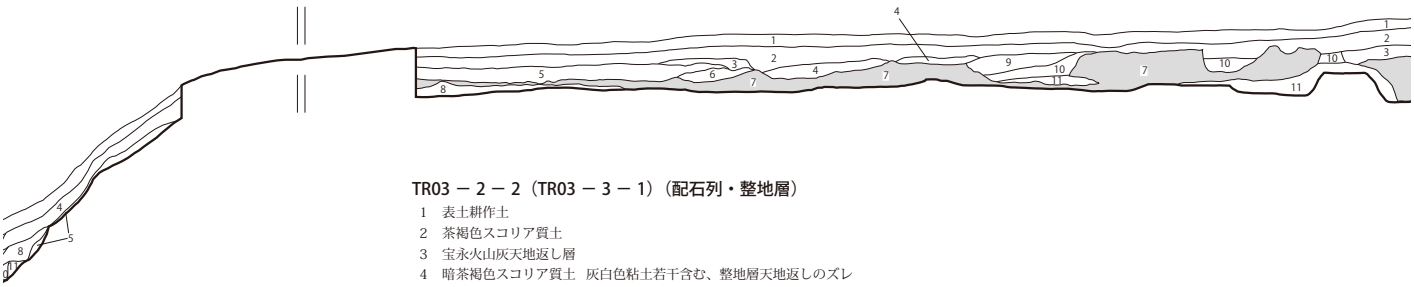
TR03 － 1 － 2（空堀７）

1　表土耕作土
2　暗茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　宝永火山灰天地返し層
4　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土多く混入、粒子やや粗い
5　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリア多く、黒褐色土が互層状に入る
6　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック若干混入、粘性あり、よくしまっている
7　褐色スコリア質土　黒褐色土が多く混入、粒子粗い
8　暗黒褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子、ローム粒子若干含み、サラサラしている
9　淡暗褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子、ローム粒子多く含み、ザラザラしている
10　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子、ローム粒子少なく橙色スコリア割合多い
11　暗黒褐色スコリア質土　粒子細かく、褐色スコリア少ない、サラサラしている
12　茶褐色スコリア質土　粒子細かく、褐色スコリア少ない、粘性あり、よくしまっている
13　暗黒褐色スコリア質土　褐色スコリア少ない、全体に軟らかくザラザラしている
14　明茶褐色スコリア質土　ローム粒子若干含み、よくしまって粘性ある
15　暗黒褐色スコリア質土ブロック層
16　明茶褐色スコリア質土ブロック層
17　暗黒褐色スコリア質土　褐色スコリア割合多く、全体に軟らかくザラザラしている
18　暗褐色スコリア質土　褐色スコリア割合多く、全体に軟らかくザラザラしている



19　暗赤褐色スコリア質土　灰白色粘土、ロームブロック多く含み、粘性強、固くしまっている
20　茶褐色粘質土　ローム漸移層と茶褐色土の混合層、粘性強い
21　暗黒褐色スコリア質土　スコリア少なく、粘性あり
22　暗灰褐色スコリア質土　灰白色粘土、ロームブロック多量に含み、固くしまっている
23　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土小ブロック多量に含む
24　淡暗灰褐色スコリア質土　灰白色粘土、ロームブロック多く含み、粘性強、固くしまっている
25　暗茶褐色スコリア質土　粒子細かく、褐色スコリア少ない、粘性あるがサラサラしている
26　暗褐色スコリア質土　スコリア少なく、砂質で粘性あり、サラサラしている
27　暗黒褐色スコリア質土　褐色スコリア割合多い、よくしまっているがザラザラしている
28　黒褐色スコリア質土　褐色スコリア多く、粒子粗いがよくしまって固い
29　暗褐色スコリア質土　褐色スコリア少なく、粘性あって割合サラサラしている
30　暗茶褐色スコリア質土　褐色スコリア割合多く含み、粘性ややあり
31　暗茶褐色スコリア質土　褐色スコリア割合多く含み、粘性やや強い
32　暗褐色スコリア質土　褐色スコリア少なく、粘性強いブロック層
33　暗灰茶褐色スコリア質土　灰白色粘土、ローム粒子多く含み、ややザラついている
34　灰茶褐色スコリア質土　灰白色粘土、ロームブロック若干含み、粘性ある

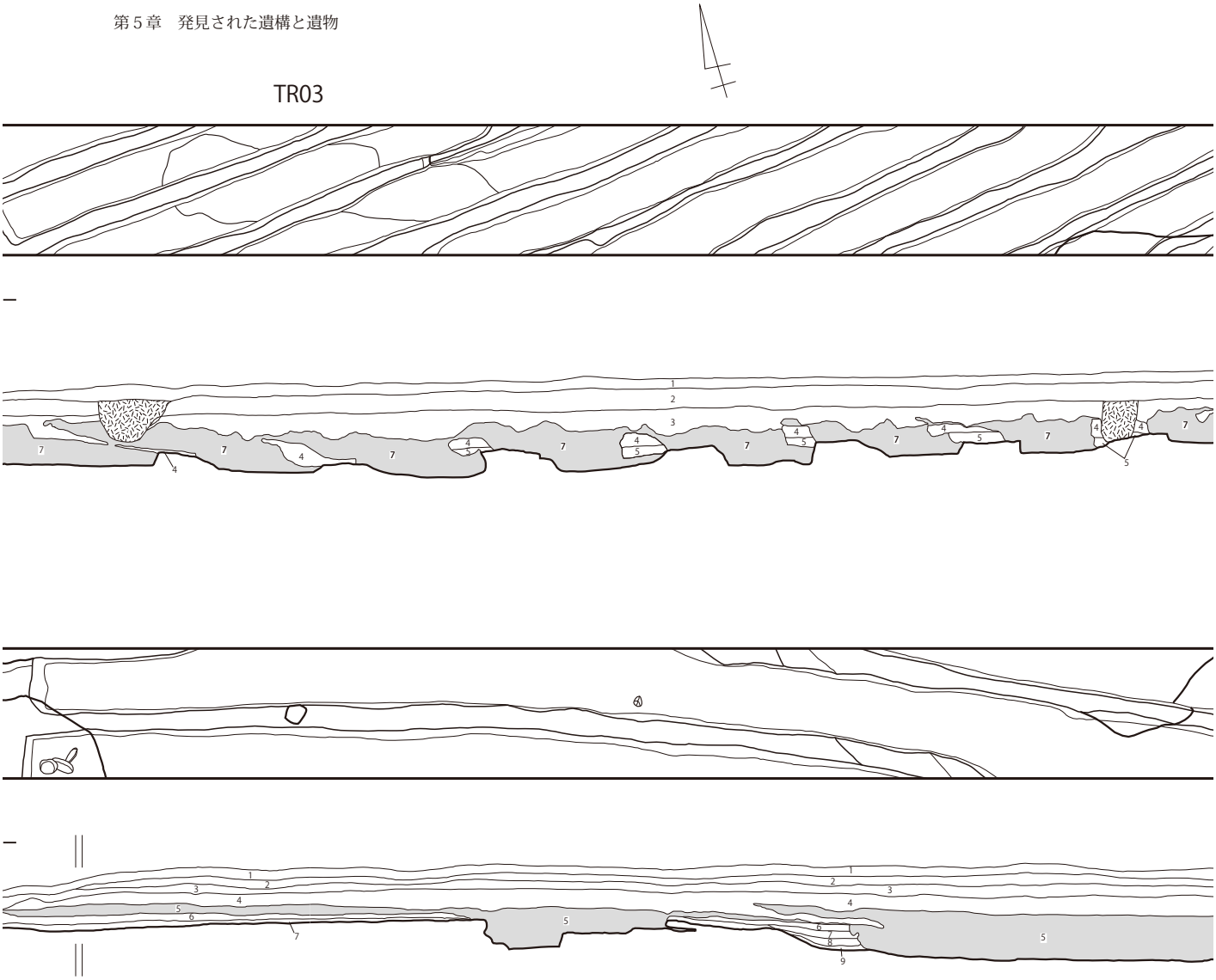




TR03 － 2 － 2（TR03 － 3 － 1）（配石列・整地層）

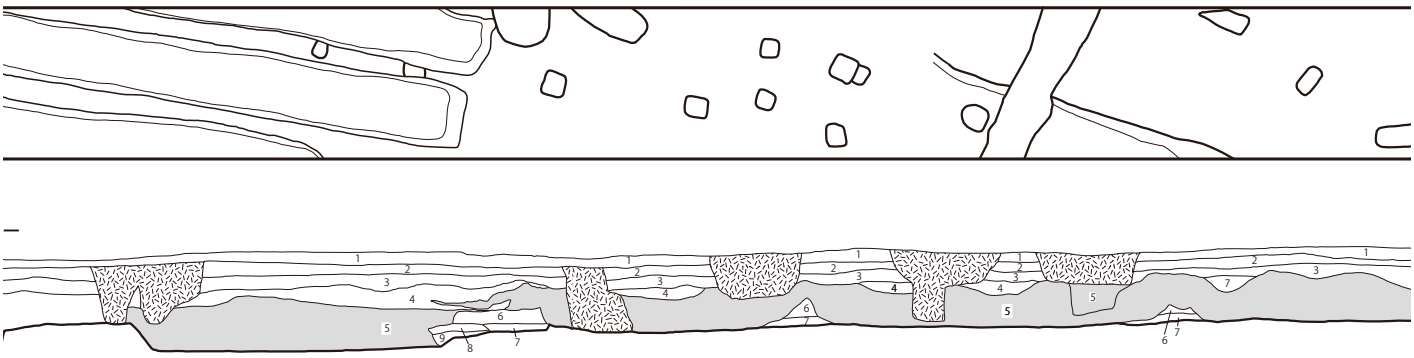
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土
3　宝永火山灰天地返し層
4　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土若干含む、整地層天地返しのズレ
5　灰褐色粘土層　泥岩小礫多量に含む、整地層天地返しのズレ
6　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土若干含む、炭化米・麦多量に含む、整地層天地返しのズレ
7　宝永火山灰天地返し層
8　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土若干含む、炭化米・麦多い、整地層
9　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土混合層、ローム粒子多くザラザラしている
10　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土若干含む、炭化米・麦多い
11　黒褐色スコリア質土　地山層のズレ

TR03



TR03 － 4（凹地郭西側肩部～本体）

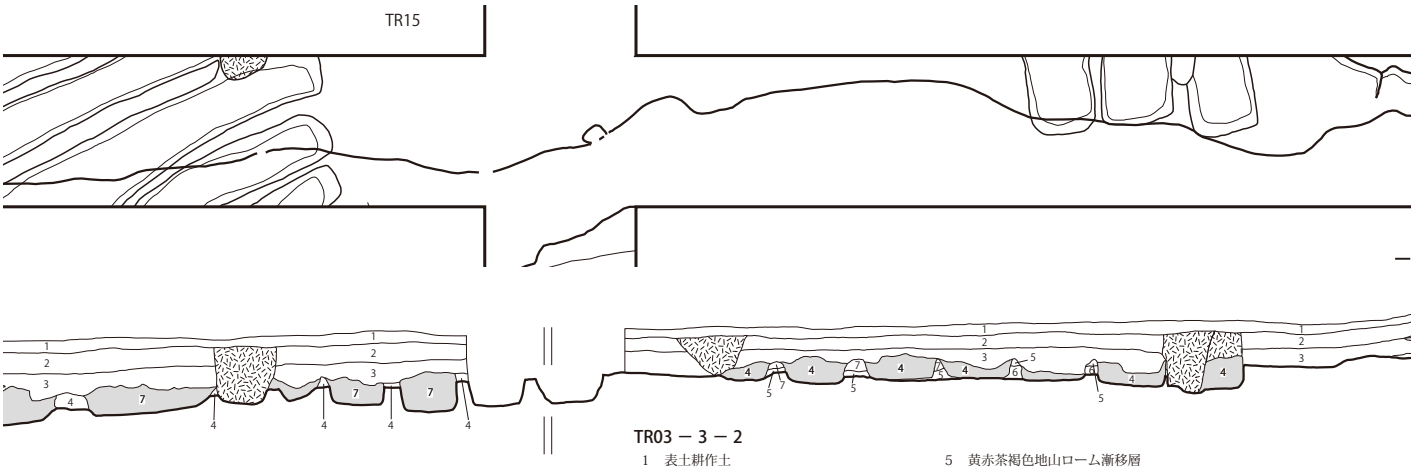
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
4　暗茶褐色スコリア質土　宝永火山灰・灰白色粘土混合層、天地返し土層
5　宝永火山灰天地返し層
6　淡暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子若干含み、よくしまっている
7　暗灰茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子若干含み、粘性あってよくしまっている
8　灰茶褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック・粒子多い砂質粘土層、サラサラしている
9　暗灰褐色砂質粘土層　地山漸移層、炭化物含み割合サラサラしている



TR03 － 5 － 1（凹地郭東側肩部）

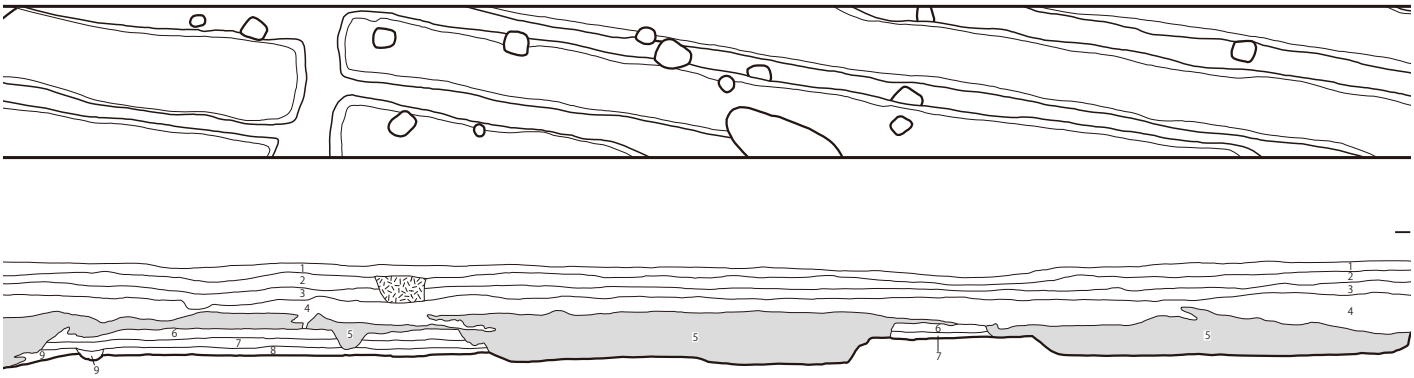
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　黄茶褐色スコリア質土　ローム漸移層
4　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子・灰白色粘土粒子含み、割合よくしまっている
5　宝永火山灰天地返し層
6　暗茶褐色粘質土　地山漸移層、整地層
7　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ザラつくがよくしまっている
8　暗黒褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ザラつくがよくしまっている
9　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリア多いが、粘性ややあり、固くしまっている
10　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多いが、粘性ややあり、固くしまっている
11　淡暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多いが、粘性ややあり、非常に固くしまっている
12　暗黒褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ザラザラしている
13　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、よくしまって粘性あり
14　暗黒褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ローム粒子含む、粘性ありよくしまっている
15　暗茶褐色スコリア質土　粘性つよく、固くしまっている
16　暗茶褐色スコリア質土　粘性若干あり、粒子細かい

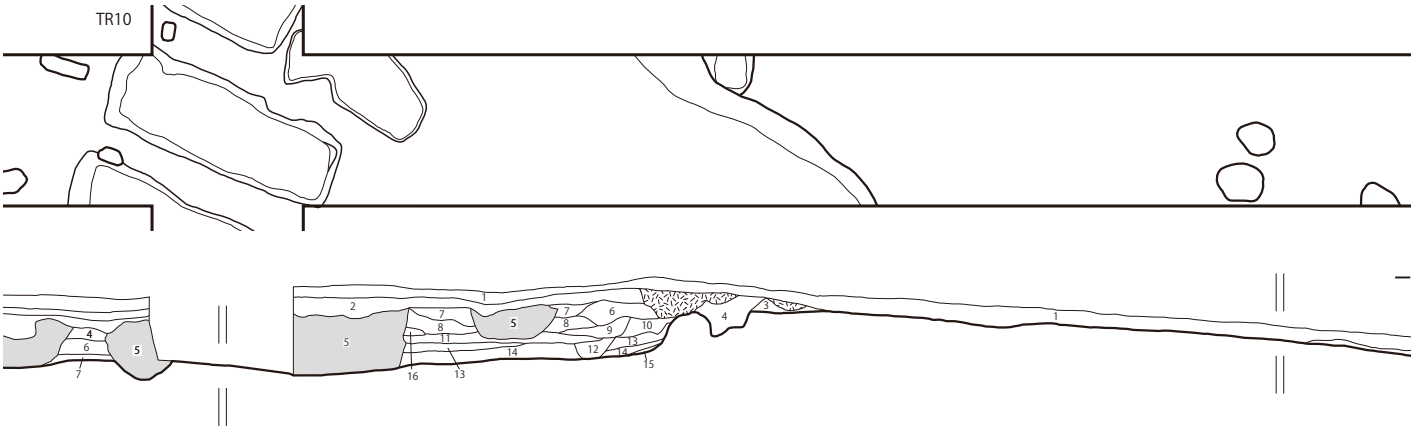
第 26 図　大庭郭～空堀２　TR03［1/100］



TR03 － 3 － 2

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　黄赤茶褐色地山ローム漸移層
6　赤茶褐色地山ローム層
7　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子多く、全体によくしまっている

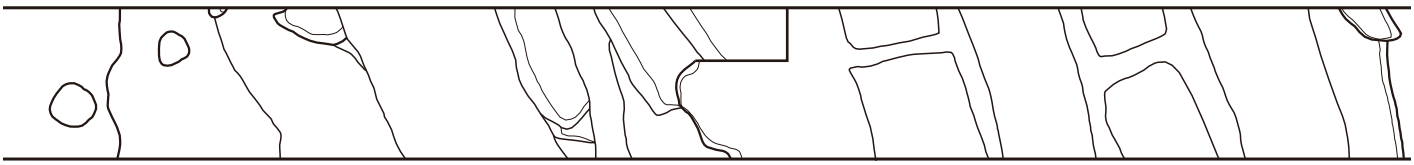


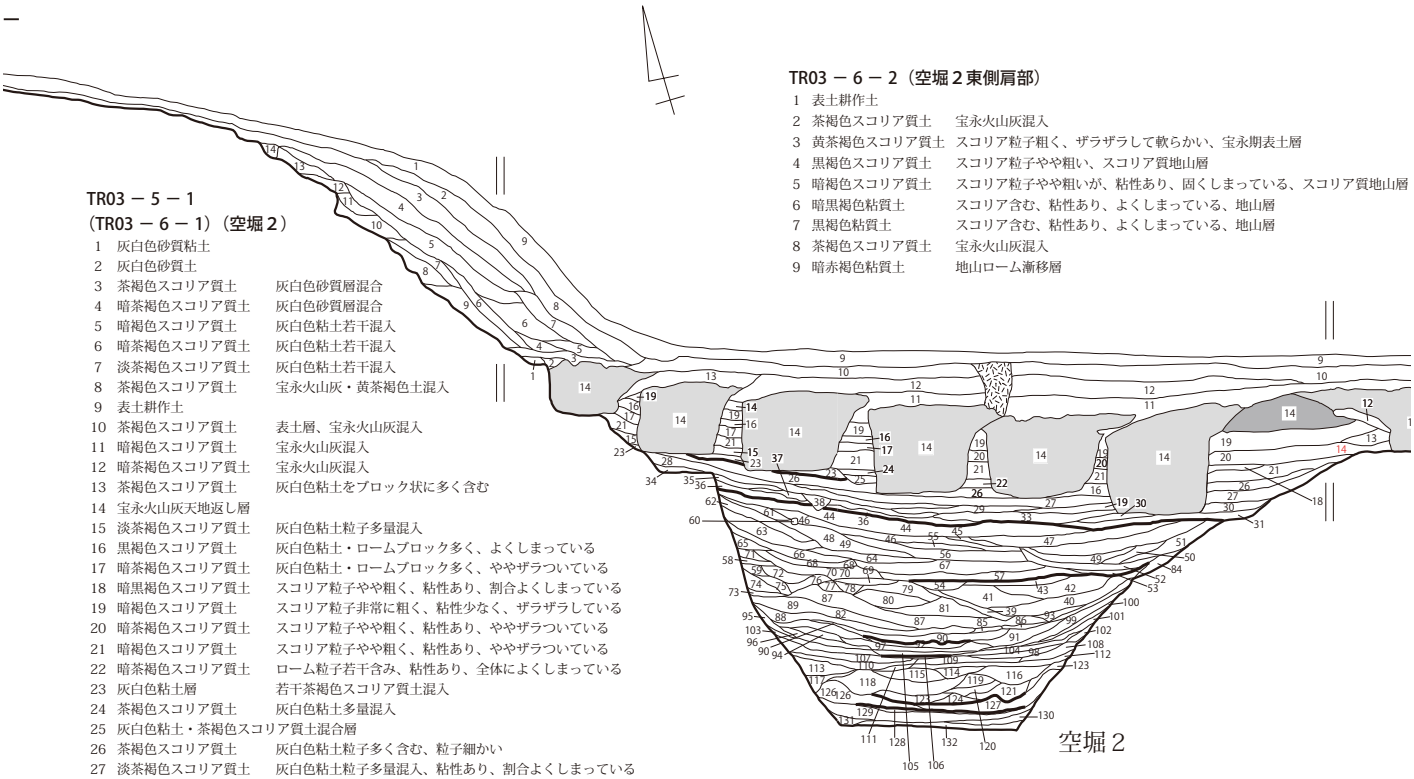


TR03 － 5 － 2（空堀２西側肩部）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰・黄茶褐色土混入
3　茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア非常に多く、ザラついて軟らかい
4　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア非常に多く、ザラつくがややしまっている
5　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリア、宝永火山灰粒子、ローム粒子混合層
6　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリア多い、粘性あり、しまっている
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、灰白色粘土含む、砂質土に近い
8　淡茶褐色砂質土　灰白色粘土粒子多く、粘性あり、サラサラしている
9　茶褐色砂質土　灰白色粘土多量に含み、よくしまっている
10　茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、灰白色粘土粒子多い
11　淡茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、灰白色粘土粒子多い
12　暗褐色スコリア質土　スコリアやや多く、ロームブロック・粒子多い
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリア多く、ローム粒子非常に多く、固くしまっている
14　暗黒褐色スコリア質土　スコリア多く、ローム粒子含むがやや軟らかい

TR03





TR03 － 5 － 1
（TR03 － 6 － 1）（空堀２）

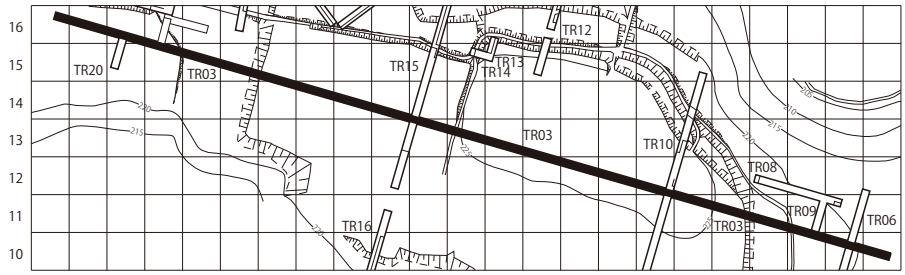
1　灰白色砂質粘土
2　灰白色砂質土
3　茶褐色スコリア質土　灰白色砂質層混合
4　暗茶褐色スコリア質土　灰白色砂質層混合
5　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土若干混入
6　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土若干混入
7　淡茶褐色スコリア質土　灰白色粘土若干混入
8　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰・黄茶褐色土混入
9　表土耕作土
10　茶褐色スコリア質土　表土層、宝永火山灰混入
11　暗褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
12　暗茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
13　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土をブロック状に多く含む
14　宝永火山灰天地返し層
15　淡茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多量混入
16　黒褐色スコリア質土　灰白色粘土・ロームブロック多く、よくしまっている
17　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土・ロームブロック多く、ややザラついている
18　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性あり、割合よくしまっている
19　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子非常に粗く、粘性少なく、ザラザラしている
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性あり、ややザラついている
21　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性あり、ややザラついている
22　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子若干含み、粘性あり、全体によくしまっている
23　灰白色粘土層　若干茶褐色スコリア質土混入
24　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土多量混入
25　灰白色粘土・茶褐色スコリア質土混合層
26　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多く含む、粒子細かい
27　淡茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多量混入、粘性あり、割合よくしまっている
28　灰白色粘土層　茶褐色スコリア質土・ローム粒子混入、粘性強
29　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多く含み、よくしまっている
30　淡暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多く含み、灰白色粘土ブロック混入
31　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多量に含む
32　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土少量含み、やや粘性あるもザラついている
33　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土少量含み、やや粘性あるもザラついている
34　茶褐色粘質土　ロームブロック・粒子多く含み、粘性強、固くしまっている
35　茶褐色粘質土　ロームブロック・粒子多く含み、粘性強、固くしまっている
36　灰白色粘土層　茶褐色スコリア質土多く含み、粘性強い
37　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土多く含み、やや粘性ある
38　灰白色粘土・茶褐色スコリア質土混合ブロック層
39　黒褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック若干含む
40　暗褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロックやや少ない
41　暗茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック少なく、暗茶褐色土多い
42　黒褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック混合層
43　暗黒褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック混合層
44　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土・ロームブロック若干含み、ザラつくが割合よくしまっている
45　暗黒褐色砂粒質土　スコリア多くザラザラしている
46　茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック若干含み、粘性強い、よくしまっている
47　暗褐色砂粒質土　スコリア多くザラザラしている、灰白色粘土粒子若干含む
48　茶褐色砂質土　灰白色粘土・ロームブロック部分的に含む、滞水層
49　暗茶褐色シルト粘土　砂質土若干含む
50　明茶褐色砂質粘土　砂質土若干含む
51　茶褐色砂質土　やや粗い砂粒含み、粘性若干あり
52　暗茶褐色シルト粘土　灰白色粘土・砂粒を若干含み、粘性強い
53　暗褐色シルト粘土　粘性非常に強い、滞水層
54　暗褐色砂質土　灰白色粘土わずかに含むブロック層
55　暗褐色砂質　割合細かい砂粒多く、灰白色粘土・ロームブロック少ない
56　明褐色粘質土　砂質分多い、粘性強く、よくしまっている
57　淡茶褐色粘質土　砂質分若干含む、粘性強い
58　暗茶褐色スコリア質土　粒子細かく、灰白色粘土・ローム粒子ほとんど含まない
59　暗褐色粘質土　ローム粒子・灰白色粘土粒子少ない、固くしまっている
60　青灰白色スコリアブロック層
61　暗茶褐色砂質土　灰白色粘土粒子・ローム粒子多く含み、ザラザラしている、滞水層
62　茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック非常に多く、粘性強い
63　暗黒褐色粘質土　ロームブロック若干含み、黒褐色スコリア質土混入、粘性強い
64　暗茶褐色粘質土　灰白色粘土わずかに含み、砂質分多いがよくしまっている
65　暗褐色粘質土　灰白色粘土わずかに含み、粒子割合細かい
66　淡茶褐色粘質土　ロームブロック非常に多い、灰白色粘土少量含み、よくしまっている
67　暗茶褐色粘質土　灰白色粘土ブロック若干含み、よくしまっている
68　暗褐色粘質土　黒褐色砂粒多い、ローム粒子・灰白色粘土粒子少ない
69　淡褐色粘質土　ロームブロック多く、灰白色粘土含む、よくしまっている
70　茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック、黒褐色粘質土混入
71　明褐色粘質土　ロームブロック層、粘性強い
72　暗茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック混合層、よくしまっている
73　暗褐色粘質土　灰白色粘土粒子若干含む、粘性強、よくしまっている
74　暗茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロック混合層、粘性強い

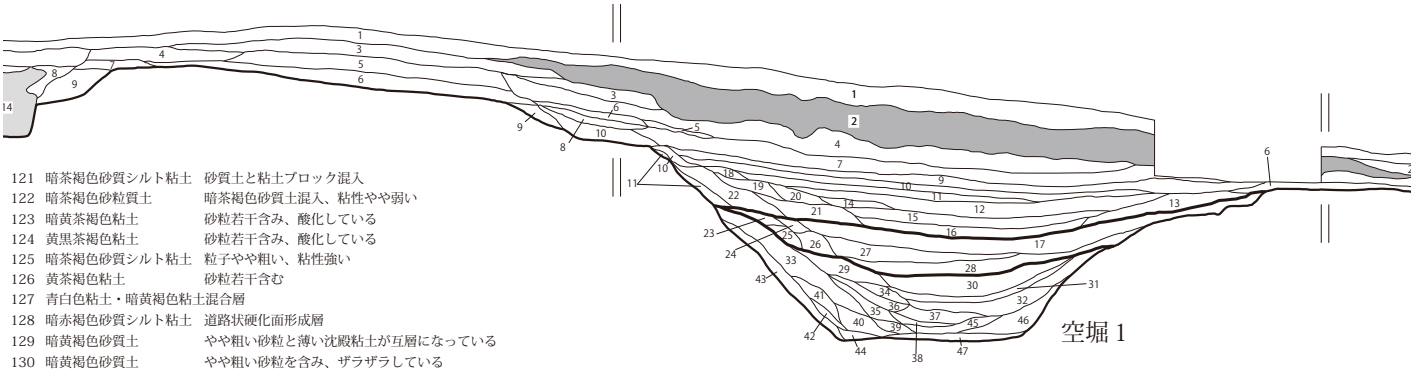
TR03 － 6 － 2（空堀２東側肩部）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　黄茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラして軟らかい、宝永期表土層
4　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗い、スコリア質地山層
5　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗いが、粘性あり、固くしまっている、スコリア質地山層
6　暗黒褐色粘質土　スコリア含む、粘性あり、よくしまっている、地山層
7　黒褐色粘質土　スコリア含む、粘性あり、よくしまっている、地山層
8　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
9　暗赤褐色粘質土　地山ローム漸移層

75　暗褐色粘質土　灰白色粘土粒子若干含む、粘性やや弱い
76　黒褐色砂粒質土　白色パミス多い、ザラついている
77　灰白色シルト粘土ブロック層
78　黒褐色砂粒質土　白色パミス多い、ザラついている
79　暗褐色粘質土　やや砂粒質で、ロームブロック少ない、粘性弱い
80　暗褐色粘質土　砂粒質で、粘性弱い
81　暗茶褐色粘質土　やや砂粒質で、ロームブロック非常に多い
82　暗褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
83　暗黒褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
84　淡茶褐色砂質土　シルト粘土がブロック状に入る
85　暗褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
86　暗黒褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒若干少ない
87　暗茶褐色粘質土層　黒褐色粘質土多く、ロームブロックがしもふり状に混合堆積
88　暗黒褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
89　暗褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
90　暗茶褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
91　淡黄茶褐色砂粒質土　シルト質、ローム粒子多く含む、褐色砂粒多い
92　黄灰白色シルト粘土層　硬化面、酸化して非常に固い
93　暗茶褐色粘質土　砂質土、粘性強い
94　暗黄青灰色砂質土　砂粒若干含む、シルト質ややあり
95　茶褐色砂粒質土　砂粒やや粗く、粘性弱い、ザラついている
96　青灰白色砂質土　やや粗い砂粒質土が互層化している、粘性若干あり
97　黄青灰白色シルト純層　一部酸化して黄赤色化している
98　青灰茶褐色砂質土　砂質土より粒子粗く、ザラザラしている
99　淡黄白色砂質土　シルト質混入、小礫若干混入
100　暗茶褐色砂粒質土　暗褐色砂粒を多量に含む
101　淡灰茶褐色砂質土　粒子粗く、ザラついている
102　灰茶褐色砂質土　シルト質ややあり、粘性あり
103　青灰茶褐色シルト層　やや砂質、粘性あり
104　青灰茶褐色シルト純層　粘性強い、わずかに砂質
105　青灰白色シルト純層　粘性強い、わずかに砂質
106　暗茶褐色シルト純層　道路状硬化面形成層
107　灰茶褐色砂質土　暗褐色砂粒含む
108　暗灰茶褐色砂粒質土　暗褐色砂粒多く含む、粘性弱い
109　灰茶褐色砂質土　灰白色シルト層の薄層と互層になる
110　灰茶褐色シルト粘土　やや砂質、滞水沈殿物堆積層
111　灰白色シルト粘土　暗茶褐色砂粒質土と互層になる
112　灰茶褐色シルト粘土　やや砂質、滞水沈殿物堆積層
113　暗褐色砂粒質土　黄白色シルト質強い、粘性ある
114　暗黒褐色砂粒質土　暗茶褐色砂粒混入
115　暗茶褐色砂粒質土　黄茶褐色ロームブロック混入、青灰色砂質層と互層になる
116　暗褐色砂質土　暗黒褐色・暗黄褐色粘質土混入
117　暗黄茶褐色砂質土　黄茶褐色シルト質強い、粘性ある
118　暗青灰色砂質土　黄白色・茶褐色・暗青灰色砂質シルトが混合
119　暗黒褐色砂粒質土　暗茶褐色砂質土混入、粘性強い
120　暗褐色砂粒層　砂質土・粘土ブロック多く含む

第 27 図　空堀２～大庭郭張出　TR03［1/100］

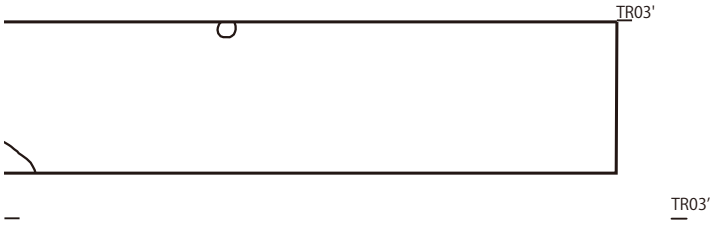




121　暗茶褐色砂質シルト粘土　砂質土と粘土ブロック混入
122　暗茶褐色砂粒質土　暗茶褐色砂質土混入、粘性やや弱い
123　暗黄茶褐色粘土　砂粒若干含み、酸化している
124　黄黒茶褐色粘土　砂粒若干含み、酸化している
125　暗茶褐色砂質シルト粘土　粒子やや粗い、粘性強い
126　黄茶褐色粘土　砂粒若干含む
127　青白色粘土・暗黄褐色粘土混合層
128　暗赤褐色砂質シルト粘土　道路状硬化面形成層
129　暗黄褐色砂質土　やや粗い砂粒と薄い沈殿粘土が互層になっている
130　暗黄褐色砂質土　やや粗い砂粒を含み、ザラザラしている
131　黄赤褐色砂質土　粗粒スコリアを含む、粘性少なく、ザラついている
132　淡黄灰褐色砂質土　砂質土・砂粒土混合、やや粘性あり、地山ロームが硬化面になる

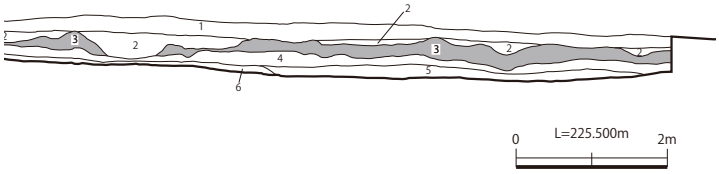
TR03 － 6 － 3（空堀１）

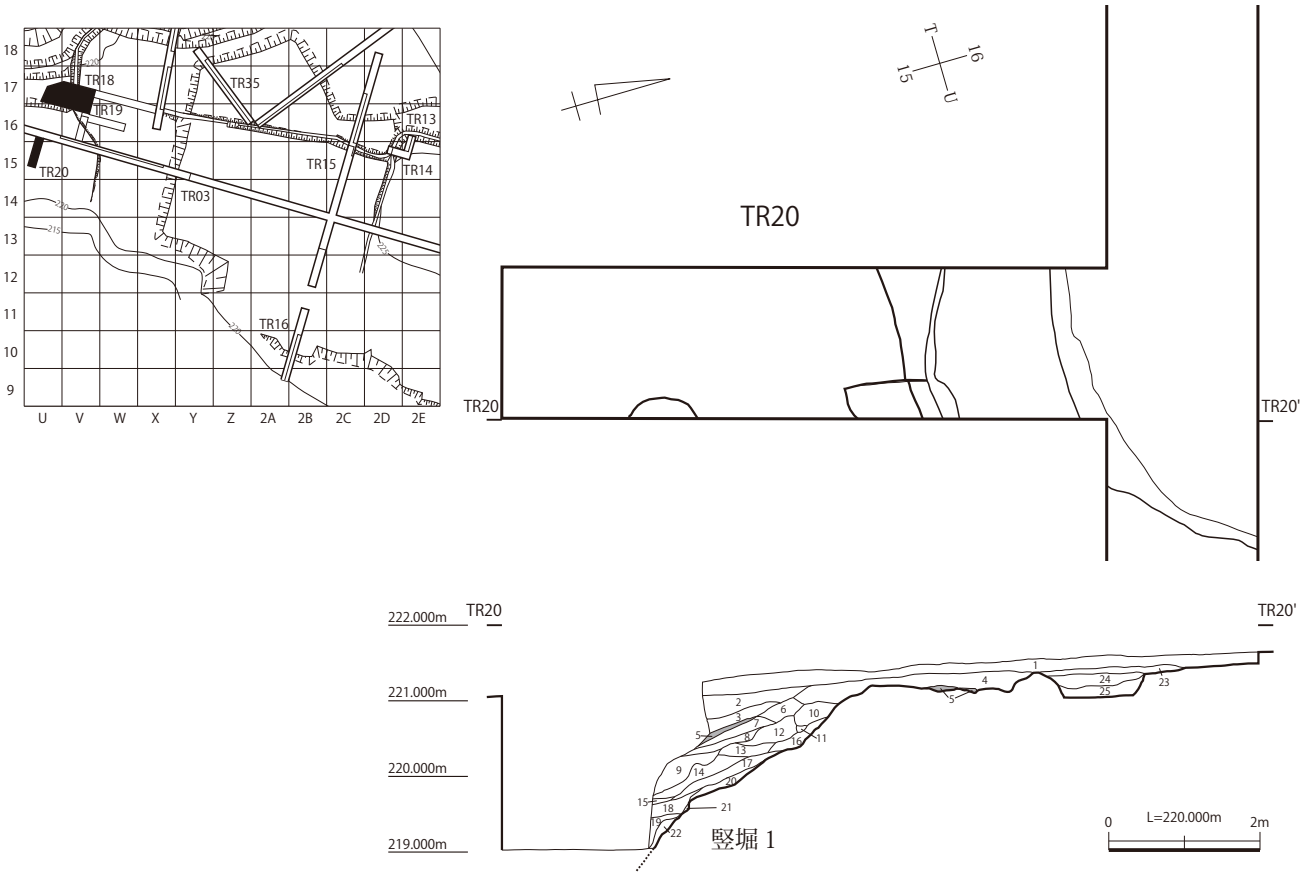
1　表土耕作土
2　宝永火山灰自然堆積層
3　淡黄茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、全体にザラついている
4　暗黄褐色スコリア質土　スコリア粗く、割合固くしまっている、黒褐色土混入
5　黒褐色スコリア質土　スコリア粗いが、割合しまっている
6　黒褐色スコリア質土　スコリア粗く、赤色・白色パミス多量混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラつくがよくしまっている
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、赤色・白色パミス多量混入
9　暗茶褐色粘質土層　地山層、非常に固く、粘性強い
10　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている
11　淡明褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている
12　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが、割合よくしまっている
13　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが、割合よくしまっている
14　暗明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、全体にしっかりとしまっている
15　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、茶褐色土がしもふり状に若干混入
16　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、茶褐色土がしもふり状に若干混入
17　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、茶褐色土がしもふり状に若干混入
18　明褐色スコリア質土　粗粒スコリア割合多く、灰白色粘土粒子若干含む
19　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア割合多く、ややザラザラしている
20　淡明茶褐色スコリア質土　スコリア割合細かく、灰白色粘土粒子多い、粘性ありよくしまっている
21　暗茶褐色スコリア質土　スコリア割合細かく、粘性ありよくしまっている
22　明褐色スコリア質土　灰白色粘土ブロック多く含み、粘性強、よくしまっている
23　明褐色スコリア質土　赤褐色スコリア含み、やや粗い、ザラついている
24　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘質土混入
25　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、サラサラしてしまっている、粘性強い
26　黒褐色スコリア質土ブロック層
27　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ロームブロック・灰白色粘土多少混入
28　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、ロームブロック・灰白色粘土多く混入
29　茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、黒褐色土がしもふり状に混入
30　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや多く、ロームブロック・灰白色粘土若干混入
31　暗黒褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや多く、白色パミス多く含む
32　淡茶褐色粘質土　スコリア少なく、灰白色粘土を多く含む、シルト質スコリア土
33　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、灰白色粘土を若干含む
34　暗茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア多く、灰白色粘土を若干含む、ややザラついている
35　暗褐色スコリア質土　粗粒スコリアやや多く、灰白色粘土粒子を多く含む、やや粘土質土である
36　淡茶褐色粘質土　スコリアやや少なく、灰白色粘土粒子多く含む
37　黒褐色スコリア質土　粗粒スコリア割合多く、ザラつくがよくしまっている
38　赤茶褐色スコリア質土　赤褐色スコリア非常に多く、ロームブロック層に近い
39　暗黒褐色砂質土　黒色土混入、滞水層
40　暗茶褐色砂質土　粗粒スコリア非常に多く、黒色土混入、滞水層
41　暗褐色砂質土　粗粒スコリア少なく、サラサラしているが粘性ある
42　暗褐色砂質土　粗粒スコリア非常に多く、サラサラしているが粘性ある
43　暗茶褐色砂質土　粗粒スコリア非常に多く、サラサラしているが粘性ある、灰白色粘土若干含む
44　暗褐色砂粒質土　粗粒スコリア非常に多く、ザラザラしている、滞水層
45　暗灰褐色シルト粘質土　ややザラつくが、シルト粘土層に近い
46　暗灰黄褐色砂質土　スコリア少なく、灰白色シルト粘土多く混入
47　黄茶褐色粘質土　スコリア少なく、灰白色シルト粘土ブロック混入、若干砂質



TR03 － 6 － 4（トレンチ）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰混入
3　宝永火山灰自然堆積層
4　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、宝永期表土そう
5　明茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
6　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや少なく、白色パミス多い、地山層

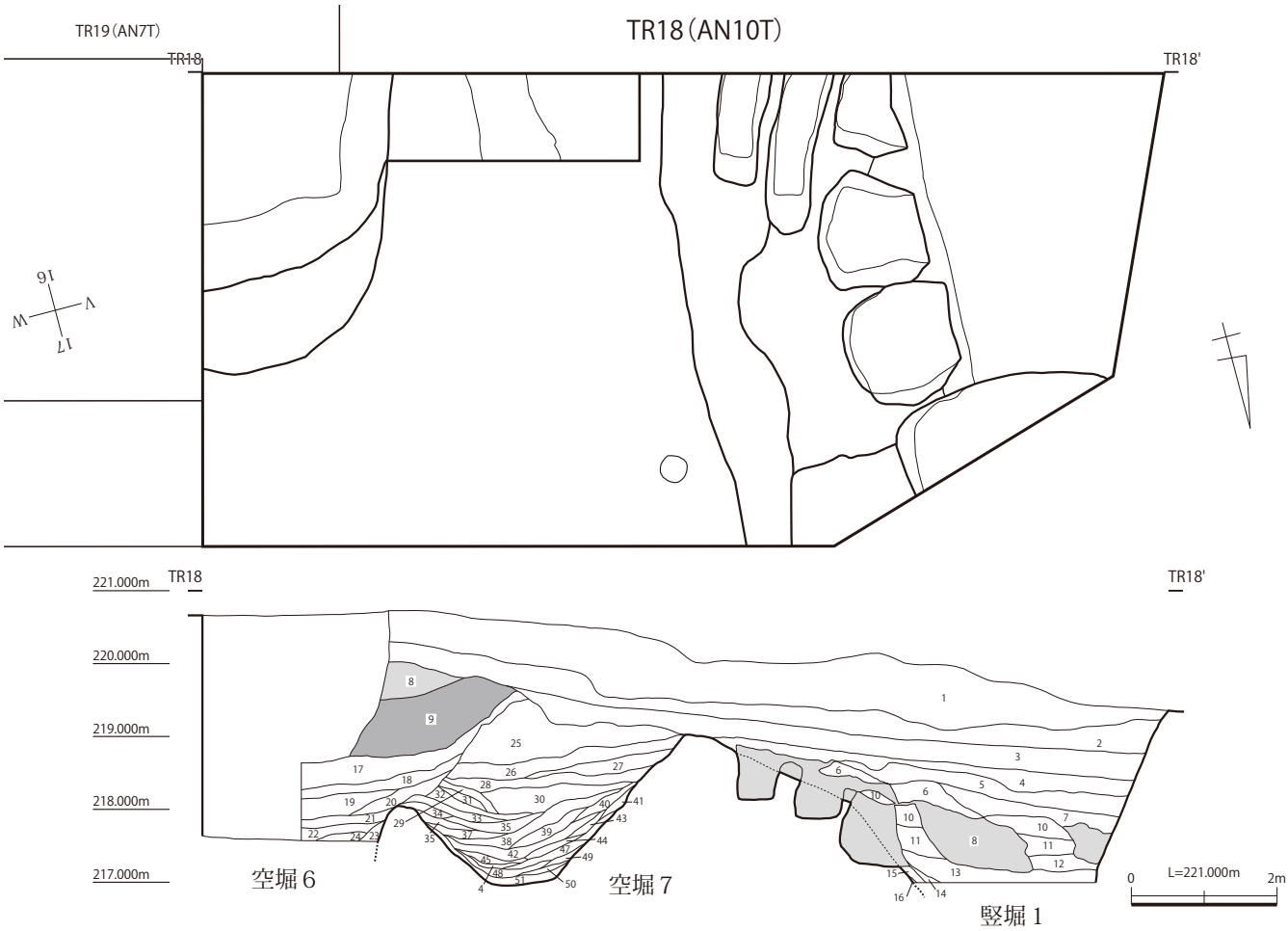




TR20 土層説明（竪堀１）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5　宝永火山灰自然堆積層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性少ない
7　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性少ない
8　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性少ない
9　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含む、粘性弱い
10　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含む、粘性ややある
11　灰白色粘土ブロック層
12　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性強い、よくしまっている
13　灰茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子多量に含む、粘性強い
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含む、粘性ある
15　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている
16　暗灰茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子多量に含む、粘性強い
17　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含む、粘性弱い
18　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
19　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土混合層
20　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
21　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
22　灰白色粘土ブロック層　地山風化層
23　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
24　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラザラしている、粘性弱い
25　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、ザラザラしている、粘性弱い

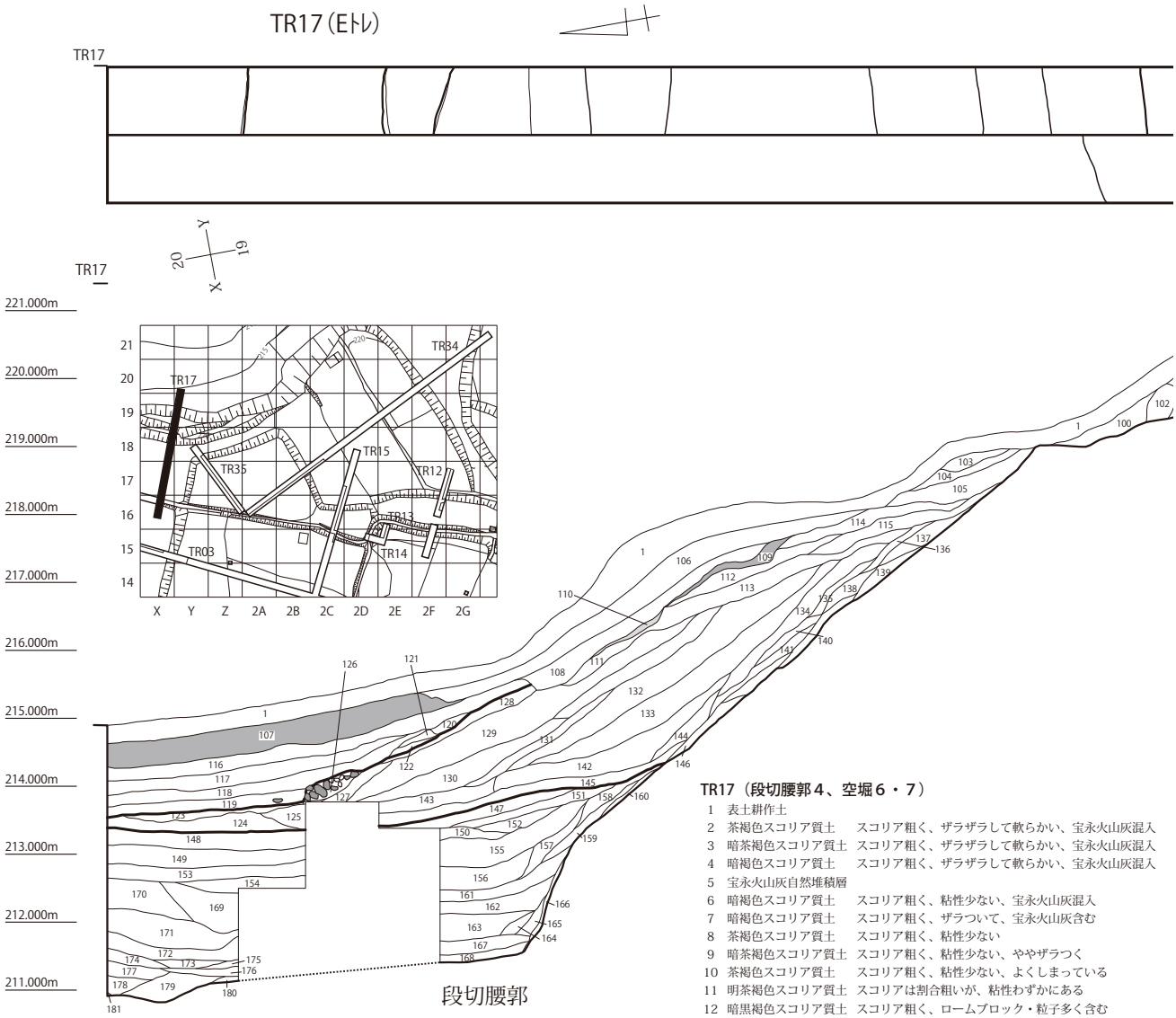
第 28 図　近藤郭　TR20［1/100］

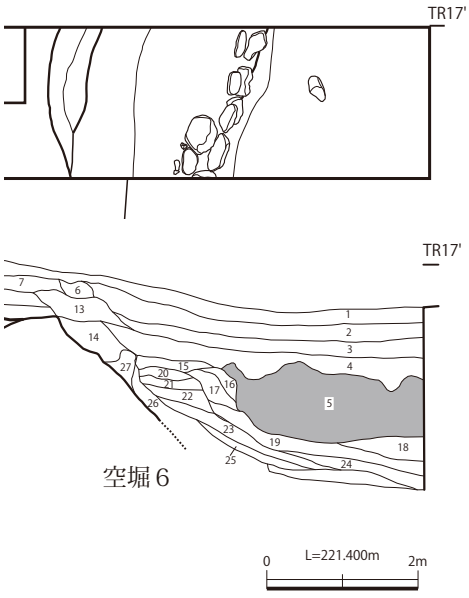


TR18 土層説明（空堀６・７、竪堀１）

1	表土耕作土層	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4	暗褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
5	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
6	黄茶褐色ロームブロック層	
7	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
8	宝永火山灰天地返し層	
9	宝永火山灰自然堆積層	
10	茶褐色スコリア質土	スコリアやや緻密で、粘性も若干ある
11	淡茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、粘性あり、よくしまっている
12	暗黒褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、砂粒・小礫混入、固い
13	暗褐色スコリア質土	スコリアやや緻密で、粘性も若干ある
14	黄茶褐色ロームブロック層	
15	暗黒褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、砂質土に近い
16	暗赤茶褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、ザラついている
17	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある
18	暗褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある
19	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、よくしまっている
20	暗褐色スコリア質砂質土	スコリア粒子は緻密で、粘性やや強い
21	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性強い
22	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子は緻密で、粘性やや強い
23	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子緻密で、サラサラしている、粘性強い
24	茶褐色スコリア質土	スコリア細かく、ロームブロック混入、粘性強い
25	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性弱い
26	暗明褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
27	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
28	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
29	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性若干ある
30	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、ローム粒子若干含む
31	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、よくしまっている
32	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
33	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや緻密で、粘性あり、しまっている
34	淡褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗いが、全体によくしまっている
35	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
36	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子含み、粘性あり
37	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや緻密で、粘性ある
38	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、全体によくしまっている
39	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性やや強い
40	淡暗褐色スコリア質土	ローム粒子少量含み、やや粘性ある
41	淡褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
42	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性若干ある、しまっている
43	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性若干ある
44	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合に緻密で、よくしまっている
45	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや緻密で、ローム粒子割合多く混入
46	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子緻密で、全体にサラサラしている
47	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子非常に細かく、粘性若干ある
48	暗黄茶褐色スコリア質土	スコリア粒子緻密で、粘性あり、固くしまっている
49	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、よくしまっている
50	暗黄褐色スコリア質土	ローム粒子多いが、粘性強く、しまっている
51	明褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、砂質土壌になる、小礫含む

第 29 図　近藤郭　TR18［1/100］

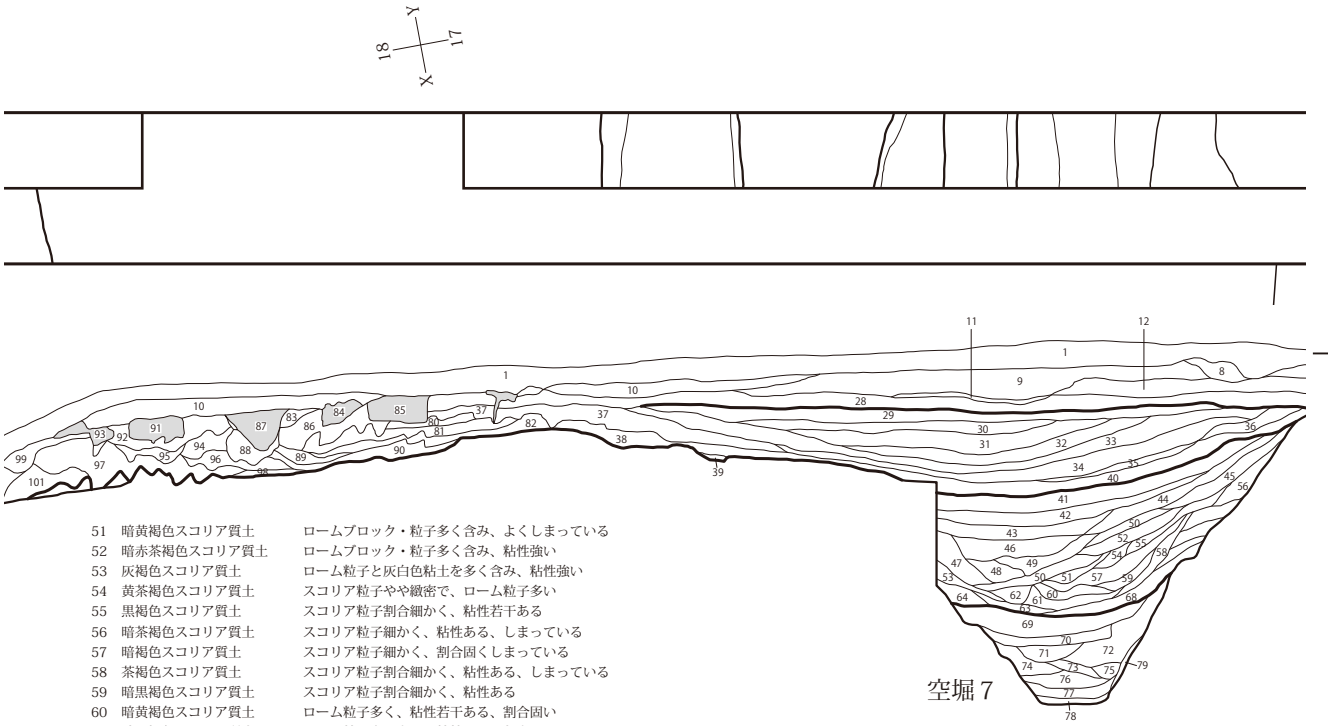




TR17（段切腰郭４、空堀６・７）

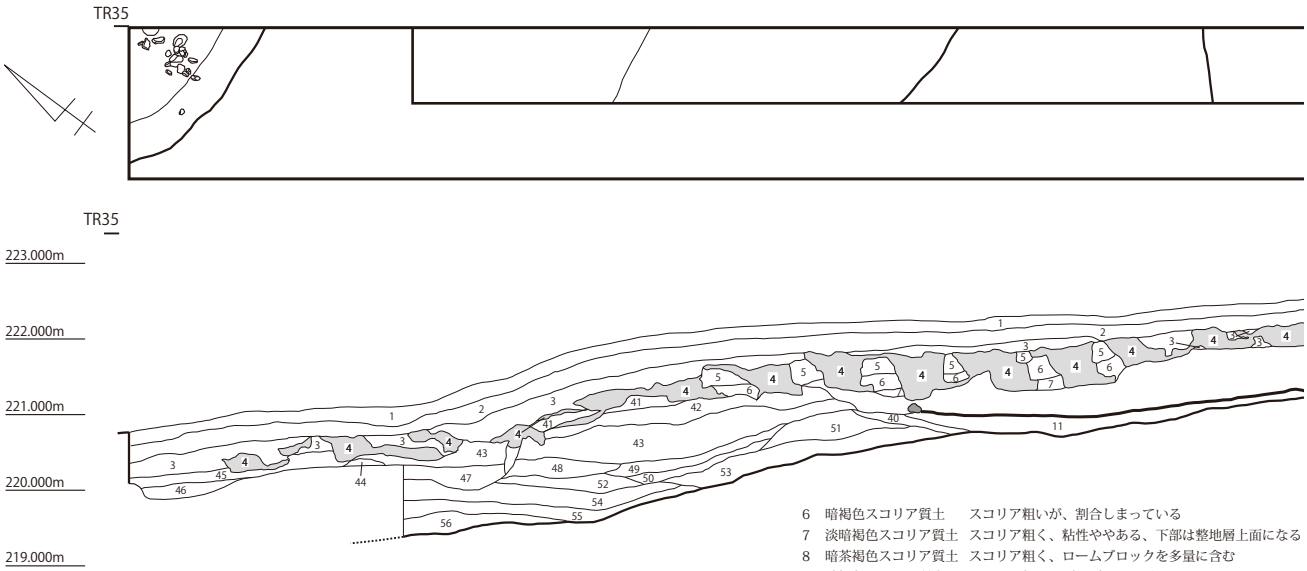
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4　暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
5　宝永火山灰自然堆積層
6　暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない、宝永火山灰混入
7　暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついて、宝永火山灰含む
8　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない
9　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない、ややザラつく
10　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない、よくしまっている
11　明茶褐色スコリア質土　スコリアは割合粗いが、粘性わずかにある
12　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粗く、ロームブロック・粒子多く含む
13　灰茶褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、灰白色粘土多く含む
14　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、割合固い
16　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない、よくしまっている
17　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
18　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性ややあり、軟らかい
19　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
20　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合粗いが、全体によくしまっている
21　暗黒褐色スコリア質土　スコリア割合粗く、ローム粒子混入、粘性少ない
22　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性少ない、しまっている
23　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、粘性あり
24　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性弱い
25　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性若干あり
26　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性もある、割合固い
27　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある
28　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、ロームブロック混入
29　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
30　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ローム粒子混入、割合固い
31　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、粘性あり、しまっている
32　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
33　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土を混入し、ローム粒子多く含む
34　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、灰白色粘土を含む
35　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性少ない
36　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、ローム粒子混入
37　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、ローム粒子若干含む、割合固い
38　暗黄赤褐色ロームブロック層
39　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている
40　暗茶褐色スコリア質土　スコリアはやや粗く、ローム粒子多く混入
41　暗褐色スコリア質土　スコリアはやや粗く、粘性すくないが、よくしまっている
42　暗黒褐色スコリア質土　スコリアはやや粗いが、粘性あり、しまっている
43　茶褐色スコリア質土　スコリアはやや粗く、粘性少ない、割合固い
44　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、粘性もある
45　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、全体によくしまっている
46　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、ロームブロック・粒子多い
47　暗褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、ローム粒子多い
48　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、固くしまっている
49　暗黒褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、粘性あり、しまっている
50　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、よくしまっている

第 30 図　近藤郭　TR17［1/100］



51　暗黄褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含み、よくしまっている
52　暗赤茶褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含み、粘性強い
53　灰褐色スコリア質土　ローム粒子と灰白色粘土を多く含み、粘性強い
54　黄茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや緻密で、ローム粒子多い
55　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性若干ある
56　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、しまっている
57　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、割合固くしまっている
58　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある、しまっている
59　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある
60　暗黄褐色スコリア質土　ローム粒子多く、粘性若干ある、割合固い
61　暗黒褐色スコリア質土　ローム粒子多く含み、粘性あり、割合固い
62　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、しまっている
63　暗赤茶褐色スコリア質土　ローム粒子割合多く、砂礫を多く含む
64　暗赤褐色スコリア質土　ローム粒子多いが、緻密で粘性強い、砂礫混入
65　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、よくしまっている
66　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり、しまっている
67　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり、しまっている
68　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性もある、割合固い
69　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、よくしまっている
70　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、かなりしまっている
71　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、砂礫を若干含む
72　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、砂礫が多く混入、粘性少ない
73　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、ローム粒子若干含む、粘性少ない
74　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かいが、砂礫混入、粘性弱い
75　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり、しまっている
76　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性少ない、砂礫含む
77　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、砂礫を含んで、粘性ある
78　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、砂礫含む、砂質土壌
79　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり
80　黄白色粘土・茶褐色土混合層　粘性強くよくしまっている
81　黄白色粘土ブロック層
82　暗黄赤褐色ロームブロック層　粒子粗く、ザラザラしている
83　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、粘性少ない
84　宝永火山灰天地返し層
85　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、宝永火山灰混入
86　暗茶褐色スコリア質土　スコリア割合細かく、ザラつく、粘性若干ある
87　宝永火山灰天地返し層
88　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗いが、よくしまっている、粘性あり
89　暗黒褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、よくしまっている、粘性あり
90　暗黒褐色スコリア質土　暗茶褐色粘質土がしもふり状に混入
91　宝永火山灰天地返し層
92　淡茶褐色スコリア質土　スコリアは非常に粗く、ザラついて、軟らかい
93　宝永火山灰天地返し層
94　暗褐色スコリア質土　暗黄茶褐色ローム漸移層をブロック状に混入
95　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている
96　暗黒褐色スコリア質土　スコリアはやや粗く、ローム粒子若干混入
97　黄茶褐色ローム漸移層ブロック層
98　暗赤褐色スコリア質ロームブロック層
99　暗明褐色スコリア質土　スコリア粒子は緻密で、ローム漸移層に近い
100　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合粗く、ザラザラしている
101　暗黒褐色スコリア質土　ローム漸移層ブロックを混入、粘性強い
102　暗明褐色スコリア質土　ローム漸移層に近く、粘性強い
103　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
104　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合粗く、粘性少ない、しまっている
105　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
106　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子非常に粗く、宝永火山灰含む
107　宝永火山灰自然堆積層
108　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、宝永火山灰含む
109　宝永火山灰自然堆積層
110　宝永火山灰自然堆積層
111　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗いが、粘性あり、よくしまっている
112　淡茶褐色スコリア質土　ロームブロック・小砂礫多量に混入
113　茶褐色スコリア質土　ロームブロック多く含み、粘性ある
114　明褐色スコリア質土　ロームブロック・小砂礫多量に含む
115　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あるが、ローム粒子多い
116　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合粗く、砂礫混入
117　茶褐色スコリア質土　スコリアは割合粗いが、粘性ある、砂礫混入
118　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、砂礫混入
119　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、砂礫若干混入、粘性がある
120　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、砂礫多く含む
121　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ローム粒子や砂礫を多く含む
122　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、砂礫を多く含む
123　暗赤茶褐色スコリア質土　ローム漸移層に類似した硬化層、非常に固い
124　灰茶褐色ロームブロック層　大形ロームブロックの純層、準硬化層
125　灰茶褐色ロームブロック層　小形ロームブロックの純層、準硬化層
126　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラつく、粘性少ない
127　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性割合強い、やや固い
128　暗明褐色スコリア質土　ロームブロック多量に含む、準硬化層
129　灰茶褐色ロームブロック層　粘性あり、固くしまっている
130　灰茶褐色ロームブロック層　ブロック細かく、全体によくしまっている
131　暗茶褐色ロームブロック層　粘性あり、よくしまっている
132　茶褐色ロームブロック層　固くしまっている、粘性あり
133　明褐色ロームブロック層　粘性あり、よくしまっている
134　淡茶褐色スコリア質土　ローム粒子非常に多く、全体によくしまっている
135　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、ローム粒子多い
136　暗赤茶褐色砂質土　ローム粒子多く含み、粘性強い、よくしまっている
137　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粘性強い
138　暗黒褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粘性あり
139　茶褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粘性強い
140　暗褐色スコリア質土　ローム粒子多く、粘性強い、固くしまっている
141　暗黒褐色スコリア質土　ローム粒子非常に多く、固くしまっている、粘性強い
142　明褐色ロームブロック層　固くしまっている、粘性強い
143　明茶褐色ロームブロック層　やや大形のブロックで、全体にボロボロしている
144　暗赤茶褐色スコリア質土　やや粗いロームブロック・粒子多い、割合固い
145　暗茶褐色ロームブロック層　やや大形のブロックで、粘性強く、固くしまる
146　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子ブロックで、固くしまり、粘性ある
147　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、よくしまっている
148　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、よくしまっている
149　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
150　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、粘性ある
151　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり、よくしまっている
152　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある
153　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある、固くしまっている
154　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある
155　暗赤褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある、ローム粒子多い
156　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある
157　淡茶褐色スコリア質土　スコリアはやや粗いが、粘性ある
158　明褐色スコリア質土　スコリアはやや粗く、粘性ある、割合固い
159　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性がある、しまっている
160　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性少ない
161　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
162　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性少ない
163　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、多少ザラついている
164　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子は多少粗い、粘性ある、しまりある
165　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かい、粘性やや強い
166　淡茶褐色砂質土　スコリア粒子非常に細かい、粘性も強い、サラサラする
167　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性強い、しまっている
168　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子緻密で、砂質土を多く混入、粘性ある
169　淡赤茶褐色スコリア質土　粘性あり、固くしまっている、スコリアはやや粗い
170　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗いが、よくしまっている
171　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性ある、しまっている
172　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あり、割合固い
173　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、しまっている、粘性あり
174　明褐色スコリア質土　ローム粒子多く、全体によくしまっている、粘性ある
175　明褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性ある、ローム粒子多い
176　暗黒褐色スコリア質土　ローム粒子多く含み、粘性強い、よくしまっている
177　明褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粘性強い、よくしまっている
178　暗黒褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粘性あり、固くしまる
179　暗赤茶褐色スコリア質土　ローム粒子多量に含み、粒子粗い、ザラザラする
180　暗黒茶褐色スコリア質土　ローム粒子多く、緻密で粘性強い、砂質土含む
181　暗茶褐色スコリア質土　ローム粒子非常に多いが、割合しまっている

TR35（Dトレ）

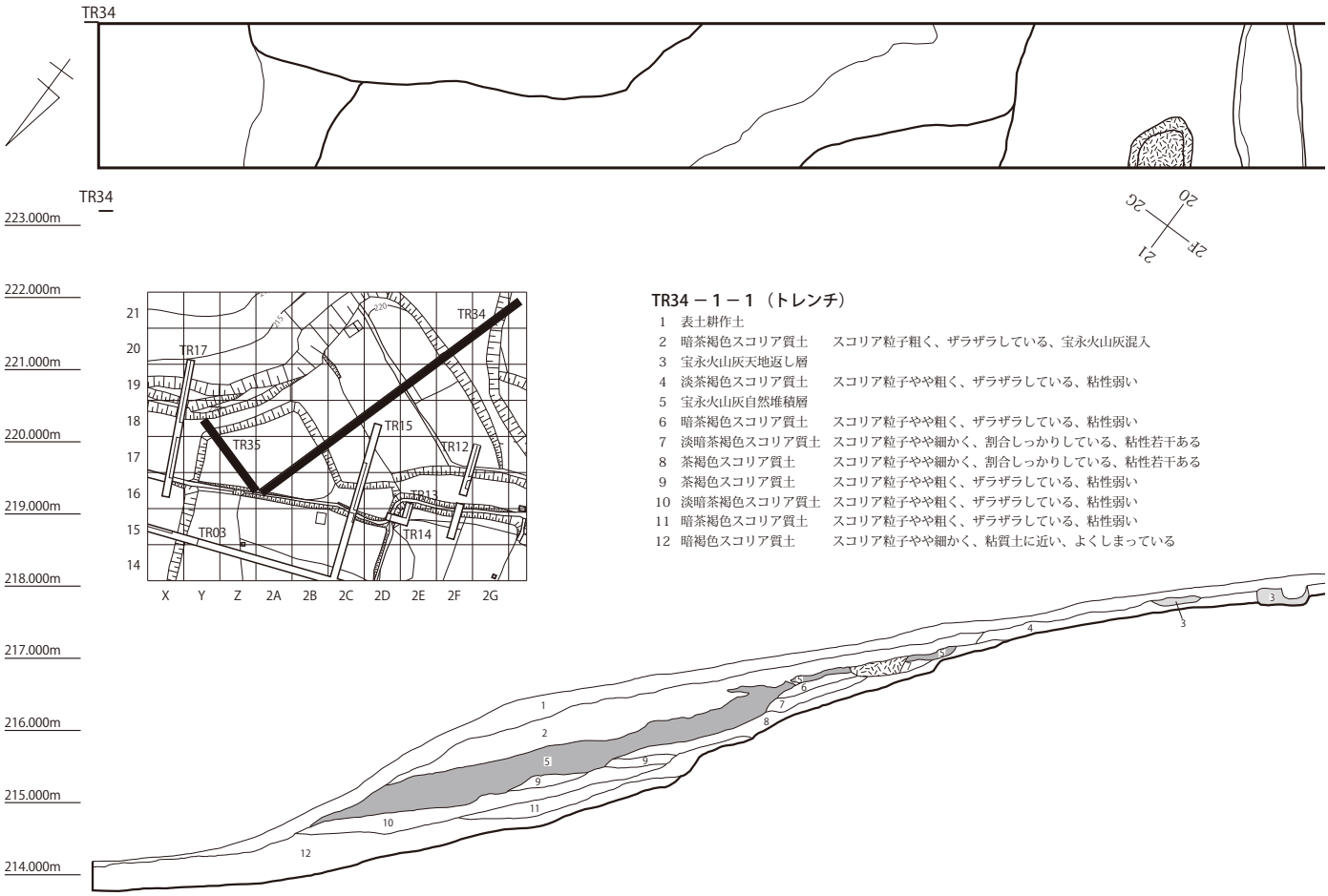


TR35（空堀４）

1　耕作土層
2　表土層
3　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性少ない
6　暗褐色スコリア質土　スコリア粗いが、割合しまっている
7　淡暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、粘性ややある、下部は整地層上面になる
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ロームブロックを多量に含む
9　暗褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラするが、しまっている
10　灰茶褐色ロームブロック層
11　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性あるが、ややザラつく
12　暗黒褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、ザラつくが、よくしまっている
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリアは割合粗いが、粘性わずかにある
14　暗褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、粘性あり、よくしまっている
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、ザラつくが、しまっている

第 31 図　大庭郭　TR35［1/100］

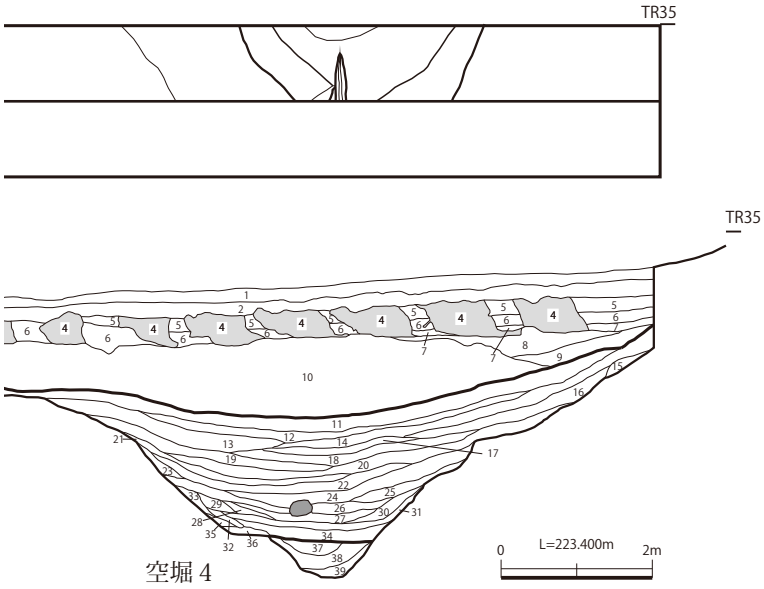
TR34（Cトレ）



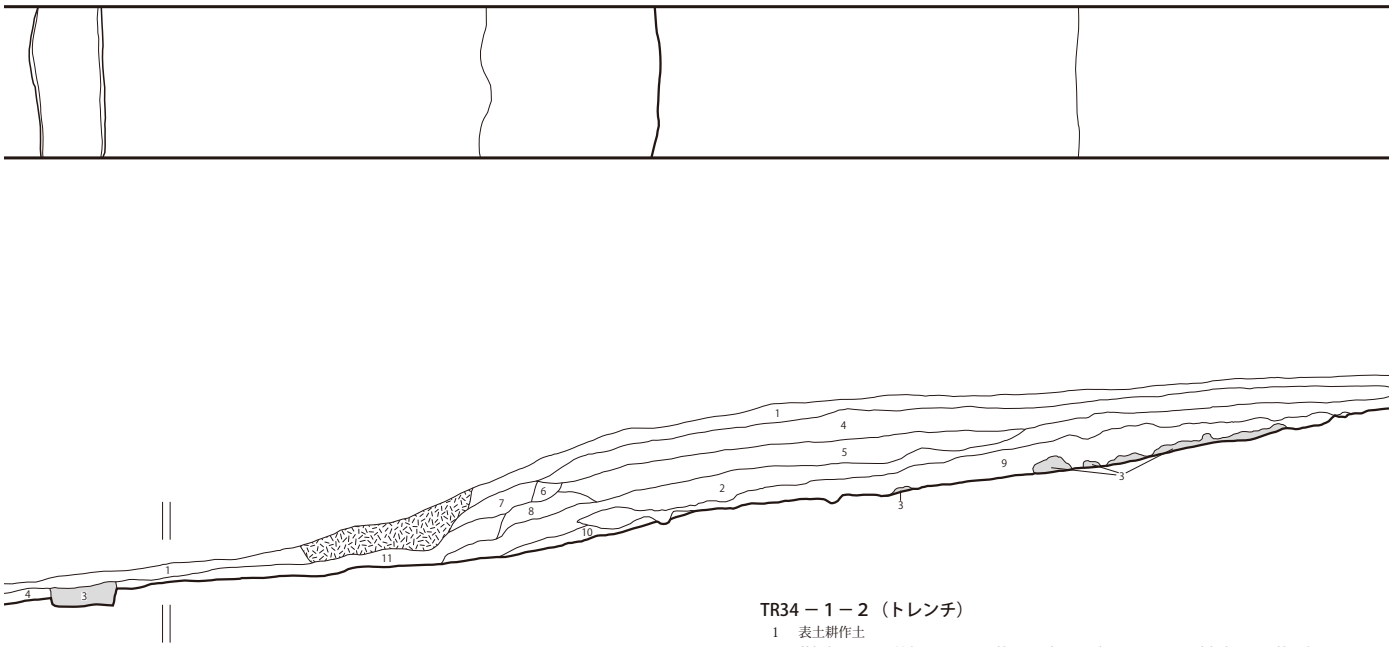
TR34－1－1（トレンチ）

1　表土耕作土
2　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰天地返し層
4　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
5　宝永火山灰自然堆積層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
7　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、割合しっかりしている、粘性若干ある
8　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、割合しっかりしている、粘性若干ある
9　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
10　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
12　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、粘質土に近い、よくしまっている

第 32 図　大庭郭～多地屋敷　TR34［1/100］

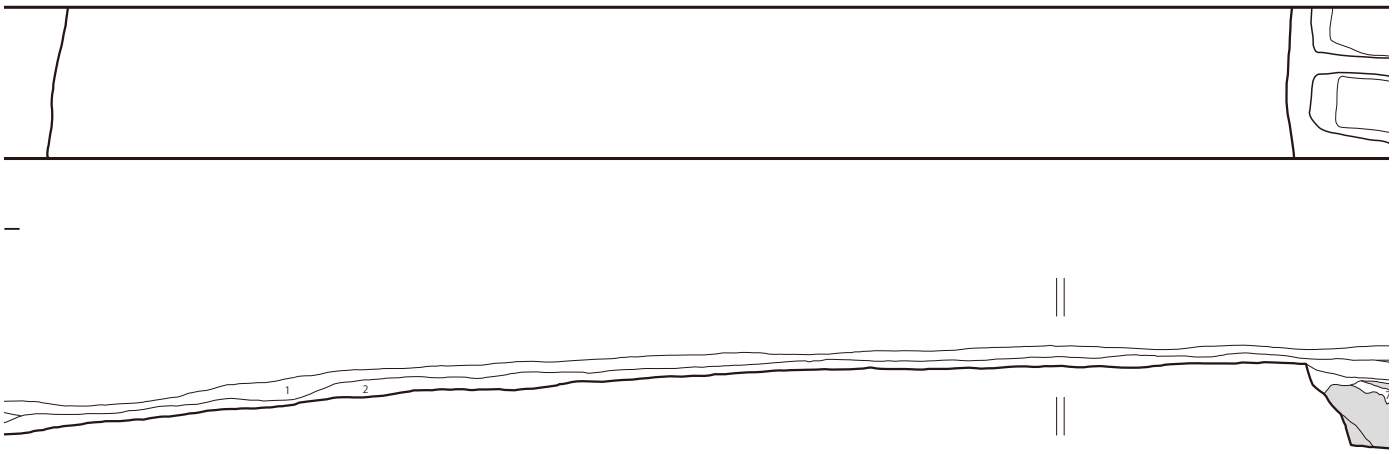


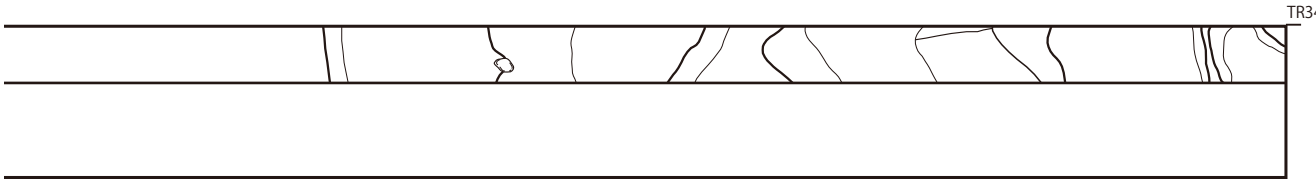
16　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い
17　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、割合固くしまっている
18　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが、粘性あり、よくしまっている
19　暗褐色スコリア質土　スコリアはやや粗いが、よくしまっている
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、粘性ややあり
21　暗褐色スコリア質土　スコリアは割合細かく、粘性ある、よくしまっている
22　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合細かく、全体によくしまっている
23　淡茶褐色スコリア質土　スコリア割合粗く、ローム粒子混入、粘性少ない
24　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、ローム粒子混入
25　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性弱い、ローム粒子混入
26　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性若干あり
27　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性もある、しまっている
28　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、粘性若干ある
29　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合緻密で、ローム粒子若干含む
30　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ローム粒子混入、粘性少ない
31　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合緻密で、粘性あり、しまっている
32　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む、粘性あり
33　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かいが、ローム粒子多く含む
34　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、全体によくしまっている
35　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子は割合緻密で、粘性あり、割合しまっている
36　黄茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
37　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、粘性少ない、ローム粒子混入
38　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子細かく、全体によくしまっている
39　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子割合細かく、粘性ある、砂質土壌である
40　明褐色粘質土　ローム粒子多く、粘性あるが、サラサラしている
41　茶褐色スコリア質土　スコリアは粗く、ザラザラして、軟らかい
42　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子はやや粗く、ロームブロック混入
43　明茶褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子・灰白色粘土多量に含む
44　黄褐色粘質土　スコリア粒子は粗い、ロームブロック層
45　黄茶褐色粘質土　黄白色粘土とロームブロック・粒子の混合層
46　暗黄褐色粘質土　スコリア粒子は粗い、ロームブロック層
47　黄赤褐色粘質土　ローム層の純層に近いブロック層
48　淡黄茶褐色ロームブロック層
49　黄茶褐色粘質土　ローム漸移層のブロック層
50　暗褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含み、固くしまっている
51　茶褐色スコリア質土　ローム粒子・ブロック多く、粘性強く、しまっている
52　暗黒茶褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含み、よくしまっている
53　暗黒褐色スコリア質土　ロームブロック多く含み、よくしまっている
54　暗茶褐色スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含み、割合固い
55　黒褐色スコリア質土　ローム粒子非常に多いが、固くしまっている
56　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや緻密で、粘性ある

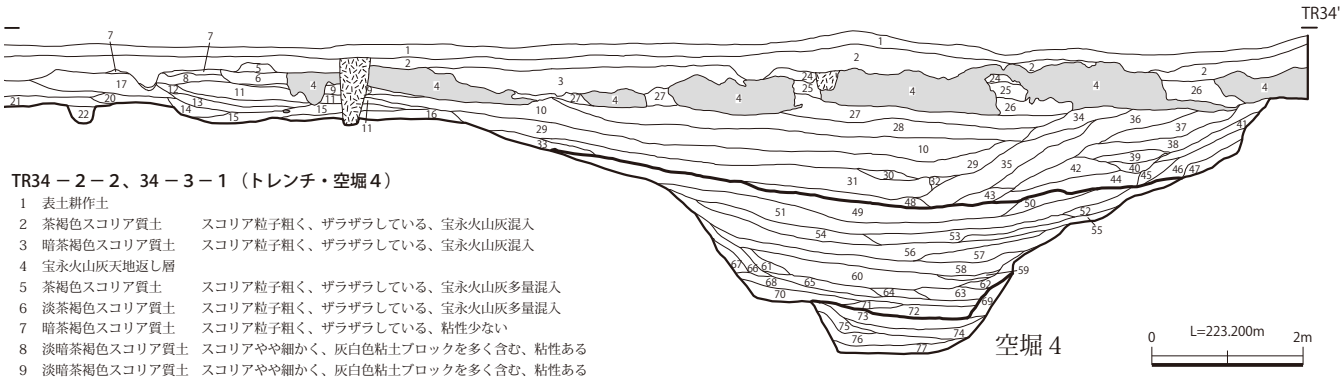


TR34 － 1 － 2（トレンチ）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、赤褐色ローム粒子多い
3　宝永火山灰天地返し層
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ブロック層、宝永火山灰混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
8　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
9　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰多量混入
10　赤茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、地山漸移層
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入



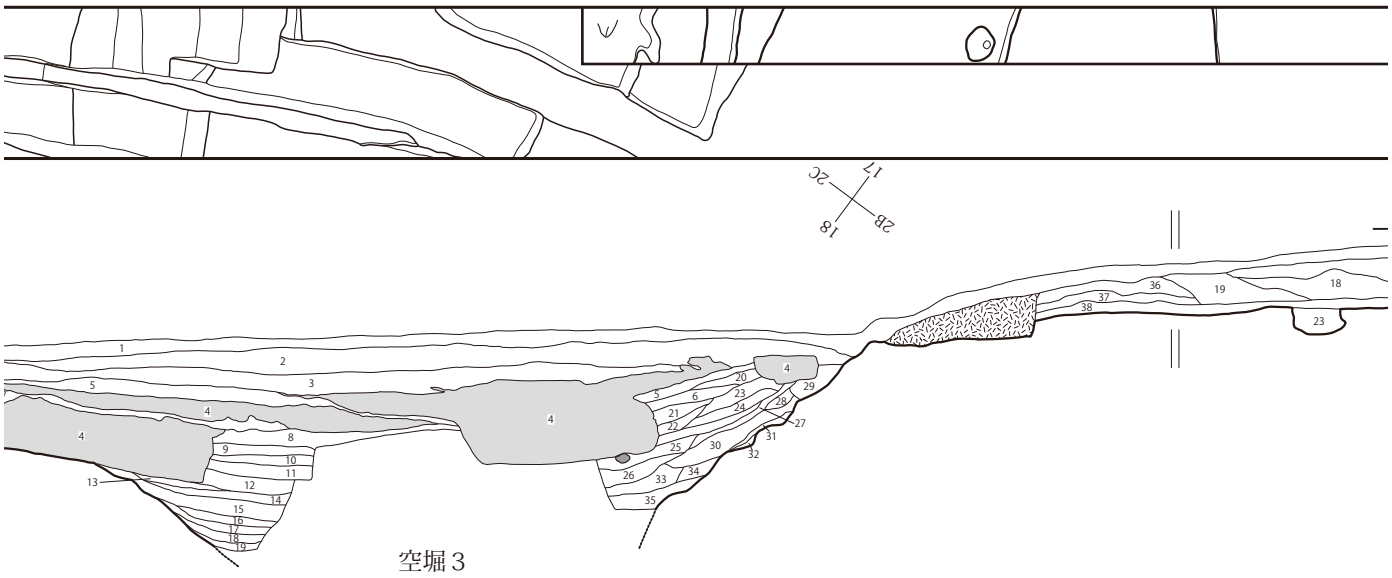




TR34－２－２、34－３－１（トレンチ・空堀４）

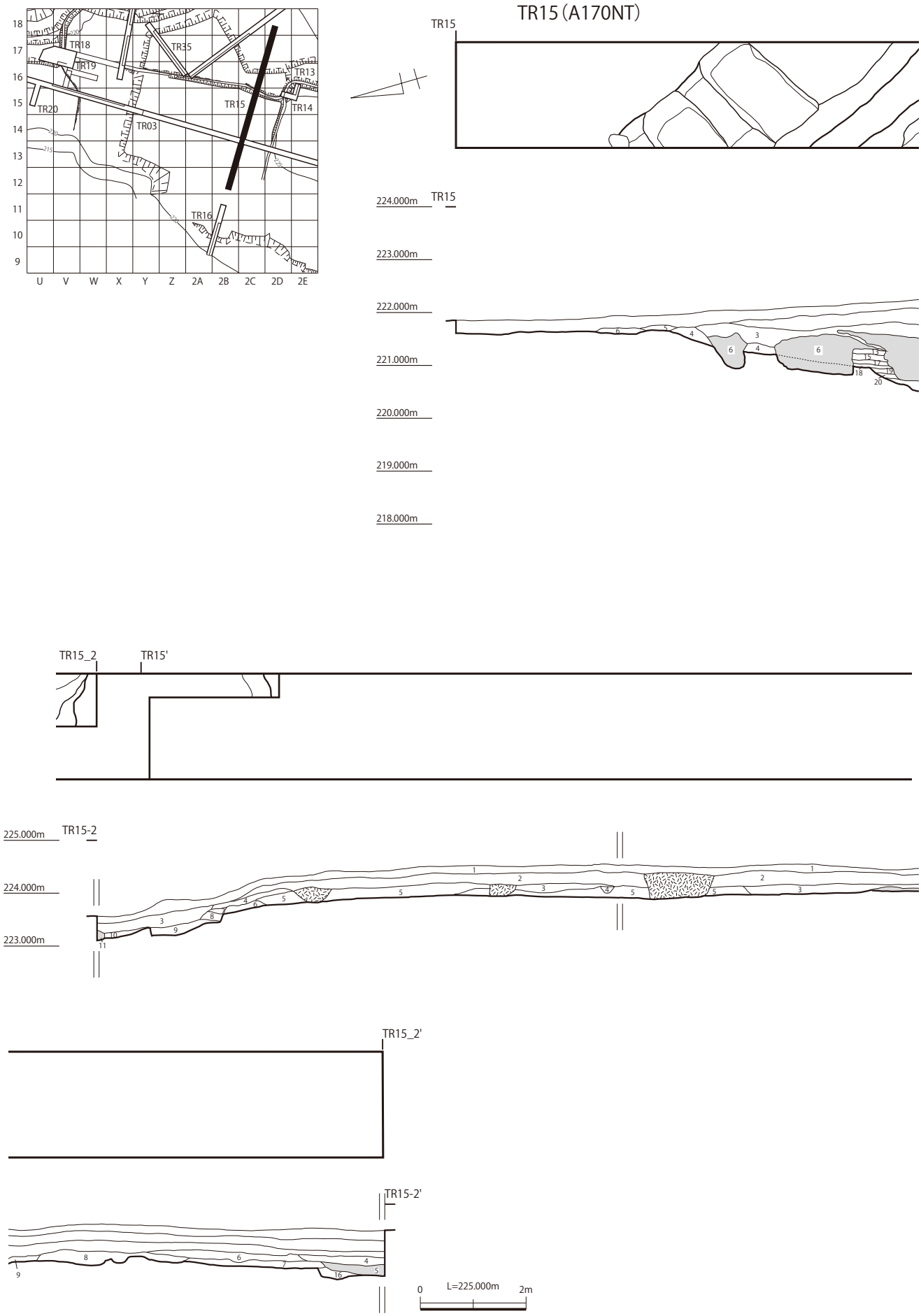
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰多量混入
6　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰多量混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性少ない
8　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロックを多く含む、粘性ある
9　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロックを多く含む、粘性ある
10　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、全体によくしまっている
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土小ブロックを多く含む、粘性ある
12　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土ブロック・ロームブロック多量混入
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土ブロック・粒子多量混入、ザラついている
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック多く含む、ザラザラしている
15　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック多く含む、ザラザラしている
16　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック多く含む、ザラザラしている
17　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
18　灰白色粘土・ロームブロック混合層
19　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、茶褐色土混入、割合よくしまっている
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラザラしている、粘性弱い
21　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い
22　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、若干粘性ある、ピット内堆積土
23　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、若干粘性ある、ピット内堆積土
24　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い、宝永火山灰多量混入
25　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
26　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性ややある、よくしまっている
27　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性ややある、よくしまっている
28　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い、よくしまっている
29　淡褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、全体によくしまっている
30　明茶褐色粘質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土・粒子ブロック層
31　淡暗赤褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰青色砂層・茶褐色砂層が互層状に堆積、滞水層
32　灰白色粘土・灰茶褐色粘土ブロック層
33　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
34　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、全体によくしまっている
35　灰白色粘土・茶褐色ロームブロック・黒褐色土混合層
36　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土・茶褐色ロームブロック・黒褐色土混入
37　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
38　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土・茶褐色ロームブロック・黒褐色土混入
39　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、焼土・炭化物混入
40　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、炭化物多量混入、焼土含む、粘性ある
41　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロック多い、粘性強い
42　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土・ロームブロック小量混入
43　暗赤褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土・ロームブロック多量混入
44　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土・ロームブロック小量混入
45　灰白色粘土ブロック層
46　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロックわずかに含む
47　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、サラサラしている、粘性若干ある
48　灰白色粘土・灰茶褐色粘土ブロック層　シルト粘土・砂層が堆積、整地層最下層として把握
49　淡暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラついている、粘性若干ある
50　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラついている、粘性若干ある
51　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、全体にしまっている
52　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、ローム粒子混入、粘性強い
53　明褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、ローム粒子混入、粘性強い
54　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、ローム粒子混入、粘性強い
55　暗黄赤茶褐色ロームブロック層
56　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、よくしまっている、粘性ある
57　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロック・粘質土多く含む
58　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、全体によくしまっている
59　暗赤褐色ロームブロック層
60　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ややザラつく、ローム粒子含む、粘性ある
61　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、全体によくしまっている
62　暗赤茶褐色ローム粘質土ブロック層
63　黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ローム粘質土ブロック混入、よくしまっている
64　灰黄白色粘土ブロック層
65　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、砂粒多い、滞水層
66　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、全体によくしまっている
67　茶褐色スコリア質土　暗褐色シルト粘質土混入
68　茶褐色シルト粘質土　スコリア細かく、粘性強い
69　暗茶褐色粘質土　スコリア細かく、ローム漸移層
70　暗褐色スコリア質土　茶褐色シルト質土多く混入
71　暗黄赤茶褐色シルト質ロームブロック層
72　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、シルト質ロームブロック多く含む
73　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック・粒子多く含む、砂層混入
74　暗褐色シルト質スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含む、砂層混入
75　暗明褐色シルト質スコリア質土　ロームブロック・粒子多く含む、砂層混入
76　暗明褐色砂質シルト層　粘性非常に強い、粒子の粗い砂粒多く混入、ザラザラしている
77　暗褐色砂質シルト層　粘性非常に強い、砂粒多く混入

第 33 図　大庭郭～多地屋敷　TR34［1/100］

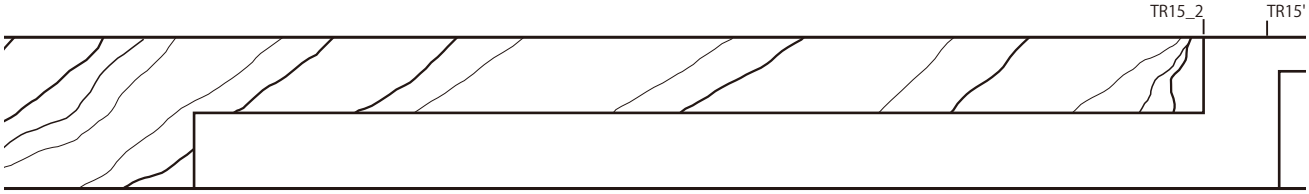


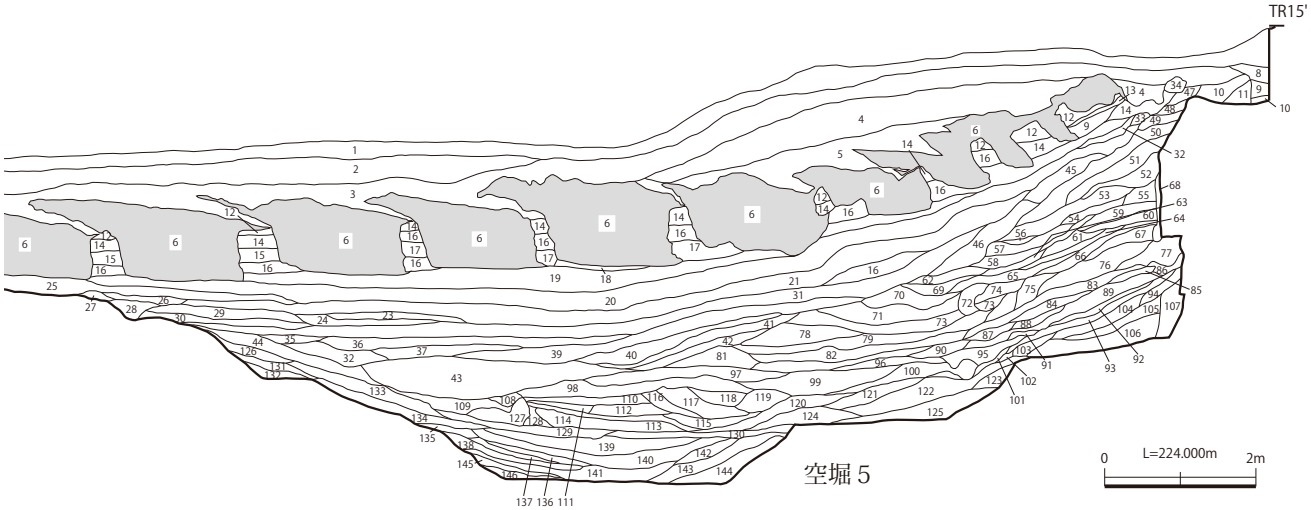
TR34 － 2 － 1 （空堀３）

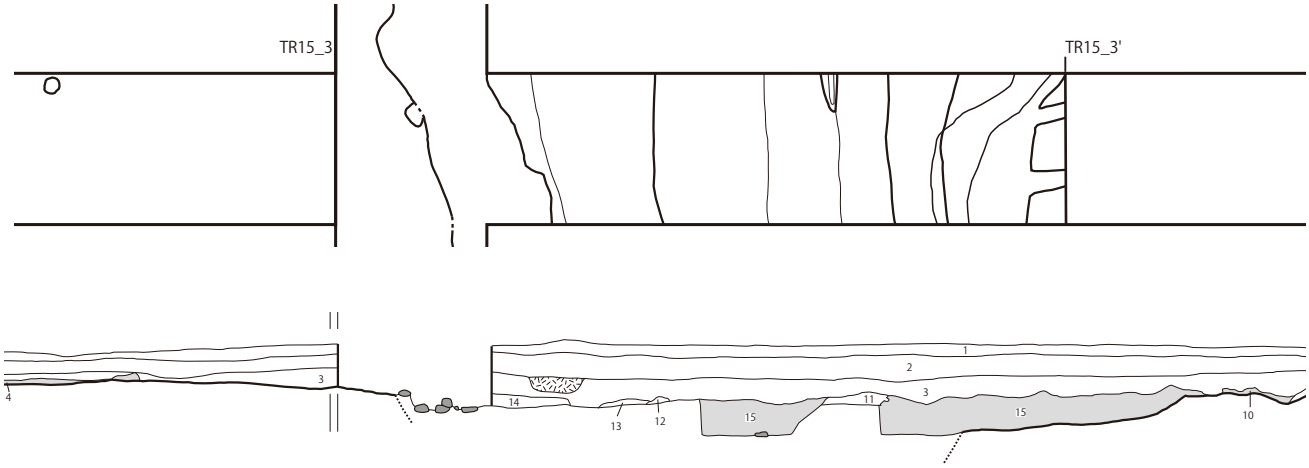
1	表土耕作土	
2	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰天地返し層	
5	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ややザラついている、割合しまっている
7	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
8	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ややザラついている、割合しまっている
9	淡暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ややザラついている、割合しまっている
10	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ややザラついている、割合しまっている
11	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、サラサラしている、割合しまっている
12	淡暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含み、固くしまっている
13	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、灰白色粘土・粒子若干含み、固くしまっている
14	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、灰白色粘土・粒子多く含み、固くしまっている
15	淡暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、灰白色粘土・粒子多く含み、固くしまっている
16	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、灰白色粘土・粒子多く含み、固くしまっている
17	暗褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック多く含み、粘性強い
18	暗黒褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック多く含み、粘性強い
19	黒褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック多く含み、粘性強い
20	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ややザラついている、割合しまっている
21	淡暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ややザラついている、割合しまっている
22	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ややザラついている、割合しまっている
23	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック・粒子多く含む、粘性ある
24	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
25	淡暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック・粒子若干含む、粘性ある
26	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック・粒子若干含む、粘性ある
27	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
28	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
29	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性強い、ブロック層
30	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック割合多く含む、粘性ある
31	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、ローム漸移層に近い、粘性強い
32	茶褐色粘質土	スコリア粒子少なく、ローム漸移層に近い、粘性強い
33	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ロームブロック多く含む、粘性ある
34	暗茶褐色粘質土	スコリア粒子少なく、ロームブロック多く含む、粘性ある
35	茶褐色粘質土	スコリア粒子少なく、ロームブロック多く含む、粘性ある
36	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い
37	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い
38	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性弱い

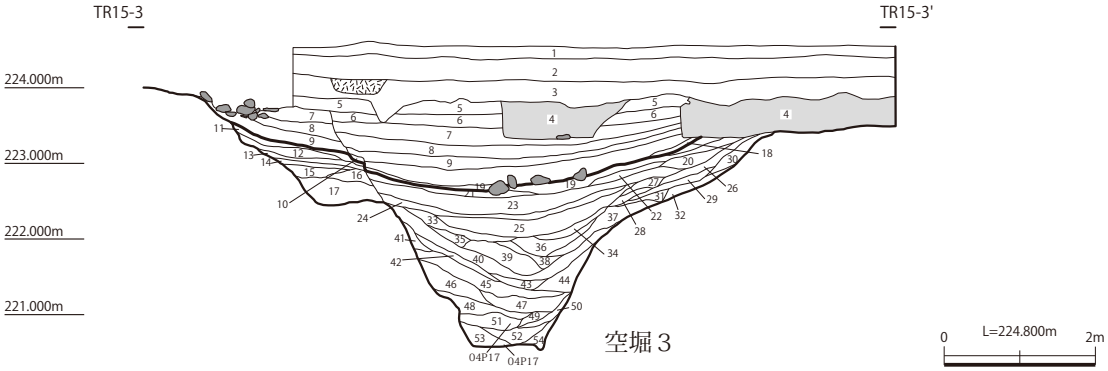


第 34 図　大庭郭　TR15［1/100］


TR15_2
TR15'


TR15'
空堀５
0
L=224.000m
2m


TR15_3
TR15_3'


TR15-3
TR15-3'
224.000m
223.000m
222.000m
221.000m
04P17
04P17
空堀３
0
L=224.800m
2m

TR15 －１－１土層説明（空堀２・３）

1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4	暗褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
5	明褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
6	宝永火山灰天地返し層	
7	暗褐色スコリア質土	スコリア粗く、固くしまっている、地山層
8	暗褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
9	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、固くしまっている、地山層
10	黒褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラつくが、固くしまっている、地山層
11	明褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラつくが、固くしまっている、地山層
12	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、全体に軟らかい、堀覆土最上層
13	黄茶褐色スコリア質土	ロームブロック多く含み、ややザラついている
14	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、よくしまっている
15	淡茶褐色スコリア質土	スコリアは割合粗く、粘性わずかにある
16	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、粘性ある
17	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、しまっている
18	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、粘性ある
19	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、ザラついている、しまっている
20	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、粘性あり、割合固くしまっている
21	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗いが、粘性あり、よくしまっている
22	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗いが、よくしまっている
23	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ややあり
24	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや割合細かく、粘性強い
25	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は粗く、全体にザラザラしている
26	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ローム粒子混入、粘性ない
27	黄茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ローム粒子が非常に多い
28	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性弱い
29	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
30	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗い、粘性が非常に強い
31	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
32	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、ローム粒子若干含む
33	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない
34	宝永火山灰天地返し層	
35	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
36	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性あり、しまっている
37	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ローム粒子若干含む
38	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
39	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
40	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、全体によくしまっている
41	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性ややある
42	茶褐色スコリア質土	ローム粒子少量、灰白色粘土を多量に含み、粘性ある
43	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子少量、灰白色粘土を多量に含み、粘性ある
44	暗褐色スコリア質土	スコリアはやや粗いが、粘性若干ある、しまっている
45	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗く、粘性若干ある
46	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、ザラザラしている
47	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は粗く、ザラついて軟らかい
48	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子含む
49	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は粗く、ローム粒子割合多い
50	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、全体にザラザラしている
51	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗いが、割合しまっている
52	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性あり、固くしまっている
53	暗褐色スコリア質土	ローム粒子多いが、粘性強く、しまっている
54	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性若干ある
55	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、よくしまっている
56	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ないが、割合固い
57	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子と灰白色粘土少量混入
58	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや緻密で、粘性あり、よくしまっている
59	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり
60	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ややあり
61	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ややあり
62	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、割合固くしまっている
63	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、粘性ある
64	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、粘性少ない
65	暗褐色スコリア質土	ローム粒子多いが、粘性若干ある
66	暗黒褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、粘性あり
67	明茶褐色スコリア質土	ローム粒子割合多いが、粘性強い
68	茶褐色スコリア質土	ローム粒子多いが、緻密で粘性強い
69	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多いが、割合しまっている
70	暗黒褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多く、灰白色粘土混入
71	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く、ロームブロック若干混入、粘性あり
72	淡茶褐色スコリア質土	ローム漸移層のブロック層
73	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、よくしまっている
74	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ローム粒子多く含む
75	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ロームブロック多く含む
76	茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、全体に粒子が粗い、粘性少ない
77	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ローム粒子若干含む、粘性少ない
78	淡茶褐色スコリア質土	ロームブロック・粒子を多量に含む、粘性若干あり
79	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子割合多く含み、ややザラついている
80	暗褐色スコリア質土	ローム粒子割合多く含み、粘性少ない、ややしまっている
81	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない、ローム粒子多い
82	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子やや粗く、ロームブロック多く含む
83	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子割合細かく、粘性ある
84	灰茶褐色スコリア質土	ローム粒子割合細かく、灰白色粘土多く含む
85	灰茶褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、灰白色粘土粒子多く含む
86	灰茶褐色粘質土	灰白色粘土の純層に近いブロック層
87	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性若干ある
88	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、よくしまっている
89	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性あり、よくしまっている
90	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性少ないが、固くしまっている
91	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、ザラつくが、固くしまっている
92	灰茶褐色粘質土	スコリア粒子緻密で、粘土層に近い
93	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性もある
94	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、粘性あり、よくしまっている
95	黒褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性わずかにある
96	黒褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、粘性ある
97	暗黒褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、ザラつくが、しまっている
98	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、ザラついている、しまっている
99	暗黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、固くしまっている
100	淡茶褐色粘質土	ローム漸移層ブロック層
101	灰茶褐色スコリア質土	スコリアはやや粗いが、よくしまっている
102	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗く、粘性ややあり
103	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は割合細かく、粘性強い
104	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子は緻密で、全体によくしまっている
105	暗褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性強い
106	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ローム粒子が非常に多い、粘性強い
107	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子非常に緻密で、粘性強い
108	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
109	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗いが、割合よくしまっている
110	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある
111	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子若干含む
112	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
113	淡茶褐色粘質土	ロームブロック・粒子を多く含む
114	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合粗く、ローム粒子若干含む
115	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ある
116	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗いが、全体によくしまっている
117	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
118	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
119	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、全体によくしまっている
120	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性あるが、ローム粒子多い
121	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ある
122	暗黒褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性ある、よくしまっている
123	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子はやや粗いが、粘性若干ある
124	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、よくしまっている、粘性ある
125	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子は粗く、ザラついて、粘性少ない
126	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子含む
127	淡茶褐色粘質土	スコリア粒子は細かく、ロームブロック多い
128	黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、全体によくしまっている
129	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、しまっている、粘性ある
130	黄茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性あり、固くしまっている
131	暗黒褐色スコリア質土	ローム粒子多く、ザラついている、粘性少ない
132	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性少ない、ローム粒子多い
133	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ある
134	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性割合にある
135	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、よくしまっている
136	淡茶褐色スコリア質土	ローム粒子多く、粘性少ないが、割合よくしまっている
137	明褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、全体によくしまっている
138	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや緻密で、粘性あり、よくしまっている
139	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子非常に粗く、砂粒状スコリアが多い
140	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性ややあり
141	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子非常に粗く、粘性少ない、砂粒多い
142	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、粘性ある、砂質状土層
143	暗灰褐色砂質土	ローム粒子多く含み、粘性少ない、サラサラしている
144	暗茶褐色スコリア質土	砂質土に近いが、粘性若干ある
145	暗茶褐色スコリア質土	砂質土に近く、ローム粒子含み、粘性あり
146	暗褐色スコリア質土	砂質土に近く、粘性強いが、サラサラしている

TR15 －１－２（空堀２・３）

4	黄茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、地山ローム漸移層
5	暗黄茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、地山ローム漸移層
6	黄茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、地山ローム漸移層
13	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、全体に軟らかい、堀覆土最上層
14	茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、よくしまっている
15	茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、よくしまっている
16	茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、粘性若干ある
17	暗茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、粘性若干ある
18	黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、粘性若干ある
19	暗褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、粘性若干ある
20	暗茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、ザラつくが、粘性若干ある

TR15 －２－１（トレンチ・硬化面）

1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラついている、粘性弱い
5	黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ややある、割合しっかりしている
6	暗褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ややある、赤褐色ローム粒子多い
7	暗黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ややある、硬化面上部堆積土
8	暗茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ややある、硬化面上部堆積土
9	暗赤茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ややある、硬化面上部堆積土
10	茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、軟らかい、ややザラついている
11	宝永火山灰天地返し層	

TR15 －２－２（トレンチ）

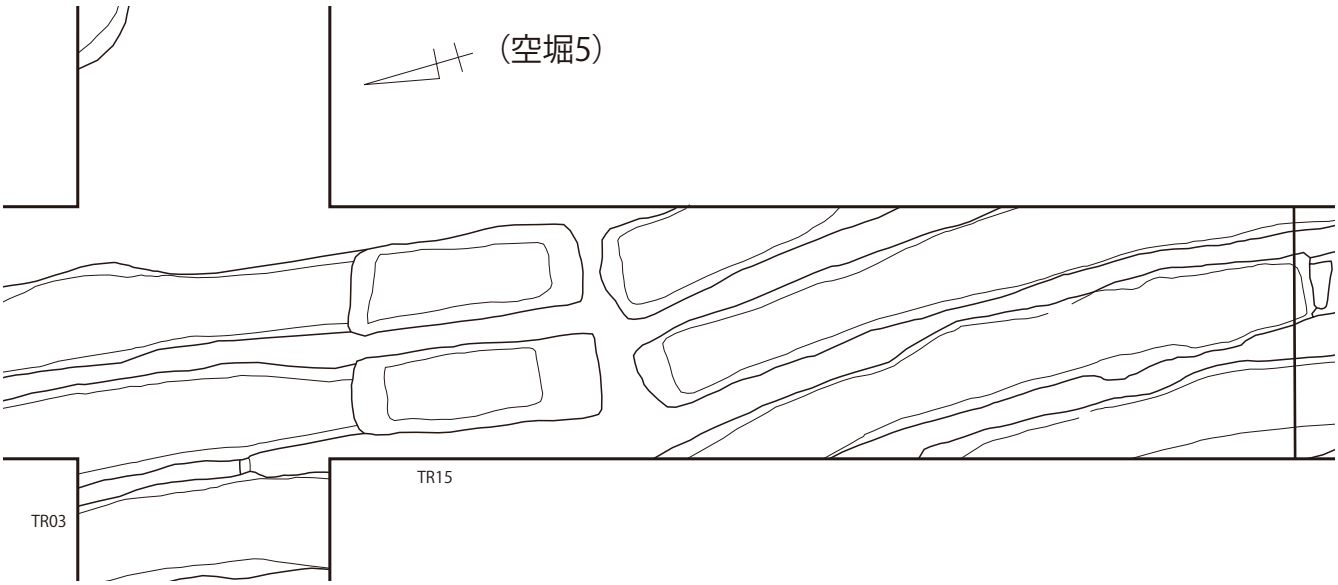
1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰天地返し層	
5	黒茶褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまっている

TR15 －２－３（空堀５・道路状遺構）

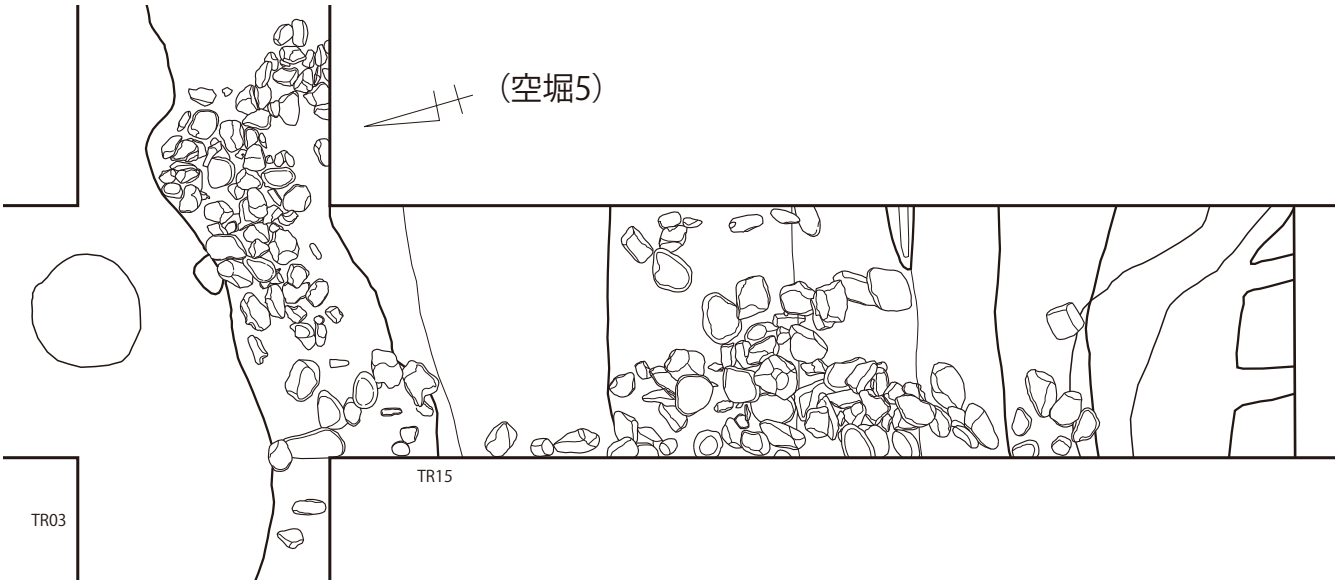
1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4	暗褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5	宝永火山灰天地返し層	
6	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
7	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、灰白色粘土・炭化物・焼土多く含む、整地層
8	黒褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、灰白色粘土・炭化物・焼土多く含む、整地層
9	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
10	宝永火山灰天地返し層	
11	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性あり、割合よくしまっている、炭化物混入
12	暗褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性あり、割合よくしまっている
13	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性あり、割合よくしまっている、炭化物混入
14	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性あり、割合よくしまっている、炭化物混入
15	宝永火山灰天地返し層	
16	暗黒褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、灰白色粘土・炭化物・焼土多く含む、整地層

TR15 －３（空堀５）

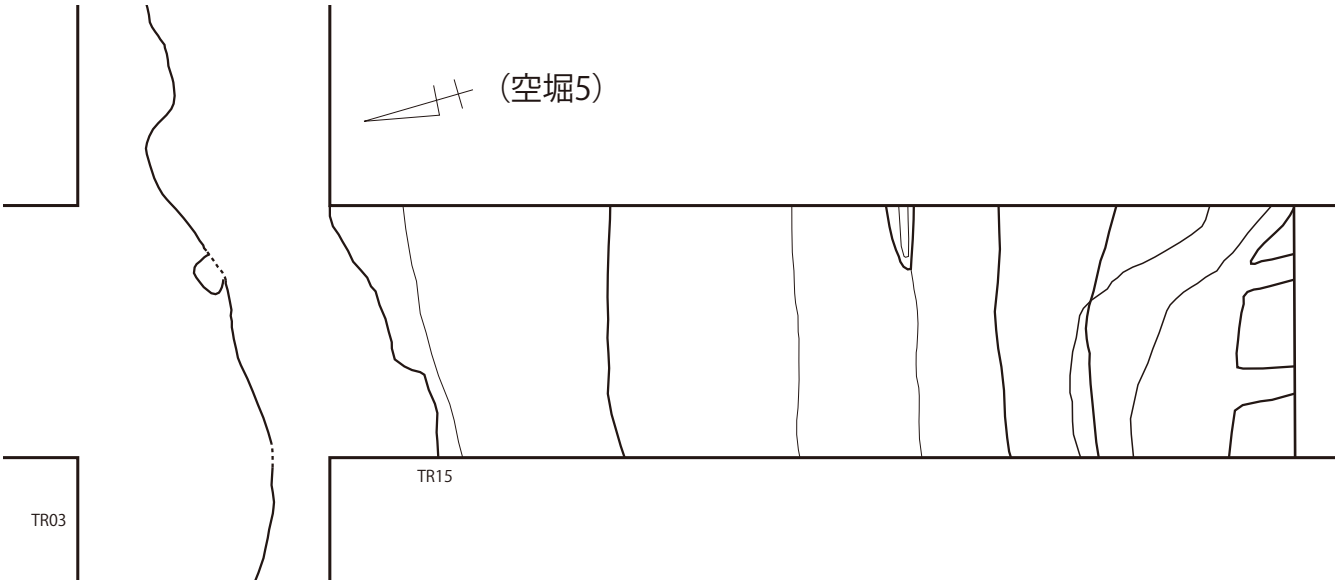
1	耕作土層	
2	表土層	
3	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰天地返し層	
5	暗褐色スコリア質土	スコリア粗く、粘性少ない
6	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない
7	淡茶褐色スコリア質土	炭化物・灰白色粘土多く含む
8	暗黒褐色スコリア質土	炭化物・灰白色粘土多く含む
9	暗褐色スコリア質土	炭化物・灰白色粘土多く含む
10	茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、ロームブロック多い
11	暗赤茶褐色スコリア質土	ローム粒子割合多く含み、ややザラついている
12	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
13	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
14	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、よくしまっている
15	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、粘性ある
16	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性ある
17	灰黄褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、全体にザラザラしている
18	暗灰白色粘土粘質土ブロック層	
19	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、全体によくしまって固い
20	淡暗褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、やや粘性ある
21	茶褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、若干粘性あり、割合に固い
22	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、やや明るい色調をなす
23	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
24	淡暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性少ない
25	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合に粗く、ザラついている
26	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子若干含む
27	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ローム粒子多く含む
28	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、ローム粒子割合多く混入
29	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや細かく、粘性若干ある
30	暗黄褐色スコリア質土	地山ローム層の漸移層
31	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性若干ある
32	暗黄赤褐色スコリア質土	地山ローム層の漸移層
33	灰褐色スコリア質土	ロームブロック・灰白色粘土割合多い
34	暗灰褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、灰白色粘土若干混入
35	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、割合固くしまっている
36	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子と灰白色粘土少量混入
37	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性あり、よくしまっている
38	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり
39	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、粘性やや強い
40	暗黄赤褐色スコリア質土	ローム粒子多く含み、粘性少ない
41	黄赤褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多く、ザラザラしている
42	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子細かく、粘性ある
43	暗黄褐色スコリア質土	ローム粒子多い、粘性若干ある
44	暗赤褐色スコリア質土	ローム粒子多量に含み、粘性あり
45	黄茶褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多く、粘性少ない
46	暗黄茶褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多く、ザラザラしている
47	黄茶褐色スコリア質土	ローム粒子非常に多く、灰白色粘土混入
48	暗褐色スコリア質土	灰白色粘土多量に含み、ローム粒子多い、粘性強い
49	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、よくしまっている
50	暗黒褐色スコリア質土	スコリア粒子割合細かく、よくしまっている
51	暗茶褐色スコリア質土	スコリア粒子割合緻密で、粘性あり、しまっている
52	暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子わずかに含み、粘性あり、粒子割合細かい
53	淡暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、砂質土壌である
54	淡暗茶褐色スコリア質土	ローム粒子若干含み、砂質土壌で、粘性強い



第 35 図　大庭郭　TR15　第１面　天地返状遺構［1/60］

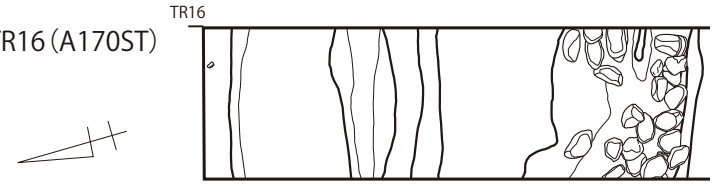


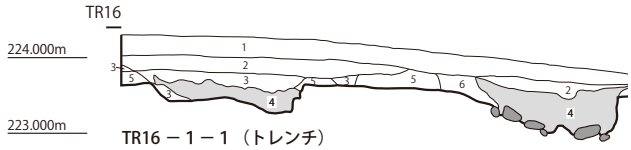
第 36 図　大庭郭　TR15　第２面　廃棄礫［1/60］

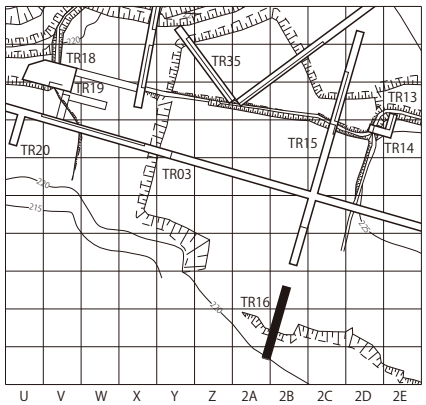


第 37 図　大庭郭　TR15　第３面　空堀３［1/100］

TR16（A170ST）

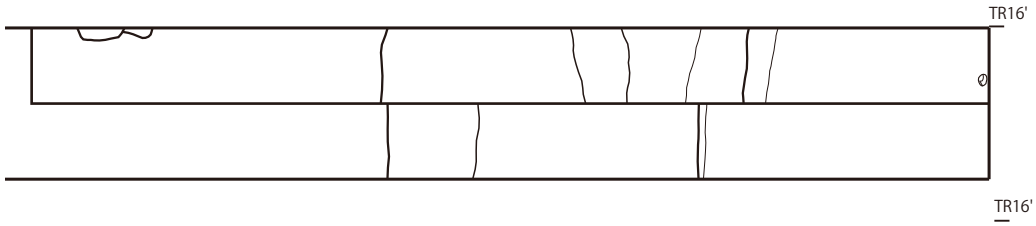


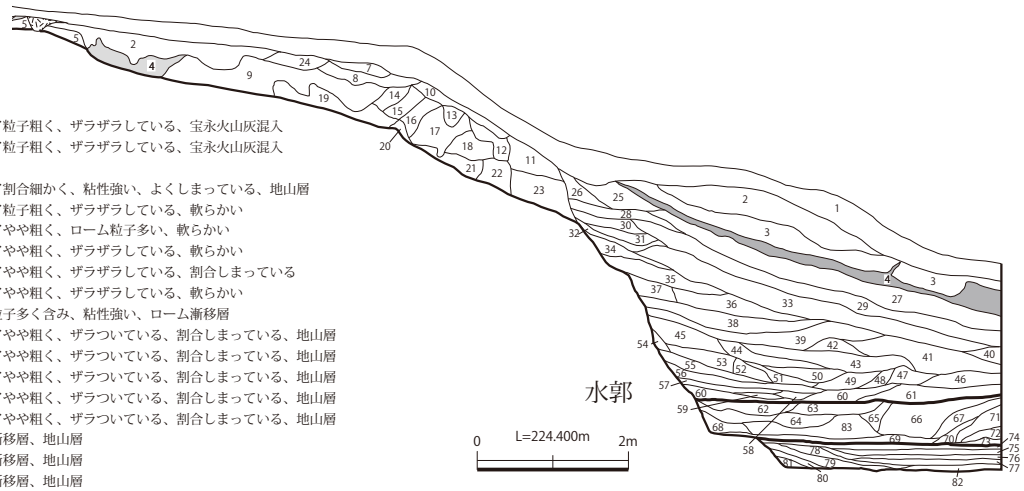




TR16－1－1（トレンチ）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　暗褐色粘質土　スコリア割合細かく、粘性強い、よくしまっている、地山層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、軟らかい

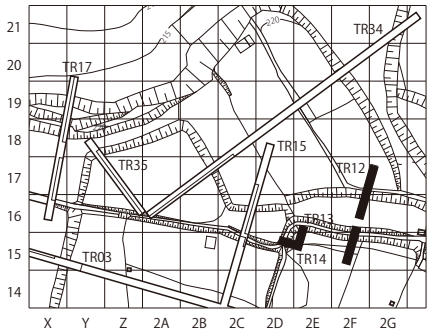


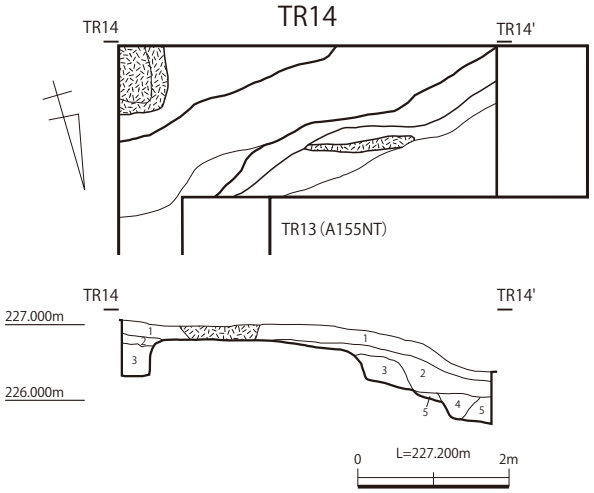


TR16－1－2（段切腰郭３）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰自然堆積層
5　暗褐色粘質土　スコリア割合細かく、粘性強い、よくしまっている、地山層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、軟らかい
7　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、軟らかい
8　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、軟らかい
9　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
10　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、軟らかい
11　暗褐色粘質土　ローム粒子多く含み、粘性強い、ローム漸移層
12　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、地山層
13　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、地山層
14　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、地山層
15　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、地山層
16　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、地山層
17　淡茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
18　茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
19　暗茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
20　淡暗褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
21　茶褐色スコリア質土　スコリア粗くて少ない、ローム層、地山層
22　暗褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
23　赤茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
24　暗赤茶褐色スコリア質土　粘性強い、ローム漸移層、地山層
25　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、割合しまっている
26　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、暗赤褐色土混入
27　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
28　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、しまっている
29　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、しまっている
30　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、しまっている
31　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
32　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
33　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、よくしまっている
34　黄赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、ローム粒子多い
35　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、砂質土混入
36　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
37　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
38　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
39　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている、砂質土混入
40　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
41　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
42　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている、粘性少ない
43　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
44　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
45　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている、粘性少ない
46　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
47　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子非常に多いブロック層
48　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている、粘性少ない
49　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
50　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
51　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
52　茶褐色粘質土　ローム漸移層ブロック層
53　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、茶褐色粘質土混入
54　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、よくしまっている
55　黄赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合しまっている、粘性少ない
56　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多量に含み、一部黄赤褐色となる砂質層
57　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、割合しまっている、砂質土に近い
58　暗褐色砂質層
59　暗茶褐色砂質層
60　暗褐色砂質層
61　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、割合しまっている、粘性若干ある
62　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、砂粒を若干含み、固くしまっている
63　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、砂粒を若干含み、固くしまっている
64　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまっている
65　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまっている
66　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘質土に近い、割合しまっている
67　暗赤茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、割合よくしまっている
68　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、割合よくしまっている
69　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、割合よくしまっている
70　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合よくしまっている
71　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、ロームブロック若干含む
72　黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、割合よくしまっている
73　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、砂質土に近い、粘性ある
74　淡暗茶褐色粘質土　スコリアやや細かく、固くしまっている、硬化層
75　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、固くしまっている
76　淡灰茶褐色シルト粘土層　固くしまっている
77　灰茶褐色シルト粘土層　固くしまっている
78　灰茶褐色シルト粘土層　粗粒スコリア多く含む、固くしまっている
79　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、シルト粘土含む、固くしまっている
80　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、シルト粘土含む、固くしまっている
81　暗灰茶褐色粘質土　スコリア若干含む、サラサラしている、粘性若干ある
82　黄灰茶褐色粘質土　ローム粒子多く含む、サラサラしている

第 38 図　大庭郭　TR16［1/100］





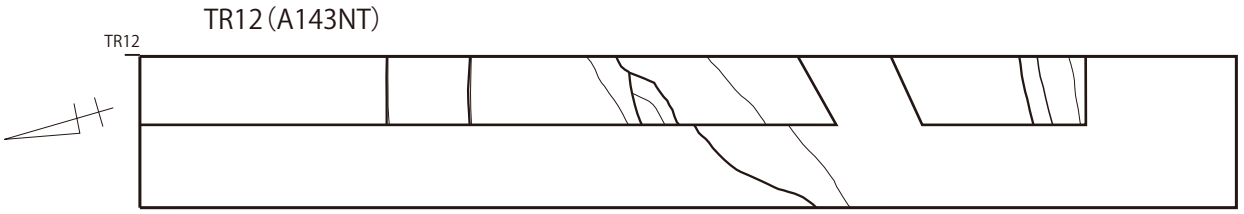
TR14（空堀２南側肩部）

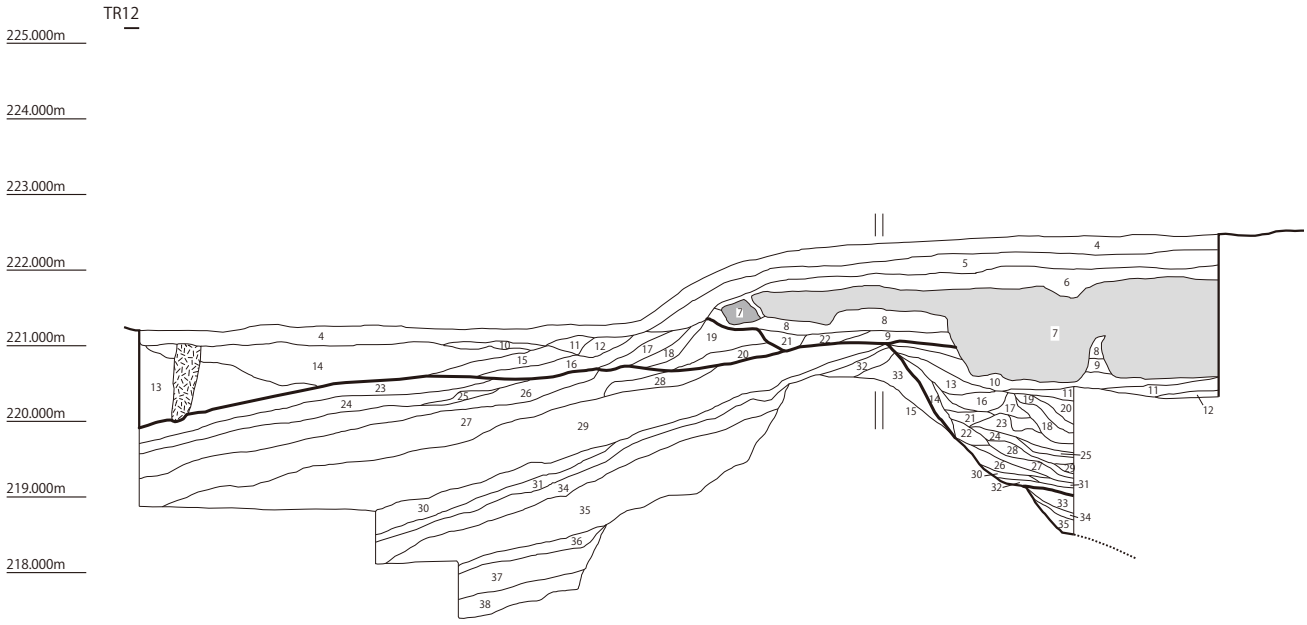
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　黒褐色スコリア質土　　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性少ない
5　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、粘性ややある

第 39 図　大庭郭　TR14［1/100］

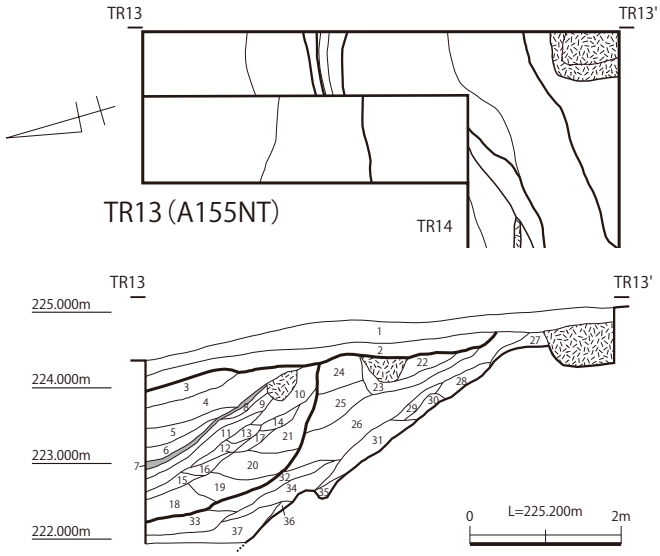
TR12 － 1 － 1（トレンチ整地層）

4　表土耕作土
7　宝永火山灰自然堆積層
8　暗茶褐色スコリア質土　　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、ややしまっている
9　暗褐色スコリア質土　　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、ややしまっている
10　暗茶褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、ややしまっている
11　暗黒褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、ロームブロック混入
12　黄茶褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、黒褐色土混入
13　黄褐色ロームブロック層　　暗灰褐色ローム層との混合層、整地層
14　暗灰褐色ロームブロック層　黄褐色ローム・砂礫混入、整地層
15　淡赤茶褐色ロームブロック層　黄褐色ローム混入、整地層
16　暗黒褐色粘質土　　スコリア少なく、粘性強い、整地層
17　暗茶褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、整地層
18　暗褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、整地層
19　暗赤茶褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性ある
20　暗黄茶褐色スコリア質土　　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性ある
21　淡茶褐色スコリア質土　　スコリア細かく、やや軟らかい、粘性若干ある
22　暗黒茶褐色スコリア質土　　スコリアやや細かく、しまっている、粘性若干ある
23　黒褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
24　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
25　暗褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
26　黄茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
27　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
28　茶褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
29　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
30　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
31　暗褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
32　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
33　暗黒褐色粘質土　　スコリア少なく、粘性強、固くしまっている、地山層
34　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
35　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
36　暗褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
37　茶褐色スコリア質土　　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
38　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層





第 40 図　大庭郭～多地屋敷　堀切２　TR12［1/100］



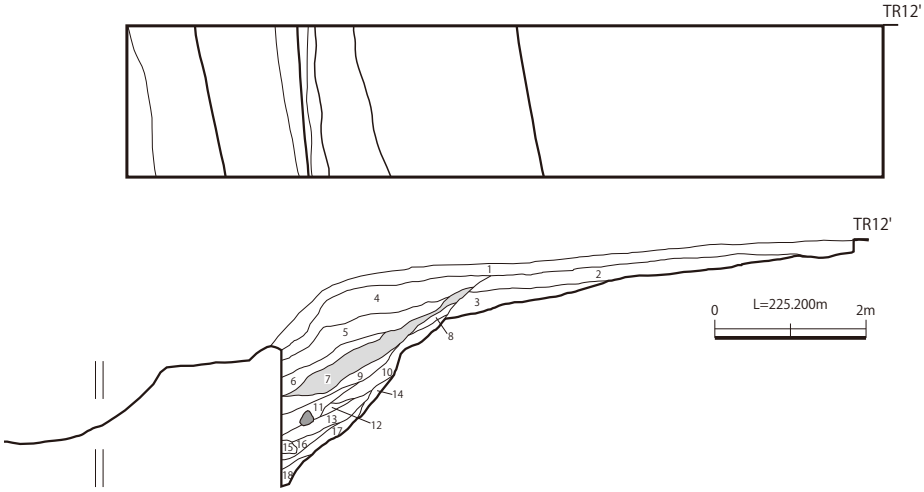
第 41 図　大庭郭　堀切３　TR13［1/100］

TR12 － 1 － 3（空堀２南側肩部）

1　表土耕作土
2　暗赤茶褐色粘質土　スコリア粒子少なく、粘性強い、固くしまっている、地山層
3　淡赤茶褐色粘質土　スコリア粒子少なく、粘性強い、固くしまっている、地山層
4　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、ザラついている、宝永火山灰混入
7　宝永火山灰天地返し層
8　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、やや軟らかい
9　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、やや軟らかい
10　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、割合よくしまっている
11　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、割合よくしまっている
12　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、やや軟らかい
13　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、割合よくしまっている
14　淡黄茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、サラサラしている、地山漸移層
15　宝永火山灰天地返し層
16　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、よくしまっている、粘性ある
17　黄茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、よくしまっている、粘性ある
18　淡黄茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、よくしまっている、粘性ある

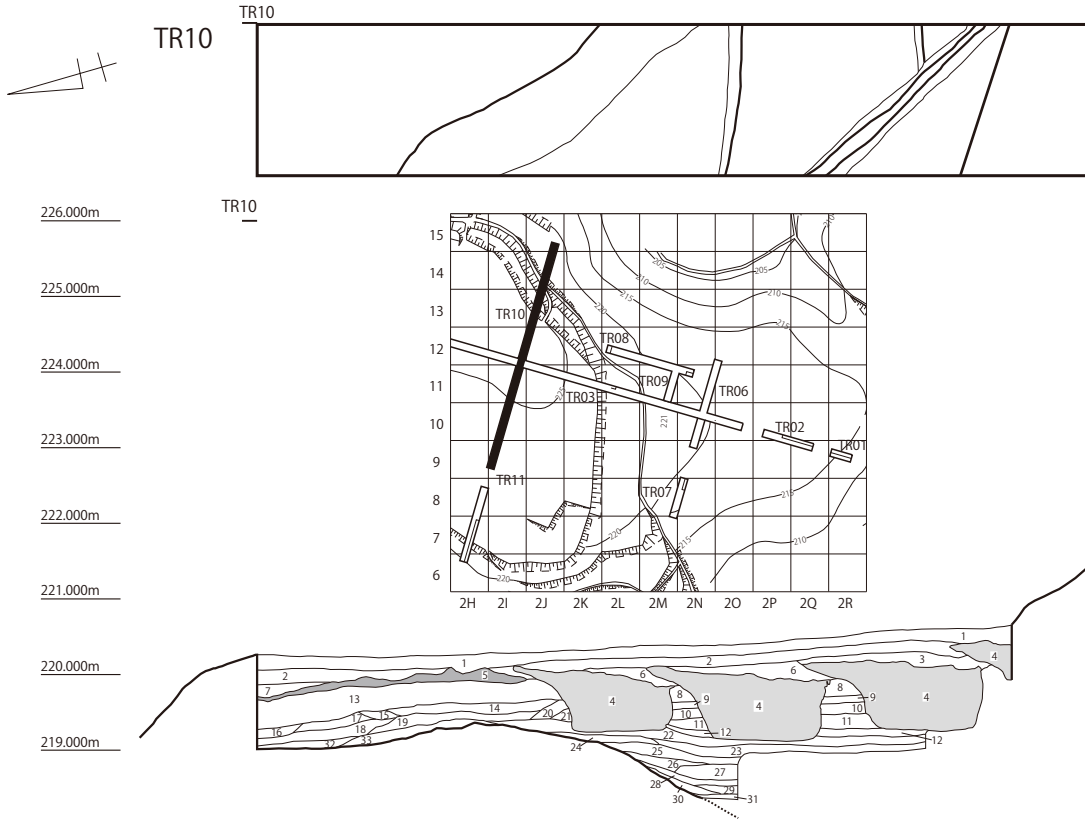
TR13（空堀２南側肩部）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　明褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
7　宝永自然堆積層
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
9　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラついている、粘性弱い
10　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性少ない
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
12　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、しまっている、粘性弱い
13　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、よくしまっている、粘性少ない
14　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、しまっている、粘性弱い
15　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、よくしまっている、粘性少ない
16　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、割合しまっている、粘性少ない
17　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、よくしまっている、粘性少ない
18　暗黄褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、割合よくしまっている、粘性少ない
19　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、割合よくしまっている、粘性少ない
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている、粘性少ない
21　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている、粘性少ない
22　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている、軟らかい
23　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている、軟らかい
24　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ややザラついている、軟らかい
25　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、割合しまっている
26　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、黒褐色土混入、割合しまっている
27　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、黒褐色土混入、割合しまっている
28　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
29　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
30　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
31　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
32　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ややある、割合しまっている
33　黄茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ややある、割合しまっている
34　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
35　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性少ない、割合しまっている
36　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、よくしまっている
37　暗黒茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、よくしまっている
38　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、粘性少ない、撹乱土
39　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、粘性少ない、撹乱土



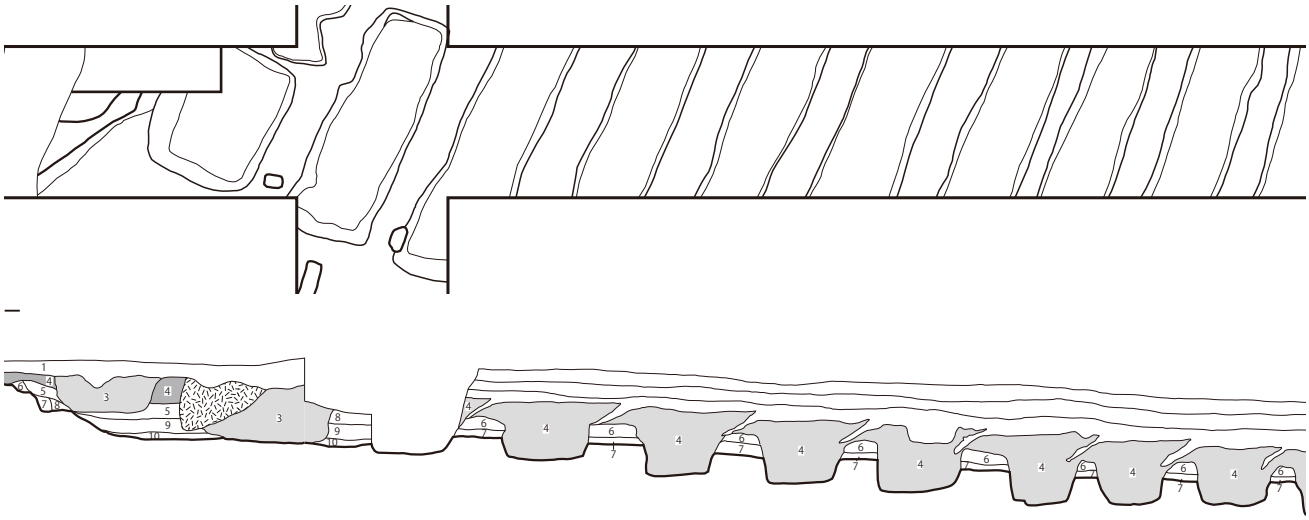
TR12 － 1 － 2（空堀２北側肩部）

4　表土耕作土
5　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
7　宝永火山灰天地返し層
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、ややしまっている
9　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、ややしまっている
10　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、やや軟らかい
11　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、ややしまっている
12　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラついているが、ややしまっている
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラついている、ややしまっている
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや細かく、粘性強い、やや軟らかい
15　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗い、固くしまっている、地山層
16　茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性強い、灰白色粘土・ローム粒子多い
17　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性強い、灰白色粘土・ローム粒子多い
18　淡茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性強い、灰白色粘土混入
19　灰白色粘土ブロック層
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性強い、灰白色粘土・ローム粒子多い
21　明褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ローム粒子多い、粘性あり、しまっている
22　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性あり、しまっている
23　黄茶褐色ロームブロック層
24　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、しまっている
25　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性あり、割合よくしまっている
26　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、割合よくしまっている
27　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている
28　明黄褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、ロームブロック多く含む
29　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、割合よくしまっている
30　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、しまっている
31　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、固くしまっている
32　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、固くしまっている
33　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗いが、粘性あり、固くしまっている
34　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、割合よくしまっている
35　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、固くしまっている



TR10 － 1 － 1（空堀２北側肩部）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　宝永火山灰自然堆積層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
7　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
8　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラするが、粘性あり、ローム粒子多い
9　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、ローム粒子多い
10　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラするが、粘性あり、ローム粒子多い
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、ローム粒子多い
12　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性強く、よくしまっている、ローム粒子多い
13　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、粘性やや弱い
14　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラつくがよくしまっている、粘性やや弱い
15　黄灰白色スコリア質土　スコリアやや粗く、暗茶褐色スコリア質土との混合層
16　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、ローム粒子多い
17　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、黄灰白色ローム粒子多量に含む
18　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性あり、ローム粒子多い
19　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラザラしている、粘性あり
20　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、ローム粒子多い



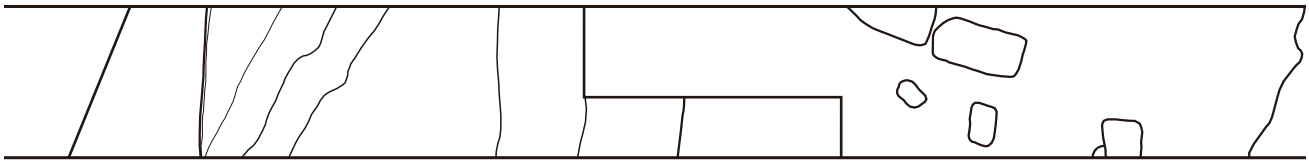
TR10 － 1 － 3（トレンチ・凹地郭）

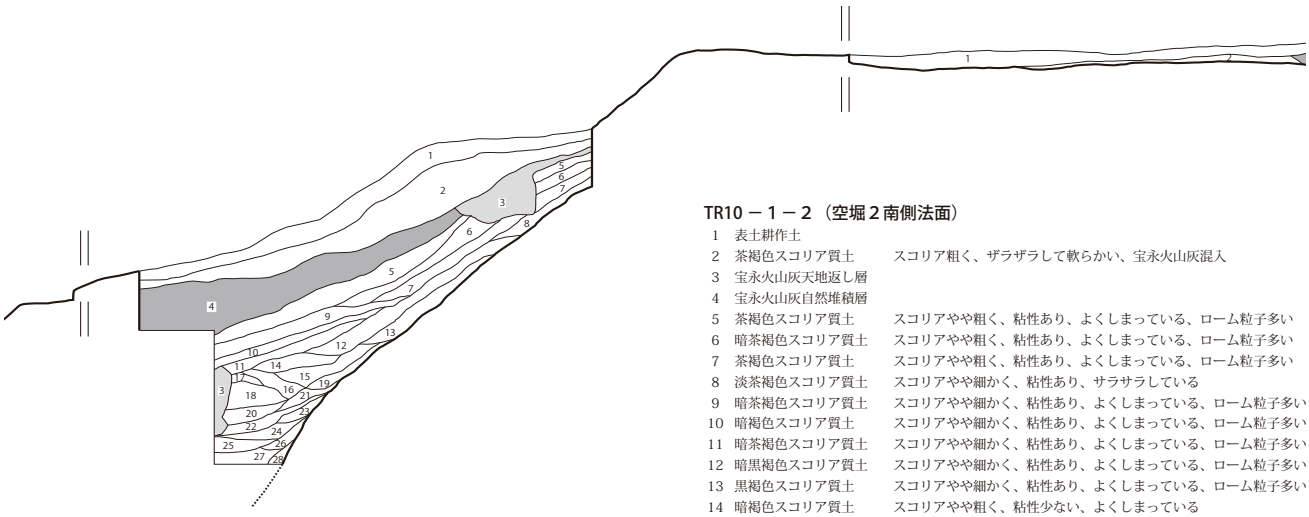
1　表土耕作土
2　茶褐色砂質土　スコリア細かく、ローム粒子含む、サラサラしている
3　宝永火山灰天地返し層
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土・ロームブロック多い、整地層
5　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、割合よくしまっている
6　暗茶褐色スコリア質土　ロームブロック混合層
7　暗褐色スコリア質土　ロームブロック混合層
8　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、割合よくしまっている
9　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、割合よくしまっている
10　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック・粒子多い、粘性ある、よくしまっている

TR10 － 2 － 1（凹地郭）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4　宝永火山灰天地返し層
5　宝永火山灰自然堆積層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、割合よくしまっている
7　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ローム粒子多い、サラサラして粘性ある
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム粒子多い、割合よくしまっている
9　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ローム粒子多い、サラサラして粘性ある
10　黄暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ローム粒子多い、粘性ある

第 42 図　大庭郭　空堀２・天地返状遺構　TR10［1/100］

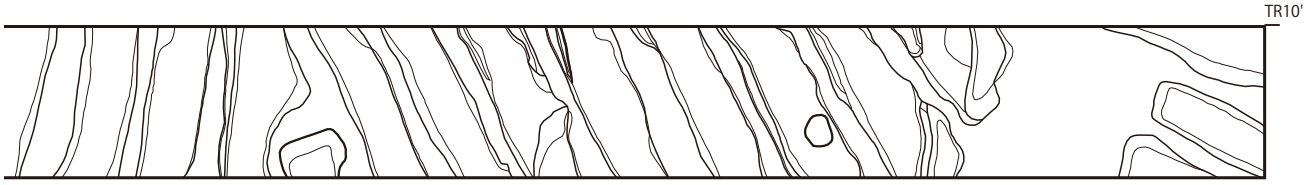


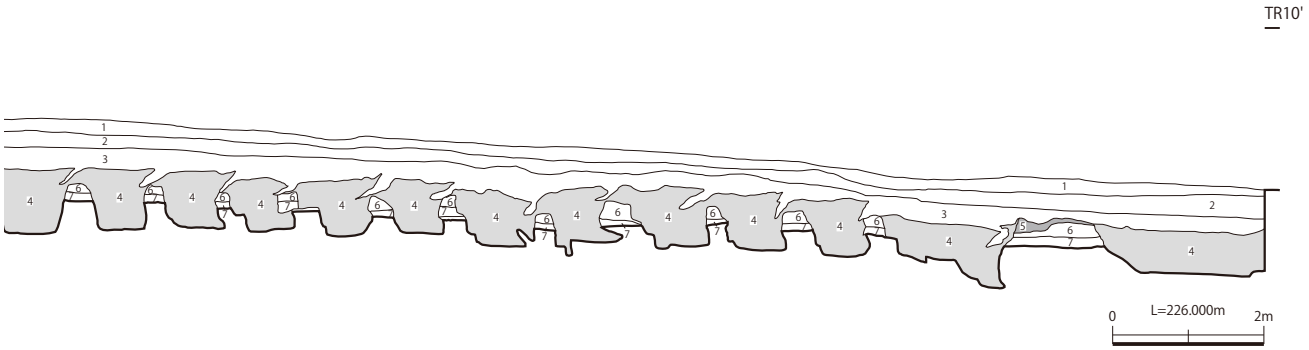


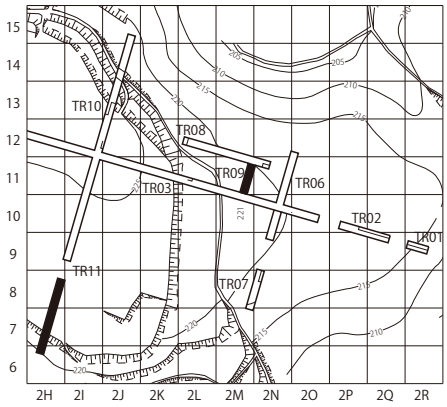
TR10 － 1 － 2（空堀２南側法面）

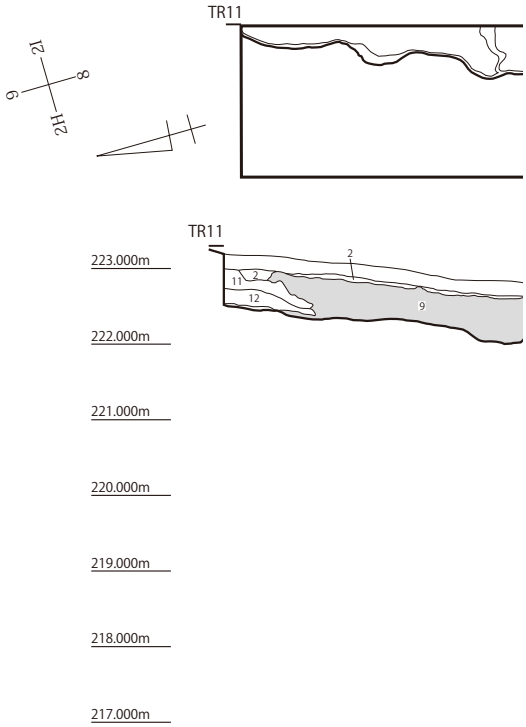
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰天地返し層
4　宝永火山灰自然堆積層
5　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
7　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
8　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、サラサラしている
9　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
10　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
11　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
12　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
13　黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
14　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、よくしまっている
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
16　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、固くしまっている、ロームブロック・粒子多い
17　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、ザラザラしている、ローム粒子多い
18　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、割合しまっている
19　暗褐色スコリア質土　粒子細かく、砂質層に近い、粘性若干あり、割合しまっている
20　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、固くしまっている、ロームブロック・粒子多い
21　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、固くしまっている、ロームブ粒子多い
22　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、ローム粒子多い
23　暗褐色スコリア質土　淡黄茶褐色ロームブロックを多量に含む
24　淡黄茶褐色スコリア質土　淡黄茶褐色ロームブロック多く、よくしまっている
25　淡茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、灰白色粘土・粒子多い、サラサラしている
26　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、固くしまっている
27　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、割合しまっている、砂質層に近い
28　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、割合しまっている、砂質層に近い

21　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、ローム粒子多い
22　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、ローム粒子多い
23　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラつくがよくしまっている、ローム粒子多い
24　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック・粒子若干含む
25　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック・粒子若干含む
26　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック・粒子若干含む
27　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性あり、よくしまっている、ローム粒子多い
28　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、灰白色粘土ブロック・粒子若干含む
29　黒褐色スコリア質土　スコリアやや緻密で、ローム粒子含み、固くしまっている
30　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、暗灰白色粘土ブロック・粒子若干含む
31　暗灰色スコリア質粘質土　スコリア少なく、暗灰色地山土ブロック多量に含む
32　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かい、ザラザラしている、ローム粒子多い
33　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、暗灰色地山粘土ブロック多量に含む





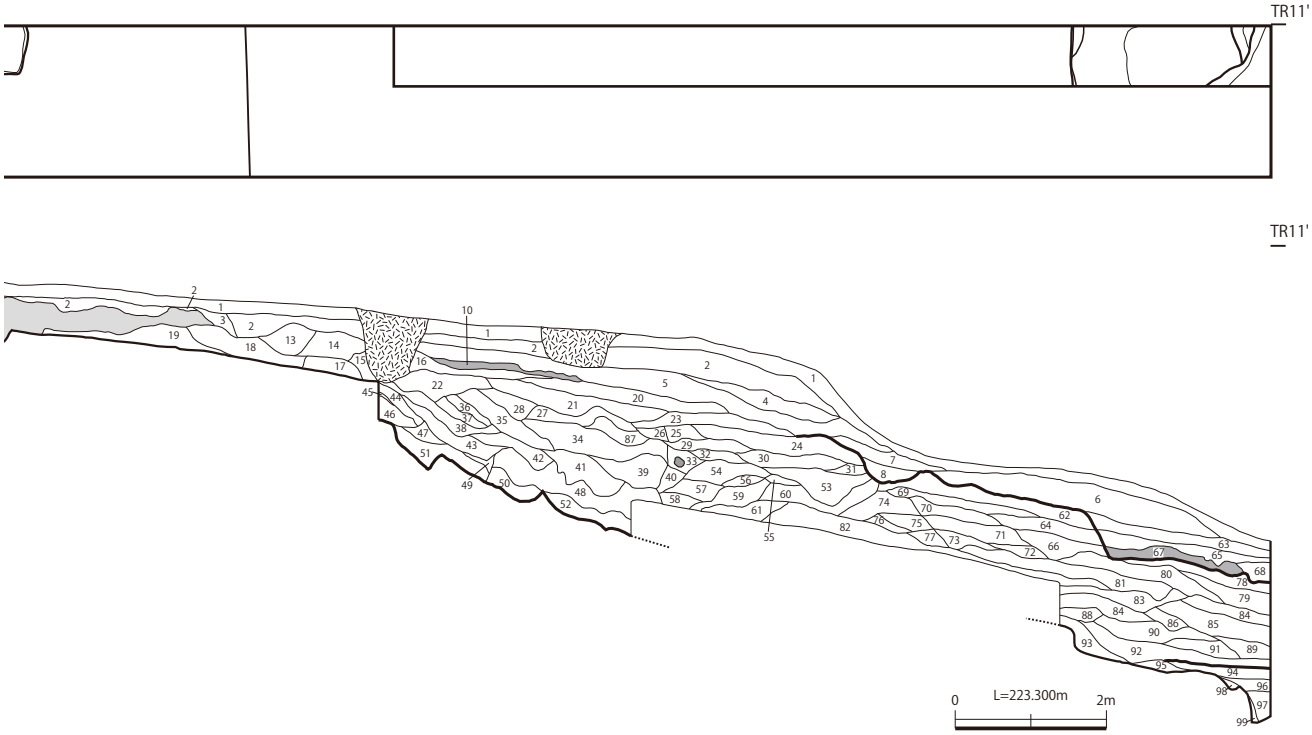


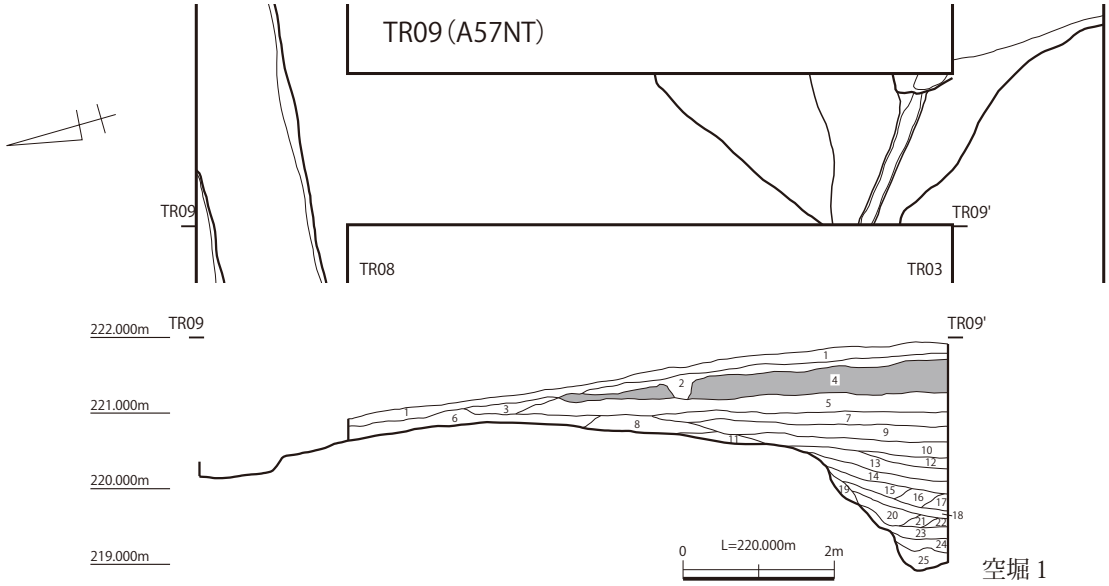


TR11（段切腰郭２）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　黄赤褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
4　淡茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
5　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
8　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
9　宝永火山灰天地返し層
10　宝永火山灰自然堆積層
11　黄赤茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、ローム粒子多く、暗茶褐色土混入
12　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、ローム粒子多い
13　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
14　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラつくが固くしまっている
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている。割合固くしまっている
16　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている。割合固くしまっている
17　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている。割合固くしまっている
18　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、ローム粒子多い、しまっている
19　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
20　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、茶褐色土混入
21　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性ややある
22　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、やや粘性ある
23　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、割合よくしまっている
24　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、ややしまっている
25　明褐色スコリア質土　ローム漸移層と黒褐色土の混合層
26　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、しまっている
27　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック若干含み、固くしまっている
28　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性弱い
29　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、暗明褐色粘質土が多く混入
30　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック若干混入、割合しまっている
31　明褐色土ブロック層
32　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、明褐色土を混入
33　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性若干ある
34　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロックやや多い、固くしまっている
35　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、ややしまっている
36　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、ローム粒子多く含む
37　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、固くしまっている
38　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、固くしまっている
39　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、固くしまっている
40　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性若干ある
41　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、よくしまっている
42　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
43　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
44　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
45　淡茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、やや粘性ある、割合しまっている
46　暗褐色スコリア質土　スコリア細かく、やや粘性ある、割合しまっている
47　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラついている、粘性少ない
48　黄灰茶褐色ロームブロック層　暗灰色ローム漸移層の混合層、粘性強い
49　黄灰茶褐色ロームブロック層　粘性強い
50　暗黒褐色スコリア質土　明茶褐色土がしもふり状に混入、全体がザラついている
51　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、ややザラつくがよくしまっている
52　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ザラつくが、割合しまっている
53　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロック混入、よくしまっている
54　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロックない、よくしまっている
55　暗明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
56　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、割合しまっている
57　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、若干粘性ある、割合しまっている
58　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性強い、よくしまっている
59　明黄茶褐色粘質土　スコリアやや細かく、粘性強い、固くしまっている
60　黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、ロームブロック多量混入、白色パミス多い
61　暗茶褐色スコリア質土　スコリア非常に細かく、粘性強い、よくしまっている
62　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、黒褐色土が混入
63　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
64　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、黒褐色土が混入
65　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
66　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
67　宝永火山灰自然堆積層
68　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
69　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない
70　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、明褐色土・ロームブロック含む、粘性少ない
71　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ロームブロック含む、粘性少ないが割合固い
72　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない
73　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない
74　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、暗明褐色土混入
75　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、白色パミス多い、しまっている
76　茶褐色スコリア質土　スコリア非常に細かく、白色パミス多量混入
77　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、白色パミス多い、全体にサラサラしてしまっている
78　暗茶褐色スコリア質土
79　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、宝永期表土そう
80　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、黒褐色土混入
81　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、黒褐色土・明褐色土混入
82　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、割合固くしまっている
83　黒褐色スコリア質土　スコリアやや少なく、粘性少ない、割合固くしまっている
84　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、黒褐色土混入、固い
85　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、黒褐色土混入
86　淡暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、黒褐色土混入
87　明褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ローム漸移層ブロック多く混入
88　淡暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラザラしている、粘性若干ある
89　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、粘性少ない
90　黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、割合固くしまっている
91　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性少ない、茶褐色土混入
92　淡暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、粘性少ない
93　黒色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、固くしまっている
94　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、茶褐色土混入
95　黒色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、固くしまっている
96　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、粘性少ない、茶褐色土混入
97　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、ザラついている、ロームブロック・粒子多い
98　暗黒褐色粘質土　ローム漸移層含む、地山層
99　暗茶褐色スコリア質土　スコリア細かく、サラサラしている、粘性若干あり、しまっている

第 43 図　大庭郭　TR11［1/100］

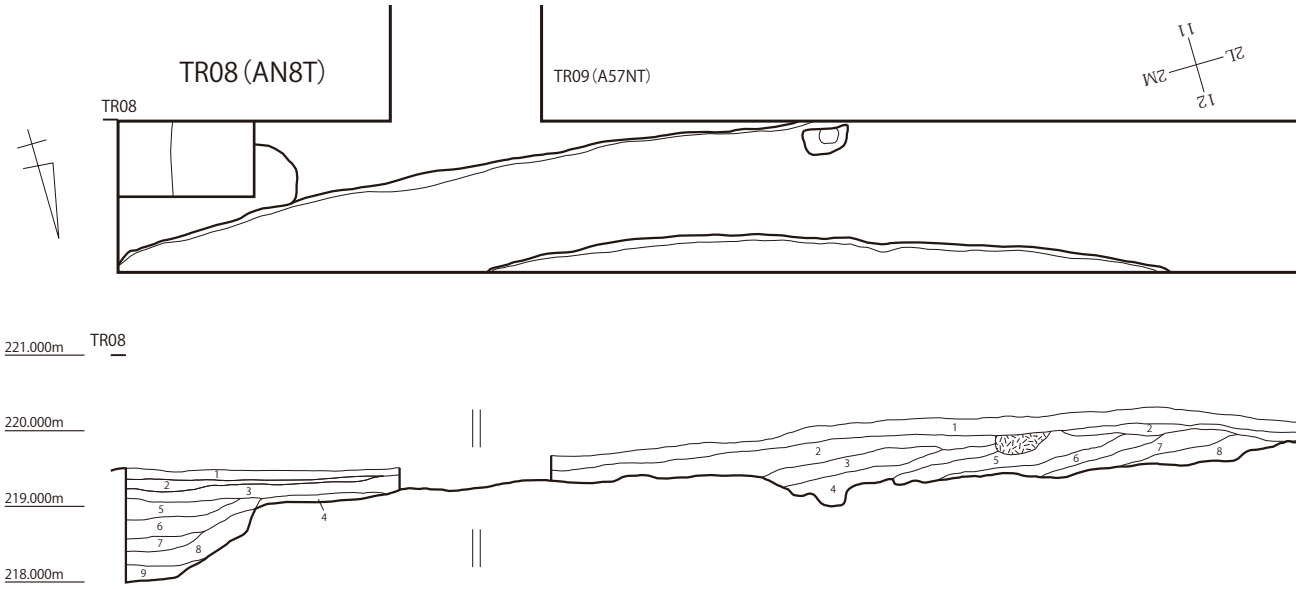




TR09（空堀１）

1	耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	表土
3	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
4	宝永火山灰自然堆積層	
5	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、ザラザラして軟らかい
6	暗黄茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、割合よくしまっている
7	淡茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、割合よくしまっている
8	黄赤茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、割合よくしまっている
9	茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性若干ある
10	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性わずかにある
11	暗黄茶褐色スコリア質土	スコリアやや粗く、粘性少ない、割合よくしまっている
12	暗黒褐色スコリア質土	スコリアやや緻密になり、粘性若干ある
13	暗褐色スコリア質土	スコリアやや緻密になり、粘性若干ある
14	黒褐色スコリア質土	スコリアやや緻密になり、粘性若干ある
15	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合細かく、粘性ある
16	暗褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性ある、固くしまっている
17	暗黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、よくしまっている
18	淡茶褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、割合よくしまっている
19	茶褐色スコリア質土	スコリアはやや粗いが、粘性ある、割合固くしまっている
20	暗茶褐色スコリア質土	スコリアはやや粗いが、粘性ある、割合固くしまっている
21	暗褐色スコリア質土	スコリアはやや細かく、粘性ある、割合固くしまっている
22	暗黒褐色スコリア質土	スコリア割合細かく、粘性ある、よくしまっている
23	暗茶褐色スコリア質土	スコリアは割合緻密で、粘性ある、よくしまっている
24	暗褐色スコリア質砂質土	スコリア粒子は緻密で、粘性強い
25	暗青茶褐色砂質土	スコリア粒子は緻密で、粘性あり、サラサラしている、滞水層

第 44 図　大庭郭張出　空堀１　TR09［1/100］



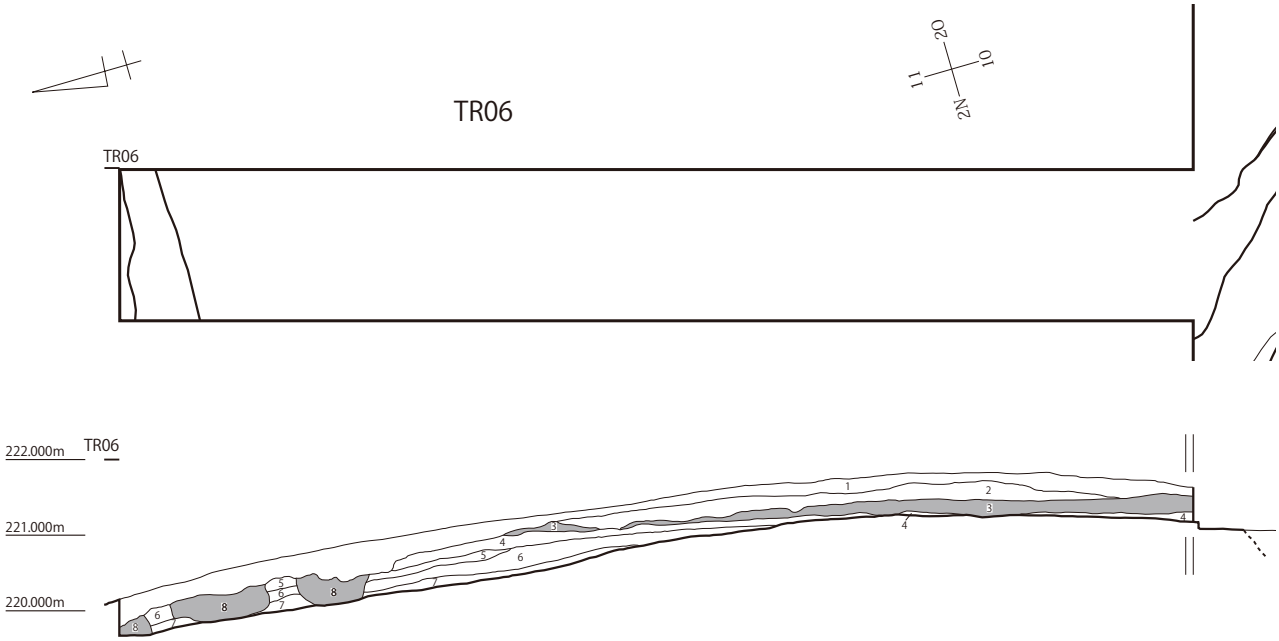
TR08 － 1 － 1 （トレンチ）

1　表土耕作土
2　宝永自然堆積層
3　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラついている、全体に軟らかい
4　暗黄赤茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、割合しまって固い、地山層
5　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土わずかに含む、割合よくしまっている
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土含む、割合よくしまっている
7　茶褐色スコリア質土　スコリア細かい、粘性若干ある、よくしまっている
8　暗茶褐色スコリア質土　スコリア割合細かく、粘性若干ある、よくしまっている
9　暗褐色スコリア質土　スコリア細かく、粘性強い、固くしまっている

TR08 － 1 － 2 （トレンチ）

1　表土耕作土
2　明黄茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、割合しまって固い
3　暗黄茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、割合しまって固い、地山層
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまって固い、地山層
5　暗黒褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまって固い、地山層
6　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性若干ある、割合しまって固い、地山層
7　暗黒褐色粘質土　スコリアやや細かく、粘性強い、固くしまっている、地山層
8　明茶褐色粘質土　スコリアやや細かく、粘性強い、固くしまっている、地山層
9　黄赤茶褐色粘質土　スコリアやや細かく、粘性強い、固くしまっている、地山層

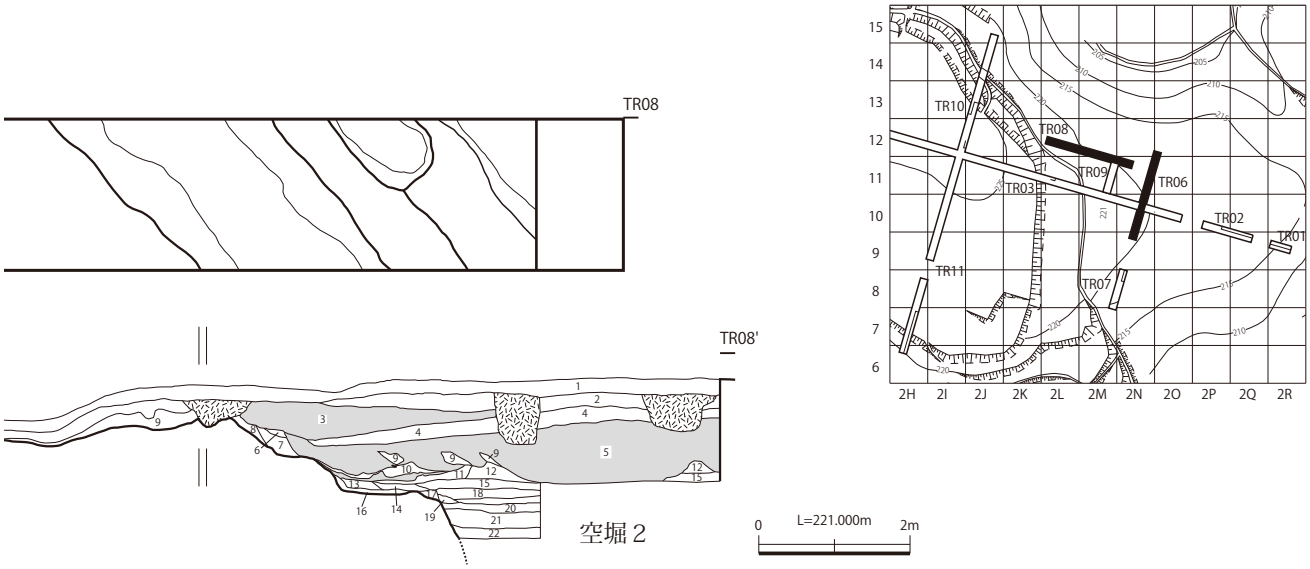
第 45 図　大庭郭張出　TR08［1/100］



TR06 － 1 － 1 （トレンチ）

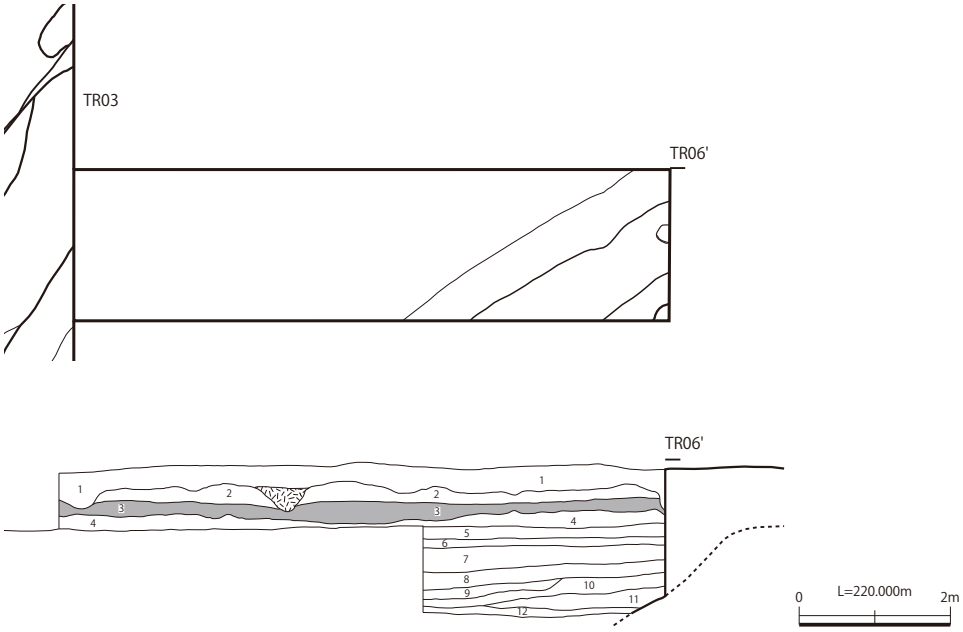
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰自然堆積層
4　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、宝永期表土層
5　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、軟らかい
6　赤黄茶褐色スコリア質土　スコリア非常に粗く、ザラザラしている
7　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かい、粘性ややある、よくしまっている
8　宝永火山灰天地返し層

第 46 図　大庭郭張出　TR06［1/100］



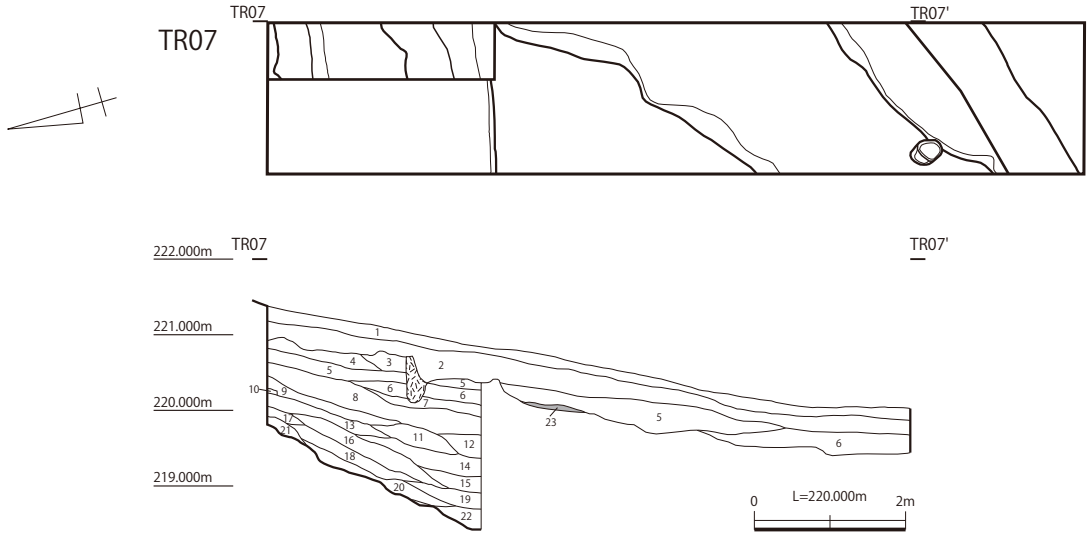
TR08 － 1 － 3（空堀２）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰天地返し層
4　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
5　宝永火山灰天地返し層
6　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、軟らかい、灰白色粘土混入
7　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性強い、よくしまっている
8　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性強い、よくしまっている
9　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、やや軟らかい
10　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、やや軟らかい
11　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、割合よくしまっている
12　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、粘性ある、割合よくしまっている
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
14　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
15　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
16　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
17　茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
18　暗茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
19　暗褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている
20　淡茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、灰白色粘土多く含み、よくしまっている
21　灰茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、灰白色粘土含み、しまっている
22　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや細かく、粘性ある、灰白色粘土含み、しまっている



TR06 － 1 － 1（空堀１）

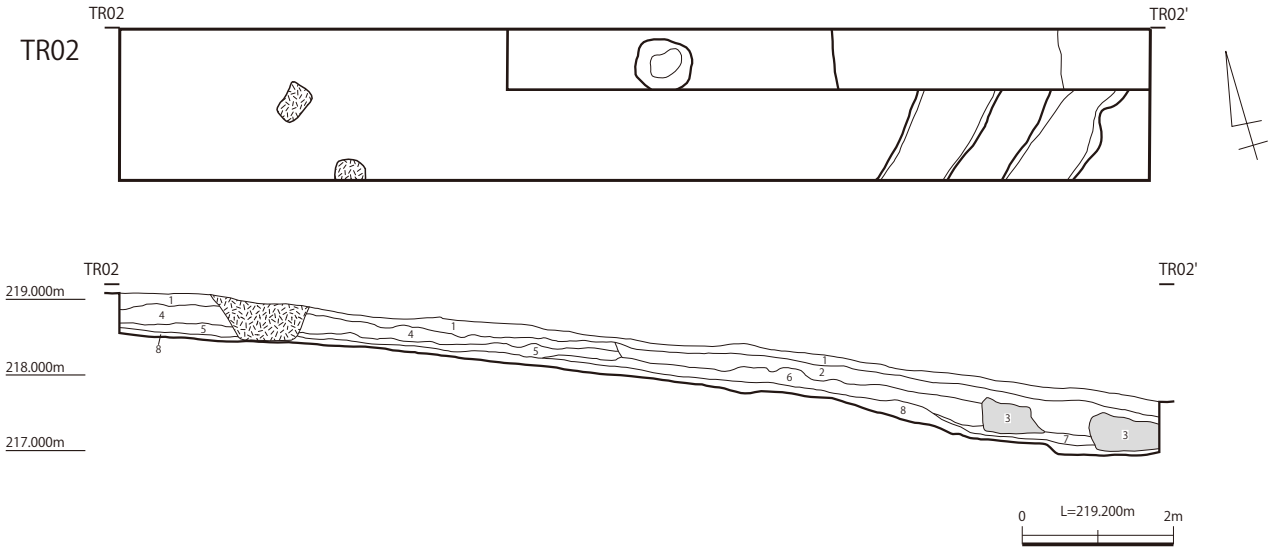
1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰自然堆積層
4　明茶褐色スコリア質土　スコリア粗く、ザラザラしている、宝永期表土層
5　茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土ブロック・粒子若干含む、粘性あるが軟らかい
6　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土わずかに含む、粘性ある
7　明茶褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土粒子若干含む、粘性ある、よくしまっている
8　暗褐色スコリア質土　スコリアやや粗く、灰白色粘土ほとんど含まない、粘性ある、よくしまっている
9　明褐色スコリア質土　スコリア少なく、粘性非常に強い、滞水層
10　淡茶褐色スコリア質土　スコリア少なく、粘性非常に強い、滞水層
11　暗黒褐色スコリア質土　茶褐色土をしもふり状に含む、灰白色粘土少量混入、ローム粒子多い
12　暗褐色粘質土　スコリア粒子細かく、粘性強、割合よくしまっている



TR07（空堀１）

1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、宝永火山灰混入
3	淡茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラザラして軟らかい、灰白色粘土わずかに含む
4	暗灰褐色粘質土	灰白色粘土・粒子やローム粒子含み、粘性あり、しまっている
5	淡灰褐色粘質土	灰白色粘土・粒子多く含み、砂粒礫も混入、割合よくしまっている
6	灰白色粘質土	灰白色粘土の純層に近い客土・整地層
7	淡茶褐色スコリア質土	一部に灰白色粘土を含むが、灰白色粘土の客土前の表土層
8	淡黄茶褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラついている、割合よくしまっている
9	明褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラついている、割合よくしまっている
10	青灰色砂層ブロック層	
11	暗褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、若干しまっている
12	黒褐色スコリア質土	スコリア粗く、ザラついている、明褐色土混入
13	茶褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、暗褐色土混入
14	暗黒褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、茶褐色土混入
15	茶褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、固くしまっている、黒褐色混入
16	暗茶褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている、
17	暗褐色スコリア質土	スコリアやや細かく、粘性ある、割合よくしまっている、
18	暗茶褐色粘質土	スコリア少なく、粘性強、固くしまっている、ロームブロックわずかに含む
19	暗茶褐色粘質土	スコリア少なく、粘性強、固くしまっている、滞水層
20	茶褐色粘質土	ロームブロック多く、粘性強い、固くしまっている
21	明茶褐色粘質土	ロームブロック多く、粘性強い、固くしまっている
22	暗褐色粘質土	スコリア少なく、粘性強、固くしまっている、滞水層
23	宝永自然堆積層	

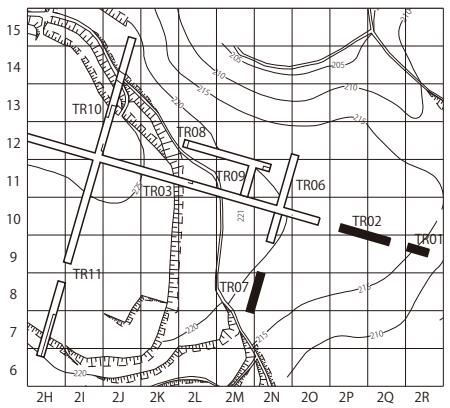
第 47 図　大庭郭張出　TR07［1/100］

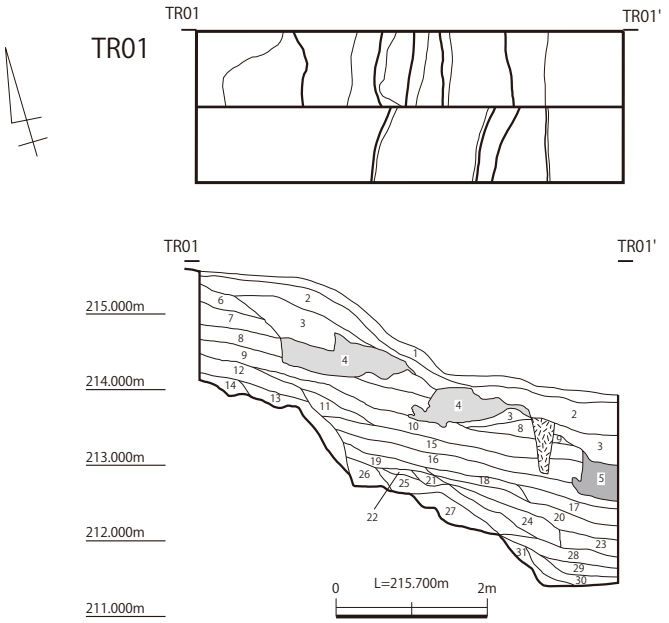


TR02（トレンチ）

1	表土耕作土	
2	茶褐色スコリア質土・宝永火山灰混合土層	
3	宝永火山灰天地返し層	
4	宝永火山灰自然堆積層	
5	明茶褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く
6	茶褐色スコリア質土	スコリア粒子粗く、ザラザラしている
7	暗褐色スコリア質土	スコリア粒子やや粗く、粘性あり、ややしまっている
8	明褐色粘質土	ローム漸移層

第 48 図　大庭郭張出　TR02［1/100］

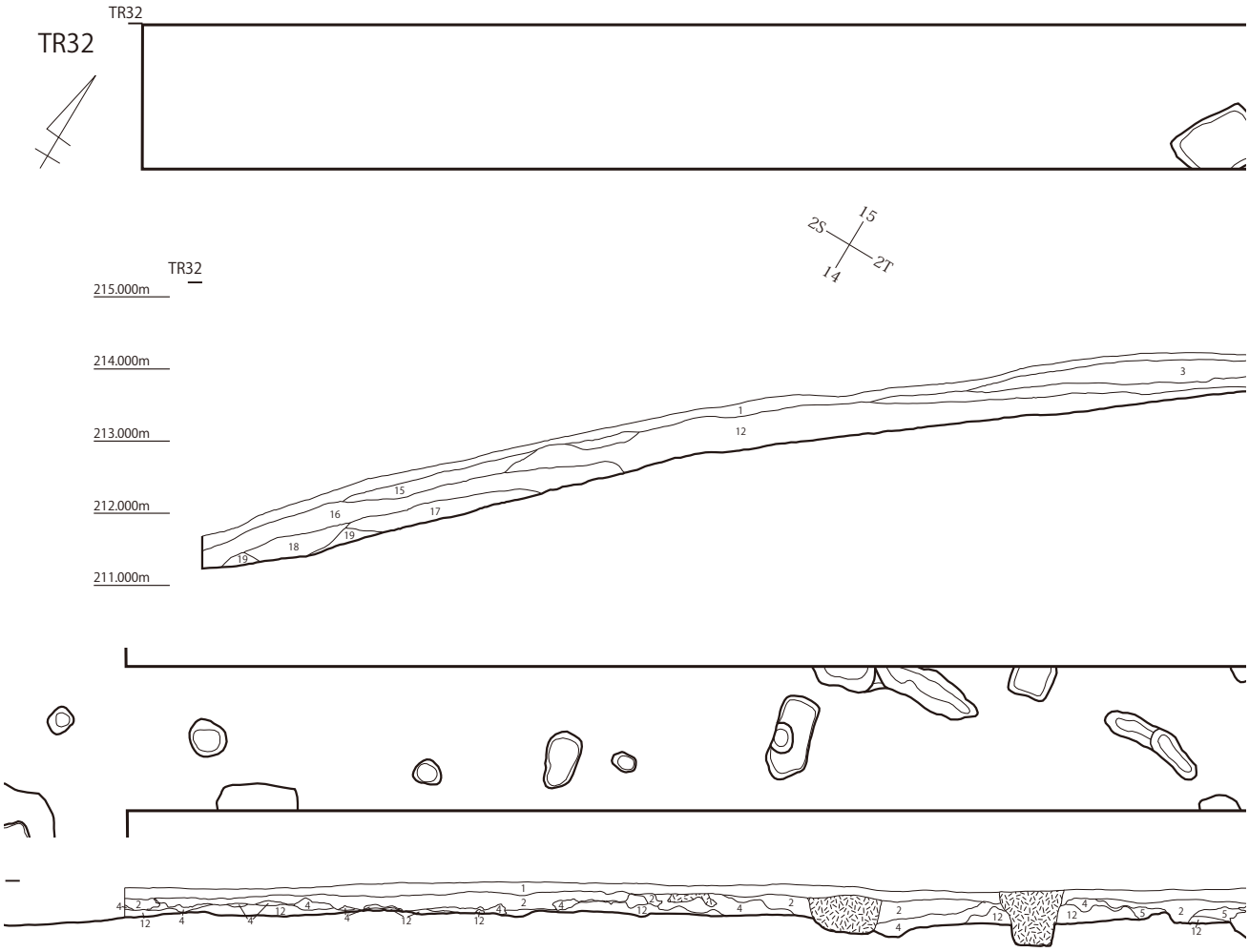




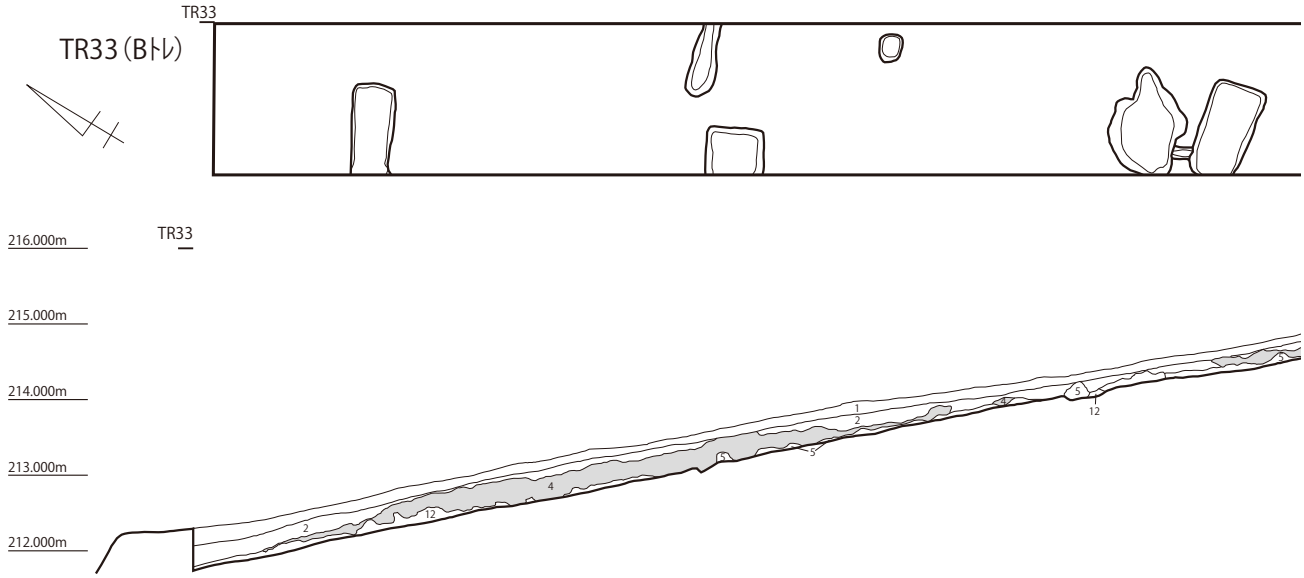
TR01（段切腰郭１）

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　宝永火山灰多く含み軟らかい
3　茶褐色スコリア質土・宝永火山灰混合土層
4　宝永火山灰天地返し層
5　宝永火山灰自然堆積層
6　茶褐色スコリア質土　灰白色粘土・砂粒・泥岩小礫含む
7　明茶褐色スコリア質土　第６層に同じだがよくしまっている
8　淡明褐色スコリア質土　灰黄白色粘土ブロック 30％含み、粘性ある
9　淡茶褐色スコリア質土　灰白色粘土・砂粒・地山ロームブロック含む
10　暗茶褐色スコリア質土　灰白色粘土・砂粒・地山ロームブロック多く含み、整地層の可能性ある
11　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多く、やや軟らかい
12　暗茶褐色粘質土　黄赤褐色ロームブロック２０～３０％含み、固くしまっている
13　明褐色粘質土　黄赤褐色ロームブロック１０～２０％含み、粘性強い
14　暗褐色粘質土　黄赤褐色ロームブロック５０～６０％含み、非常に固い
15　暗褐色スコリア質土　灰白色粘土粒子多く、割合しまって粘性強い
16　暗褐色スコリア質土　第１５層に比して黒味強く、灰白色粘土粒子多い
17　暗黒褐色スコリア質土　暗褐色ロームブロック５０～６０％含み、スコリア少なく粘性あり、整地層
18　暗茶褐色スコリア質土　暗褐色ロームブロック６０～７０％含み、スコリア少なく粘性あり、整地層
19　暗褐色スコリア質土　粒子割合細かく、サラサラしている。ロームブロックはほとんど含まない
20　暗茶褐色スコリア質土　粒子割合細かく、サラサラしている。小ロームブロックわずかに含む
21　暗褐色スコリア質土　ロームブロック若干含み、粘性あり、よくしまっている
22　明褐色スコリア質土　ロームブロック３０～４０％含み、粘性あり、よくしまっている
23　赤黄茶褐色スコリア質土　粗粒スコリア４０～５０％含み、ザラザラしている
24　暗茶褐色スコリア質土　ロームブロック若干含み、粘性強、固くしまっている
25　暗褐色スコリア質土　ロームブロック若干含み、粘性強、固くしまっている
26　灰茶褐色粘質土　灰白色粘土・ロームブロックの混合層で、固くしまっている
27　暗灰茶褐色粘質土　ロームブロック３０％含み、非常に固くしまっている
28　暗褐色粘質土　ロームブロック３０％含み、粘性強、固くしまっている。整地層と思われる
29　暗黒褐色粘質土　ロームブロック３０％含み、灰白色粘土やや多く含む
30　暗茶褐色粘質土　ロームブロック３０％含み、灰白色粘土を多く含んでいる
31　茶褐色粘質土　ロームブロック・灰白色粘土の混合層、非常に固くしまっている

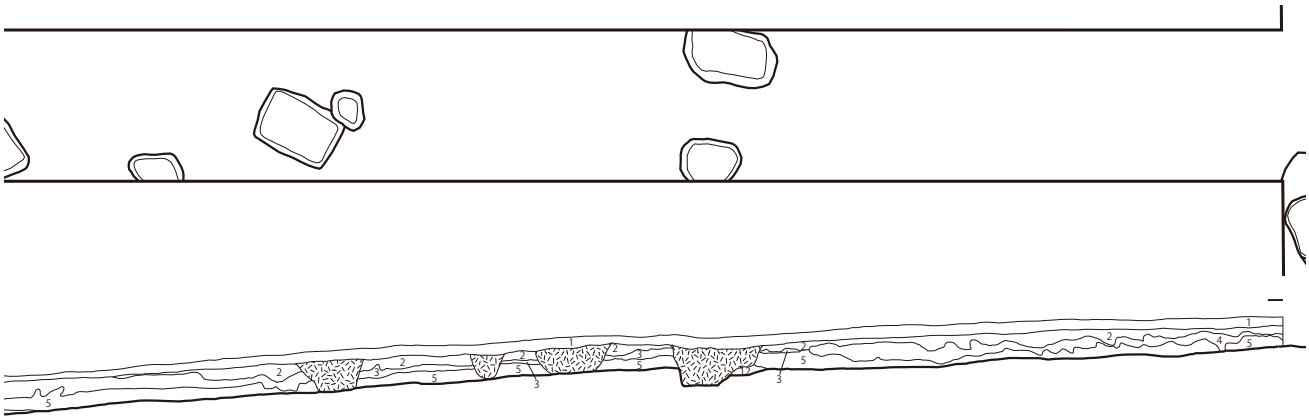
第 49 図　大庭郭張出　段切腰郭　TR01［1/100］

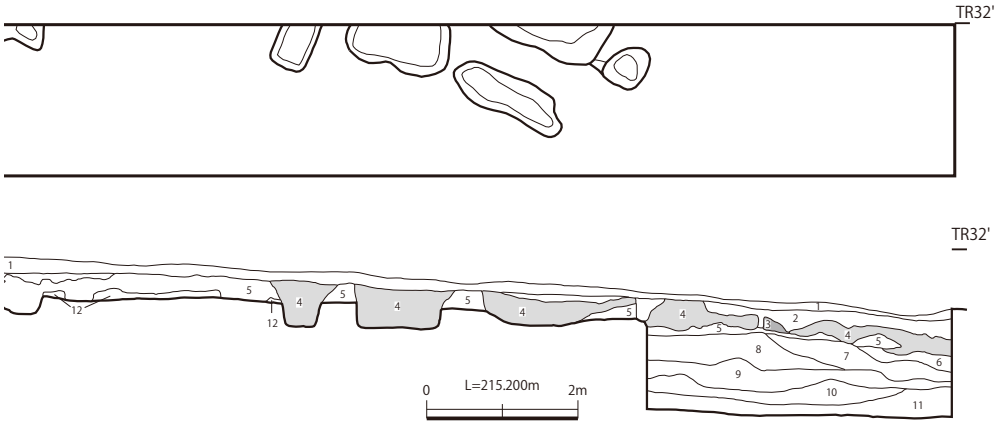


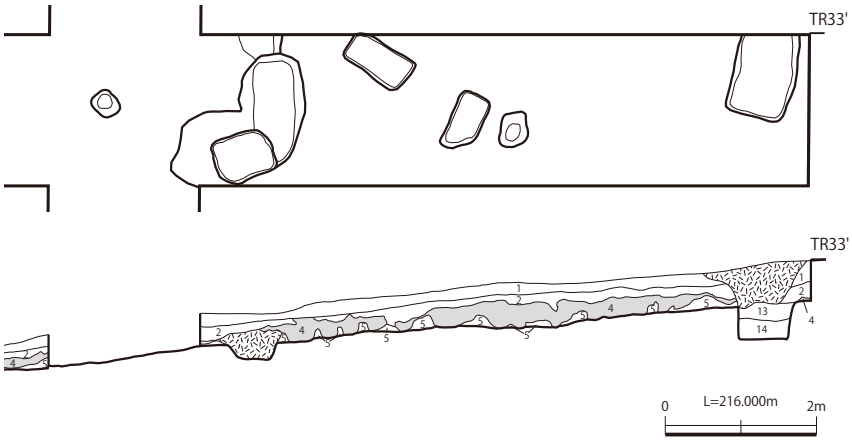
第 50 図　馬違戸　TR32［1/100］

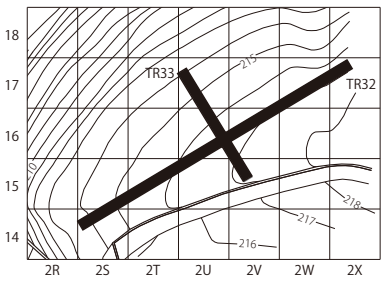


第 51 図　馬違戸　TR33［1/100］





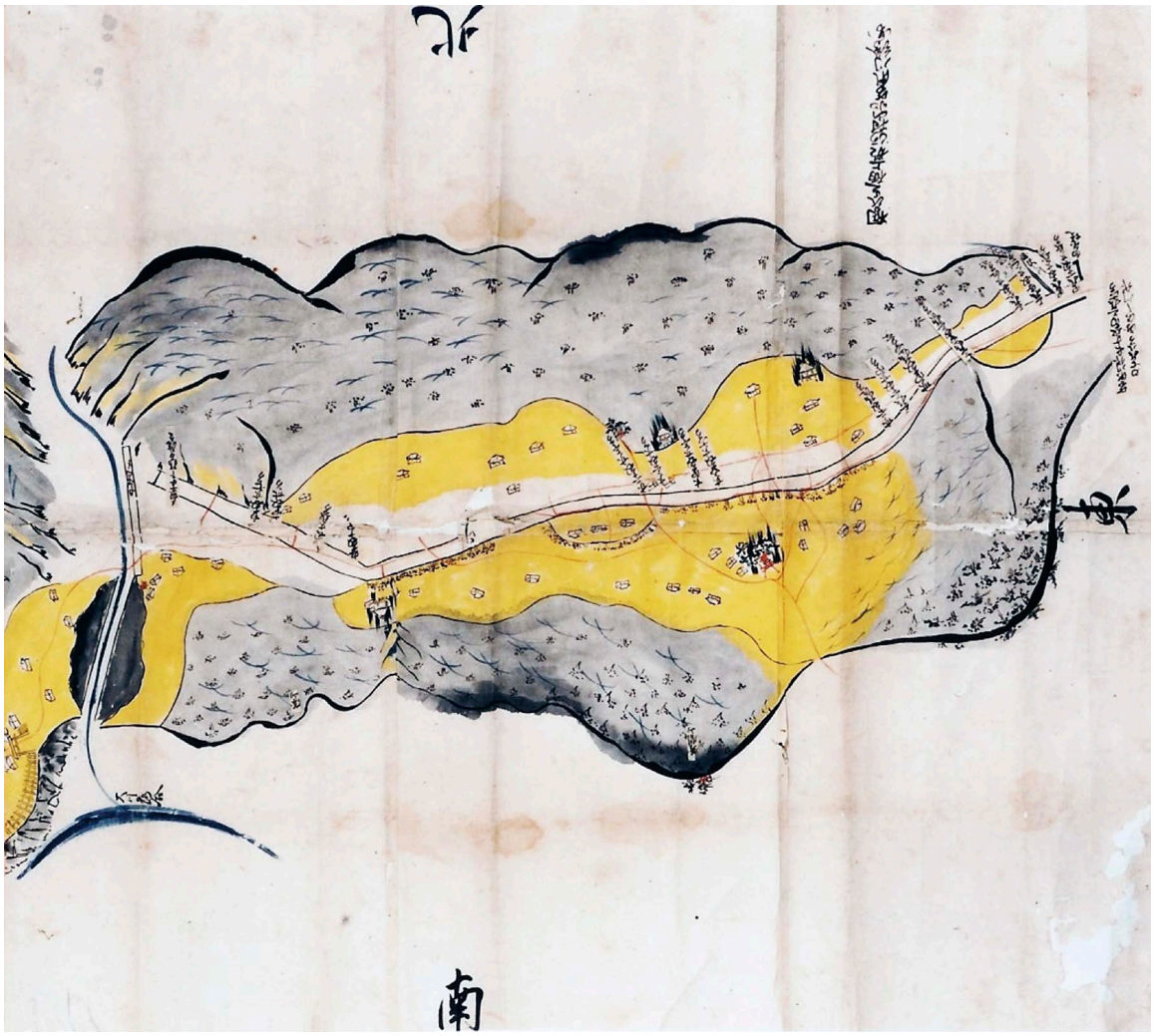




TR32・33

1　表土耕作土
2　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、宝永火山灰混入
3　宝永火山灰自然堆積層
4　宝永火山灰天地返し層
5　明茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い
6　茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、割合しまっている、粘性弱い、地山層
7　明褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、割合しまっている、粘性ある、地山層
8　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、固くしまっている、粘性ある、地山層
9　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、固くしまっている、粘性ある、地山層
10　暗茶褐色粘質土　黒褐色土が混入、ローム漸移層、地山層
11　明茶褐色粘質土　ローム漸移層、地山層
12　赤茶褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い、割合しまっている
13　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、暗褐色土混入、粘性弱い
14　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、黒褐色土混入、粘性弱い
15　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子非常に粗く、ザラザラしている、粘性弱い
16　暗褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、ザラザラしている、粘性弱い
17　暗黒褐色スコリア質土　スコリア粒子粗く、ザラザラしている、粘性弱い、割合しまっている
18　暗茶褐色スコリア質土　スコリア粒子非常に粗く、ザラザラしている、粘性弱い
19　黒褐色スコリア質土　スコリア粒子やや粗く、粘性若干ある、固くしまっている

相模国足柄上郡山北村絵図（背替以前）

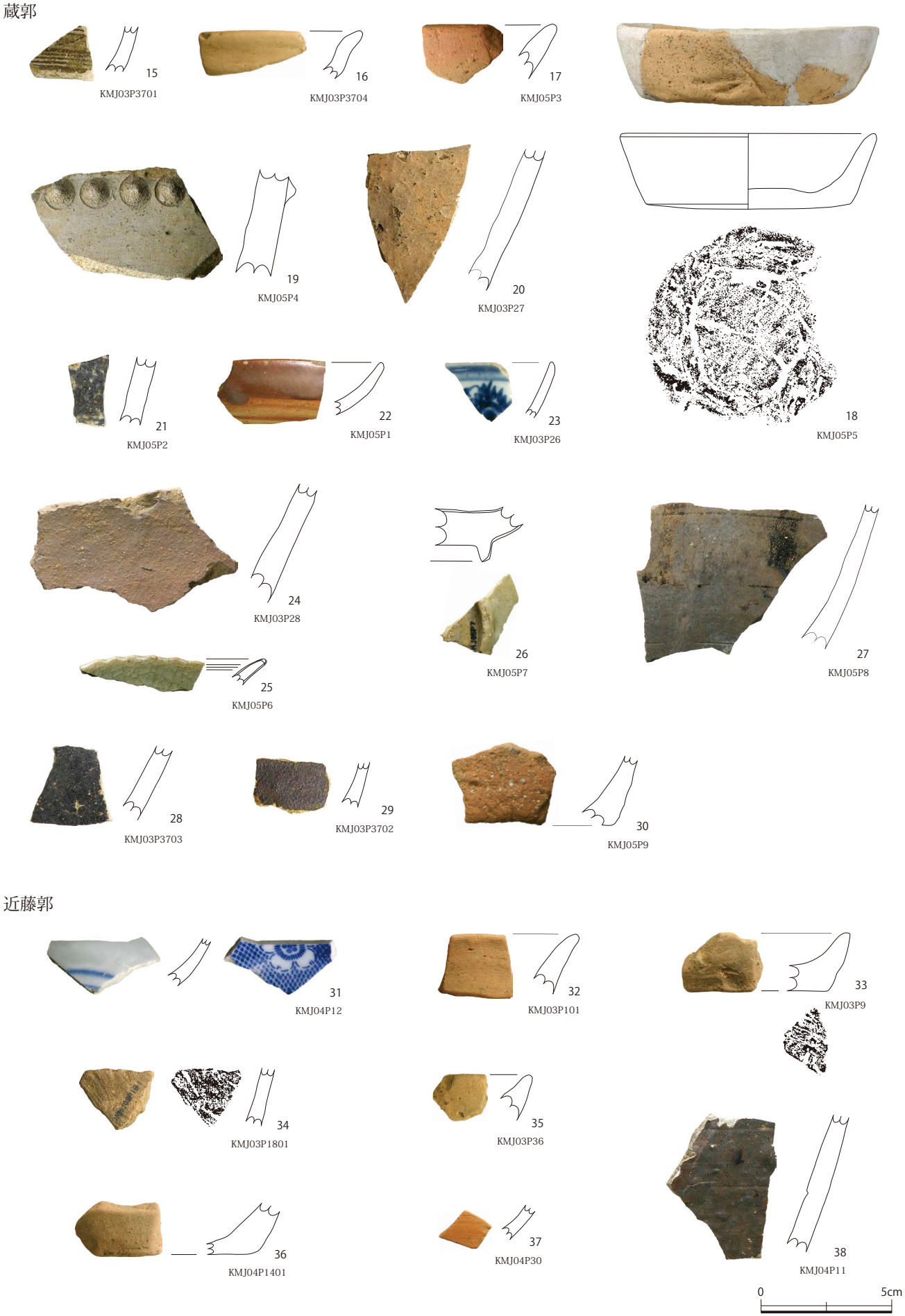


相州足柄上郡河村山北皆背川絵図（1709-1733 背替後）

堀切３

第 52 図　堀切３出土土器［1/2］

蔵郭

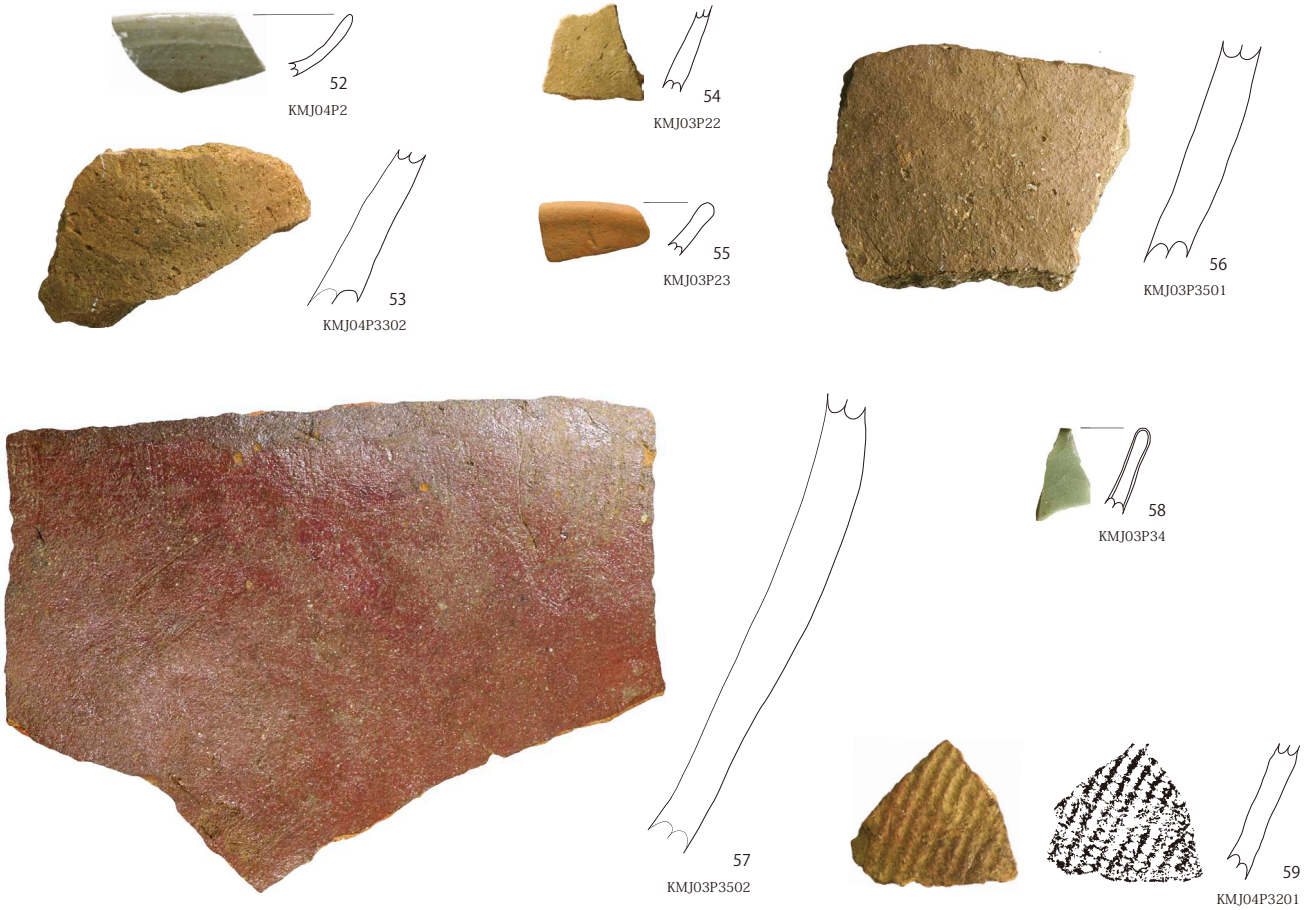


第 53 図　蔵郭・近藤郭出土土器（１）［1/2］

近藤郭

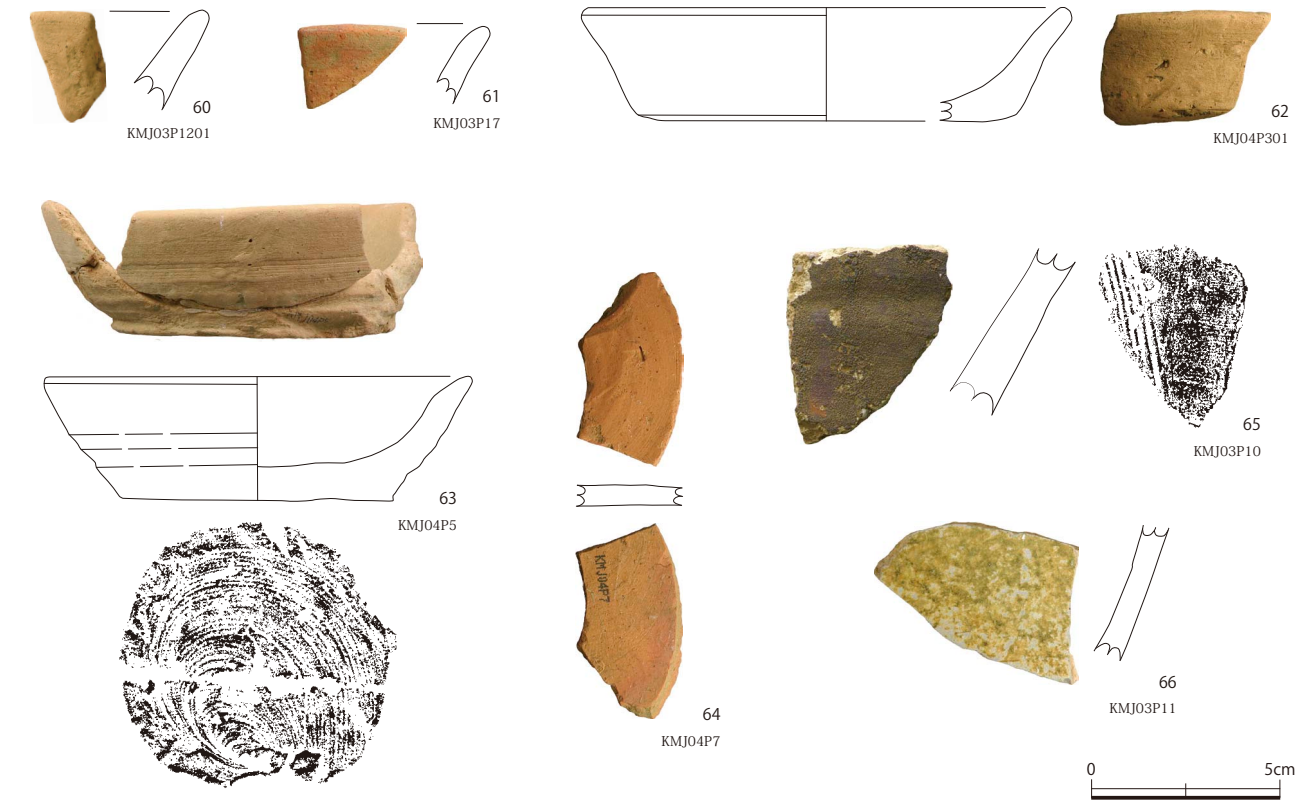
第 54 図　近藤郭出土土器（２）［1/2］

多地屋敷



大庭郭

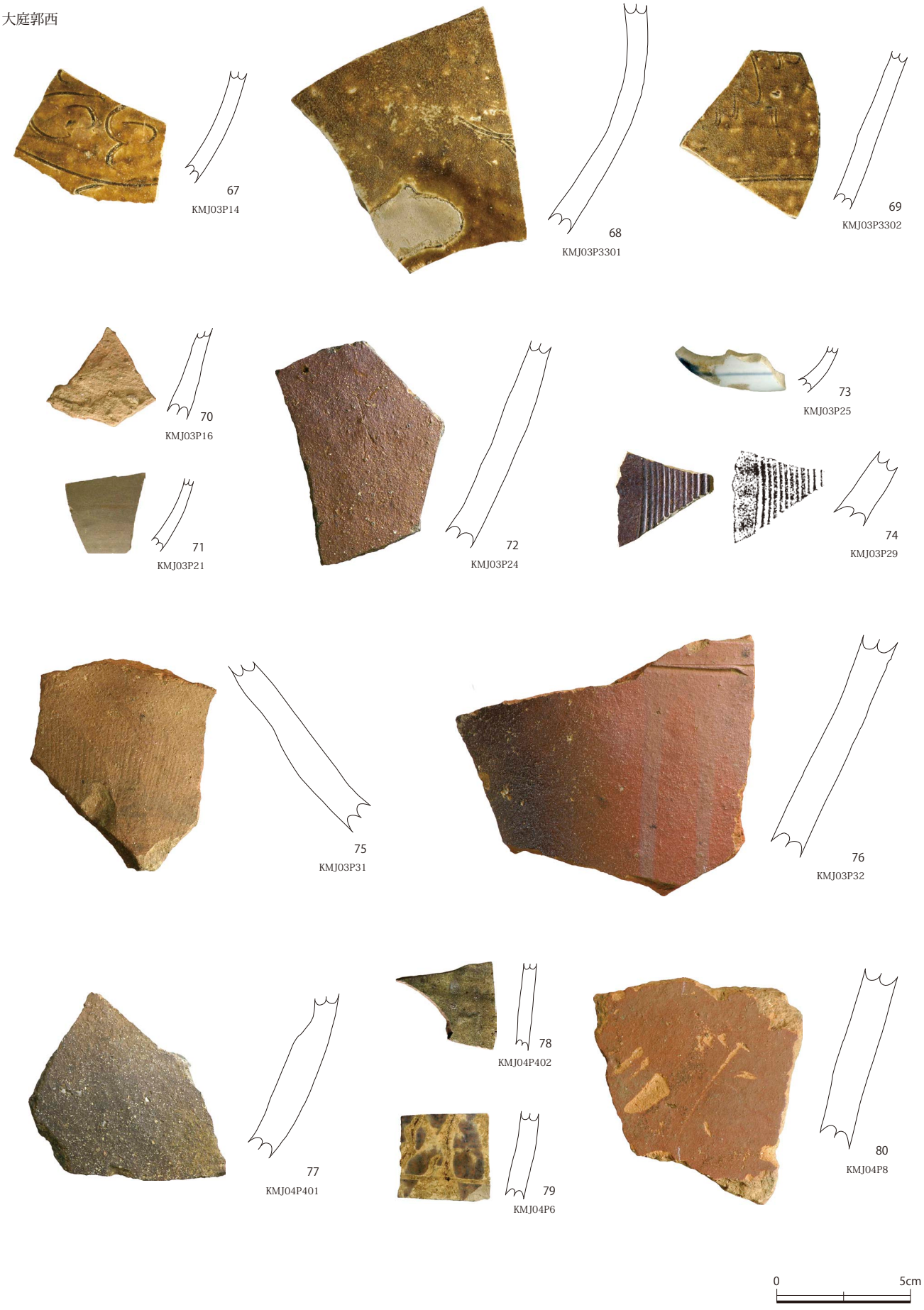
大庭郭西



第 55 図　多地屋敷・大庭郭出土土器（1）［1/2］

大庭郭

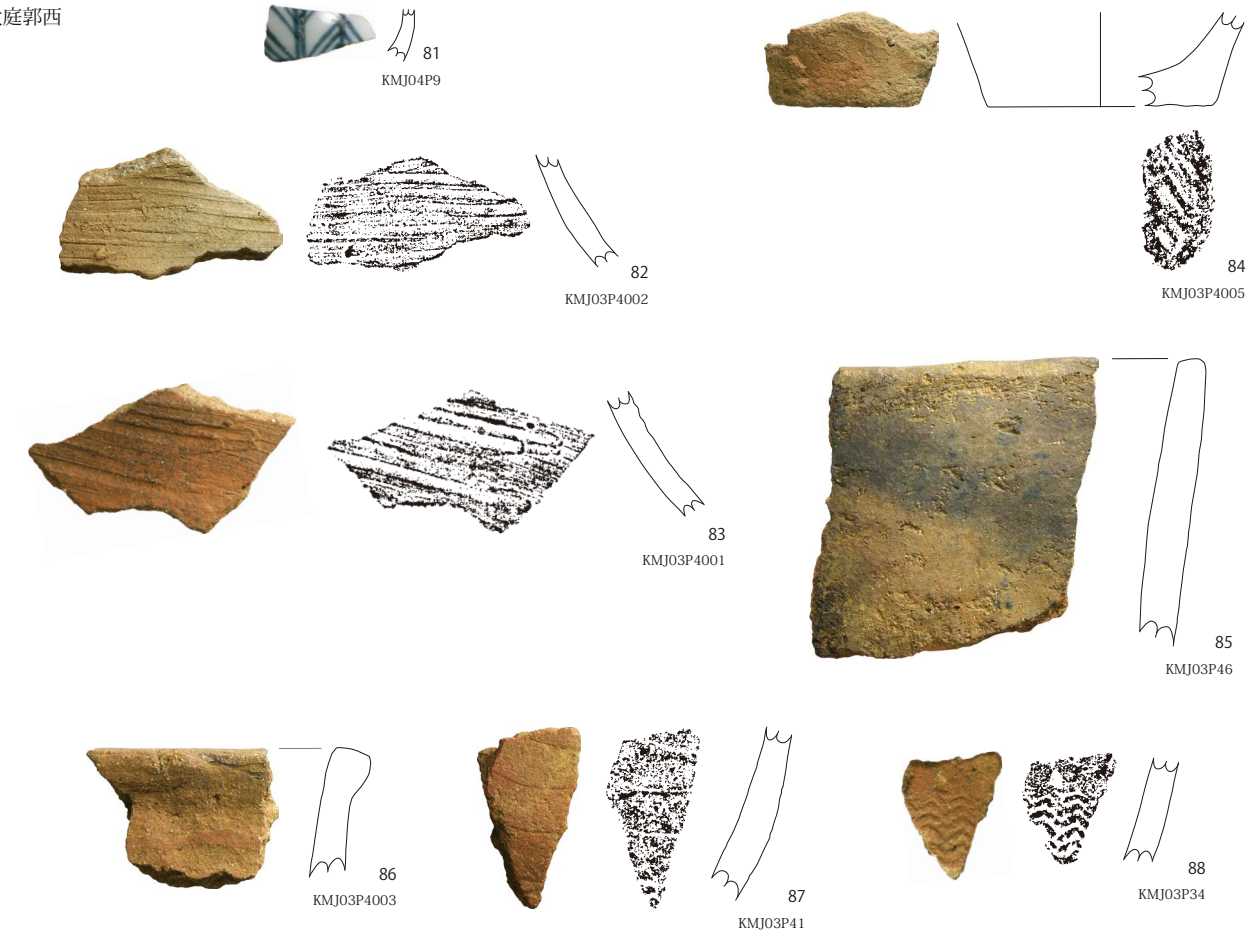
大庭郭西



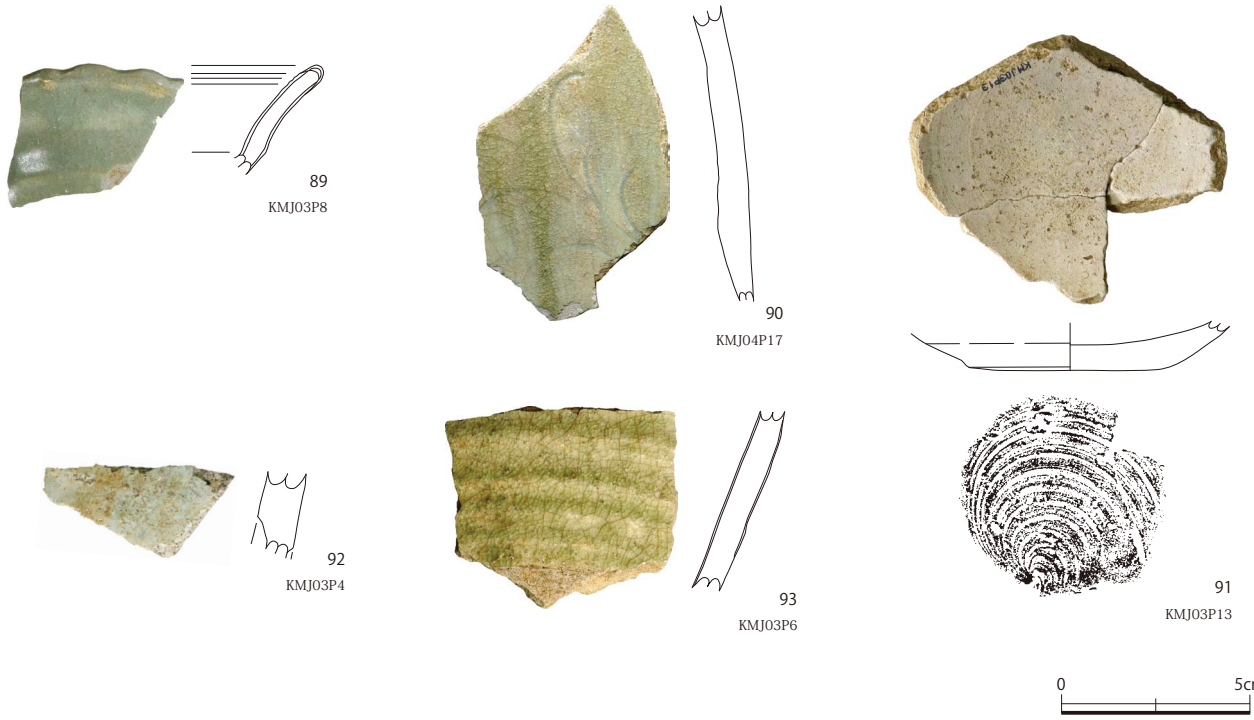
第 56 図　大庭郭出土土器（２）［1/2］

大庭郭

大庭郭西



大庭郭東



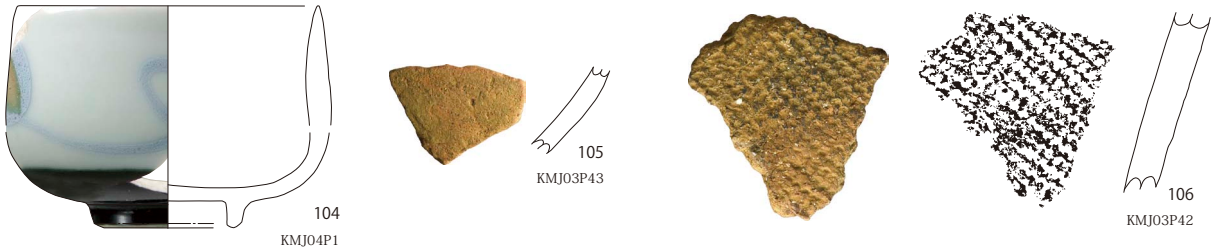
第 57 図　大庭郭出土土器（３）［1/2］

大庭郭

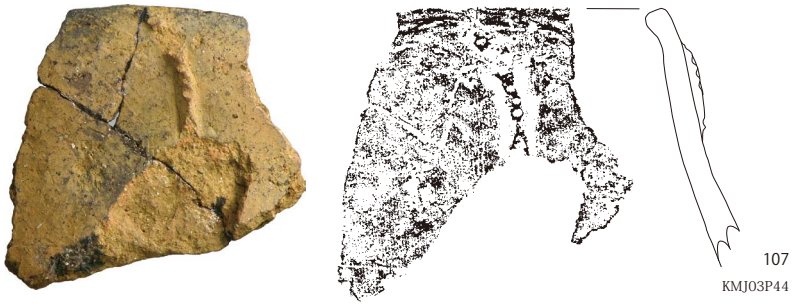
大庭郭東

第 58 図　大庭郭出土土器（４）［1/2］

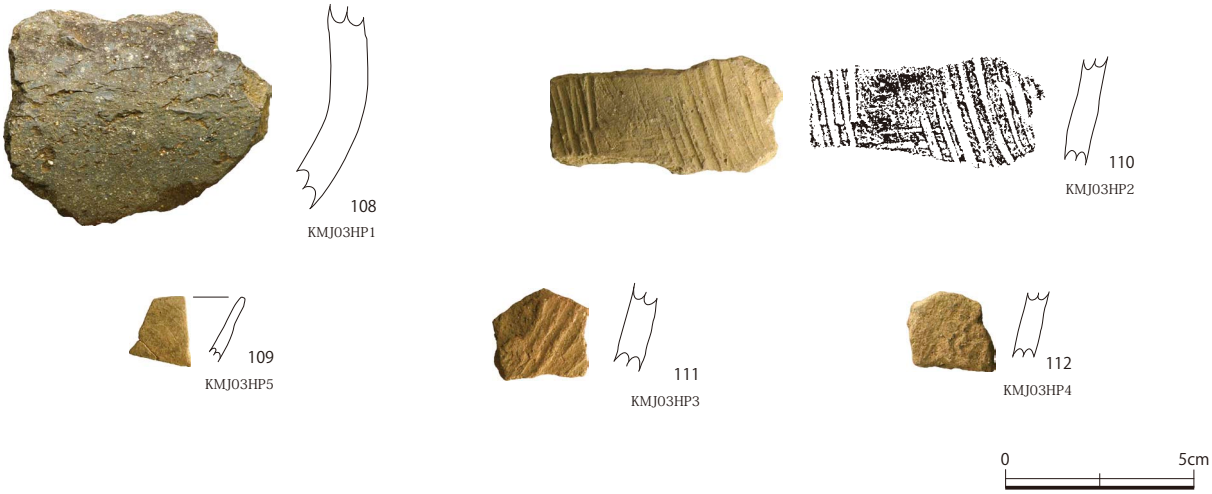
大庭郭張出



馬違戸

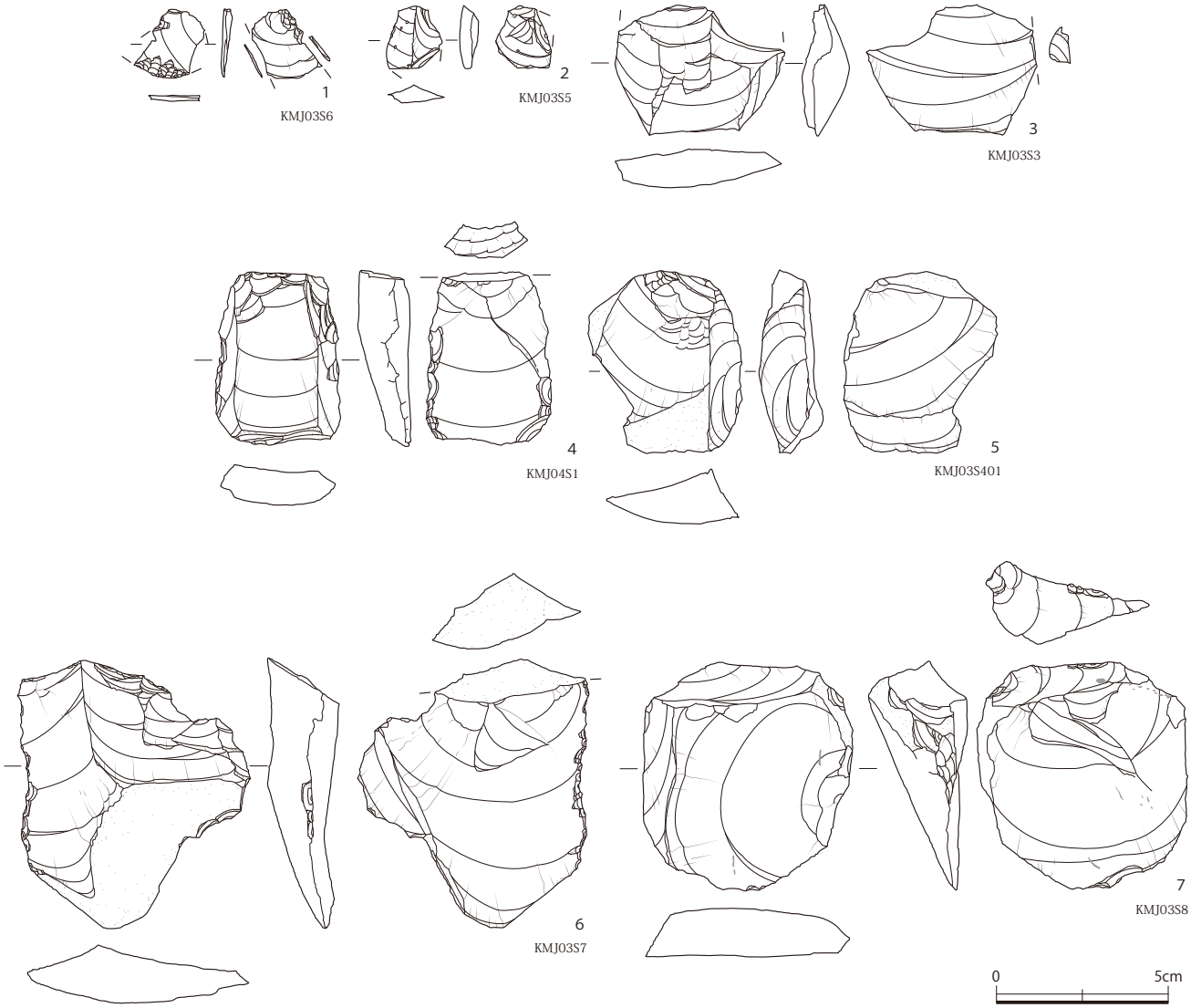


表採

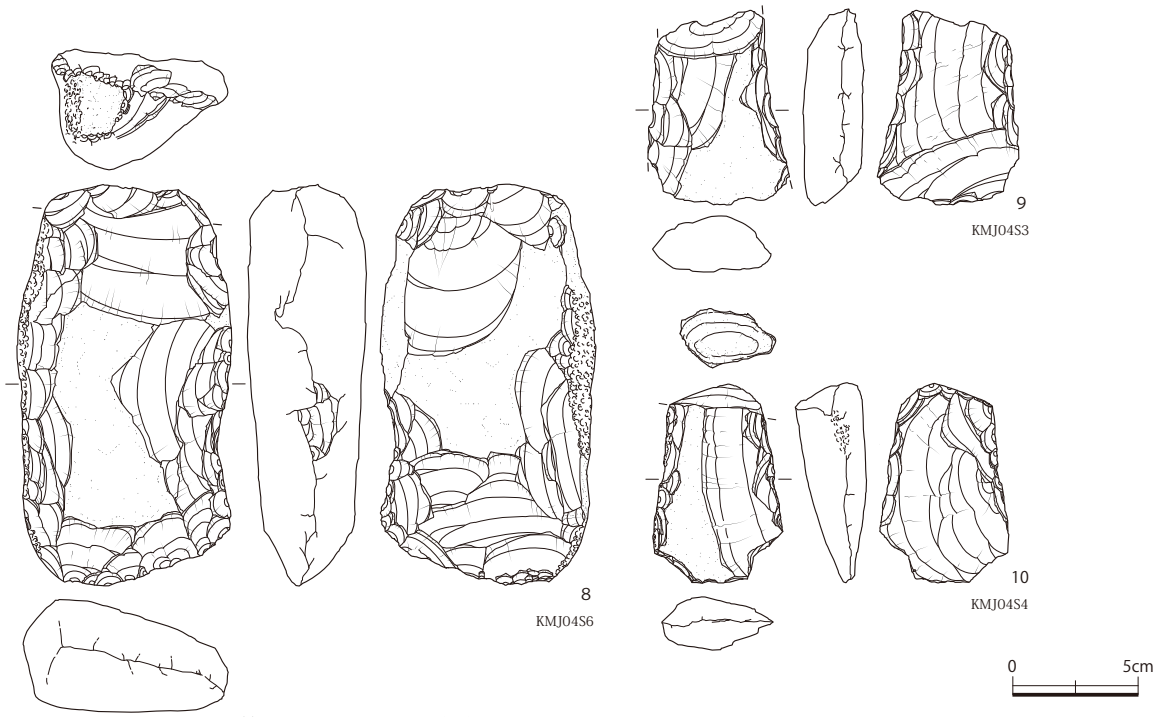


第 59 図　大庭郭張出・馬違戸・表採出土土器［1/2］

剥片類



打製石斧



第 60 図　出土石器（1）［1～7：1/2，8～10：1/3］

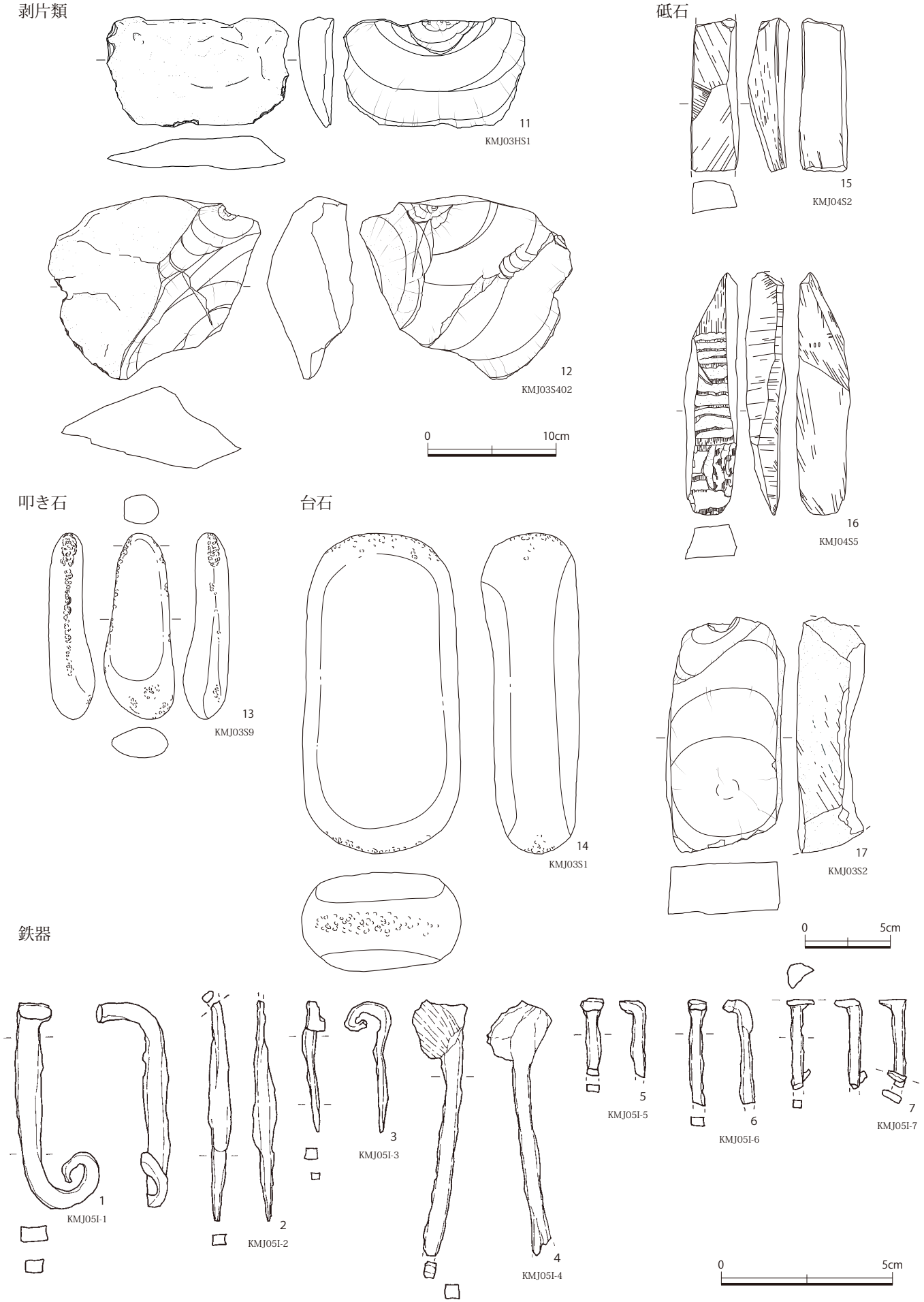
剥片類

砥石

叩き石

台石

鉄器



第 61 図　出土石器（2）［11・13 ～ 17：1/3，12：1/4］・出土鉄器［2/3］

第１表　縄張り別出土遺物一覧（１）

No.	註記	挿図	番号	縄張り	遺構・旧トレンチ	グリッド	層位	型式等	口径 [長さ](cm)	底径 [幅](cm)	厚さ cm	重さ (g)	色調・胎土・同一個体等	部位	時期・時代
149	KMJ04P24	52	1	堀切３	堀切３ Ａライン北側	I-19	第１硬化面上層	かわらけ	4.0	3.2	1.2	13.1	淡橙　3、26	口縁～底	中世
151	KMJ04P26	52	2	堀切３	堀切３	G～I-18～20	第１硬化面上部層	かわらけ	5.0	2.6	1.0	16.5	淡橙　3、24	口縁～底	中世
153	KMJ04P2801	52	3	堀切３	堀切３　橋脚４柱痕掘り方	H-20	覆土	かわらけ	2.6	2.4	1.1	5.5	淡橙、横調整	底	中世
182	KMJ04P42	52	4	堀切３	橋脚１柱痕掘り方	I-19	覆土	かわらけ	1.6	1.7	0.4	0.8	橙、ヘラ調整、緻密	口縁	中世
148	KMJ04P23	52	5	堀切３	堀切３ Ａライン北側	I-19	第１硬化面上部層	唐津　碗	3.3	3.1	0.6	7.3	黒釉、断面灰白	胴	中世
9	KMJ03P3	52	6	堀切３	堀切３	I-19	堀内中層	常滑　甕	6.8	5.6	1.3	83.7	断灰、石英粒、炭化物附着	底	中世
142	KMJ04P19	52	7	堀切３	堀切３	G～I-18～20	堀内中層	常滑　甕	5.0	4.5	0.6	14.7	断面黄白、鉛状付着物　16、18	胴	中世
144	KMJ04P2002	52	8	堀切３	堀切３	G～I-18～20	堀内覆土中・下層	常滑　甕	9.7	9.0	1.3	140.0	断面黒灰、縦位ハケ	胴	中世
145	KMJ04P21	52	9	堀切３	堀切３	G～I-18～20	堀内覆土中・下層	常滑　甕	6.3	4.3	1.2	34.0	断面黄灰、内面橙灰、自然釉	胴	中世
146	KMJ04P2201	52	10	堀切３	堀切３本城郭側法面	G・H-19・20	Ａトレ北側覆土	常滑　甕	8.4	6.3	1.2	74.0	下端部磨痕、内面ミガキ	胴	中世
150	KMJ04P25	52	11	堀切３	堀切３ Ａライン北側	I-19	第１硬化面上部層	常滑　甕	5.9	4.8	1.0	30.8	黄灰、断面灰内面被熱、 アバタ状、縦位→横位調整	胴	中世
152	KMJ04P27	52	12	堀切３	堀切３	G～I-18～20	第１硬化面上	常滑　甕	11.2	2.5	0.8	82.3	内底面炭化物付着、断面黒・灰、外底部被熱タダレ、繊維状圧痕	底	中世
155	KMJ04P29	52	13	堀切３	堀切３ Ａライン北側段切腰郭	I-19	覆土	常滑　甕	7.3	6.8	1.1	75.2	断面灰、内面線状痕	頚	中世
179	KMJ04P40	52	14	堀切３	第１硬化面上部	G・H-18・19	覆土層	堂山　甕	3.1	2.7	1.0	12.7	暗茶褐、口唇キザミは長さ7mm、幅 2mm「い」の字状、口縁幅 2mm の条痕	口縁	弥生
185	KMJ04S3	60	3	堀切３	堀切３ 本城郭	G・H-19・20	覆土	打製石斧　凝灰岩	-7.9	5.0	2.1	106.0	暗緑、背面礫面残置	基部欠	弥生
143	KMJ04P2001	—	—	堀切３	堀切３	G～I-18～20	堀内覆土中・下層	常滑　甕	7.2	5.8	1.5	91.7	断面灰黒、横位板状工具痕	頚	中世
147	KMJ04P2202	—	—	堀切３	堀切３ 本城郭側法面	G・H-19・20	Ａトレ北側覆土	常滑　甕	5.6	5.6	1.2	58.7	胎土長石やや多	胴	中世
8	KMJ03P2	—	—	堀切３	堀切３	I-19	堀内中層	かわらけ	1.6	3.9	0.7	8.4	淡橙、内外面調整、黒粒	底	中世
154	KMJ04P2802	—	—	堀切３	堀切３　橋脚４柱痕掘り方	H-20	覆土	かわらけ	3.2	3.2	0.8	3.2	淡橙、胎土金雲母	胴	中世
191	KMJ04C2	—	—	堀切３	橋脚４ 本城郭北側	H-20	柱穴内覆土	炭化資料	—	—	—	—	—	—	中世
192	KMJ04C3	—	—	堀切３	本城郭側	H-20	第１硬化面上 (同レベル)	炭化物	—	—	—	—	樹種同定⑧パレオ・ラボ	—	—
193	KMJ04C4	—	—	堀切３	橋脚１ 蔵郭側	H-20	柱穴内覆土	炭化物	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ③ 加速器分析研究所	—	中世
194	KMJ04C5	—	—	堀切３	橋脚２ 蔵郭南側	I-19	柱穴内覆土	炭化物	—	—	—	—	—	—	中世
195	KMJ04C6	—	—	堀切３	東側ピット	I-19	第１硬化面	炭化物	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ④ 加速器分析研究所	—	中世
196	KMJ04C7	—	—	堀切３	西側ピット	H-20	第１硬化面	炭化物	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ⑤ 加速器分析研究所 樹種同定⑨パレオ・ラボ	—	中世
197	KMJ04C8	—	—	堀切３	堀切３	G～I-18～20	第２硬化面下部層 第３硬化面上	炭化物	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ⑥ 加速器分析研究所 樹種同定⑩パレオ・ラボ	—	中世
198	KMJ04C9	—	—	堀切３	蔵郭側北側掘り方	I-19	床面直上 (約 50cm 上)	炭化物	—	—	—	—	樹種同定⑪パレオ・ラボ	—	中世
51	KMJ03P3701	53	15	蔵郭	AT340 ～ 360、 A35ST-1 ～ 6	K・L-18	天地返し層	緑釉　碗	1.9	2.8	0.6	2.8	暗褐、接合面	胴	近世
54	KMJ03P3704	53	16	蔵郭	AT340 ～ 360、 A35ST-1 ～ 6	K・L-18	天地返し層	かわらけ	1.8	4.0	0.6	5.0	淡橙、内外横条線調整	口縁	中世
201	KMJ05P3	53	17	蔵郭	TR29 No.36 北トレ ドット９	J・K-19・20	219.276	かわらけ	2.3	3.0	0.8	4.8	淡橙、胎土黒粒・白粒	口縁～底	中世
203	KMJ05P5	53	18	蔵郭	TR24 No.33 南トレ確認面	M-17・18	覆土内	かわらけ	9.1	7.6	2.0	59.1	淡橙、右回転ロクロ整形回転糸切痕、内面は定方向の調整	口縁	15 世紀から 16 世紀前半？
202	KMJ05P4	53	19	蔵郭	No.37 杭南側	I・J-19・20	表採	瓦質土器火鉢	5.8	4.2	1.2	35.8	外面灰、丁寧な調整、内面ロクロヘラ、断面三角形の円形の貼り付黒灰	胴	鎌倉より室町以降14世紀後半～ 15 世紀後半 14or15Cに多い
39	KMJ03P27	53	20	蔵郭	AT-343	L-18	ピット確認面直上	信楽　茶壷	3.9	6.1	0.8	21.8	タール付着物、内面指頭調整、被熱小　03P19 同一個体	胴	15 世紀後半戦国期
200	KMJ05P2	53	21	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ ドット８	L・M-19	221.120	瀬戸　鉄釉壷	2.8	1.5	0.8	5.1	外面黒、施釉の大半が剥落か、粒状に浮き出る。断面灰、胎土長石　04P6 似	胴	中世
199	KMJ05P1	53	22	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ ドット３	L・M-19	220.900	瀬戸美濃系鉄釉 灯明皿	2.7	4.0	0.5	8.6	外面口唇部のみ施釉、口縁部欠損部にタール状物質付着	口縁	中世
38	KMJ03P26	53	23	蔵郭	AT310	O-17	表土層	染付　碗	2.5	2.3	0.4	2.5	小田原北条期　明	胴	15 世紀後半～ 16 世紀前半
40	KMJ03P28	53	24	蔵郭	AT-327	N-17	礫群下部	常滑	2.8	4.7	0.9	38.0	断面暗灰白、内面黒	胴	中世
204	KMJ05P6	53	25	蔵郭	TR22 No.32 南トレ竪穴状遺構	N-17	覆土内	稜花皿	4.8	1.3	0.6	4.2	暗緑、折れ面タール状物質付着、貫乳、1	口縁	15 世紀後半、 明代龍泉系
205	KMJ05P7	53	26	蔵郭	TR22 No.32 南トレ竪穴状遺構	N-17	覆土内	碗	3.3	1.9	1.4	10.6	緑白、内底面 1 条の界線、断面灰白、被熱	底	15 世紀が中心 15C 後半 (新) 明代龍泉系
206	KMJ05P8	53	27	蔵郭	TR22 No.32 南トレ竪穴状遺構	N-17	覆土内	中国褐釉 四耳壺 (茶壷)	6.8	6.0	0.7	40.5	黒褐、断面灰、内面灰に暗灰の縞、外面に３条線、内面ロクロ整形、外面施釉部が被熱で貫乳状化。須恵質国産品と異なる。03P11　04P15	胴	海外か 時期不明

第２表　縄張り別出土遺物一覧（２）

No.	註記	挿図	番号	縄張り	遺構・旧トレンチ	グリッド	層位	型式等	口径[長さ](cm)	底径[幅](cm)	厚さ cm	重さ (g)	色調・胎土・同一個体等	部位	時期・時代
53	KMJ03P3703	53	28	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	陶器　碗	3.0	3.1	0.8	9.6	黒褐、胎土白茶、内面 05P2	胴	中世
52	KMJ03P3702	53	29	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	擂鉢	2.0	2.4	0.5	5.2	暗緑　20	胴	中世
207	KMJ05P9	53	30	蔵郭	TR23 No.33 北トレ　ドット９　竪穴状遺構１	M-18	覆土内	堂山　甕	2.9	3.7	1.0	12.9	淡褐、石英、金雲母	胴～底	弥生
94	KMJ03S5	60	2	蔵郭	AT-340 ～360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	剥片 黒曜石(柏峠)	1.5	-1.4	0.4	1.3	単剥離打面 135 度、神津島系	中間	弥生
208	KMJ05I1	61	1	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	鉄釘 切頭釘　３寸 鉄片 12 片	5.9	0.8	0.6	8.5	鉄器保存処理①京都科学	鉄片12片	中世
209	KMJ05I2	61	2	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 1	M-18	220.875	鉄釘　切頭釘 ２寸５分 鉄片　２片	-6.4	0.6	0.4	4.4	鉄器保存処理②京都科学	鉄片 2片	中世
210	KMJ05I3	61	3	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 2	M-18	220.925	鉄釘　切頭釘 １寸５分 鉄片　５片	3.7	0.3	0.3	1.2	鉄器保存処理③京都科学	鉄片 5片	中世
211	KMJ05I4	61	4	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 4	M-18	220.960	鉄釘　切頭釘 ２寸５分 鉄片、木質部残存	-7.1	0.5	0.5	8.3	鉄器保存処理④京都科学	鉄片、木質部残存	中世
212	KMJ05I5	61	5	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 5	M-18	220.665	鉄釘　切頭釘１寸 鉄片、４片	-2.3	0.3	0.3	0.9	鉄器保存処理⑤京都科学	鉄片、4片	中世
213	KMJ05I6	61	6	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 6	M-18	220.850	鉄釘　切頭釘１寸 鉄片(釘状)、２片	-3.1	0.4	0.3	1.5	鉄器保存処理⑥京都科学	鉄片 (釘状)、２片	中世
214	KMJ05I7	61	7	蔵郭	TR23 No.33 北側サブトレ内　Dot 7	M-18	220.765	鉄釘　切頭釘１寸 鉄片	-2.6	0.4	0.3	7.0	鉄器保存処理⑦京都科学	鉄片	中世
55	KMJ03P3705	—	—	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	かわらけ	2.0	3.2	0.6	4.8	淡橙、口唇部ハケ、胎土白粒	口縁	中世
56	KMJ03P3706	—	—	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	かわらけ	2.9	3.9	0.9	13.8	淡橙、調整	底	中世
57	KMJ03P3707	—	—	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	かわらけ	2.8	3.7	0.5	4.9	淡橙	胴	中世
58	KMJ03P3708	—	—	蔵郭	AT340~360、A35ST-1 ～６	K・L-18	天地返し層	かわらけ	1.8	1.6	0.9	2.3	淡橙	底	中世
215	KMJ05C1	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	炭化米	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ⑦ 加速器分析研究所	—	中世
216	KMJ05C2	—	—	蔵郭	TR22 No.32 南トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	炭化物	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ⑧ 加速器分析研究所	—	中世
217	KMJ05C3	—	—	蔵郭	TR22 No.32 南トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	炭化米 (土壌中) ほか	—	—	—	—	樹種同定⑫パレオ・ラボ	—	中世
218	KMJ05W1	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	白色粘土３	—	—	—	—	—	—	中世
219	KMJ05W2	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	白色粘土５	—	—	—	—	土壌分析①パレオ・ラボ	—	中世
220	KMJ05W3	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	白色粘土６	—	—	—	—	土壌分析②パレオ・ラボ	—	中世
221	KMJ05W4	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	焼固粘土塊(土壁)	—	—	—	—	土壌分析③パレオ・ラボ	—	中世
222	KMJ05W5	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	レンガ４	—	—	—	—	土壌分析④パレオ・ラボ	—	中世
223	KMJ05W6	—	—	蔵郭	TR23 No.33 北トレ竪穴状遺構	M-18	覆土内	レンガ７	—	—	—	—	—	—	中世
224	—	—	—	蔵郭	炭化米等検出遺構	L ～ O-17～19	覆土	土壌 100 袋(土嚢)	—	—	—	—	種実同定５袋　古環境研究所		中世
131	KMJ04P12	53	31	近藤郭	空堀６ A24NT-1～10	V-16	覆土排土中 (表土層 ?)	磁器　碗	4.3	2.1	0.5	5.7	断面白	胴	近代
1	KMJ03P101	53	32	近藤郭	E トレ上段	X-18	整地層	かわらけ	2.5	2.4	0.9	6.0	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	口唇	中世
16	KMJ03P9	53	33	近藤郭	E トレ上段部	X-18	整地層付近　表採	かわらけ	2.3	2.9	1.0	9.0	内外面指ナデ、右回転糸切痕	底	中世
30	KMJ03P1802	53	34	近藤郭	竪堀1 AT-247	U-16	覆土内	かわらけ	2.5	2.5	0.6	4.4	黄褐、ハケ	胴	中世
50	KMJ03P36	53	35	近藤郭	AT203～205	Z-14	整地層内	かわらけ	2.1	1.8	0.9	2.5	暗灰	口縁	中世
133	KMJ04P1401	53	36	近藤郭	空堀６段切腰郭間　E トレ	TR-17	整地層	かわらけ	3.2	2.0	1.4	10.0	外面ヨコナデ	胴～底	中世
156	KMJ04P30	53	37	近藤郭	E トレ	TR-17	整地層	かわらけ	2.0	1.3	0.5	0.9	橙、内外ヘラ調整、緻密	底	中世
130	KMJ04P11	53	38	近藤郭	空堀６段切腰郭間　E トレ	TR-17	整地層内 (上段部)	褐釉　壷	3.9	5.5	0.8	21.2	断面暗灰、内面黄灰、線状痕、被熱剥落	胴	中世
31	KMJ03P19	54	39	近藤郭	AT-265	T-16	撹乱層	信楽　茶壷	4.6	3.5	0.7	15.6	灰黄白、被熱状の炭化物が胎土内部から滲み出すよう　27	胴	中世
32	KMJ03P20	54	40	近藤郭	AT-245	U・V-16	表土層	擂鉢	2.9	2.7	0.6	6.4	断面黄白　3702	胴	
26	KMJ03P15	54	41	近藤郭	竪堀1 AT-247	U-16	覆土上層	常滑　甕	6.0	2.8	0.8	17.4	断面赤褐、内面ナデ指頭痕	胴	中世
29	KMJ03P1801	54	42	近藤郭	竪堀1 AT-247	U-16	覆土内	常滑　甕	6.0	7.0	1.0	38.4	断面赤褐、内面指頭ナデ	胴	中世
128	KMJ04P1001	54	43	近藤郭	空堀6 A233-240NT-5 ～７	V-16	覆土中層	常滑　甕	3.0	4.5	1.0	14.9	断面灰黒、外面にヌメリ	胴	中世
132	KMJ04P13	54	44	近藤郭	段切腰郭法面 E トレ	Y-19	整地層	常滑　甕	7.4	4.5	0.9	41.8	断面黒灰、長石径１㎜未満多	胴	中世
129	KMJ04P1002	54	45	近藤郭	空堀6 A233-240NT-5 ～７	V-16	覆土中層	火鉢	2.9	2.0	2.3	7.7	白	口縁	中世
138	KMJ04P15	54	46	近藤郭	空堀7　Eトレ	TR-17	中下層覆土	中国褐釉　四耳壷 (茶壷)	10.3	9.0	0.7	98.6	断面３層、中間灰茶・橙・灰、内面スス状炭化粒付着、施釉境界が明瞭、明 03P11、05P8	胴	中世

第３表　縄張り別出土遺物一覧（３）

No.	註記	挿図	番号	縄張り	遺構・旧トレンチ	グリッド	層位	型式等	口径[長さ](cm)	底径[幅](cm)	厚さ cm	重さ (g)	色調・胎土・同一個体等	部位	時期・時代
171	KMJ04P3501	54	47	近藤郭	空堀6　A233～240NT-5～7	V-16	覆土中層	堂山　甕	5.5	4.1	0.6	12.9	赤橙、胎土石英、長石、炭化粒、条痕幅 1.7mm	胴	弥生
174	KMJ04P3601	54	48	近藤郭	Eトレ上段部	TR-17	整地層	堂山　甕	3.3	3.2	0.6	7.1	外面暗橙、内面黒褐、幅 3mm の浅い条痕	胴	弥生
176	KMJ04P37	54	49	近藤郭	Eトレ段切腰郭法面	Y-19	整地層	堂山　甕	4.5	6.0	0.7	22.8	外面暗褐、内面暗橙、断面暗灰、胎土石英、長石疎、幅２～ 3mm の条痕	胴	弥生
177	KMJ04P38	54	50	近藤郭	空堀４段切腰郭間Eトレ平坦面	TR-17	整地層	堂山　甕	6.1	5.2	0.6	23.5	橙褐、スス、斑文、口唇部にキザミ、幅 2.5mm ～ 4mm の条痕、胎土金雲母多、焼成良好、左折損面が摩滅、右折損が後世	口縁	弥生
180	KMJ04P4101	54	51	近藤郭	Eトレ	TR-17	表土	堂山　甕	3.0	2.5	0.8	24.3	外面茶褐、内面黒褐、断面暗褐、幅３㎜の条痕、外底面幅 4mm 前後の網代、胎土長石　33	胴	弥生
188	KMJ04S6	60	8	近藤郭	Eトレ	TR-17	整地層	打製石斧　凝灰岩	15.8	8.3	4.6	951.8	緑白、亜角礫素材	完	弥生
186	KMJ04S4	60	10	近藤郭	Eトレ	TR-17	整地層	打製石斧　凝灰岩	-7.5	5.2	1.9	110.5	緑灰、背面礫面残置	中間	弥生
187	KMJ04S5	60	16	近藤郭	Eトレ	TR-17	整地層	砥石　ヒン岩	14.1	2.9	2.1	121.2	黄白、線状痕、マンガン状のチップ付着	完	弥生
189	KMJ04T1	—	—	近藤郭	空堀４段切腰郭間　Eトレ	TR-17	上段部整地層下部	獣骨	—	—	—	—	獣骨同定①　パレオ・ラボ	切歯	中世
2	KMJ03P102	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	1.8	1.3	0.7	1.1	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	口唇	中世
3	KMJ03P103	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	1.8	1.2	0.8	1.8	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	口唇	中世
4	KMJ03P104	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	1.8	1.7	0.6	2.0	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	口唇	中世
5	KMJ03P105	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	4.2	1.8	0.7	4.2	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	胴	中世
6	KMJ03P106	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	2.2	2.6	0.9	4.4	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	底	中世
7	KMJ03P107	—	—	近藤郭	Eトレ上段	X-18	整地層	かわらけ	2.0	1.6	1.0	2.9	淡黄色、黒粒、ヨコナデ	底	中世
134	KMJ04P1402	—	—	近藤郭	空堀６段切腰郭間　Eトレ	TR-17	整地層	かわらけ	3.3	2.1	0.9	8.1	糸切痕	底	中世
135	KMJ04P1403	—	—	近藤郭	空堀６段切腰郭間　Eトレ	TR-17	整地層	かわらけ	2.8	2.2	1.0	5.7	調整痕	口縁～底	中世
136	KMJ04P1404	—	—	近藤郭	空堀６段切腰郭間　Eトレ	TR-17	整地層	かわらけ	2.3	1.6	1.1	5.1	—	底	中世
137	KMJ04P1405	—	—	近藤郭	空堀６段切腰郭間　Eトレ	TR-17	整地層	かわらけ	1.5	2.3	0.9	2.7	外面ヨコナデ	口縁	中世
172	KMJ04P3502	—	—	近藤郭	空堀6　A233 ～ 240NT-5 ～ 7	V-16	覆土中層	堂山　甕	3.4	2.3	0.6	5.7	暗橙、胎土石英、長石、炭化粒疎、金雲母	胴	弥生
173	KMJ04P3503	—	—	近藤郭	空堀6　A233～240NT-5～7	V-16	覆土中層	堂山　甕	1.0	1.7	0.6	2.9	淡橙、赤褐色顔料塗布、幅 3mm の条痕	胴	弥生
175	KMJ04P3602	—	—	近藤郭	Eトレ上段部	TR-17	整地層	堂山　甕	2.3	1.6	0.6	3.2	暗褐、胎土金雲母、幅 3mm 前後の条痕	胴	弥生
181	KMJ04P4102	—	—	近藤郭	Eトレ	TR-17	表土	堂山　甕	4.2	3.2	1.4	6.1	外面淡橙、内面暗褐、胎土長石	底	弥生
112	KMJ04P2	55	52	多地屋敷	空堀3 A17NT 延長トレ	2C・2D-16・17	覆土	火鉢	4.1	2.3	0.4	4.0	断面灰内外白灰施釉	口縁	近世
162	KMJ04P3302	55	53	多地屋敷	A17NT 延長トレ　空堀３	TR-34	覆土	堂山　甕	7.6	4.2	1.0	41.1	橙褐、内面黒褐、胎土石英多、外面縦位条痕、内面左下り条痕	胴～底	弥生
34	KMJ03P22	55	54	多地屋敷	CT-80 周辺	2A-16	表土層	常滑　甕	2.6	2.4	0.5	3.1	外面暗褐、内面淡橙、長石、茶粒	胴	中世
35	KMJ03P23	55	55	多地屋敷	空堀 3C トレ (サブトレ内)	2C-18	覆土	かわらけ	2.8	1.7	0.4	2.1	全体橙、内外ヨコナデ	口唇	中世
48	KMJ03P3501	55	56	多地屋敷	Cトレ内堀	TR-34	覆土下部	常滑　甕	7.5	6.4	1.2	87.3	断面内面暗褐、石英粒多、縦→横→左下がり	胴	中世
49	KMJ03P3502	55	57	多地屋敷	Cトレ内堀	TR-34	覆土下部	常滑　甕	17.2	12.7	1.1	378.9	—	胴	中世
47	KMJ03P34	55	58	多地屋敷	Cトレ内堀	TR-34	覆土下部	緑釉　碗	1.4	2.5	0.4	1.7	胎土白	口縁	中世
158	KMJ04P3201	55	59	多地屋敷	A143NT	TR-12	整地層	堂山　甕	4.1	3.9	1.2	13.9	赤橙、断面黄茶、横条痕 R	胴	弥生
183	KMJ04S1	60	4	多地屋敷	空堀３　AN17 NT 延長トレ (20 ～ 50)	2C・2D-16・17	覆土排土	加工痕を有する剥片　凝灰岩	-4.9	2.4	1.2	32.0	黄緑、単剥離打面 119 度	上半	弥生
161	KMJ04P3301	—	—	多地屋敷	A17NT 延長トレ　空堀３	TR-34	覆土	かわらけ	1.2	1.2	0.7	1.0	淡橙、炭化粒、長石　41	胴	中世
159	KMJ04P3202	—	—	多地屋敷	A143NT	TR-12	整地層	堂山　甕	2.7	2.2	0.7	6.2	淡橙、径 1mm 黒色粒付着	胴	弥生
160	KMJ04P3203	—	—	多地屋敷	A143NT	TR-12	整地層	堂山　甕	3.3	2.5	0.6	5.8	暗橙～赤橙、外面条痕幅 3mm、剥落アバタ状	胴	弥生
163	KMJ04P3303	—	—	多地屋敷	空堀３ A17NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	6.4	3.9	0.6	17.1	暗橙褐、外面右下がり条痕、内面横状痕	胴	弥生
164	KMJ04P3304	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	3.7	3.7	0.7	11.6	淡橙、内面暗黄茶、細密条痕、原体幅 13mm に 11 条	胴	弥生
165	KMJ04P3305	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	3.2	2.7	0.6	6.7	胎土雲母、長石、石英	胴	弥生
166	KMJ04P3306	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	3.7	3.3	0.7	6.6	橙茶褐色	胴	弥生
167	KMJ04P3307	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	4.1	2.8	0.7	8.6	淡橙、外面条痕、石英。長石、炭化粒	胴	弥生
168	KMJ04P3308	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	2.5	2.4	0.5	3.5	外面赤橙、断面黄暗、内面茶褐	胴	弥生
169	KMJ04P3309	—	—	多地屋敷	空堀３　A17 NT 延長トレ	TR-34	覆土	堂山　甕	3.3	1.9	1.2	6.2	赤橙、胎土炭化粒	胴	弥生
19	KMJ03P1201	55	60	大庭郭西	AT-205～207	Y-14・15	整地層 (焼土・炭化物) 内	かわらけ	2.9	2.7	1.0	4.0	暗灰、糸切痕	胴～底	中世
28	KMJ03P17	55	61	大庭郭西	AT-217	X-15	整地層上部	かわらけ	2.8	2.2	1.7	3.5	外面調整痕、断面橙	胴	中世
113	KMJ04P301	55	62	大庭郭西	Dトレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	2.2	2.3	0.6	21.5	橙、内ヘラ、外糸切、良質	底	～ 16 世紀
123	KMJ04P5	55	63	大庭郭西	空堀４ Dトレ北側	2A-16	覆土下層	かわらけ	11.2	7.8	1.2	127.5	底部右回転糸切、ヘラ調整痕、内面定方向の調整	底	15 世紀後半～16 世紀前半
125	KMJ04P7	55	64	大庭郭西	空堀5　A17ST	2A・2B-13・14	上部炭化物層	かわらけ	11.2	7.8	1.2	7.9	橙、断面灰黄、線状調整痕胎土長石疎ら、外面調整	底	中世
17	KMJ03P10	55	65	大庭郭西	礫群 AT-173	2B-I3・14	覆土上層	瀬戸擂鉢	4.2	5.2	1.1	28.7	断面黄白、５本 (幅 1.2mm/ 本) の櫛歯状痕、白長石　上野焼	胴	近世、16 世紀まで
18	KMJ03P11	55	66	大庭郭西	礫群 AT-203	Z-14	覆土中	中国褐釉　四耳壺 (茶壺)	5.4	4.5	0.7	20.1	断面３層中間が褐色、内面側黄白、外面側灰白、表面被熱剥落 04P15、05P8 同一個体 (14、33) 類似	胴	15 世紀前半か、戦国期に出現、明
25	KMJ03P14	56	67	大庭郭西	AT-205～207	Y-14・15	整地層　焼土　炭化物	褐釉　四耳壺 (茶壺)、瀬戸→壺	5.5	4.2	0.6	22.9	断面黄白、内面褐色・黄白色の縞状　(11、33) 類似	胴	中世

第４表　縄張り別出土遺物一覧（４）

No.	註記	挿図	番号	縄張り	遺構・旧トレンチ	グリッド	層位	型式等	口径[長さ](cm)	底径[幅](cm)	厚さ cm	重さ (g)	色調・胎土・同一個体等	部位	時期・時代
45	KMJ03P3301	56	68	大庭郭西	AT203～205	Z-14	整地層内	中国褐釉壷	8.1	10.5	0.8	89.2	断面外面側灰、内面側白、二次焼成施釉部分が発泡 (11、14)	胴	中世
46	KMJ03P3302	56	69	大庭郭西	AT203～206	Y-14	整地層内	中国褐釉壷	5.2	6.3	0.7	27.5	内面褐色白色縞状 (11、14)	胴	中世
27	KMJ03P16	56	70	大庭郭西	AT-170	2C-13•14	排土内	常滑　甕	3.7	4.1	0.6	8.1	表面剥落、内面赤褐	胴	中世
33	KMJ03P21	56	71	大庭郭西	CT-10 周辺	2A-16	表土層	陶器	3.0	2.8	0.5	5.7	褐鉄錆付着、均質硬質	胴	中世
36	KMJ03P24	56	72	大庭郭西	空堀 4C トレ (サブトレ内)	2A-16	覆土	常滑　甕	5.5	7.8	1.1	64.2	断面黒	胴	中世
37	KMJ03P25	56	73	大庭郭西	C トレ	2A-16	上層	伊万里　碗	4.3	1.9	0.5	5.0	断面白、表面被熱発泡	胴	中世
41	KMJ03P29	56	74	大庭郭西	C トレ	2A-16	天地返し層	擂鉢	3.6	3.4	1.0	13.3	断面黄白～淡橙、12 条の櫛描	胴	戦国時代末期大釜Ⅰ・Ⅱ
43	KMJ03P31	56	75	大庭郭西	A160-170	2C-13	天地返し層	常滑　甕	6.5	7.9	1.2	71.0	断面赤褐、胎土径 1mm 前後の長石多、外面縦→横→右下がりハケ、屈曲部に墨状暗色化、内面下部に横状線	肩	中世
44	KMJ03P32	56	76	大庭郭西	AT180-190 周辺	2A・2B-14	天地返し層	常滑　甕	11.1	9.5	1.3	175.6	断面赤褐、表面自然釉	胴	中世
121	KMJ04P401	56	77	大庭郭西	空堀 4 D トレ北側	2A-16	覆土中層	常滑　甕	7.3	6.7	1.3	73.3	断面黒褐、胎土石英、長石、チャート	胴下	中世
122	KMJ04P402	56	78	大庭郭西	空堀 4 D トレ北側	2A-16	覆土中層	壷	3.7	3.3	0.5	7.1	断面赤褐、胎土均質、内外同質施釉	胴	朝鮮
124	KMJ04P6	56	79	大庭郭西	空堀 4 D トレ北側	2A-16	覆土下層	瀬戸　鉄釉　壷	3.3	3.3	0.7	15.7	断面灰、胎土に黒色楕円粒あり、褐色釉が剥落、05P2	胴	中世
126	KMJ04P8	56	80	大庭郭西	空堀5　A17ST	2A・2B-13・14	上部炭化物層排土	常滑　甕	7.7	8.2	1.3	100.0	断面黄橙、外面調整、長石疎	胴	中世
127	KMJ04P9	57	81	大庭郭西	D トレ　空堀 4	2A-16	東壁崩壊土採集	伊万里　碗	2.9	1.4	0.4	2.5	断面白、釉内やや発泡	胴	中世
70	KMJ03P4002	57	82	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	5.1	2.9	0.6	14.0	外面茶褐、断面内面暗褐、内面に甲虫外羽状物質、条痕幅 2.4mm、金雲母、炭化物	胴	弥生
69	KMJ03P4001	57	83	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	5.9	3.6	0.7	18.9	外面淡橙、断面暗灰、内面橙、条痕幅 3.2mm、金雲母、長石	胴	弥生
73	KMJ03P4005	57	84	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	4.3	3.1	0.9	21.0	外面暗褐、断面黒褐、内面暗茶	胴	弥生
81	KMJ03P46	57	85	大庭郭西	A-17ST-11	2B-12	明褐色粘質土層	堀之内Ⅱ	6.9	7.7	1.0	95.4	接合部、外面上半部横条痕、下半部縦条痕表裏に幅 0.7mm の松葉状の繊維痕跡、胎土石英、炭化粒	口縁	縄文
71	KMJ03P4003	57	86	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	4.4	3.5	0.5	21.8	外面暗褐、断面内面暗橙	口縁	弥生
76	KMJ03P41	57	87	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	諸磯 a	2.8	5.0	0.9	12.2	橙褐、白灰粒、炭化物、外面 12mm 前後の間隔で条線	胴	縄文
170	KMJ04P34	57	88	大庭郭西	空堀 5 A17ST-1 ～ 5	2A・2B-13	覆土中層	押型文　深鉢	2.7	3.3	0.8	6.6	外面暗橙、内面黒、断面暗橙～黒、山形凸部幅 0.9mm、凹部幅 1.6mm ～ 2.4mm、山形文	胴	縄文
95	KMJ03S6	60	1	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	剥片 黒曜石(柏峠)	2.0	-1.6	0.9	0.6	点状打面、麦草系	末端欠	弥生
96	KMJ03S7	60	6	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	使用痕を有する剥片 硬質細粒凝灰岩	6.6	6.3	1.7	80.7	暗緑、白色の斑紋 116 度	完	弥生
184	KMJ04S2	61	15	大庭郭西	AN20T-158 ～ 160	Z-14	表土 (境界石垣上)	砥石　ヒン岩	-8.8	2.6	2.0	69.5	灰白、表面平滑	中間	弥生
20	KMJ03P1202	—	—	大庭郭西	AT-205 ～ 207	Y-14•15	整地層 (焼土・炭化物) 内	かわらけ	2.1	1.8	0.9	2.6	暗灰、糸切痕	底	中世
21	KMJ03P1203	—	—	大庭郭西	AT-205 ～ 207	Y-14•15	整地層 (焼土・炭化物) 内	かわらけ	1.7	2.9	0.9	6.9	淡橙横ナデ	口～底	中世
22	KMJ03P1204	—	—	大庭郭西	AT-205 ～ 207	Y-14•15	整地層 (焼土・炭化物) 内	かわらけ	1.8	1.2	0.7	1.7	淡橙横ナデ	口唇	中世
23	KMJ03P1205	—	—	大庭郭西	AT-205 ～ 207	Y-14•15	整地層 (焼土・炭化物) 内	かわらけ	1.3	1.7	0.7	1.8	淡橙横ナデ	口唇	中世
114	KMJ04P302	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	5.0	3.3	0.8	13.7	淡橙、内外横指ナデ、底糸切り、同一 24、26	底	～ 16 世紀
115	KMJ04P303	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	3.3	3.2	1.1	5.9	淡橙、内外横指ナデ、底糸切り、同一	底	～ 16 世紀
116	KMJ04P304	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	2.5	1.7	1.2	4.0	淡橙、内外横指ナデ、底糸切り、同一	底	～ 16 世紀
117	KMJ04P305	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	3.1	2.9	1.2	5.3	淡橙、内外横指ナデ、底糸切り、同一	底	～ 16 世紀
118	KMJ04P306	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	2.6	1.6	1.1	4.1	淡橙	胴	～ 16 世紀
119	KMJ04P307	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	1.8	1.4	0.9	2.6	淡橙	胴	～ 16 世紀
120	KMJ04P308	—	—	大庭郭西	D トレ北側	TR-35	整地層上部	かわらけ	0.6	2.9	0.9	2.0	淡橙	底	～ 16 世紀
72	KMJ03P4004	—	—	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	3.7	2.4	1.0	11.1	外面暗褐、断面黒褐、内面黄白、金雲母	胴～底	弥生
74	KMJ03P4006	—	—	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	2.6	1.4	0.7	2.8	外面暗褐、断面黒褐、内面暗茶	胴	弥生
75	KMJ03P4007	—	—	大庭郭西	A17ST-30～45	TR-16	盛土層内	堂山　甕	2.4	1.3	0.7	3.1	外面暗褐、断面黒褐、内面暗茶、金雲母	胴	弥生
157	KMJ04P31	—	—	大庭郭西	D トレ北側	2A-16	整地層上部	堂山　甕底部	4.0	2.6	1.2	10.9	淡橙、断面やや暗、胎土長石、炭化粒、外底幅 3mm 前後の網代痕	胴	弥生
178	KMJ04P39	—	—	大庭郭西	AN20T-158 ～ 160	Z-14	表土層(境界石垣上)	堂山　甕	2.2	3.2	0.7	11.2	外面褐、内面淡橙、幅 2.5mm ～ 3mm の条痕	胴	弥生
66	KMJ03P3901	—	—	大庭郭西	A175ST-30～45	TR-16	盛土層内	堀之内Ⅱ	4.9	3.7	0.9	10.3	暗褐、内面炭化物付着、ミガキ	口縁	縄文
67	KMJ03P3902	—	—	大庭郭西	A175ST-30～45	TR-16	盛土層内	堀之内Ⅱ	4.4	3.3	0.9	19.0	暗褐	胴	縄文
68	KMJ03P3903	—	—	大庭郭西	A175ST-30～45	TR-16	盛土層内	堀之内Ⅱ	3.4	2.8	0.8	8.1	黒褐、径 3.6mmLR 隆帯	胴～頚	縄文
102	KMJ03C3	—	—	大庭郭西	AT203-205	Y・Z-14	整地層内	—	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ① 加速器分析研究所	—	中世
104	KMJ03C5	—	—	大庭郭西	空堀 5	—	上層覆土	—	—	—	—	—	樹種同定⑬パレオ・ラボ	—	中世
105	KMJ03C6	—	—	大庭郭西	空掘 5	—	上層覆土	—	—	—	—	—	樹種同定③パレオ・ラボ	—	中世
108	KMJ03C9	—	—	大庭郭西	A17ST-18-20	2B-12	覆土	—	—	—	—	—	樹種同定⑤パレオ・ラボ	—	中世
109	KMJ03C10	—	—	大庭郭西	空掘 4	—	覆土	—	—	—	—		—	—	中世
110	KMJ03C11	—	—	大庭郭西	空掘 7	—	覆土中層ピット	—	—	—	—	—	樹種同定⑥パレオ・ラボ	—	中世
190	KMJ04C1	—	—	大庭郭西	空堀 5 A17ST	2A・2B-13	上層覆土	炭化物	—	—	—	—	樹種同定⑦パレオ・ラボ	—	中世
15	KMJ03P8	57	89	大庭郭東	AT-159	2I-13	天地返し層	青磁無文直行碗	3.9	4.3	0.5	13.7	内外面緑白色、外面口唇部に胎土浮き出る、輪花状の口唇部内面に三条線	口縁	15 世紀前半～16 世紀後半 蓮弁 14 世紀
140	KMJ04P17	57	90	大庭郭東	空堀 5 A170ST	2C-13	覆土下層 (ロームブロック層内)	瀬戸　梅瓶	5.1	7.6	0.7	42.6	淡緑、断面白黄、内面線状、貫乳、発泡、蕨手文 03P5-1	胴	14 世紀後半～15 世紀前半 後期様式 1
24	KMJ03P13	57	91	大庭郭東	AT-106	2I-12	館面直上層	瀬戸　鉛釉　小皿	8.4	径 5.5	0.8	41.8	断面黄白色、右回転糸切痕、内外面調整、界線状	体～底	中世
10	KMJ03P4	57	92	大庭郭東	A10ST-27	2I-9	天地返し層	瀬戸梅瓶形壷 灰釉	2.6	5.1	1.1	14.1	断灰黒、発泡顕著、表被熱、内調整、指頭圧痕	胴	15 世紀前半までの製作

第５表　縄張り別出土遺物一覧（５）

No.	註記	挿図	番号	縄張り	遺構・旧トレンチ	グリッド	層位	型式等	口径[長さ](cm)	底径[幅](cm)	厚さ cm	重さ (g)	色調・胎土・同一個体等	部位	時期・時代
13	KMJ03P6	57	93	大庭郭東	AT113	2I-12	ピット１内覆土	瀬戸灰釉　三足盤	5.9	5.2	0.8	38.3	内外灰緑色、断面灰桃、外面三条、外面表貫乳顕著、釉が確かでより古期　被熱	胴	15 世紀前半～＜中後期　式 1-2(年代としての決め手)
42	KMJ03P30	58	94	大庭郭東	A10ST	TR-10	表採(排土)	陶器　碗	2.1	1.8	0.5	2.9	断面黄白、外面調整、内面施釉、底部削ぎ落とし	底	中世
139	KMJ04P16	58	95	大庭郭東	AN20T-158～160	Z-14	表土層(境界石垣上)	常滑	6.1	4.7	1.1	28.0	淡黄茶褐、断面灰白、内外に鉛状の付着物　18、19	胴	中世
14	KMJ03P7	58	96	大庭郭東	A10ST-25	2I-9	整地面上層(茶褐色土)	常滑　甕	10.4	6.4	1.2	83.5	断面灰～赤茶、内面ナデ、白色長石、繊維状炭化物混入	胴	中世
141	KMJ04P18	58	97	大庭郭東	空堀５ A170ST	2C-13	覆土堀底直上	常滑　甕	14.2	11.7	1.2	218.5	内面に鉛状付着物　16、19	胴	中世
11	KMJ03P501	58	98	大庭郭東	A10ST-28・29	2I-9	天地返し層	青磁釉梅瓶	3.7	3.7	0.8	11.4	断面黄白、内面横ナデ、調整、04P17 近似	胴	中世
12	KMJ03P502	58	99	大庭郭東	A10ST-28・29	2I-9	天地返し層	伊万里　碗	2.9	4.0	0.3	5.3	断面白、口唇部縁辺欠損、網文	口縁	近世
59	KMJ03P3801	58	100	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	5.8	4.5	0.8	32.1	外赤褐、内暗褐、胎土石英多、金雲母、炭化粒、縦条痕→横沈線	胴	弥生
82	KMJ03P47	58	101	大庭郭東	A10ST-29	2I-9	天地返し層	堂山　甕	2.5	1.9	0.5	3.6	暗褐、幅 1.5mm の条痕が 3.4mm～3.7mm 間隔、胎土長石、金雲母	胴	弥生
83	KMJ03P48	58	102	大庭郭東	A10ST-29	2I-9	天地返し層	堂山　甕	9.1	7.5	0.8	52.6	外面赤橙・灰褐、内面断面暗茶褐、垂下する浅い条痕→右斜め下幅 2mm の条痕	胴	弥生
80	KMJ03P45	58	103	大庭郭東	A10ST-24	2I-10	黒褐色スコリア層土層	堂山　甕	2.5	2.3	0.9	5.3	淡橙、胎土に石英、炭化粒、2.7mm × 1.8mm の RL 節、幅 6mm 前後の沈線	口縁	弥生
91	KMJ03S3	60	3	大庭郭東	A10T-28 区	2I-10	明褐色土層	剥片　凝灰岩	-3.6	4.9	1.1	21.3	緑白、線状打面	左端欠	弥生
98	KMJ03S9	61	13	大庭郭東	空堀２ A10NT	2J-13・14	排土内	叩き石　凝灰岩	10.8	4.0	2.6	154.0	暗緑、両端に潰れ痕、裏面上端部に横位の線状痕	完	弥生
89	KMJ03S1	61	14	大庭郭東	AT-112	2G-12	天地返し層	台石　花崗岩	18.4	9.2	4.8	1702.0	橙白、上下両端に潰れ痕	完	近世
90	KMJ03S2	61	17	大庭郭東	A10ST-5	2I-11	天地返し層	砥石 ホルンフェルス	-13.8	-3.7	6.5	588.3	暗茶褐、擦痕あり	中間	近世
60	KMJ03P3802	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	6.1	4.5	1.0	29.5	外暗黄褐、内黄褐、断面茶褐、胎土長石、炭化物、横条痕	胴	弥生
61	KMJ03P3803	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	4.5	4.1	0.7	17.1	黄茶褐、内断面赤褐、胎土炭化物、金雲母多、横条痕幅 1.2 ㎜	胴	弥生
62	KMJ03P3804	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	3.6	3.7	0.8	8.7	外面淡橙、断面黄褐、内面黄茶褐、横条痕幅 2.2 ㎜、金雲母やや目立つ	胴	弥生
63	KMJ03P3805	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	3.1	2.0	0.7	14.6	外面淡橙、断面黄茶、内面淡橙、横条痕幅 1.8 ㎜、炭化物大	胴	弥生
64	KMJ03P3806	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	3.9	4.2	0.6	5.0	淡橙、横条痕幅 0.75 ㎜、長石、スコリア条物質	胴	弥生
65	KMJ03P3807	—	—	大庭郭東	A10ST-35～60	TR-11	盛土層内	堂山　甕	1.8	1.7	0.4	1.2	条痕なし	胴	弥生
100	KMJ03C1	—	—	大庭郭東	AT97-98	2J-11	館跡面直上	—	—	—	—	—	樹種同定①パレオ・ラボ	—	中世
106	KMJ03C7	—	—	大庭郭東	溝状遺構凹地部	2I-12	覆土	—	—	—	—	—	—	—	中世
107	KMJ03C8	—	—	大庭郭東	凹地部三足盤出土穴	2H-12	覆土	—	—	—	—	—	樹種同定④パレオ・ラボ	—	中世
111	KMJ04P1	59	104	大庭郭張出	A70-80NT	2L-10	表採	唐津　碗	7.9	3.9	5.9	52.7	断面白、畳み付き釉なし	口縁～底	近代
78	KMJ03P43	59	105	大庭郭張出	空掘１	TR-07	覆土上層部	堂山　甕	3.6	2.9	0.5	4.8	淡橙、内面に幅 1 ㎜前後の条痕、胎土に炭化粒、スコリア条物質	胴	弥生
77	KMJ03P42	59	106	大庭郭張出	空掘１ A5ST-7～9	TR-06	覆土内	諸磯 a	4.6	5.2	1.0	24.4	橙褐、胎土長石、炭化物、外面に炭化物付着、内面に縦横に条痕	胴	縄文
97	KMJ03S8	60	7	大庭郭張出	A5ST-7～9	2N-10	空堀覆土内	使用痕を有する剥片 硬質細粒凝灰岩	5.7	5.9	2.7	95.3	青緑、単剥離打面 118 度、褐鉄鉱の付着、不規則な調整痕	完	弥生
101	KMJ03C2	—	—	大庭郭張出	空堀１、西側法面	2M-10	中断位壁面密着	—	—	—	—	—	樹種同定②パレオ・ラボ	—	中世
103	KMJ03C4	—	—	大庭郭張出	空堀１	—	以下の７層目	—	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ② 加速器分析研究所	—	中世
79	KMJ03P44	59	107	馬道戸	BT-59 深堀グリッド	TR-32	黒褐色スコリア層下部	堀之内Ⅱ	7.8	7.6	0.8	53.6	暗橙、内面黒黄調整痕、外面縄圧痕隆帯垂下、胎土長石、硬質	口縁	縄文
93	KMJ03S402	60	5	馬道戸	B トレ群	TR-32・32	天地返し	使用痕剥片 凝灰岩	5.2	5.0	1.5	40.2	暗緑、礫打面剥離角 137 度、上下両端からの同時割れ	完	弥生
92	KMJ03S401	61	12	馬道戸	B トレ群	TR-32・32	天地返し	剥片　凝灰岩	14.6	16.4	6.0	1318.7	緑青、末端部磨耗、礫打面剥離角 120 度	完	弥生
84	KMJ03HP1	59	108	表採	—	—	—	常滑　甕	7.1	5.7	1.0	60.1	外面断面灰褐、内面暗黄褐、石英粒顕著、屈曲部にヒビ割れ	肩	中世
85	KMJ03HP2	59	110	表採	—	—	—	堂山　甕	6.8	2.8	0.7	16.6	淡橙、外面に幅 1.7mm から 3.0mm の縦条痕、内面に横ナデ、胎土に長石	胴	弥生
86	KMJ03HP3	59	111	表採	—	—	—	堂山　甕	2.5	2.3	0.7	0.9	淡橙、外面に幅 2.7mm から 2.9mm の縦条痕	胴	弥生
87	KMJ03HP4	59	112	表採	—	—	—	堂山　甕	2.2	2.0	0.6	4.9	淡橙、内面赤化胎土炭化粒多	胴	弥生
88	KMJ03HP5	59	109	表採	—	—	—	かわらけ	1.6	1.8	0.3	3.6	淡橙、外面条線	口縁	中世
99	KMJ03HS1	61	11	表採	—	—	—	使用痕を有する剥片　凝灰岩	6.1	10.5	1.7	176.2	緑白、末端部に刃こぼれ、打点周辺に金属状の付着、礫打面 94 度	完	弥生
225	KMJ06C1	—	—	本城郭	—	—	—	—	—	—	—	—	C14 年代測定 (AMS) ⑨ 加速器分析研究所	—	中世

第６章　自然科学分析と保存処理

第１節　山北町河村城跡出土炭化物の AMS による炭素 14 年代測定について

酒井公美子・池田利晴 : 分析、鹿又喜隆 : 管理（株式会社 加速器分析研究）

１．河村城跡の位置

河村城跡は、神奈川県足柄上郡山北町山北（北緯 35°21′18″、東経 139°4′50″）に位置する。

２．河村城跡の立地

旧皆瀬川と酒匂川に挟まれた城山丘陵上（標高約 230m）に立地する。

３．測定の意義

城跡内に複雑に切りあう遺構の構築時期を推定する根拠とする。

４．測定対象試料

AT203-205 整地層から出土した炭化米６粒（IAAA-60677）、空堀１西側法面の中段壁面に密着して出土した炭化米８粒（IAAA-60678）、堀切３蔵郭北側橋脚柱穴内から出土した炭化材（IAAA-60679）、堀切３東側ピット第１硬化面から出土した炭化米３粒（IAAA-60680）、堀切３西側ピット第１硬化面から出土した炭化米３粒（IAAA-60681）、堀切３下部層第３硬化面上から出土した炭化物（IAAA-60682）、No.33 北トレンチ竪穴状遺構から出土した炭化米３粒（IAAA-60683）、No.32 南トレンチ竪穴状遺構から出土した炭化米４粒（IAAA-60684）、本城郭橋台遺構確認面から出土した炭化物（IAAA-60685）各１点、計９点である。試料の状態は概ね良好であり、採取後にビニール袋に入れて保管し、測定前に試料を抽出した。

５. 化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 0.001 ～ 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。その後、90℃で乾燥する。

３）試料を酸化銅 1g と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で２時間加熱する。

４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO2）を精製する。

５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（還元）し、グラファイトを作製する。

６）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

６．測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。134 個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により $^{13}C/^{12}C$ の測定も同時に行う。

７．算出方法

１）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。

２）BP 年代値は、過去において大気中の炭素 14 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950 年を基準年として遡る放射性炭素年代である。

３）付記した誤差は、次のように算出した。

複数回の測定値について、χ^2 検定を行い測定値が 1 つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。

４）$\delta^{13}C$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}C$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}C$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで、　$^{14}A_S$：試料炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$ または $(^{14}C/^{13}C)_S$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$ または $(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta^{13}C$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に $^{13}C/^{12}C$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}C$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、$\Delta^{14}C$ は、試料炭素が $\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの ^{14}C 濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（１）式の ^{14}C 濃度を、$\delta^{13}C$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000))^2$$ （$^{14}A_S$ として $^{14}C/^{12}C$ を使用するとき）

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000))$$ （$^{14}A_S$ として $^{14}C/^{13}C$ を使用するとき）

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \ (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}C$ に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、$\Delta^{14}C$ との関係は次のようになる。

$\Delta\ ^{14}C = (pMC / 100 - 1) \times 1000$ (‰)

$pMC = \Delta\ ^{14}C / 10 + 100$ (%)

国際的な取り決めにより、このΔ ^{14}C あるいは pMC により、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$T = -8033 \times \ln[(\Delta\ ^{14}C / 1000) + 1]$

$= -8033 \times \ln(pMC / 100)$

５）^{14}C 年代値と誤差は，１桁目を四捨五入して 10 年単位で表示する。

８．測定結果

測定の結果、AT203-205 整地層から出土した炭化米（IAAA-60677）が 390 ± 30yrBP、空堀１西側法面の中段壁面に密着して出土した炭化米（IAAA-60678）が 360 ± 30yrBP、堀切３蔵郭北側橋脚柱穴内から出土した炭化材（IAAA-60679）が 310 ± 40yrBP、堀切３東側ピット第１硬化面から出土した炭化米（IAAA-60680）が 360 ± 30yrBP、堀切３西側ピット第１硬化面から出土した炭化米（IAAA-60681）が 330 ± 30yrBP、堀切３下部層第３硬化面上から出土した炭化物（IAAA-60682）が 350 ± 30yrBP、No.33 北トレンチ竪穴状遺構から出土した炭化米（IAAA-60683）が 370 ± 30yrBP、No.32 南トレンチ竪穴状遺構から出土した炭化米（IAAA-60684）が 350 ± 30yrBP、本城郭橋台遺構確認面から出土した炭化物（IAAA-60685）が Modern の ^{14}C 年代を示した。

表１　年代測定値（１）

IAA Code No.	試料番号	Libby Age（yrBP）
IAAA-60677	KMJ03C3	387 ± 28
IAAA-60678	KMJ03C4	360 ± 28
IAAA-60679	KMJ04C4	312 ± 38
IAAA-60680	KMJ04C6	359 ± 30
IAAA-60681	KMJ04C7	325 ± 29
IAAA-60682	KMJ04C8	347 ± 27
IAAA-60683	KMJ05C1	370 ± 29
IAAA-60684	KMJ05C2	350 ± 30
IAAA-60685	KMJ06C1	Modern

９．まとめ

共伴遺物等から予想される時期は、AT203-205 整地層が 15 世紀前半、堀切３下部層第３硬化面が 15 世紀後半、北トレンチ竪穴状遺構と南トレンチ竪穴状遺構が 15 世紀代、空堀１西側法面、堀切３蔵郭北側橋脚柱穴、堀切３東側ピット第１硬化面が 16 世紀前半、本城郭橋台遺構確認面が 16 世紀末以降、堀切３下部層第３硬化面が 17 世紀前半である。本城郭橋台遺構確認面から出土した試料は、Modern とされ、現代の炭素試料が混入した可能性が高い。その他の測定年代は、誤差を踏まえても室町時代後期から江戸時代初頭（15 世紀中頃～ 17 世紀前半）にかけての年代値に収まり、その妥当性が高い。個々の遺構の予想年代の前後関係と測定年代の前後関係が対応しない試料もある。測定試料が炭化米の場合、測定年代の相対的な前後関係はほぼ対応する。一方、炭化材や炭化物試料では、炭化米に比べて年代値が対応しない割合が高い。一般に試料が樹木等に由来する場合、測定年代がその樹齢に影響され、樹木の活動停止年よりも古い測定年代を示すことがある。今回の分析では、必ずしも古い年代に偏っていない。より正確な遺構の構築・使用年代を推定するには、試料の由来や埋没状況を踏まえて、測定年代と遺構の関係を検討する必要がある。

引用文献

Stuiver,M.and Polash,H.A.（1977）Discussion:Reporting of 14C data.Radiocarbon,19:355-363

表２　年代測定値（２）

IAA Code No.	試料		BP 年代および炭素の同位体比				
IAA-60677	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	390	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-28.96	±	0.72
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-47.1	±	3.4
	試料名（番号）：	KMJ03C3	pMC（%）	＝	95.29	±	0.34
			δ ^{14}C（‰）	＝	-54.8	±	3.1
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	94.52	±	0.31
#1358-1			Age（yrBP）	：	450	±	30
IAA-60678	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	360	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-27.03	±	0.78
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-43.8	±	3.4
	試料名（番号）：	KMJ03C4	pMC（%）	＝	95.62	±	0.34
			δ ^{14}C（‰）	＝	-47.8	±	3.1
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	95.22	±	0.31
#1358-2			Age（yrBP）	：	390	±	30
IAA-60679	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	310	±	40
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-31.32	±	0.71
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-38.1	±	4.6
	試料名（番号）：	KMJ04C4	pMC（%）	＝	96.19	±	0.46
			δ ^{14}C（‰）	＝	-50.6	±	4.3
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	94.94	±	0.43
#1358-3			Age（yrBP）	：	420	±	40
IAA-60680	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	360	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-31.07	±	0.68
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-43.8	±	3.6
	試料名（番号）：	KMJ04C6	pMC（%）	＝	95.62	±	0.36
			δ ^{14}C（‰）	＝	-55.7	±	3.3
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	94.43	±	0.33
#1358-4			Age（yrBP）	：	460	±	30
IAA-60681	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	330	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-29.39	±	0.70
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-39.7	±	3.6
	試料名（番号）：	KMJ04C7	pMC（%）	＝	96.03	±	0.36
			δ ^{14}C（‰）	＝	-48.3	±	3.3
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	95.17	±	0.33
#1358-5			Age（yrBP）	：	400	±	30
IAA-60682	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	350	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-27.79	±	0.69
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-42.3	±	3.3
	試料名（番号）：	KMJ04C8	pMC（%）	＝	95.77	±	0.33
			δ ^{14}C（‰）	＝	-47.8	±	3.0
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	95.22	±	0.30
#1358-6			Age（yrBP）	：	390	±	30
IAA-60683	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	370	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-27.29	±	0.67
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-45.0	±	3.5
	試料名（番号）：	KMJ05C1	pMC（%）	＝	95.50	±	0.35
			δ ^{14}C（‰）	＝	-49.5	±	3.2
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	95.05	±	0.32
#1358-7			Age（yrBP）	：	410	±	30
IAA-60684	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	350	±	30
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-31.33	±	0.71
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	-42.7	±	3.7
	試料名（番号）：	KMJ05C2	pMC（%）	＝	95.73	±	0.37
			δ ^{14}C（‰）	＝	-55.1	±	3.4
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	94.49	±	0.34
#1358-8			Age（yrBP）	：	450	±	30
IAA-60685	試料採取場所：	神奈川県足柄上郡山北町山北	Libby Age（yrBP）	：	Modern		
			δ ^{13}C（‰）、（加速器）	＝	-29.20	±	0.87
	試料形態 ：	炭化物	Δ ^{14}C（‰）	＝	263.9	±	4.6
	試料名（番号）：	KMJ06C1	pMC（%）	＝	126.39	±	0.46
			δ ^{14}C（‰）	＝	253.0	±	3.9
	（参考）	δ ^{13}C の補正無し	pMC（%）	＝	125.30	±	0.39
#1358-9			Age（yrBP）	：	Modern		

ここに記載する Libby　Age（年代値）と誤差は下１桁を丸めない値です。

第２節　山北町河村城跡蔵郭出土粘土・土壁・レンガの材質分析

藤根久・長友純子・竹原弘展・鈴木茂（株式会社　パレオ・ラボ）

１．はじめに

河村城跡は、神奈川県足柄上郡山北町地内に所在する城跡で、平安時代末期に河村秀高という武将によって築城されたとされる。調査では、竪穴状遺構が検出され、その覆土中から土壁やレンガあるいは粘土が出土した。

ここでは、この竪穴状遺構から出土した白色粘土や土壁およびレンガについて、その材料を検討するために薄片の顕微鏡観察および化学分析、植物珪酸体分析を行った。なお、薄片の顕微鏡観察は藤根と長友が担当し、蛍光Ｘ線分析は竹原が、植物珪酸体分析は鈴木が担当した。

２．試料と方法

試料は、白色粘土２試料と土壁およびレンガの各１試料である（表１）。方法は、薄片の顕微鏡観察と蛍光Ｘ線分析である。

表１　分析した試料とその詳細

No.	No.	試料	注記	遺構	層位	色調	備考
1	21	白色粘土５	KMJ05W2	No.33 北トレンチ竪穴状遺構	覆土内	明黄褐色（10YR6/8）	砂混じり粘土
2	22	白色粘土６	KMJ05W3	No.33 北トレンチ竪穴状遺構	覆土内	明黄褐色（2.5Y6/8）	砂混じり粘土
3	23	焼固粘土塊（土壁）	KMJ05W4	No.33 北トレンチ竪穴状遺構	覆土内	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト
4	24	レンガ４	KMJ05W5	No.33 北トレンチ竪穴状遺構	覆土内	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト

［薄片の顕微鏡観察］

これら試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。なお、粘土質堆積物は、予め電気炉 750 度、６時間焼成した後、薄片を作成した。

（１）試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

（２）さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。

（３）その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ 0.02mm 前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類（珪藻化石、骨針化石、胞子化石）や大型粒子などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

［珪藻化石］

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは 10 ～数百μ m 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉（1988）や安藤（1990）によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。

［植物珪酸体化石］

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約 10 ～

50 μ m前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

［**石英・長石類**］

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類（雲母）は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

［**長石類**］

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などの SiO_2% の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

［**雲母類**］

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などの SiO_2% の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

［**輝石類**］

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO_2% が少ない深成岩、SiO_2% が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主として SiO_2% が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO_2% の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

［**角閃石類**］

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような SiO_2% が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

［**ガラス質**］

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

［**斑晶質・完晶質**］

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒

子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。なお、褐色や黒色を呈する発泡した斑晶質は、スコリアと考える。

［**複合石英類**］

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm 未満のものを微細、0.01 ～ 0.05mm のものを小型、0.05 ～ 0.1mm のものを中型、0.1mm 以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

［**砂岩質・泥岩質**］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約 0.06mm 以上のものを砂岩質とし、約 0.06mm 未満のものを泥岩質とする。

［**蛍光Ｘ線分析**］

分析には各遺物よりガラスビードを作成し、それを分析試料とするガラスビード法を用いた。

まず必要量を各遺物より岩石カッターで切り取り、付着した土砂の影響を排除するため、表面を削り取った。乾燥後、試料はセラミック乳鉢で粉末にして、るつぼに入れ、電気炉で 750℃、6 時間焼成した後、デシケータ内で放冷し、1.8000g 秤量した。これを、無水四ホウ酸リチウム $Li_2B_4O_7$ と、リチウムメタボレイド LiBO2 を 8:2 の割合で調製した融剤 3.6000g と十分に混合し、白金製るつぼに入れ、ビードサンプラー（NT-2000 型 ; ㈱東京科学製）にて約 750℃で 250 秒間予備加熱、約 1100℃で 150 秒間溶融させ、約 1100℃で 350 秒間揺動加熱してガラスビードを作成した。

分析はフィリップス社製波長分散型蛍光 X 線分析装置 MagiX（PW2424 型）にて、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターおよび米国標準技術研究所（NIST）の岩石標準試料計 15 種類を用いた検量線法による定量分析を行った。定量元素は、酸化ナトリウム Na_2O、酸化マグネシウム MgO、酸化アルミニウム Al_2O_3、酸化ケイ素 SiO_2、酸化リン P_2O_5、酸化カリウム K_2O、酸化カルシウム CaO、酸化チタン TiO_2、酸化マンガン MnO、酸化鉄 Fe_2O_3 の主成分 10 元素と、ルビジウム Rb、ストロンチウム Sr の微量成分 2 元素の計 12 元素である。

［**植物珪酸体分析**］

表 1 に示した 4 試料について、これら粘土塊に認められる植物遺体部分を削り取り、あるいは粘土ごと剥ぎ取り、試料とした。この 4 試料について現生植物の標本作製と同様の方法を用いて植物珪酸体の検出を図った。すなわち、乾燥させた植物遺体を管瓶にとり、電気炉を用いて灰化するのであるが、灰化する行程は藤原（1976）にほぼしたがって行った。その行程は、はじめ毎分 5゜C の割合で温度を上げ、100゜C において 15 分ほどその温度を保ち、その後毎分 2゜C の割合で 550゜C まで温度を上げ、５時間その温度を保持して、試料の灰化を行う。灰化した試料についてその一部を取り出し、グリセリンを浸液としてプレパラートを作製し、検鏡した。

３．結果

［**薄片の顕微鏡観察**］

微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や

0.1mm 前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。なお、表２の岩石の出現頻度は、◎が特徴的に　多い、○が多い、△が少ない、空欄は検出されないことを示す。鉱物は、+++ が特徴的に多い、++ が多い、+ が少ないが含まれている、である。

No.1：400 μ m-2.5mm、最大粒径 21mm。複合石英類（微細）》砂岩質〉石英・長石類、ジルコン、雲母類多い、植物珪酸体化石少量

No.2：320 μ m-1.2mm、最大粒径 3.4mm。複合石英類（微細）》砂岩質〉石英・長石類、ジルコン、雲母類多い、植物珪酸体化石少量

No.3：600 μ m-1.3mm、最大粒径 3.2mm。スコリア質（発泡斑晶質）》ガラス質、斜方輝石、単斜輝石、珪藻化石（陸域指標種群 Pinnularia borealis）、植物珪酸体化石

No.4：600 μ m-1.3mm、最大粒径 4.3mm。スコリア質（発泡斑晶質）》ガラス質、斜方輝石、単斜輝石、植物珪酸体化石

表２　薄片による顕微鏡観察結果

No.	試料	粘土の特徴					砂粒の特徴				鉱物の特徴			植物珪酸体化石	その他の特徴
		分類	種類	珪藻化石	骨針化石	胞子化石	分類	堆積岩類	火山岩類	テフラ	ジルコン	輝石類	雲母類	出現頻度	
1	白色粘土５	－	その他	－	－	－	C	◎	－	－	+	－	+++	△	複合石英類（微細）が多産
2	白色粘土６	－	その他	－	－	－	C	◎	－	－	+	－	+++	△	複合石英類（微細）が多産
3	焼固粘土塊（土壁）	－	ローム質	△	－	－	G	－	－	◎	－	+	－	○	発泡斑晶質（スコリア質）多産
4	レンガ４	－	ローム質	－	－	－	G	－	－	◎	－	+	－	○	発泡斑晶質（スコリア質）多産

対象とした試料は、粘土においては珪藻化石や骨針化石などの微化石類を含まない水成以外の粘土であった。ただし、No.3 においては粘土の起源とは関係がない陸域指標種群の珪藻化石が１個体検出されている。

砂粒組成について見ると、No.1 および No.2 では、砂岩質や複合石英類（微細）から構成されることから、堆積岩類を主体とした組成（Ｃ群）である。一方、No.3 および No.4 では、発泡した斑晶質から構成され、スコリア質のテフラを主体とした組成（Ｇ群）である（表２）。

両者は、ともに他起源の砂粒を含まない特徴的な組成である。なお、推定した起源岩石は、表３の組み合わせに従って分類した。

表３　岩石片の分類と組み合わせ

岩石の分類群			第１出現群						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第２出現群	a	片岩類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Ef	Fg	

［蛍光Ｘ線分析］

測定結果をした結果、白色粘土試料の No.1 と No.2 が類似した組成を示し、また、土壁試料の No.3 とレンガ試料の No.4 が類似した組成を示す。

主な元素に注目すると、No.1 と No.2 は、酸化ケイ素 SiO_2 が 71.57% および 69.69% と最も多く、酸化鉄 Fe_2O_3 が 6.51% および 6.97%、酸化マグネシウム MgO が 5.00% および 5.45% である。

一方、No.3 と No.4 は、酸化ケイ素 SiO_2 が 47.70% および 47.92% と最も多く、次いで酸化アルミニウム Al_2O_3 が 26.44% および 25.72%、酸化鉄 Fe_2O_3 が 16.21% および 15.81% であった。なお、ストロンチウム Sr も 224ppm および 353ppm と特徴的に高い。

表４　試料の蛍光Ｘ線分析結果

No.	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	total	Rb	Sr
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(ppm)	(ppm)
1	0.39	5.00	13.54	71.57	0.043	2.19	0.22	0.49	0.114	6.51	100.1	28	33
2	0.37	5.45	14.11	69.69	0.055	2.24	0.23	0.51	0.127	6.97	99.8	28	29
3	0.45	3.63	26.44	47.70	0.102	0.19	1.90	1.58	0.206	16.21	98.4	7	224
4	0.48	3.60	25.72	47.92	0.100	0.26	2.25	1.55	0.218	15.81	97.9	6	353
最大値	0.48	5.45	26.44	71.57	0.102	2.24	2.25	1.58	0.218	16.21	100.1	28	353
最小値	0.37	3.60	13.54	47.70	0.043	0.19	0.22	0.49	0.114	6.51	97.9	6	29

［植物珪酸体分析］

検鏡の結果、わずかではあるが機動細胞珪酸体が試料②, ③, ④の３試料で観察された。なお以下にこの機動細胞珪酸体の記載を示すが、各部の名称については図１を参照されたい。

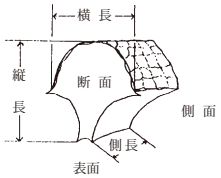


図１　機動細胞珪酸体模式図

試料②, ④：断面形態がイチョウの葉形（写真図版の 1-a，2-a，3-a）をしている機動細胞珪酸体で、側面部分に突起が、表面部分にくぼみが、また裏面部分には浅い亀甲状紋様が一部認められる。

属の現生標本に同様の形態が観察される。しかしながらこのメダケ属の形態については現時点では確立されていないことからここでは疑問符？を付して示した。

試料①：写真図版（写真番号７）で示したように、棒状の植物珪酸体が束になって観察されているが、機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体は認められなかった。側面形態は長方形で、横に長いもの（1-b，3-a，4）や縦に長いもの（2-b）などがあり、側面部には稜線がみられる個体（1-b）もある。表面形態は細長い棒状を呈し、中央部分は溝状に浅く窪んでいる。また、側面の稜線部分ではくさび形に突出する。裏面形態は長方形をしており、一面に浅く小さな亀甲状紋様が認められる。以上のような形態からこの機動細胞珪酸体についてはイネと判断される。

試料③：断面形態が二等辺三角形（5-a）の様相を示し、側面形態は長方形をしており、裏面部に稜線が数本存在している（5-b）。こうした形態からこの機動細胞珪酸体はネザサ節型と判断される。また同様の形態を有するが断面形態が全体に丸みを呈している機動細胞珪酸体も観察され、メダケ属の現生標本に同様の形態が観察される。しかしながらこのメダケ属の形態については現時点では確立されていないことからここでは疑問符？を付して示した。

４．考察

薄片の顕微鏡観察では、粘土中には珪藻化石などを含まない水成以外の粘土であった。一方、砂粒組成は、No.1 および No2 が堆積岩類を主体とした組成であり、No3 および No4 はスコリア質のテフラを主体とした組成であった。

一方、蛍光Ｘ線分析による化学組成においても薄片観察による結果を反映して、No.1 と No.2 では、酸化ケイ素 SiO2 が特徴的に多く、No.3 と No.4 は、酸化アルミニウム Al_2O_3 が特徴的に多い。この No.3 および No.4 は、スコリア質粒子のみが特徴的に多く含まれていること、酸化アルミニウム Al_2O_3 が 25% 前後と高く、酸化ケイ素 SiO_2 が 50% 以下と低いことから、関東ロームの特徴と一致している（藤根・佐々木、2005）。なお、No.1 および No.2 の白色粘土は、段丘堆積物として堆積した粘土質堆積物などが考えられる。

以上のように、白色粘土と土壁およびレンガの材質は全く異なったものである。

植物珪酸体分析においては上記したように試料②や試料④においてイネの機動細胞珪酸体が認められた。この機動細胞珪酸体は葉の部分に形成される珪酸体であることから白色粘土６（試料②）やレンガ４（試料④）には少なくともイネの葉が混和材として混ぜられていた可能性が推察される。また試料③の焼固粘土塊（土壁）においてはネザサ節型のササ類（アズマネザサなど）やメダケ属といったタケ・ササ類の葉が混和材として混ぜられていた可能性が推測される。

一方試料①の白色粘土５については植物遺体を検討できる機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体が認められなかったことから、白色粘土５で認められた植物遺体については不明である。

なお、土壁中の植物遺体については滋賀県の安土城の壁材に認められた植物遺体を検討した例があり、安土城の場合はイネと判断されている（藤根ほか　2002）。

５．おわりに

河村城跡竪穴状遺構の覆土中から土壁やレンガあるいは白色粘土について、薄片による顕微鏡観察と化学分析を行った。その結果、白色粘土と土壁およびレンガの材質は全く異なったものである。

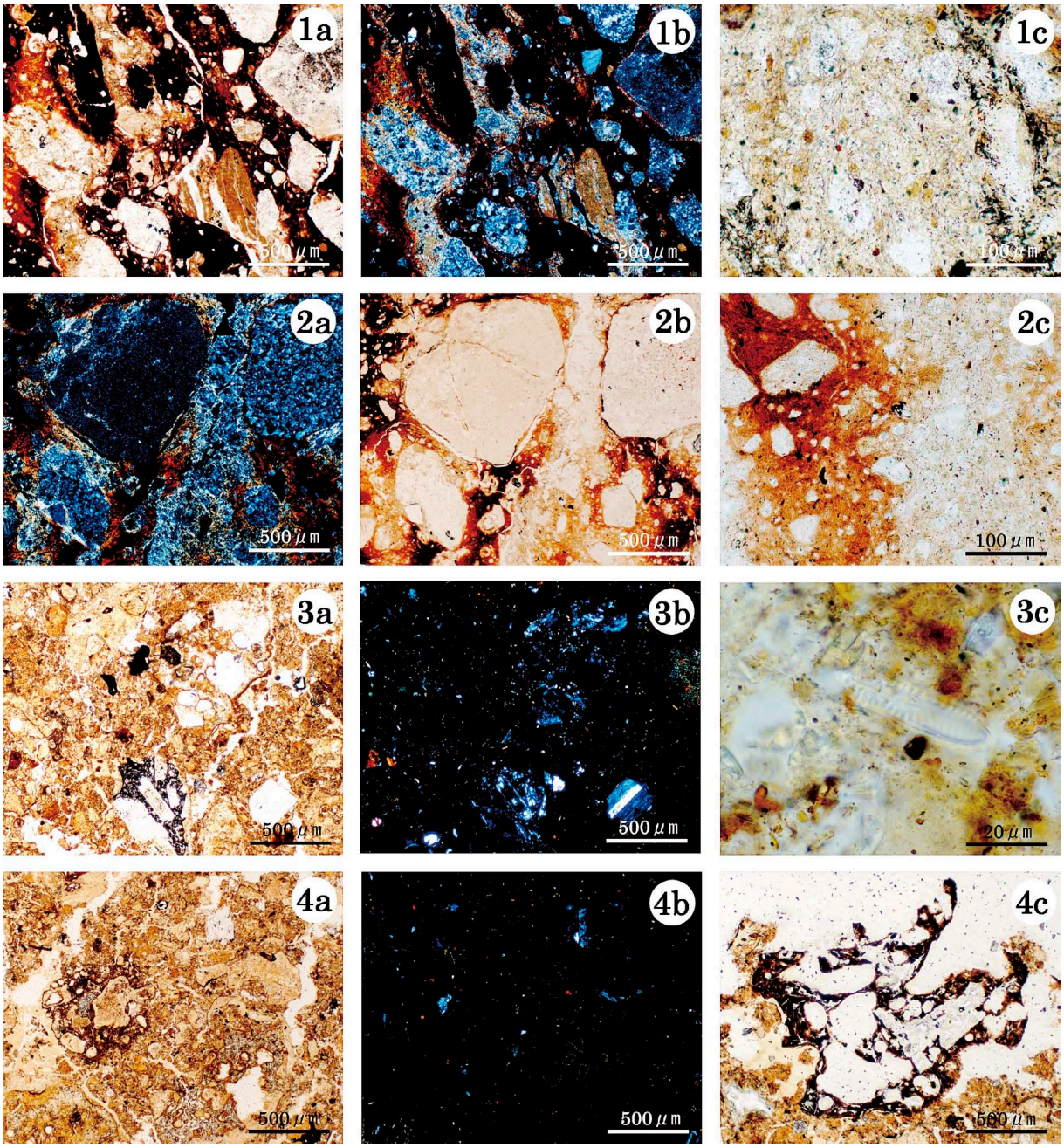
引用文献

安藤一男（1990）　淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42,2, ｐ.73-88.

小杉正人（1988）　珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27, ｐ.1-20.

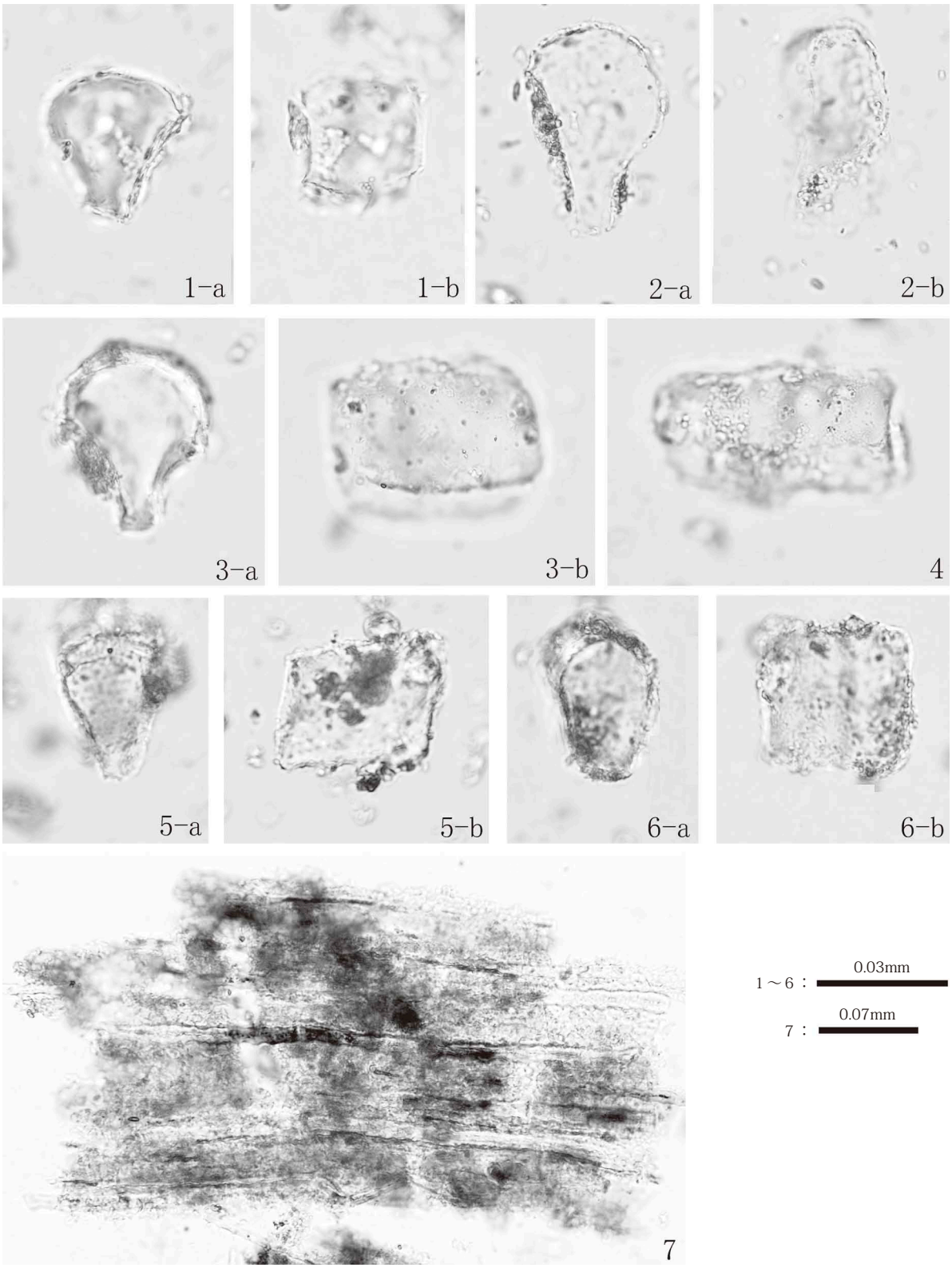
藤根　久・佐々木由香（2005）　明治大学西調布校地試掘・確認調査における自然科学分析．シンポジウム立川ローム層下部の層序と石器群予稿集．ｐ.14-17

藤根　久・小村美代子・鈴木　茂（2002）壁材等の材料分析．特別史跡安土城跡発掘調査報告 12 －主郭中心部天主台・本丸・本丸取付台伝名坂邸跡の調査－（本文編），滋賀県教育委員会事務局・滋賀県安土城郭調査研究所，p.246-248.



1a. 粘土 NO. 1（開放ニコル）　1b. 粘土 NO. 1（直交ニコル）　1c. 粘土 NO. 1の粘土部分
2a. 粘土 NO. 2（開放ニコル）　2b. 粘土 NO. 2（直交ニコル）　2c. 粘土 NO. 2の粘土部分
3a. 粘土塊 NO. 3（開放ニコル）　3b. 粘土塊 NO. 3（直交ニコル）　3c. 粘土塊 NO. 3の珪藻化石（Pinnularia borealis）
4a. レンガ NO. 4（開放ニコル）　4b. レンガ NO. 4（直交ニコル）　4c. レンガ NO. 4のスコリア粒子

図版１　粘土・粘土塊およびレンガの偏光顕微鏡写真



１、２：イネ機動細胞珪酸体（ａ：断面、ｂ：側面）　試料２
３、４：イネ機動細胞珪酸体（３－ａ：断面、３－ｂ，４：側面）　試料４
５：ネザサ節型機動細胞珪酸体（ａ：断面、ｂ：側面）　試料３
６：メダケ属？機動細胞珪酸体（ａ：断面、ｂ：側面）　試料３
７：棒状珪酸体　試料１

図版２　河村城出土遺物の植物珪酸体

第３節　山北町河村城跡蔵郭採取の種実同定について

金原正子・松田隆（株式会社 古環境研究所）

１．はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

２．試料

試料は、平安時代の城跡より出土した堆積物である。試料①（No.32 南トレンチ－１）、試料②（No.32 － No.33 竪穴状遺構－１）、試料③（No.33 北トレンチ－１）、試料④（No.33 北トレンチピット－１）、試料⑤（No.33 北トレンチピット－２）の計５点である。

３．方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

１）試料 500cm^3 に水を加え放置し、泥化を行う。

２）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mm の篩で水洗選別を行う。

３）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

４．結果

（１）分類群

樹木２、草本 13 の計 14 分類群が同定される。学名、和名および粒数を表１に、イネ、アワ、オオムギ、コムギの計測値を表２に、イネの粒計とその大きさを表３に示し、主要な分類群を写真に示す。500cm^3 中の種実数をダイアグラムに示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

クマシデ属　*Carpinus*　果実　カバノキ科

灰褐色で狭卵形や狭楕円形を呈し、光沢はない。長さ×幅・5.00mm × 3.60mm

コウゾ　*Broussonetia kaiznoki* × B. *papyrifera*　種子　クワ科

明黄赤色で広楕円状円形を呈す。光沢はなく、左右の両側面のうち、一側面は稜になり、次第に厚さをます。この面には幅広い浅い凹みがある。果皮にはいぼ状の低い突起が散生し、ざらつく。長さ×幅・1.53mm × 1.23mm

〔草本〕

イネ　*Oryza sativa* L.　果実（炭化）　イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。破片も数個ある。

ここで検出されたイネは、長粒から短粒が多く最大長さ×幅・7.3mm × 3.1mm、最小長さ×幅・3.7mm × 1.9mm、平均長さ×幅・5.05mm × 2.64mm である。

アワ　*Setaria italica* Beauv.　果実（炭化）　イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。

最大長さ×幅・1.3mm × 1.3mm、最小長さ×幅・1.1mm × 1.1mm、平均長さ×幅・1.08mm × 1.07mm である。

ヒエ　*Echinochloa utilis* Vigna　果実（炭化）　イネ科

炭化している。類円形を呈し、胚の部分がくぼむ。

オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　果実（炭化）　イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

最大長さ×幅・7.3mm × 3.2mm、最小長さ×幅・4.2mm × 1.9mm、平均長さ×幅・5.56mm × 2.77mm である。

コムギ　*Triticum aestivum*. L　果実（炭化）　イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。

ムギ類（オオムギ - コムギ）*Hordeum-Triticum*　果実片（炭化）　イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、破片であり形態、胚が観察できない為、ムギ類とした。

イネ科　Gramineae　穎

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。長さ×幅・2.62mm × 0.93mm、2.93mm × 0.87mm

カヤツリグサ科　Cyperaseae　果実

茶褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。長さ×幅・1.41mm × 0.67mm、1.26mm × 0.50mm、1.76mm × 1.48mm

タデ属　*Polygonum*　果実　タデ科

黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。長さ×幅・2.14mm × 1.28mm、2.04mm × 1.33mm、1.90mm × 1.23mm

ザクロソウ *Mollugo pentaphylla* L. 種子　ザクロソウ科

黒色でやや光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、白い種柄がある。表面には微細な網状斑紋がある。長さ×幅・0.59mm × 0.59mm

ナデシコ科　Caryophyllaceae　種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。長さ×幅・1.05mm × 0.90mm

アカネ科　Rubiaceae　種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。長さ×幅・1.43mm × 2.37mm

キランソウ属　*Ajuga*　果実　シソ科

卵形や狭卵形で側面は横狭卵形。着点は広卵形や広楕円形、腹面の一端（卵の細い方）から中央までを占め、幅広い隆条状の縁で囲まれる。大型の網目模様がある。長さ×幅・2.38mm × 1.55mm

表１　河村城跡における種実同定結果

分類群		部位	No.32	No.32-33	No.33		
			南トレ	竪穴状遺構	北トレ		
学名	和名		1	1	1	ピット -1	ピット -2
Arbor	樹木						
Carpinus	クマシデ属	果実	—	1	—		
Broussonetia kazinoki × *Broussonetia Papyrifera*	コウゾ	種子		1			
Herb	草本						
Oryza sativa L.	イネ	果実（炭化）	13	2	2	19	15
		果実片（炭化）	9	—	1	8	4
Setaria italica Beauv.	アワ	果実（炭化）	2	—	2	4	5
Echinochloa Ohwi et Yabuno	ヒエ	果実（炭化）	—	—	—	1	—
Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実（炭化）	8	1	2	3	1
Triticum aestivum L.	コムギ	果実（炭化）	—	—	—	1	—
Hordeum vulgare L.-Triticum aestivum L.	ムギ類	果実片（炭化）	7	—	1	—	—
Gramineae	イネ科	穎	—	24	—	—	—
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	—	14	—	—	—
Polygonum	タデ属	果実	—	7	—	—	—
Mollugo pentaphylla L.	ザクロソウ	種子	—	1	—	—	—
Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子	—	2	—	—	—
Rubiaceae	アカネ科	種子	—	1	—	—	—
Ajuga decumbens Thunb.	キランソウ	果実	—	1	—	—	—
Total	合計		39	55	8	36	25

表２　河村城跡イネ・アワ・ヒエ・オオムギ・コムギ炭化果実計測値

・イネ

試料	長さ（mm）	幅（mm）	試料	長さ（mm）	幅（mm）
1	6.0	2.3	28	5.8	2.6
2	5.6	2.2	29	7.3	2.4
3	5.0	3.0	30	5.2	2.5
4	5.0	2.9	31	5.4	2.4
5	4.9	3.0	32	6.0	2.5
6	4.9	3.3	33	4.8	3.0
7	4.7	2.9	34	4.8	2.3
8	4.3	2.8	35	5.7	2.3
9	4.7	3.1	36	4.9	2.9
10	4.7	3.3	37	5.3	2.4
11	4.6	2.9	38	4.9	2.8
12	5.7	2.4	39	4.0	2.6
13	5.7	2.6	40	4.4	3.0
14	5.9	2.2	41	5.1	2.3
15	6.4	2.1	42	4.5	3.0
16	4.2	2.7	43	4.3	2.7
17	6.0	2.4	44	4.4	2.8
18	6.1	2.4	45	3.7	2.1
19	4.4	2.5	46	5.0	2.5
20	5.6	2.4	47	4.5	3.0
21	4.4	2.9	48	4.4	2.9
22	5.0	2.9	49	4.6	3.0
23	5.1	1.9	50	4.8	2.5
24	5.7	2.6	51	4.8	3.0
25	4.6	2.7	最大	7.3	3.1
26	5.5	2.3	最小	3.7	1.9
27	4.1	2.9	平均	5.05	2.64

・アワ

試料	長さ（mm）	幅（mm）
1	1.2	1.2
2	1.2	1.2
3	1.1	1.1
4	1.2	1.2
5	1.1	1.2
6	1.3	1.3
7	1.2	1.2
8	1.3	1.1
9	1.2	1.1
10	1.2	1.1
11	1.1	1.2
12	1.2	1.2
13	1.2	1.2
最大	1.3	1.3
最小	1.1	1.1
平均	1.08	1.07

・ヒエ

試料	長さ（mm）	幅（mm）
1	1.7	2.4

・オオムギ

試料	長さ（mm）	幅（mm）
1	5.6	2.7
2	5.4	3.2
3	5.1	2.8
4	4.8	3.0
5	5.7	2.4
6	6.0	3.1
7	5.4	3.0
8	4.2	1.9
9	5.0	2.8
10	5.2	2.8
11	5.4	2.4
12	7.3	3.0
13	6.1	3.3
14	6.6	2.8
15	5.7	2.5
最大	7.3	3.2
最小	4.2	1.9
平均	5.56	2.77

・コムギ

試料	長さ（mm）	幅（mm）
1	3.9	2.7

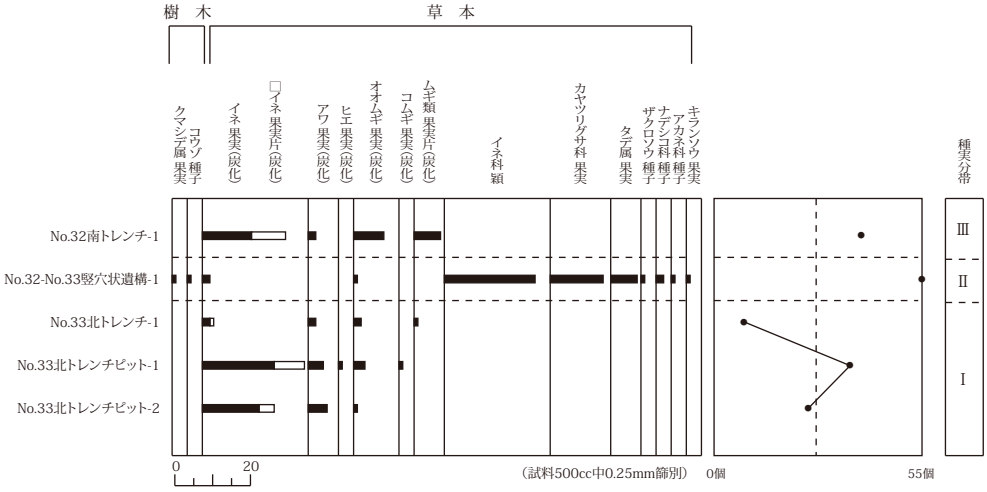


図１　河村城跡における種実ダイアグラム

（２）種実群集の特徴

１）試料①（No.32 南トレンチ－１）

イネ 22、アワ２、オオムギ８、ムギ類７が検出された。

２）試料②（No.32 － No.33 竪穴状遺構－１）

クマシデ属１、コウゾ１、イネ２、オオムギ１、イネ科 24、カヤツリグサ科 14、タデ属７、ザクロソウ１、ナデシコ科２、アカネ科１、キランソウ１が検出された。

３）試料③（No.33 北トレンチ－１）

イネ３、アワ２、オオムギ２、ムギ類１が検出された。

４）試料④（No.33 北トレンチピット－１）

イネ 27、アワ４、ヒエ１、オオムギ３、コムギ１が検出された。

５）試料⑤（No.33 北トレンチピット－２）

イネ 19、アワ５、オオムギ１が検出された。

５．考察とまとめ

河村城跡の堆積物について種実同定を行った結果、樹木ではクマシデ属、コウゾ、草本ではイネ、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ザクロソウ、ナデシコ科、アカネ科、キランソウが検出された。

試料①（No.32 南トレンチ－１）、試料③（No.33 北トレンチ－１）、試料④（No.33 北トレンチピット－１）、試料⑤（No.33 北トレンチピット－２）は栽培植物が多く、なかでもイネが多産し、オオムギ、アワがこれに続き、コムギ、ヒエも検出される。これら穀類の果実は、通常では残りにくいが、

表３　河村城跡イネの粒形とその大きさ

粒形 ＼ 粒大		極々小 ～ 8	極小 ～ 12	小 ～ 16	中 ～	合計（%）	
長粒 (L)	2.6-3.0 Ll	－	1	2	1	4	41.2
	2.3-2.6 Lm	－	－	9	－	9	
	2.0-2.3 Ls	－	2	6	－	8	
短粒 (S)	1.8-2.0 Sl	－	－	2	－	2	58.8
	1.6-1.8 Sm	1	1	8	－	10	
	1.4-1.6 Ss	－	4	13	1	18	
円粒 (R)	1.2-1.4 Rl	－	－	－	－	－	－
	1.0-1.2 Rm	－	－	－	－	－	
合計（%）		1 2.0	8 15.7	40 78.4	2 3.9	51 100%	

計測は表２にそって行う。粒長 / 粒幅で粒形を表し、粒長×粒幅で粒の大きさを表す。

炭化果実として残存しており、人為により火を受けたとみなされる。穀類の果実は大きさの計測値を示したが、イネ（炭化米）は小粒のものが多く、短粒から長粒まで多様である。特に長粒に偏じる特徴がある。イネは基本的には弥生時代以降に検出され、コムギ、アワはイネに伴われ弥生時代以降検出される。オオムギは古墳時代以降の遺跡に多く出土する。オオムギ、コムギは奈良県箸尾遺跡をはじめ、平安時代後期から中世の遺跡から多く出土する（金原、2001）。本遺跡の種実類は畑作要素の強い遺体群集である。

試料②（No.32 － No.33 竪穴状遺構－１）では、栽培植物は少なく、人里植物ないし耕地雑草のイネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ザクロソウ、ナデシコ科、キランソウ属が検出される。竪穴状遺構に生育していた雑草類あるいは周囲に生育する雑草類が竪穴状遺構に自然にもたらされ堆積したとみなされる。なお、イネ科やカヤツリグサ科が多く、竪穴状遺構内は湿った環境であったと推定される。

参考文献

笠原安夫（1985）　日本雑草図説，養賢堂，494p.

笠原安夫（1988）　作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣　出版，p.131-139.

南木睦彦（1993）　葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.

吉崎昌一（1992）　古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル No.355，ニューサイエンス社，p. 2 -14.

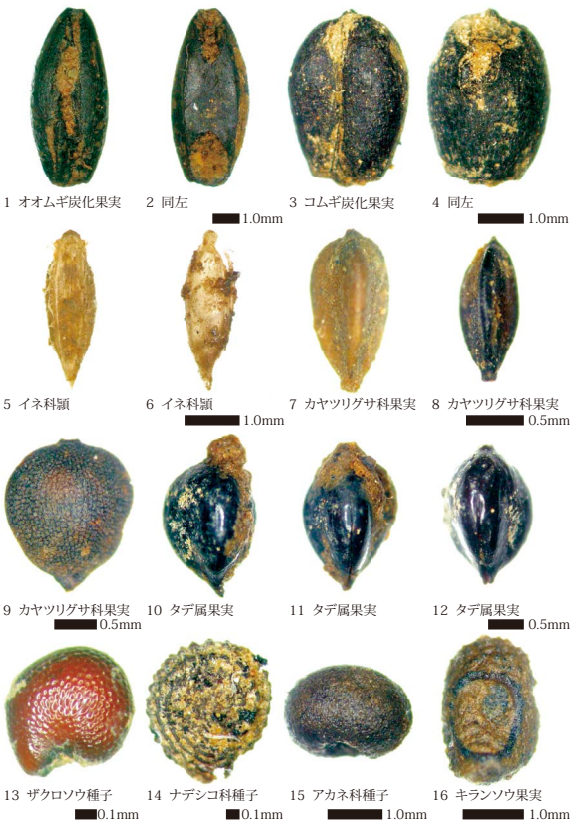
金原正明（2001）　自然科学と中世遺跡．図解・日本の中世遺跡，東京大学出版会，、査読無、p.228-229.

粉川昭平（1988）　穀物以外の食物食．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣出版株式会社，p.112-115.

佐藤敏也（1971）　日本の古代米，雄山閣出版株式会社．p.-.

佐藤敏也（1988）　弥生のイネ．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣出版株式会社，p.97-111.

図版１　河村城跡の種実Ⅰ



図版２　河村城跡の種実Ⅱ

第４節　山北町河村城蔵郭出土樹種の同定について

野村敏江（株式会社 パレオ・ラボ）

１．はじめに

神奈川県山北町の標高約 220m に位置する河村城から出土した、中世から近世のものと考えられている炭化材 17 試料の樹種同定結果について報告する。なお、本遺跡の掘切３を中心とした ^{14}C 年代測定の結果では、西暦 1600 年前後に切り出した材を利用したことが明らかにされている。

２．炭化材樹種同定の方法

炭化材樹種同定を行うにあたって、同定を実施する炭化材を選び出す際には材の３方向の断面（横断面・接線断面・放射断面）を作成することが可能な大きさの炭化材を選び出した。分析 No.9 では横断面の道管配列が異なる複数種の炭化材破片が認められたため、枝番号（⑨ -1 および⑨ -2）を付して別試料として分けて同定を行なった。

次に、走査電子顕微鏡写真を撮影するため、材の３方向の断面を作成し材組織を観察、撮影した。走査電子顕微鏡用の試料は３断面を 5mm 角程度の大きさに整形したあと直径 1cm の真鍮製試料台に両面テープで固定し試料台を作成した。この後試料台を乾燥させ、金蒸着を施し走査電子顕微鏡（日本電子㈱製 JSM-T100 型）で撮影を行った。同定を行った試料のうち、各分類群を代表する試料は写真図版（図版１～図版２）を添付し、同定結果を記載した。

３．結果と考察

各試料の樹種同定結果の一覧を表１に示した。同定の結果、針葉樹であるカヤ、落葉広葉樹であるコナラ属コナラ亜属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）・クリ・ケヤキ・ウツギ属の計５分類群の樹種が同定された。樹種同定を行なうことが可能であった 12 試料のうち、カヤが４試料、ケヤキが３試料、クリとウツギ属が各２試料、コナラ節が１試料同定された。全 17 試料のうち、２試料は保存が悪いために科以下の同定を行なうことができず、その他３試料は組織の観察を行なうことのできない同定不可のものと樹皮？や土塊であった。

環境庁（1982）による秦野地域の現存植生図をみると、山北町では主として雑木林を構成するコナラ、クリなどを交えるコナラ群落（環境庁 1979）や、ケヤキやイロハモミジを主としカヤ、ウツギなども生育するケヤキ－イロハモミジ群落（環境庁 1979）などが成立している。現在の植生と同様に扱うことはできないが、当時の植生に大きく変化はなかったと考えられ、今回の同定結果は河村城周辺の植生を反映した樹種構成であると考えられた。

次に同定された樹種の材組織について記載を行なう。

（1）カヤ　*Torreya nucifera*（L.）Sieb. et Zucc.　図版１ 1a-1c（分析 No. ②）

仮道管・放射柔細胞によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は１～ 20 細胞高になり、すべて放射柔細胞によって構成される。分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～４個存在する。仮道管にはらせん肥厚が認められ、２本対になる傾向がある。カヤは高さ 25m になる常緑高木で本州（宮城県以南）・四国・九州（屋久島まで）に分布する。材はやや重硬で狂いは少ない。強度は中庸で弾力に富み、切削等の加工は容易である。

表１　河村城郭関連遺構出土炭化材の樹種同定結果

分析 No.	No.	樹種	注記	平面	層位
①	64	クリ	KMJ03C1	AT97-98	館跡面直上
②	65	針葉樹	KMJ03C2	空堀 1、西側法面	中断位壁面密着
③	69	カヤ	KMJ03C6	空堀 5	上層覆土
④	71	クリ	KMJ03C8	凹地部三足盤出土穴	―
⑤	72	カヤ	KMJ03C9	A17ST-18-20	―
⑥	74	ケヤキ	KMJ03C11	空堀４７	覆土中層ピット
⑦	81	カヤ	KMJ04C1	A17ST 空堀 ???	上層覆土
⑧	82	樹皮？	KMJ04C2	堀切３橋脚 No.4 本城郭北側	―
⑨ -1	83	ウツギ属？	KMJ04C3	堀切３本城郭側	第１硬化面上（同レベル）
⑨ -2	83	コナラ節	KMJ04C3	堀切３本城郭側	第１硬化面上（同レベル）
⑩	84	土塊	KMJ04C4	堀切３蔵郭北側橋脚	―
⑪	85	同定不可	KMJ04C5	堀切３蔵郭南側橋脚	―
⑫	87	ウツギ属？	KMJ04C7	堀切３西側ピット	（第１硬化面）
⑬	88	ケヤキ	KMJ04C8	堀切３	第２硬化面下部層第３硬化面上
⑭	89	針葉樹（スギ？）	KMJ04C9	堀切３蔵郭側北側掘り方	底面直上（約 50cm 上）
⑮	12	ケヤキ	KMJ05C3	No.32 南トレンチ竪穴状遺構	覆土内
⑯	68	カヤ	KMJ03C5	空堀５	上層覆土

（2）コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus* subgen. *Quercus* sect.Prinus　図版１2a-2c（分析 No. ⑨ -2）

大型の道管が年輪界で一列に並び、それ以外の部分では径を減じた壁の薄い角張った道管が配列する環孔材。放射組織は同性の単列および集合放射組織から構成される。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織と道管の壁孔は柵状となる。代表的なコナラ節であるミズナラとコナラの材の性質についてみると、ミズナラの材は広葉樹材のうちでは重硬な方であり切削などの加工はやや困難で割れが生じやすいとされる。コナラはミズナラよりも重硬とされ加工しにくく、乾燥で割れが生じやすいとされている。

（3）クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　図版１3a-3c（分析 No. ①）

大型の道管が年輪界で一列に並び、それ以外の部分では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材。放射組織は単列で同性である。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織と道管の壁孔は柵状である。クリは北海道（石狩・日高地方以南）・本州・四国・九州の丘陵から山地に分布する落葉高木で高さ 20m ほどになる。材は耐朽性が強く、水湿に耐え、保存性はきわめて高い。

（4）ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　図版２4a-4c（分析 No. ⑬）

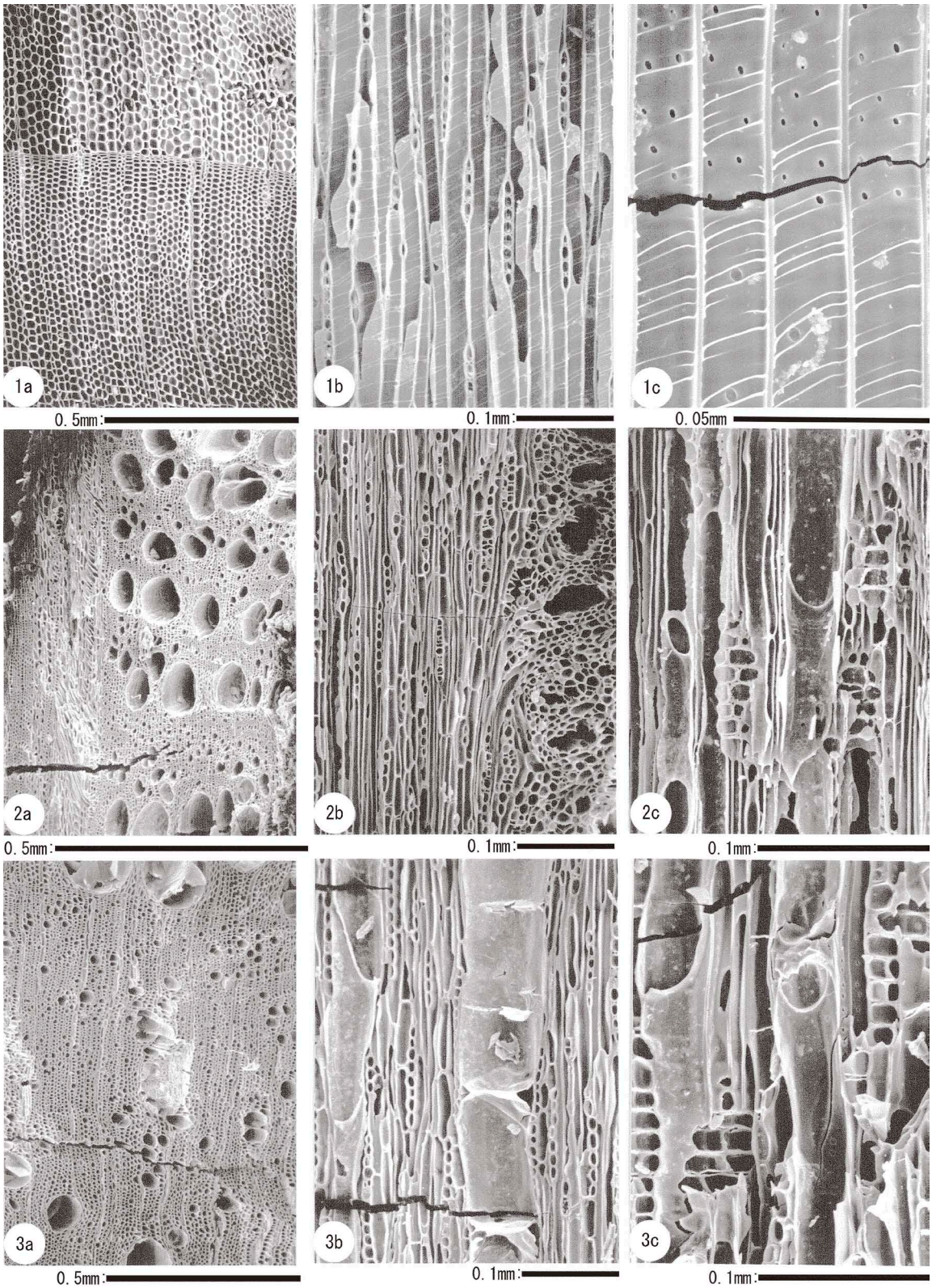
道管は大型の環孔材で、孔圏外の小道管は数個複合して接線状に並ぶ。放射組織は５細胞幅程度で紡錘形のものが目立ち、上下には大型の結晶を含む方形細胞がある。道管は単穿孔であり、小道管にはらせん肥厚がみられる。ケヤキは北海道・本州・四国・九州の渓畔林や丘陵部、山地によく生育する高さ 20m ほどの落葉高木である。

（5）ウツギ属　*Deutzia*　図版２4a-4c（分析 No. ⑨ -1）

きわめて小径の道管が散在する散孔材である。階段穿孔であり、道管と放射組織間壁孔はきわめて小さく、多数となる。放射組織は異性で１～２列、細胞高はきわめて高い。ウツギ属は落葉低木であり、日本には７種がある。ウツギやマルバウツギなど山野の日当りの良い斜面や河岸、路傍などに生育するものが多い。

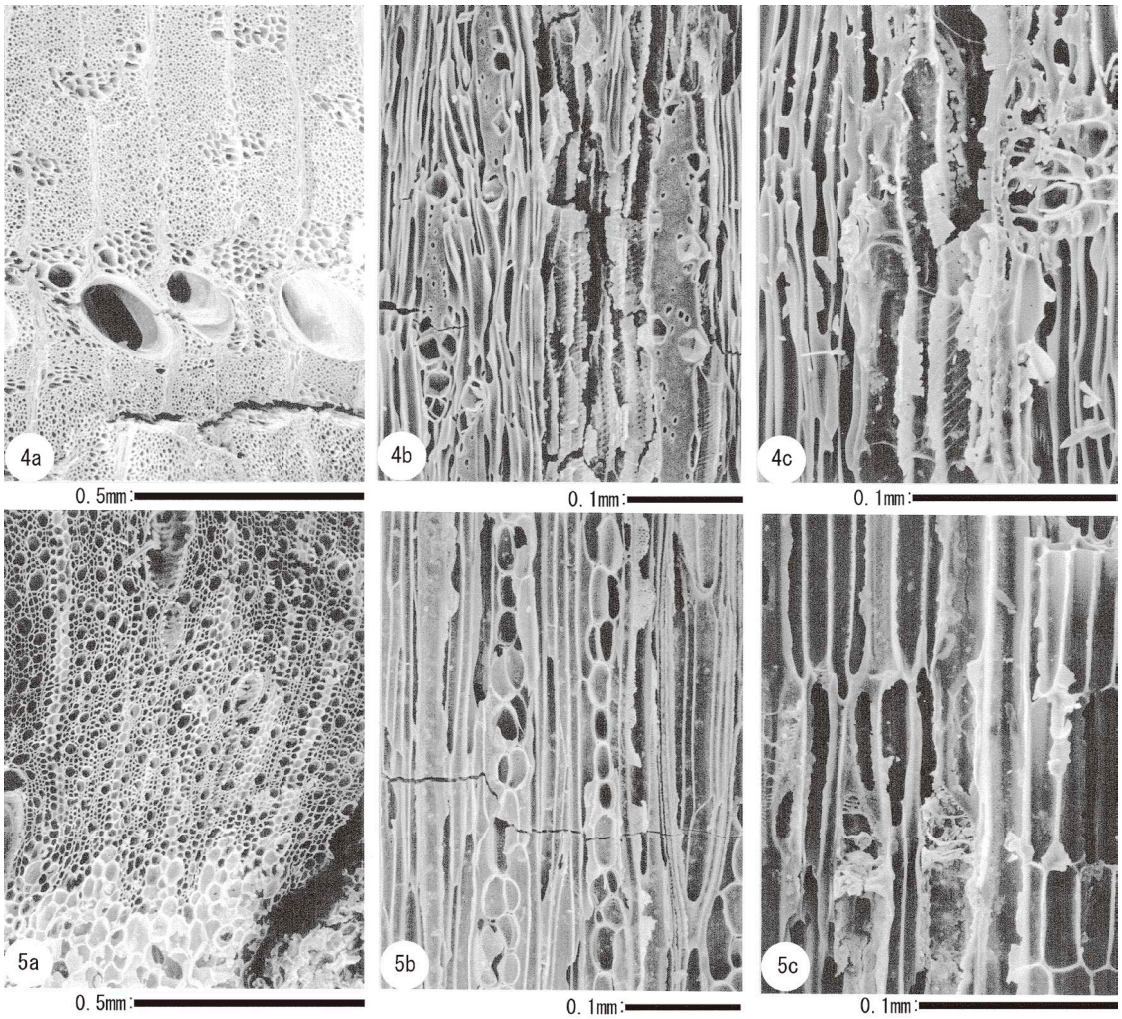
引用文献

環境庁（1979）　神奈川県植生調査報告書．p79, 日本野生生物研究センター.
環境庁（1982）　５万分の１神奈川県現存植生図 秦野．日本野生生物研究センター.



1a-1c: カヤ（No. ②）　2a-2c: コナラ節（No. ⑨ -2）　3a-3c: クリ（No. ①）
a: 横断面　b: 接線断面　c: 放射断面

図版１　河村城郭関連遺構出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真



4a-4c: ケヤキ（No. ⑬）　5a-5c: ウツギ属？（No. ⑨ -1）
a: 横断面　b: 接線断面　c: 放射断面

図版２　河村城郭関連遺構出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真

第５節　山北町河村城跡近藤郭出土獣骨の同定について

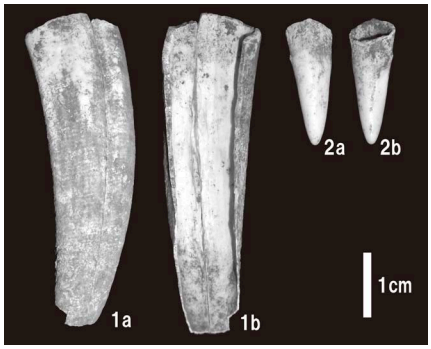
黒澤 一男（株式会社 パレオ・ラボ）

１．はじめに

神奈川県足柄上郡山北町にある河村城跡から骨片が検出され、その骨片について分類・同定を行なった。

２．同定結果

試料には、河村城跡の空堀４と段切越郭の間、Ｅトレンチ上段部の整地層下層より出土した骨片を用いた。これらの骨片はウマの切歯である。骨片には、板状と円錐状の２つのエナメル質があり、板状の方は切歯の周縁エナメル質、円柱状の方は内部エナメル質である。残存している周縁エナメル質は一部分であり、全体の形状を見ることができないが、その形状からおそらく右下顎第２切歯であると考えられる。なお、破片であるため、年齢や性別などについての検討はおこなえない。



a: 外側面，b: 内側面

図版１　河村城跡検出 ウマ 右下顎第２切歯

第６節　山北町河村城跡蔵郭出土鉄器の保存処理について

今西寿光（株式会社 京都科学開発センター保存処理室）

１．名　　称　　鉄釘

２．数　　量　　７点

３．出 土 地　　神奈川県足柄上郡山北町河村城跡

４．処理方法

１）現状確認

処理前の状況（色調および形状）を記録するため、デジタルカメラで撮影、保存を行う。その後、Ｘ線透過撮影を行い、資料の構造を調査するとともに保存状態の確認を行う。処理内容の記録保存のため、写真を主とした処理記録書を資料毎に作成し利用する。

２）クリーニング

実体顕微鏡下で資料表面を拡大観察（最大 50 倍）を行い、布など有機質材料の付着の有無を確認する。細部の状況は必要に応じてデジタルカメラで記録を行う。資料の細部調査終了後、物理的方法により表面を覆う余分な土砂および錆を除去する。

３）脱塩処理

アルカリ水溶液に浸漬して資料中に含まれる塩化物イオンの除去を行う。

４）樹脂含浸

資料の補強ならびに外気の影響を受けにくくする目的から減圧含浸装置を用いてアクリル樹脂の減圧含浸及び乾燥を行う。この工程を３回繰り返す。

５）接合・整形（復元）

破損した資料はニトロセルロース系またはエポキシ系接着剤で接合を行う。補強及び整形が必要な箇所についてはフェノールマイクロバルーンを充填材にした樹脂で整形、充填を行う。

６）補彩

充填部・復元部をアクリル塗料で周囲に調和する色調に補彩を行う。

７）処理状況記録・処理記録作成

処理後の状況（色調および形状）の記録の目的からデジタルカメラでの撮影を行う。現状確認写真・処理工程、内容の記録と合わせて資料の作成を行う。同様の資料を社内においても保管する。

８）包装

保管環境の調整のため処理後の資料を金属酸化防止剤と共に密封し、低湿度・無酸素状態での梱包を行う。

５．作業場所

株式会社京都科学　開発センター

第７章　ま　と　め

はじめに

2007（平成 19）年３月３日土曜日快晴、河村城跡史跡整備一部完成記念式が挙行された。本城郭と蔵郭間に架設した長さ 24m の木橋渡り初め式のテープカットに、数多くの町民の方々と関東近県からの登城者に 175 枚の渡橋証明書を発行し、お茶振る舞いのうちに第１部の幕を閉じた。

今回の出土品整理作業にあたって痛感したのは「記憶するより記録しろ」である。文字通り記録保存の重要性にほかならない。一調査主任の記憶を披瀝させる算段に腐心したのは事実であるが、４年前の発掘調査の状況はもとより、トレンチの設定位置と土層断面との整合、縄張りの配置と遺構・遺物・写真撮影の位置関係などの詳細な記憶に驚嘆したのも事実である。ただし、ヒトの記憶は常に消失状態にあり、その意味でも現場実測図の重要性を痛感するとともに、本報告編集の最後までの拠り所であった。また、異なる調査者の発掘調査における土層註記や各所見は不整合のままであり、遺物の水洗・註記・記録図面類・写真類の統括的な保管管理についても未着手の状況にあった。

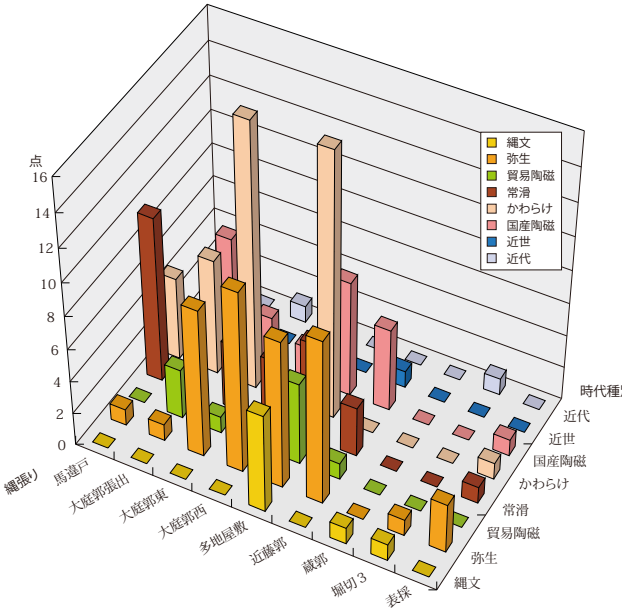
１　縄張りと遺物について（表 1）

本報告の調査対象範囲は、本城郭東側の堀切３、蔵郭、堀切２、近藤郭（空堀６・７、竪堀１、段切腰郭）、大庭郭西（空堀５）、大庭郭東（空堀２、凹地郭、水郭）、大庭郭張出（空堀１、段切腰郭）、多地屋敷（空堀３）、馬違戸である。郭の中で最も広い大庭郭は、2D ラインの小段を境に便宜的に大庭郭西・東と呼称し、大庭郭から北へ張出す台形状の範囲（Y ～ 2B-16 ～ 18）を空堀４の延伸として大庭郭西に含めた。2003（平成 15）・2004（平成 16）年度調査では遺物の出土原位置を全点記録していないという恨みは残るものの概報あるいは土層断面図の読み取りと、調査主任への聞き取りで対処した。

土器の出土位置を縄張り単位に分別すると（第６表・第 62 図）、貿易陶磁器が大庭郭（西）に多く、蔵郭が次ぐ。国産陶磁器は大庭郭、蔵郭、近藤郭の順で、常滑甕は堀切３に目立つ。かわらけは、大庭郭西と近藤郭が群を抜いている。貿易陶磁器などの特定土器が縄張り内の限られた郭から多く出土するという事実は、城内における中枢的役割の表明と言えよう。ただ

第６表　縄張り別出土土器

	縄文	弥生	貿易陶磁	常滑	かわらけ	国産陶磁	近世	近代	小計
堀切３	0	1	0	10	5	1	0	0	17
蔵郭	0	1	3	1	7	7	1	0	20
近藤郭	0	9	1	4	16	3	0	1	34
多地屋敷	0	11	0	4	1	2	1	0	19
大庭郭西	6	9	5	6	16	7	0	0	49
大庭郭東	0	10	1	3	0	5	1	0	20
馬違戸	1	0	0	0	0	0	0	0	1
大庭郭張出	1	1	0	0	0	0	0	1	3
表採	0	3	0	1	1	1	0	0	6
計	8	45	10	29	46	26	3	2	169



第 62 図　縄張り別出土土器

し、本城郭の性格は加味していない。弥生時代の堂山式は大庭郭を中心に多地屋敷、近藤郭に広がり、縄文時代は大庭郭西に分布する。また、縄張り越えや遠距離間での同一個体を認めるができる。蔵郭竪穴状遺構出土褐釉壷（第 53 図 27）であり、堀切 2 を越えて近藤郭空堀 7 の下層覆土（第 54 図 46）、大庭郭西の整地層（第 55 図 66）にまで分布する。また、蔵郭と近藤郭間の同一個体では信楽茶壷（第 53 図 20・第 54 図 39）、擂鉢（第 53 図 29･第 54 図 40）が、蔵郭と大庭郭西では瀬戸鉄釉（第 53 図 21･第 56 図 79）が、大庭郭東と堀切 3 では常滑甕（第 58 図 95・第 58 図 97・第 52 図 7）が各々出土し、大庭郭東内では瀬戸梅鉢（第 57 図 90・第 58 図 98）が直線距離で約 7 5 m を隔てる。これらの陶磁器は近世の擂鉢と内外面に鉛状の付着物を有する常滑甕以外総てが被熱し、廃城後の破却行為、戦火後の城内整備や整地に伴う遺物の移動が伺い知れる。被熱痕跡は 20 倍のルーペによる施釉部分の発泡や剥落の顕著な観察が可能であった。

遺物の年代観では、大庭郭東が 15 世紀前半の国産陶磁と貿易陶磁が中心であり、大庭郭西ではやや 15 世紀後半にぶれる傾向を示し、蔵郭では 15 世紀後半を中心としている。伝世品や城内の整地、本城郭の年代観を一先ずおくと、大庭郭から蔵郭へという年代的な変遷が追えることとなる。

2　蔵郭と堀切３について（第７・８表）

河村城跡の縄張りにおける過去三ヵ年の調査では、堀切３（堀切 1 ～ 3）、空堀 7（1 ～ 7）、郭 10（蔵郭、近藤郭、段切腰郭、大庭郭西、大庭郭東、凹地郭、水郭、大庭郭張出、多地屋敷、馬違戸など、絵図や現地形で想定された縄張り以外に数多くの遺構が確認された。絵図 1（巻頭写真 2）では、南の水郭を横断し、近藤郭を囲遶する空堀（西側は堀切 2、東側から北側は空堀 4 あるいは空堀 6）を表示するが、他の 5 ケ所の空堀や北側の段切腰郭は未表示であり、調査上の新発見と言えよう。段切腰郭や空堀 1・4・5 の延伸については不明だが、空堀 2・3 については現況地形の判定からそのまま城外崖線に続くことが想定される。最も複雑な遺構の切り合い関係は近藤郭空堀 6・7 と竪堀 1 である。空堀 6 と竪堀 1 が空堀 7 を切り込むことから空堀 7 →空堀 6 ≒竪堀 1 の先後関係があり、空堀 4 と空堀 7 が虎口を形成することとなる（第５章第 2 節２）。空堀 6 覆土上層採取炭化物の年代が空堀 4 覆土中層採取炭化物の年代に比較し、より古い年代が算出されている点は傍証となる可能性がある。

堀切 3 の調査については、整備の方法も含めて整備検討委員会でも議論となった。検出された「橋脚遺構」の帰属硬化面と時期の問題であり、結論的には最終硬化面（第 1 硬化面）が橋脚遺構の事業面となった。堀切 3 に関わる炭化物 8 点の AMS 法による年代測定の結果を反映させてみる。

全点の補正測定平均値が西暦 1591 年（以下補正平均値西暦略延べ点数）、本城郭側 1627 年（２点）、本城郭側橋脚 1620 年（１点）、第 1 硬化面 1617 年（３点）、第 3 硬化面 1600 年（１点）、橋脚 1573 年（４点）、蔵郭側の橋脚 1565 年（３点）、となる。硬化面の序列は整合するが、第 1 硬化面は橋脚より 40 年以上、本城郭側が蔵郭側より 60 年以上それぞれ新しい。いずれも誤差の範囲に収まるとはいうものの 1590 年廃城年代を基軸にすると、第 1 硬化面～第 3 硬化面と本城郭側の橋脚をはじめとする柱穴材は廃城後、蔵郭側の橋脚ほか柱穴材は廃城前に夫々伐採された用材ということになる。また、蔵郭側橋脚 1 の 2 点に 100 年近い開きが生じているのは橋脚取替工の可能性もあろう。

蔵郭採取の各種自然遺物がある。竪穴状遺構（M-18）採取の白色粘土とレンガ状土塊からはイネの機動細胞珪酸体が検出され、土塀の混和材が想定される。また、採取土壌による樹種同定は、竪穴状遺構内部が人里植物や耕地雑草が多く、周辺はイネ・アワ・ヒエ・オオムギの果実が多数検出された。兵糧等を貯蔵し

第7表　年代測定値と遺構

No.	試料番号	註記	code No.	試料種	採取位置	層位等	AD	yrBP	誤差
15	2004	KMJ04C7	IAAA-60681	炭化物	堀切３（G-20）	第１硬化面 P9	1620	330	± 30
10	2004No.4	—	IAAA-41357	炭化材	堀切３（G-20）	第１硬化面 P9	1640	310	± 40
14	2004	KMJ04C6	IAAA-60680	炭化物	堀切３（I-19）	第１硬化面 P13	1590	360	± 30
9	2004No.3	—	IAAA-41356	炭化材	堀切３（H-20）	本城郭側橋脚４	1620	330	± 40
7	2004No.1	—	IAAA-41354	炭化材	堀切３（I-19）	蔵郭側橋脚１	1470	480	± 40
13	2004	KMJ04C4	IAAA-60679	炭化物	堀切３（I-19）	蔵郭側橋脚１	1640	310	± 40
8	2004No.2	—	IAAA-41355	炭化材	堀切３（I-19）	蔵郭側橋脚２	1560	390	± 40
16	20040826	KMJ04C8	IAAA-60682	炭化物	堀切３（H-19）	下部層第３硬化面上	1600	350	± 30
18	20050929	KMJ05C2	IAAA-60684	炭化米	蔵郭（N-17）	竪穴状遺構覆土内	1600	350	± 30
17	20050916	KMJ05C1	IAAA-60683	炭化米	蔵郭（N-18）	竪穴状遺構覆土内	1580	370	± 30
1	2003No.1	—	Beta-188287	炭化米	大庭郭西（Y・-14）	整地層内	1430	520	± 40
5	20031029	KMJ03C3	IAAA-60677	炭化米	大庭郭西（Y・-14）	整地層内	1560	390	± 30
11	2004No.5	—	IAAA-41358	炭化材	空堀４（2A-16）	覆土中層ピット	1580	370	± 40
3	2003No.3	—	Beta-188289	炭化物	空堀６（W・X-15）	覆土上層	1160	790	± 40
12	2004No.6	—	IAAA-41359	炭化材	空堀５（2B・2C-13）	覆土中層	1310	640	± 40
2	2003No.2	—	Beta-188288	炭化米	凹地郭（2I-12）	溝状遺構	1510	440	± 40
4	2003No.4	—	Beta-189198	炭化物	大庭郭西（2J-12）	館址面直上	1460	490	± 40
6	20031210	KMJ03C4	IAAA-60678	炭化物	空堀１（2M-10）	中段位西壁面密着	1590	360	± 30

た施設内が湿潤な雑草で周辺に貯蔵すべき炭化果実が多いのは、戦火や破却といった人的所産と考えざるを得まい。

炭化材の樹種同定では、ウツギ、カヤ、クリ、ケヤキ、コナラなど、城内各地点から建築材、調度材、什器材の用材が検出されている。また、近藤郭から段切腰郭間の整地層下層からウマの右下顎第２切歯が出土している。河村城跡関連調査では、根小屋に相当する土佐屋敷から埋葬状態のウマの骨が一体、頭部を西に向けて出土している（山北町教育委員会 1996a 49 頁）。河村城跡縄張り内でのウマの痕跡も初見である。

おわりに

本報告は 15 世紀から 16 世紀の中世城郭河村城跡の史跡整備を目的とした発掘調査の成果である。縄文時代早期山形押型文土器、前期諸磯式、後期堀ノ内式、山北町唯一の弥生時代標識土器の堂山式土器、これらは城郭遺構の覆土あるいはその後の土地改変による二次堆積土中の出土である。土器に混じって出土した砥石を除く石器類の大半は弥生時代に属しよう。その後、城山が城郭として占地されるまでは、人跡未踏に近い。

城郭関連遺構出土の各種土器類は戦国時代を中心とするかわらけや貿易陶磁器であるが、日用品としての質的ギャップに日常・非日常あるいは場の機能を反映させる。城内の戦乱による痕跡と縄張り整地との変遷は未確定な部分が多く、史跡としての今後の整備活用に期待するところ大であるが、その根拠とすべき調査の手法もまた困難を極めよう。

1590（天正 18）年の廃城後 1 世紀余、1707（宝永 4）年の宝永大噴火以降の人類活動はめざましい。２年後の瀬替えの大土木工事、そして天地返しによる耕作地の復旧は 18 世紀初頭の火山列島ならではの災害復旧であり（井上 2005）、その痕跡は各縄張りの広さや地形に沿った天地返し状の遺構は見事としか言いようがない。

本報告では、遺構・遺物の詳細な分析は次回への課題となったが、そこは各調査担当者の実績を先ず吟味することであり、今回提示した遺構・遺物一覧でこれらを補いたい。ただし、過去三年間の調査については記録図面類・写真類のデジタルデータ化と遺物・写真台帳の作成を行った。また、現在蓄積中の「河村城跡データベース」は今後の河村城跡の調査・整備に資するところ大のはずである。神奈川県足柄上郡山北町は水と緑と「城」の町として今後も河村城跡が広く公開・活用されることを望むのみである。

第８表　縄張りと遺構

縄張り等	遺構名	切りあい	土器編年	C14 年代	編年とズレ	硬化面等 堀底形状	主な遺物	
堀切３	堀切３	—	—	P9 1 硬西 1620 ± 30 P9 1 硬西 1640 ± 30 P13 1 硬東 1590 ± 30 第３硬面 1600 ± 30	—	幅 20m ×深さ 8m ×堀底 40-50cm 硬化面４枚 薬研堀	常滑甕、打製石斧、剥片（柏峠黒耀石）	
	橋脚１～４	—	—	橋１蔵北 1470 ± 40 橋１本南 1640 ± 40 橋２蔵南 1560 ± 40 橋４本北 1620 ± 40	—	柱間８ m 幅４ m 堀切３の第１硬化面		
蔵郭	竪穴状遺構	—	15 世紀中葉	竪穴米 1600 ± 30 竪穴米 1580 ± 30	150 年	径４m、深さ 45cm	甕稜花皿、中国褐釉　四耳壷、鉄釘	瓦質土器火鉢、瀬戸鉄釉　壷、
	ピット群	畑地に復旧	15 世紀後半	—	—	—	信楽系壷、常滑系擂鉢 かわらけ	
堀切２	堀切２	—				幅 25 ×深さ 12m	—	
近藤郭	空堀６	空堀４・７→ ＝竪堀１	15 世紀後半	覆土上層 1160 ± 40	250 年	幅 10 ×深さ 6m ↑ 畝堀	常滑胴部	信楽茶壷、擂鉢、打製石斧、
	空堀４・７	→空堀６	15 世紀中葉	覆土中層穴 1580 ± 40	100 年	幅８ ×深さ約 5m 堀底の狭い逆台形	瀬戸美濃四耳壷、かわらけ、常滑甕片、泥釉壷	
	竪堀１、 天地返し	空堀４・７→ ＝〝空堀６〟	—					
	～段切腰郭	段切腰郭二度造成、空堀３連続 多地屋敷北側を取り囲む	15 世紀前半	—	—	空堀４の埋没後	褐釉壷、ウマ切歯	
多地屋敷	空堀３・４	—	15 世紀前半	—			中国褐釉四耳壷	常滑、堂山
多地屋敷	南西端平場は整地層 100cm 以上	—						
大庭郭西	空堀５	—	15 世紀後半	覆土中層 1310 ± 40	150 年	７ × １ × 4m 堀底の狭い逆台形	—	中国褐釉四耳壷、擂鉢、剥片（麦草黒耀石）
大庭郭東	凹地郭	—	15 世紀中葉	溝　米 1510 ± 40 掘立米 1460 ± 40	概ね	2E・2J-12・13 以南	瀬戸美濃三足盤・瀬戸鉛釉小皿	瀬戸梅瓶、　青磁無文直行碗、瀬戸梅瓶形灰釉壷、台石、砥石、叩き石
	道路状遺構	—		—	—	焼土・炭化物	—	
	配石列・ 整地層	—	15 世紀中葉	整地米 1430 ± 40 整地米 1560 ± 30	概ね	焼土・炭化物・炭化米	褐釉四耳壷 かわらけ	
	段切腰郭２	全域を巡る	—					
	段切腰郭３	全域を巡る	—					
大庭郭張出	空堀１	空堀２と複合、 →空堀２	南北朝～ 戦国期	西法 1590 ± 30	—	10 × 1.7 × 3m	—	諸磯 a、堂山
	空堀２・３ 天地返し	空堀１→	16 世紀後半	—	—	17 × ２ × 5m 逆台形	—	
	段切腰郭１	＝〝空堀２・３〟 全域巡る	—					
馬違戸	2S ～ 2X-14 ～ 17	堀切１東側	—					堀之内Ⅱ、剥片類

参考引用文献

蘆田伊人編　1970『大日本地誌体系 19 新編相模国風土記稿第一巻』338 頁

安藤文一　2000「第 1 部考古編」山北町史史料編原始・古代・中世 1-506 頁

石丸熙　2000「第 3 部中世編」山北町史史料編原始・古代・中世 531-833 頁

石丸熙・関恒久・下山治久　2006「第三編中世」山北町史通史編 87-232 頁

井上公夫　2005「元禄地震（1703）と富士山宝永噴火（1707）による土砂災害と復興過程―神奈川県山北町における最近の史料学・考古学的成果による再検討―」歴史地震 20 247-255 頁

上杉陽　2004「河村城跡一帯の自然土層と遺物包含層」『平成 15 年度河村城跡発掘調査概報』30-32 頁

上杉陽　2006.11.22 の現地指導の観察結果から

太田市教育委員会　2001『史跡金山城跡環境整備報告書発掘調査編―史跡金山城跡環境整備（ふるさと歴史の広場整備事業）―』247 頁

小野正敏・村木二郎編 2005『東アジア中世海道―海商・港・沈没船―』199 頁

国土交通省中部地方整備局富士砂防事務所 2003『富士宝永噴火と土砂災害』143 頁

斉藤司　2003「第二章　近世中期　貞享三年（1686）～宝暦十三年（1763）」山北町史資料編近世 419-845 頁

町田洋　2002「1 山北町の地形・地質の特徴と生い立ち」「2 各地の地形・地質に残された記録 1 最近数万年間（地球史の現代）のできごと」山北町史別編山北町の自然 291-345 頁

南足柄市教育委員会　1992『浜居場城跡―その測量と発掘調査の記録―』61 頁

萬年一剛・小林淳・山下浩之・古澤明 2005「神奈川県山北町・浅間山の隆起開始年代―伊豆弧北東端のアクティブテクトニクスに対するひとつの制約―」地質学雑誌 111-2　111-114 頁

矢島佳明編　1975『地方史研究あずまえびす』1 120 頁

山北町史編さん室　1999『江戸時代がみえる やまきたの絵図』35 頁

山北町 1940『河村城址史蹟指定願関係書類』16 頁

山北町教育委員会　1992『河村城跡－河村城跡遺跡詳細分布調査報告書－』112 頁

山北町教育委員会　1996a『河村城関連遺跡－河村城関連遺跡詳細分布調査報告書－』58 頁

山北町教育委員会　1996b『河村城跡茶臼郭周辺遺跡－河村城跡茶臼郭周辺遺跡発掘調査報告書－』20 頁

山北町教育委員会　2004『平成 15 年度河村城跡発掘調査概報』32 頁

山北町教育委員会　2005a『平成 16 年度河村城跡発掘調査概報』45 頁

山北町教育委員会　2005b『山北町の文化財』48 頁

山北町教育委員会　2006『平成 17 年度河村城跡詳細調査概報』35 頁

山北町町し編さん室　1999『江戸時代がみえるやまきたの絵図』34 頁

参考引用絵図

絵図 1　新田義興居城河村古城跡絵図

絵図 2　相州河村秀高古城跡絵図（18 世紀初頭前後）

絵図 3　相模国足柄上郡山北村絵図（背替以前）

絵図 4　相州足柄上郡河村山北皆背川絵図（1709-1733 背替後）

絵図 5　新編相模国風土記稿城郭と周辺図

絵図 6　新編相模国風土記稿縄張り図

写　真　図　版

1940（昭和 15）年史跡指定願い添付写真

河村城（2003.11.7）空撮：南西から

河村城（2003.11.7）空撮：南西から

TR38（G-22）：南から

堀切３（G ～ I-19）調査状況：東から

堀切３（H・I-19・20）：北から

堀切３（H・I-19）：西から

堀切３北側土層断面（H・I-19）：南から

堀切３南側土層断面（G ～ I-18）：北から

図版　2

橋脚１（I-19）：南から

橋脚２（I-19）：東から

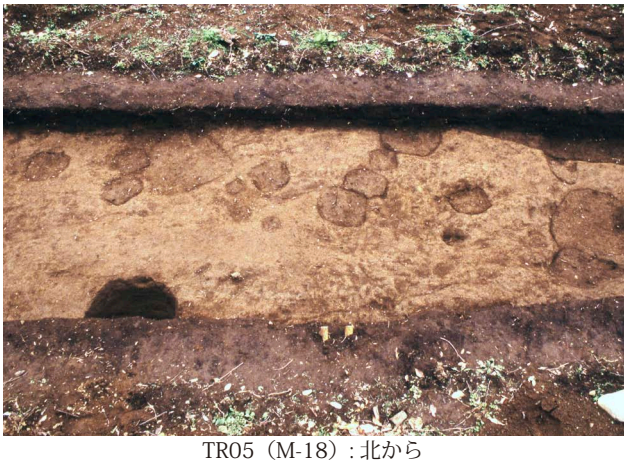
橋脚３（H-19）：東から

橋脚４（H-20）：東から

調査前：近藤郭から西へ堀切３・蔵郭・本城郭を望む

TR27（KL-19）：南から

TR30（J-18）：北から


TR05（M-18）：北から

TR26（L-17）：北西から

TR25（M-19）：西から

TR05（N-18）配石土坑群：南から

TR23（M-18）竪穴状遺構：南から

TR05（M-18）鉄器出土状態：東から

TR05（M-18）・TR22（N-17）竪穴状遺構：西北から

TR21（N-18）版築状整地面：北西から

TR22（N-17）配石：西から

図版　4

竪堀 1（U-15・16）土層断面 : 北東から

空堀 6・7（V-16・17）確認状況 : 北から

空堀 7（V-16）土層断面 : 北から

空堀 6・7（X-16）畝堀 : 東から

空堀 6（X-16）石垣 : 南から

段切腰郭 4（Y-19）堀底 : 西から

段切腰郭 4（Y-19・21）: 西から

道路状遺構（X-17）: 西から

空堀 3（2C-18）: 南から

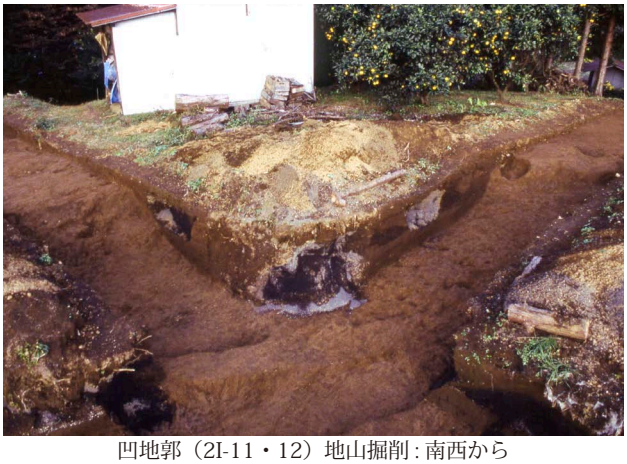
空堀 3（2C・2D-18）土層断面 : 北西から

空堀 4（2A-16）堀底 : 西から

空堀 5（2B・2C-13）上部礫混出土状態 : 北から

空堀 5（2B・2C-13）大形礫出土状態 : 南から

空堀 5（2B-13）土層断面 : 西から


凹地郭（2I-11・12）地山掘削 : 南西から

凹地郭（2I-9 ～ 11）天地返し : 南から

図版　6

凹地郭（2H-8）盛土整地層：南西から

空堀２（2L-11）天地返し断面：南から

空堀２（2L-11）天地返し拡大断面：南から

空堀２（2L-11）堀底：北から

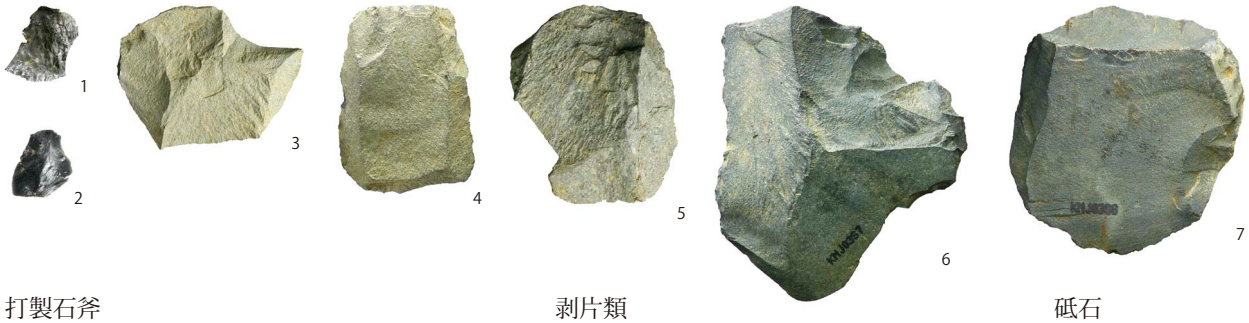
空堀２（2L-11）断面：南から

空堀１（2N-10）堀底：西から

空堀１（2L-12）堀底：西から

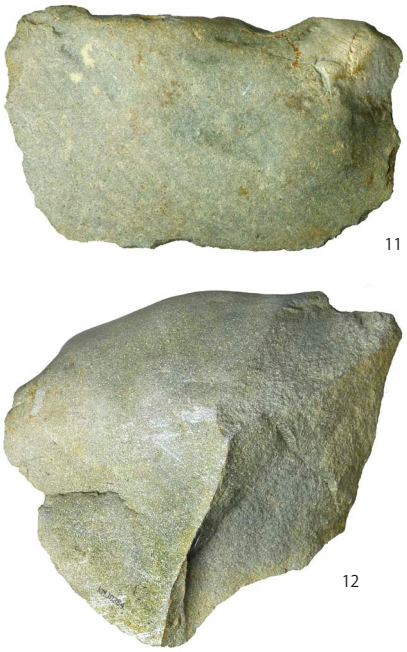
空堀１（2N-10）土層断面：南から

剥片類

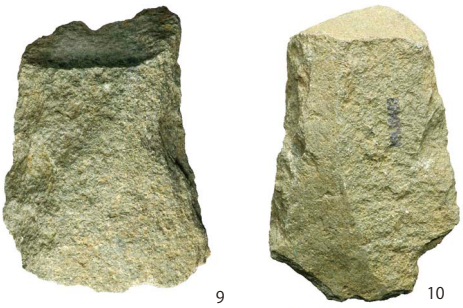


打製石斧

剥片類

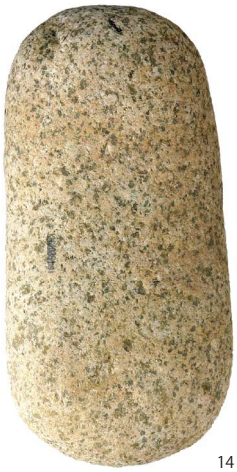


砥石

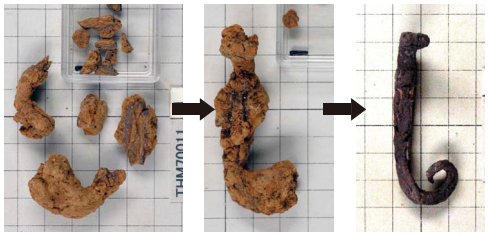


叩き石

台石



鉄器



出土状態　接合状態　一次錆除去

出土石器［1 ～ 11：1/2，12 ～ 17：1/3］・出土鉄器

English summary

The Kawamura Castle ruins is located in Yamakita-machi, Ashigarakami-gun, Kanagawa and which is designated as a place of KANAGAWA historic interest

It was appointed in 1996 and 2003. An appointed range is 81,334.51 m^2now.

Hidetaka Kawamura seems to have made a Kawamura castle at the end of the Heian era. Yoshioki and Yoshiharu Nitta get away from a Kawamura castle in the middle of the 14th century. Hidekuni and Hidetsune Kawamura are killed in action in a fight of "Minamihara". After ruler the Kawamura clan,Kunikiyo Hatakeyama, Norizane Uesugi ,the Ohmori clan and the Houjou clan will follow later afterwards. And Kawamura Castle seems to have been abolished for Odawara attack of Hideyoshi Toyotomi in 1590.

The Kawamura Castle ruins use a complicated valley and a geographical characteristic of a steep slope. "Horikiri"distributes three ridges and institutes "Nawabari" with "Kuruwa".

Kura-kuruwa/Kondou-kuruwa/Ohoba-kuruwa/Ohoba-kuruwa-Haridashi leads to east Sengenyama across Horikiri. There is Ohote on a south edge of Ohoba-kuruwa-Haridashi. Shou-kuruwa/Chausu-kuruwa continues from Honjo -kuruwa to the north. And it spreads through the west and continues it from Umadashi-kuruwa/Nishi-kuruwa/Kita-kuruwa/Kita-kuruwa-Haridashi to Ohkubo-daira. There is Mizu-kuruwa/Obi-kuruwa around a district. We can get water springing out around a hill with a castle.

Many castle markas of the Houjou times in a range of Ohoba-kuruwa-haridashi from the east end of Honjou-kuruwa were found in excavation from 2003 to 2005.

Yagen-dry moat and marks of four pieres were discovered with Horikiri between Honjou-kuruwa and kura-kuruwa.

The Yamakita-machi town planning Park “ Kawamura Castle ruins historical park “ was decided in 2001. The tree bridge was built between Honjou-kuruwa and kura-kuruwa in 2006. We will continue management and a public land of a historic spot in future.

報　告　書　抄　録

ふりがな	かわむらじょうあと	
書名	河村城跡	
副書名	神奈川県指定史跡河村城跡史跡整備に伴う発掘調査	
巻次	1	
シリーズ名	神奈川県山北町文化財調査報告	
シリーズ番号	1	
ふりがな	あんどうのりかず・ごとうきはちろう・すなたよしひろ・たけいひろよし	
編著者名	安藤文一・後藤喜八郎・砂田佳弘・武井宏仁	
編集機関	神奈川県足柄上郡山北町教育委員会	
所在地	〒 258-0195 神奈川県足柄上郡山北町山北 1301-4 phone.0465-75-3649　fax.0465-75-6441	
発行年月日	2007 年 3 月 31 日	
ふりがな	かわむらじょうあと	
所収遺跡	河村城跡	
ふりがな	かながわけんあしがらかみぐんやまきたまちやまきた・きし	
所在地	神奈川県足柄上郡山北町山北・岸	
コード	364	
遺跡番号	13	
北緯	35°　21' 22" ～ 35°　21' 14"	
東経	139°　4' 53" ～ 139°　4' 33"	
調査期間	20030730 ～ 20031218 20040421 ～ 20041104 20050720 ～ 20051011	
調査面積	2,670m^2（2003:1,450m^2、2004:800m^2、2005:420m^2）	
調査原因	河村城跡史跡整備に伴う発掘調査	
所収遺跡	河村城跡	
種別	城館跡、遺物散布地	
主な時代	中世、近世	弥生時代、縄文時代早期～後期
主な遺構	郭 7（本城、蔵、近藤、大庭、多地屋敷、馬違戸、腰）、堀切 3、空堀 7、地業面、竪穴状遺構群、天地返し遺構群	なし
主な遺物	陶磁器（舶載磁器・国産陶器）、かわらけ、金属製品（鉄釘）、石製品（砥石）、土塀状焼土、ウマ右下顎第 2 切歯、イネ、コムギ、オオムギ等種実	堂山式条痕文系土器、打製石斧、剥片（凝灰岩・黒曜石）、山形押型文土器、堀ノ内式土器
特記事項	郭と堀切によって構築された中世城郭遺構がよく保存される。近藤郭の障子堀をはじめ、古絵図に記載のない空堀等を検出。遺物は戦国期の舶載磁器（褐釉・染付・青磁等）、大窯期の瀬戸・美濃窯製品が出土した。宝永火山灰降灰後の耕作地確保のための天地返し遺構を多く検出し、近世災害対策遺構としても注視される。	大庭郭～多地屋敷の広範な郭を中心に検出。城郭関連遺構の埋土から出土。

本報告の発掘調査・出土品整理・報告書作成に係る関係者名簿

事業年度　平成 15 ～ 18 年度

教　育　長　　山﨑　司
教 育 部 長　　小栗直治（16.4.1 ～）、大胡田敏（～ 16.3.31）
生涯学習課長　　山崎佐俊
生 涯 学 習 班　　依田由美子、砂田佳弘（18.4.1 ～）、鈴木治（17.4.1 ～）、武井宏仁、関野　健、
小塚剛夫（16.4.1 ～ 17.3.31）、高村富士夫（～ 16.3.31）
スポーツ振興班　磯田正光（17.4.1 ～）、平野泰輔、杉山浩道（～ 17.3.31）
中 央 公 民 館　　渡辺悟、三尋木康代（16.4.1 ～）、池谷栄（18.4.1 ～）、野地昭（18.4.1 ～）、
佐藤雅彰（～ 18.3.31）、小林節子（15.4.1 ～ 18.3.31）、仁村孝也（15.4.1 ～ 17.3.31）、
井上裕子（～ 16.3.31)

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用しています。（数値は 4/6 判連量）

紙質	表紙	レザック	210kg
	見返し	上質紙	76.5kg
	序文・例言・目次・本文	マットコート	70kg
	扉	上質紙	90kg
	写真図版	マットコート	75kg
印刷	DTP		
	刷色は黒色		
	写真図版は 4C 印刷（カラー）		

神奈川県足柄上郡山北町文化財調査報告 1

河 村 城 跡

～神奈川県指定史跡河村城跡整備に伴う発掘調査～

発行日　2007（平成 19）年 3 月 31 日
発　行　神奈川県足柄上郡　山北町教育委員会
〒 258-0195　山北町山北 1301-4
phone.　0465-75-3649　fax.　0465-75-6441
e-mail：gakusyu@town.yamakita.kanagawa.jp
印　刷　有限会社アルケーリサーチ